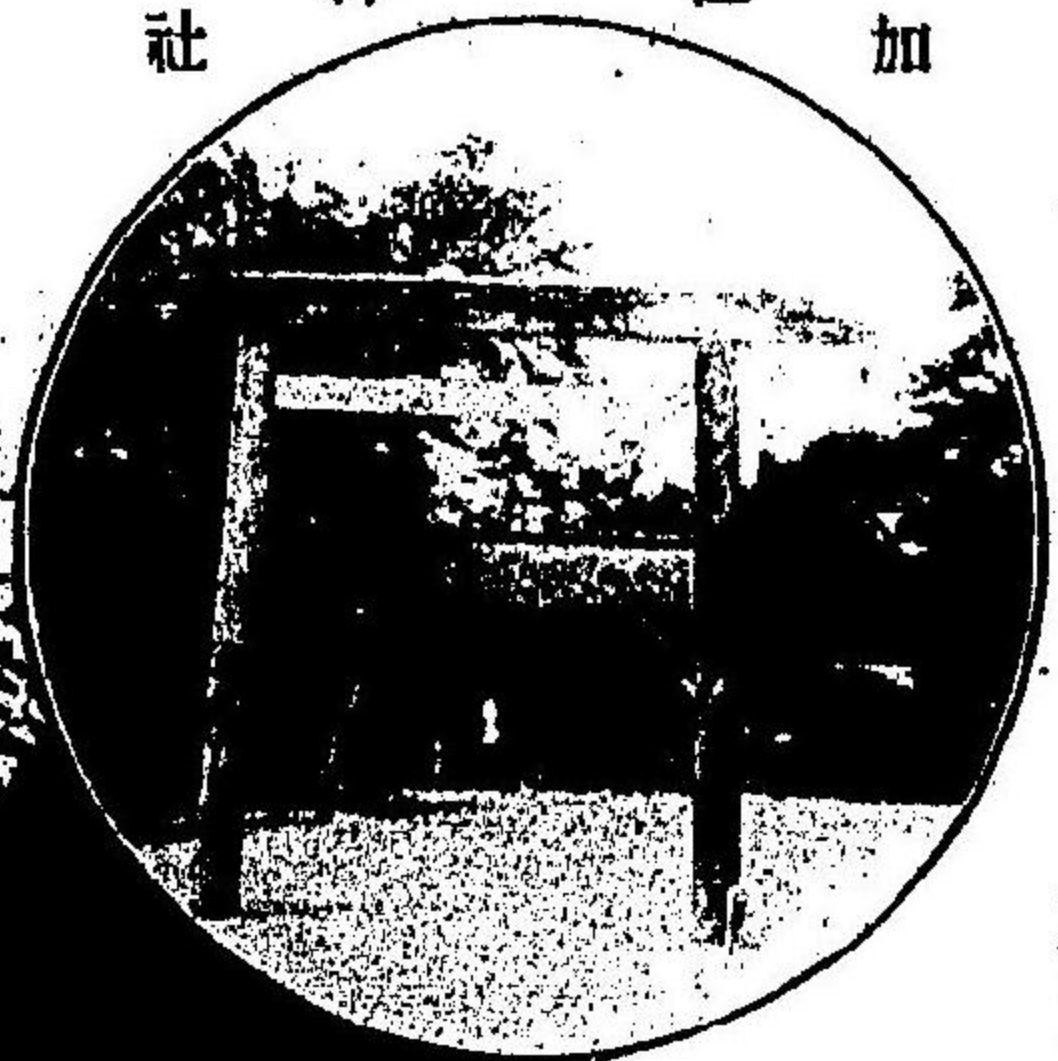


不目三韓來、

(頼山陽日本樂府)

加佐登神社



能褒野神社



●能褒野神社

日本武尊御墓の傍神苑内に在り社號は故神宮祭主久
邇宮朝彥親王の御撰定に係るといふ城内嚴かにして神々しく老
縦古松蔚々乎として神靈を護る

●加佐登神社

鈴鹿郡高津瀬村高宮に在り此地一帶能褒
野と稱し白鳥塚御車塚寶袋塚寶冠塚玉塚王子田等處々に
散在す王の墓するや御笠を此に藏めて御靈を祀れるは社
名の由て來る所なりと云ふ

●國府阿彌陀(加佐登驛より一里)

鈴鹿郡國府村泰平
山府南寺に安置し勢國三阿彌陀の一と稱せらる後光嚴院の
御宇南都西大寺の覺乘上人神明の靈夢を蒙り二見ヶ浦に到り
て專心念誦する所あり詫宜に依りて泰平山に詣て一刀三禮の尊
像を彫みたる所にして遠近の渴仰頗る厚し當寺には覺乘上人作竹布

の袈裟蛇形の名號遺像眞筆其の他珍奇の筆跡等を藏せり

●石藥師と蒲櫻(加佐登驛より十五町)

鈴鹿郡

石藥師村にあり眞言宗に屬し高富山石藥師寺と稱

す本尊石藥師如來は神龜年中傳教大師禪定中の感
得と稱せられ丈餘の奇石地上より出現せるものなり

石藥師寺

しか弘仁三年弘法大師此靈石を視藥師如來の像を彫み開

眼供養したるより衆庶の歸依深し此事嵯峨天皇の御聞に達す

るや精舍僧坊寺領を賜ひて勅願寺となし給ひしと云ふ後天正

の兵燹に罹り現在の堂宇は慶長年間神戸城主一柳監物直盛の

再建にして毎年陰曆四月八日の例祭には遠近の參籠頗る多し

蒲櫻(一名鞭櫻、御曹子櫻) 石藥師の東南數步蒲冠者源

範賴を祀れる小祠の傍にあり壽永の昔範賴宇治に赴くの途

次此地を過き藥師如來に戰捷を祈願し馬上鞭を執て曰く我

願叶ひなは汝地に生きよと鞭を投して去る後範賴は西海に

國府阿彌陀堂



戦ひて平家を滅し鞭は櫻の色崩えて歳々年々蒲冠者の功名を誇り顔にそ薫るなり

名にしおはゞいさこと問む石薬師

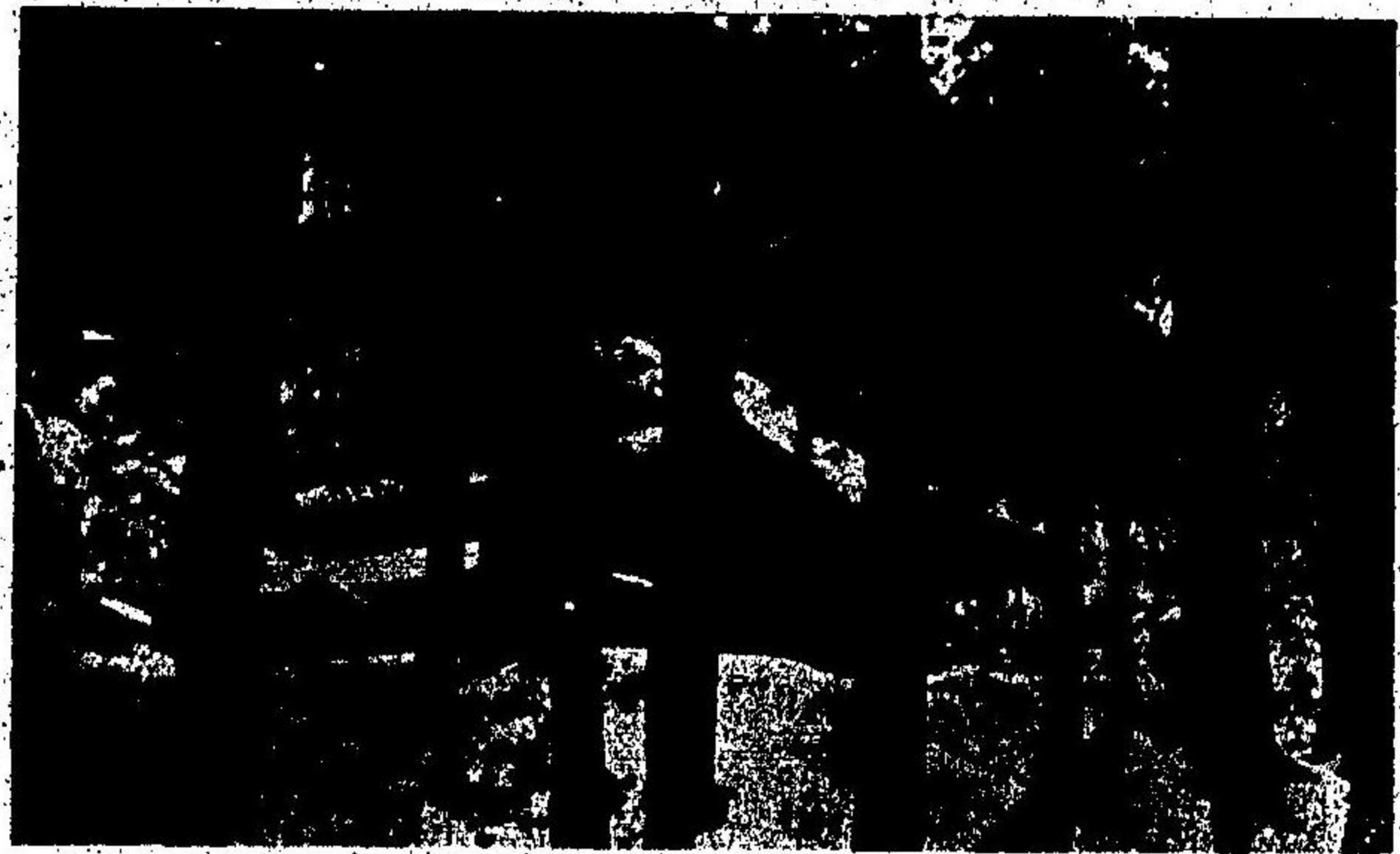
鳥丸光廣

わか思ふ人のかみはかたじや

拜石薬師其制工 應以方土本當東

露食靈空瑠璃色 間出身途鑿槌中

鷓野山足鷓寺



●野登寺 鈴鹿郡野登村に在り 本尊は千手觀世音桑の木の靈佛
(丈七尺五寸 自然木なり) 或は云ふ往昔敏達帝勢州石大神へ行幸の際 天照大神出現し給ひ神作られし本地佛なりと世俗之を大神宮の叔母さんと説傳し又作り神様とて信仰淺からず開山は仙朝上人真言宗法派の古刹たり慶長十五年城主松平下總守清匡地内に泉水を掘り丘を築き住僧の安下所に充つ寺門は鈴鹿の乾隅海拔二千四百尺の高嶺に在り京都仁和寺の直末にして舊龜山城主の祈願所として郡内第一位を占む本堂は正南に面して五間四面、銅瓦を葺き鐘樓堂も亦銅瓦なり梵鐘口徑

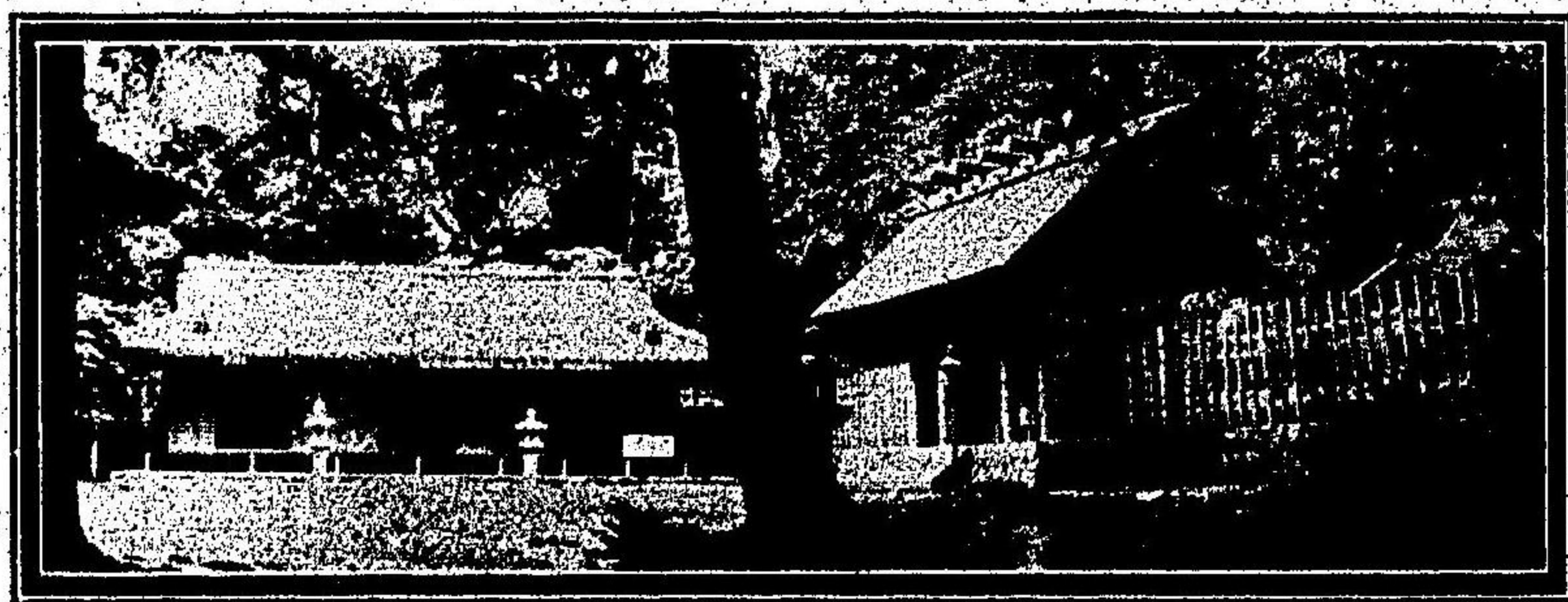
三尺寛永九年の鑄造に係る本堂裏手より西に面すれば奥の院仙ヶ岳に渉る山道ありて頂上は海拔二千八百尺仙朝上人の靈石あり今猶古瓦寶錢の散在するを見るは奇といふへし琵琶湖眼下に在り湖を隔て峯巒蜿蜒たるもの是れ比叡の山脈東北に走るものにあらずや藹々として煙の如きものは是吉田城名古屋城にあらずや雲の如きは信州駒ヶ嶽なり伊賀、伊勢、志摩、近江、美濃の山烟水光亦一眸に收むへし惜哉寶物は天正以來再度の火災に罹り多く烏有に歸したるも藤堂高虎の肖像本尊如意輪觀世音の像を存せり

野をのほり寺こそこれよにはどりの

あしたの聲は法の言の葉

●椿大神社 龜山驛を距る車道約四里椿村にあり猿田彦命を祀る垂仁天皇二十七年の鎮座にして伊勢一宮と稱し延喜式神名帳に鈴鹿の郷椿大神社とあるは即是なり境内廣く老樹鬱として晝猶暗く椿ヶ嶽鞠ヶ倉の諸山其の背に聳へ自ら千古の靈場たるを覺へしむ當社所藏の獅子頭は聖武天皇の御

鈴鹿郡



椿大神社

宇勅して吉備公に彫刻せしめられしものなりと又大般若經六百卷は今を距る五百餘年前別當隨光院住

僧の書寫なり其の他好古家美術家等の鑑賞に値せる珍品多し

●關の地藏尊(關驛より四町) 鈴鹿郡關町大字新所にあり

眞言宗仁和寺末本尊は地藏尊にして中世再造の時一休和尚開眼せりとて遠近の尊崇頗る厚く境内廣くして風趣に富み世の父兄母姉常に參拜の踵を絶たすといふ禪師開眼の歌

釋迦は過ぎ彌勒はいまた出てぬ問の

かゝる浮世に目あかじめ地藏

は人口に膾炙し俗語は「關の地藏さんに振袖させて奈良の大佛さんを竿に取る」も世の傳ふる所なり毎年陰曆正月二十四日七月二十四日に會式を行ひ頗る雜鬧を極む

●鈴鹿山 往年東海道の交通盛なりし頃は箱根山に次ける峻嶮として聞えたる山路にして鈴鹿峠と稱す舊名は片山又三箇山と稱し三峯崔嵬土俗八百八谷ありと傳ふ官道の最も峻なる

關 地 藏



處は八町二十七曲あり

癸未紀行

勢州鈴鹿鎖關家 九折八町崑徑斜

春齋自註に鈴鹿坂羊腸四百八十間土人之を八町と謂ふとあり古は東海通航の船人遙に山嶺行雲の狀を望て晴雨を卜へりと云へり鈴鹿關は上世三關の一にして蓋し孝徳の朝始て置かれたるものとす其の後興廢管に一再に止まらず關寨の位置亦屢轉遷せらる或は曰く坂下驛に在り或は曰く關驛に在り或は曰く移置九回故に寶藏寺を九關山と稱すと今や行人汽車に由る復た八町を越て關跡を訪ふ者なし

伊勢にまゐりける時よめる

西 行

鈴鹿山うき世をよそにふり捨て

いかになりゆく我身なるらむ

金 葉 集

攝政家三河

神無月しぐれの雨のふるまゝに

いろくになる鈴鹿山かな

御 集

後鳥羽院

鈴鹿郡

一七三

林 春 齋

鈴鹿山いせの浦半の秋の浪

やとれる月をよする春風

順徳院

すゝか山ふるやしくれの色に出て

おもふころろは神にまかせむ

●羽黒山(關驛より十五町) 鈴鹿郡白川村鷺山にあり大石森立、人を駭かすべく初夏の候乃ち杜鵑流鶯の吟情を惱ますあり

●筆捨山(關驛より三十二町) 鈴鹿郡坂下村大字一ノ瀬國道の傍にあり俗に傳ふ狩野法眼元信山態巒容を貌寫せむと試みしに雲烟去來變幻極まりなく遂に惘然筆を投して去る故に此名ありと碗磊起伏の奇狀は「坂は照るく、鈴鹿は曇る間の土山雨か降る」と謠

はれし鈴鹿の關と伯となり仲となる

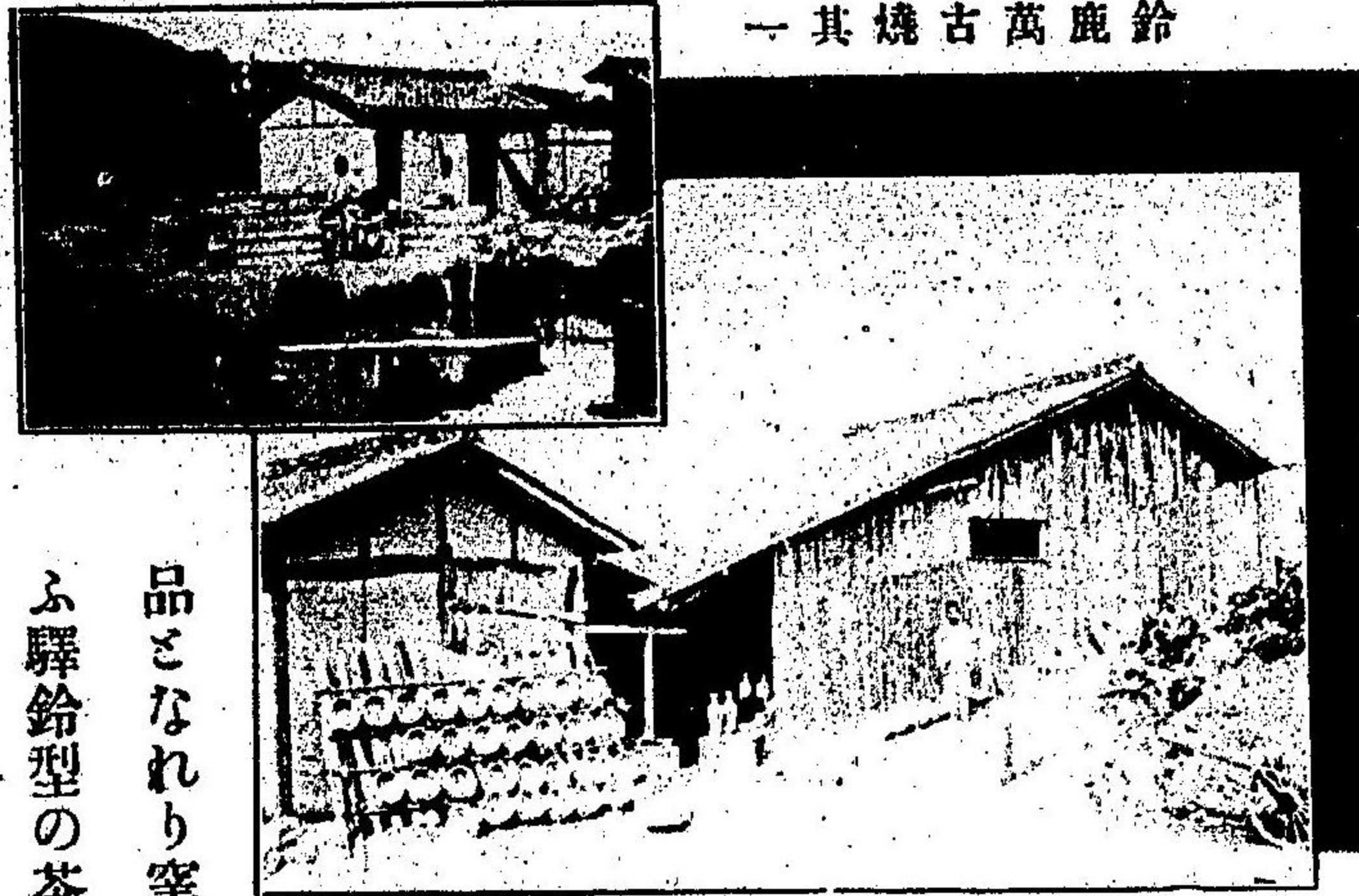


羽黒山

●鈴鹿萬古燒(鈴鹿郡關驛前)

關西鐵道關驛にあり原土を同郡神邊村に採り四日市より熟練なる職

鈴鹿萬古燒其一



工を備ふて製造に着手せしは明治三十五年にして製品は日用飲食器、花瓶、置物、茶器を主として一箇年の産額壹萬圓に上れり名に負ふ東海道の旅人は鐵道開通と共に打ち絶えぬれば利便は却て物産の販路を擴からしめ京阪神への販出頗る多く關地藏尊參籠者の好土産品となれり窯元原清太郎は特に昔を偲ぶ驛鈴型の茶器を製したるに鈴鹿萬古



其二

◎三重縣茶業組合摸範園と製茶工場（加佐登驛より二十
五町） 本園は鈴鹿郡石藥師村大字上田にあり本縣茶
業組合聯合會議所の事業として各郡に摸範園を設け管理
を園主に囑託せる其の一にして約一反歩の茶樹は蒸々ど
して能く繁茂し生育肥培の狀群を抜くものあり園主加藤
彌太郎は輸出綠茶の製造を専門とし一二番茶を併せ一箇
年六千斤を産す製茶工場は同村加藤傳十郎の製茶部にし
て元治年間より此業に従事し現に輸出向綠茶を製造する
こと一箇年六千斤を下らすといふ

◎縣立女子師範學校（龜山町） 明治三十四年九月三重
縣師範學校内に女子部を置きたるに起因し三十七年四月
現今の組織に更め同年十二月十七日校舍新築落成式を舉
げたり街衢を隔てたる高燥の土地にあり女子修徳の適地
なり生徒百二十名



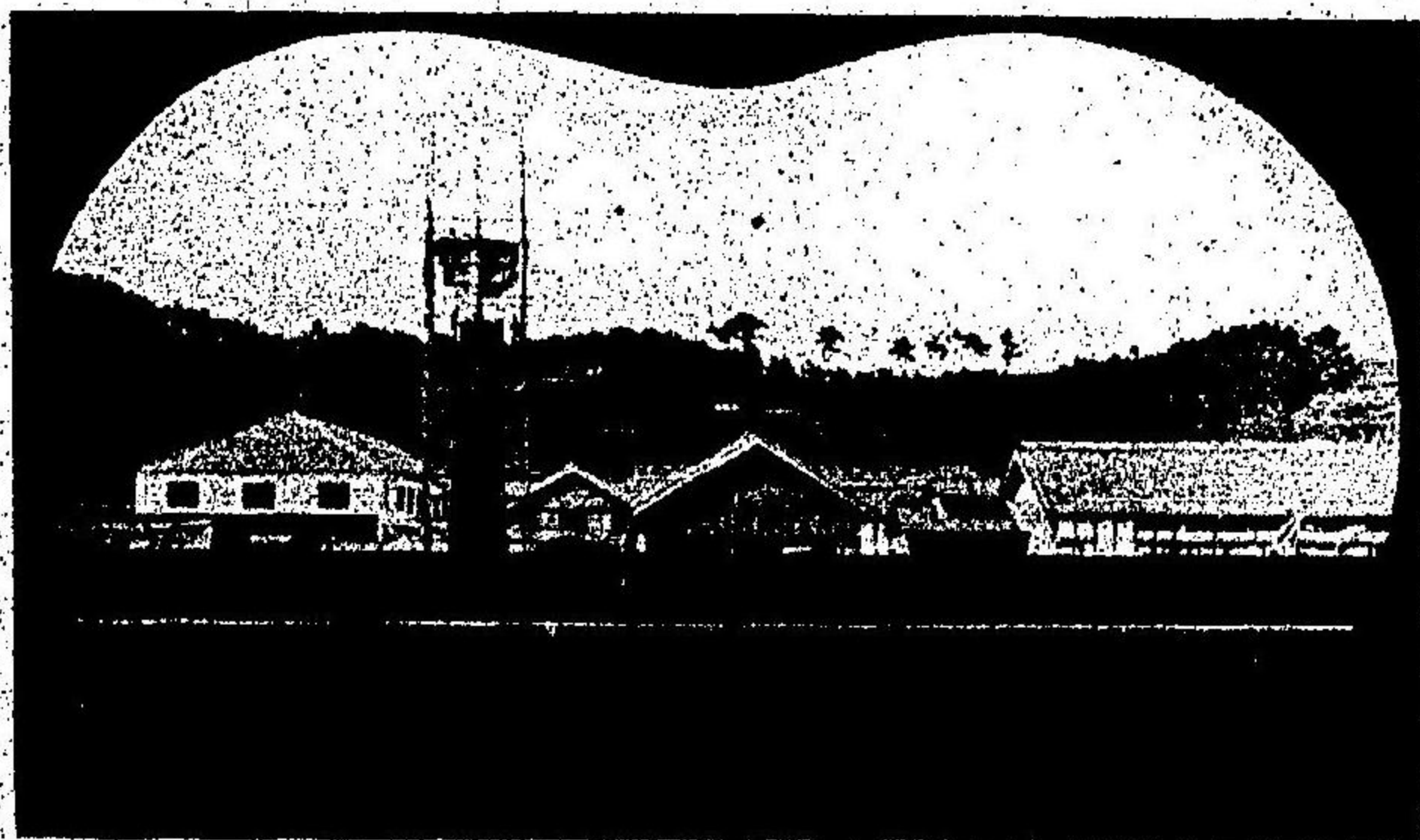
三重縣茶業組合摸範園の景

◎私立鐸鳴女學校（鈴鹿郡龜山町） 明治三十八年の創設にして校舍は目下龜山尋常小學校の一部を
假用せり同校は女子の爲稍高等なる普通教育を施し兼て尋常小學校准教員試驗檢定并女子師範學校の
入學試験に應せむとする者に豫備教授をなすものにして學級數二、生徒九十一名鈴鹿郡長北野孝一現
に校長たり

三重郡

●伊藤製糸場及工業地としての四郷村(四日市驛より一里二十九町) 山にあり伊藤小左衛門經營事業の一にして事業の整理世間稀に見る所なり其の創業は先代小左衛門が文久年間製糸業を起し拮据積年終に器械製糸に改めたるに起原し他に率先して蠶種の改良を計り其の作りたる蠶種を多數養蠶家に配布して品質一定の繭を蒐集し熟練の職工を使用し整頓せる器械に依りて精良なる生糸を製造し傍ら羽二重工場を設けて織上を爲さしめ孜孜營々以て今日に至れるなり工場寄宿舎工女の浴槽に至るまで清潔を極め衛生上の設備を全ふし又工女を遇すること家族の如く保護の道能く備はれり

明治三十八年十一月十六日 陛下 神宮へ御參拜の節特に侍從を差遣はさる小左衛門の光榮極まれりと謂ふへきなり同家一箇年の産額左の如し



伊藤製糸場

伊藤製糸場は三重郡四郷村室

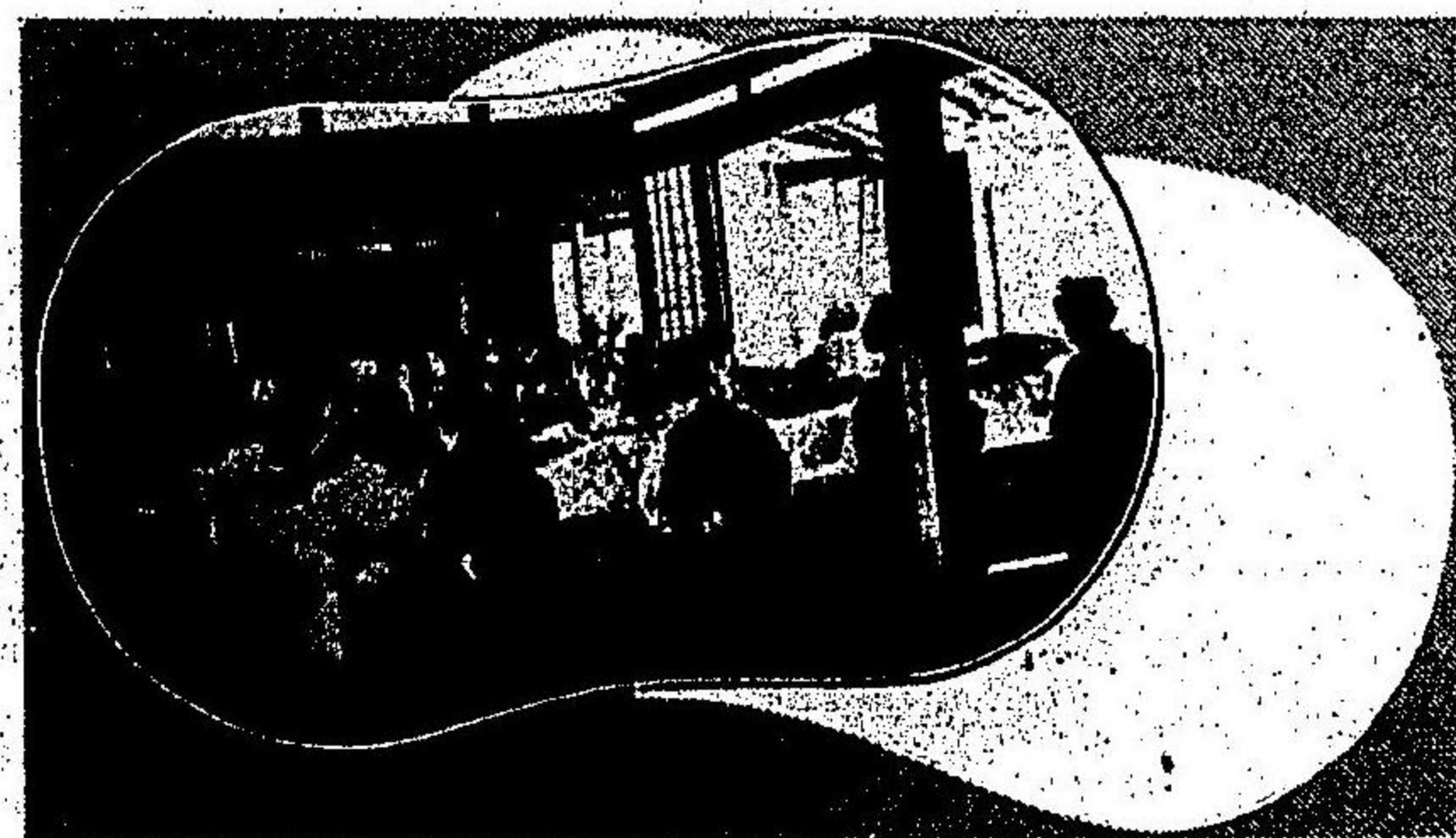
| | | |
|-------|----------|----------|
| 器械製糸 | 二、三三六貫 | 一六一、〇四〇圓 |
| 輸出再製茶 | 九六九、〇二二斤 | 四五七、七〇〇圓 |
| 羽二重 | 六六八貫 | 四〇、六五〇圓 |
| 醬油 | 四、八八四石 | 八一、四〇〇圓 |

●工業地としての四郷村

二十二月八千七十人の戸口にして一箇年の國稅納額拾五萬參百五拾參圓とす而も電話電信道路橋樑等工業地としての利器井然たるものあり伊藤小左衛門以外の工業統計に於て實に左の産額を示すを視る

| | | | | | |
|------|---------|----------|----------|----|----|
| 生糸 | 器械製糸 | 八、二八〇貫 | 五四六、五〇〇圓 | 工場 | 九 |
| 足踏器械 | 一、一七〇貫 | 七〇、二〇〇圓 | | | 一九 |
| 清酒 | 六、八二七石 | 二七三、一〇〇圓 | | | 七 |
| 味淋燒酎 | 四〇二石 | 二二、三四八圓 | | | 三 |
| 醸造醬油 | 七四石 | 一、一五九圓 | | | 一 |
| 味噌 | 一〇、六六一貫 | 一八、〇七五圓 | | | 一 |

伊藤製糸場繭の圖



三重縣案内

一八〇

一酢

三五〇石

二、五〇〇圓

一

絹

五二〇疋

八、九九九圓

二

羽内

三五六疋

三、七三四圓

二

輸出向

二〇、四八〇打

三八、〇〇〇圓

一

内地向

六〇〇打

五、〇二〇圓

一

莫大小

四〇〇、〇〇〇枚

一、二〇〇圓

一

瓦

四〇〇、〇〇〇枚

一、二〇〇圓

一

●湯の山温泉

四日市の西方約五里三重郡菰野村にあり四日市より菰野市街まで人車馬車の便あり

三瀧川の長堤に沿ひ右に彈琴の泉聲を聽き左に斑氈の沃野を瞰下しつゝ菰野に達すれば此より湯の山
まで昇輿の便あり空氣清新季候緩和櫻花紅葉避暑遊樂共に宜し金山珍卉異草に富み脚氣肺胃病の攝養
に適せり鰻善及大黒屋の二大旅館あり浴客の便を缺くことなし山中觀るべき勝區多く就中

百間瀧 六十丈餘 三瀧の一 潜門瀧 三瀧の一 長石瀧 十丈餘
女夫瀧 男瀧一丈 女瀧二丈 取水瀧 三丈餘 見返瀧 七丈餘

あり釣り橋の足下千仞の谿を望み羅漢石、長石、十六羅漢石、平石、震ぎ石、石門、負れ石、大黒石、
惠比壽石、地藏石、腰掛石等あり湯の山八景と稱するは板橋の啼鶴、蒼瀧の晴嵐、嶽刹の晚鐘、湯坂

の歸樵、山王の夜猿、大石の涼風、一谷の紅葉、三松の朗月にして三嶽寺には蒸翁の句碑を存す
文月や六日も常の夜には似す はせを

●福王山(富田驛より四

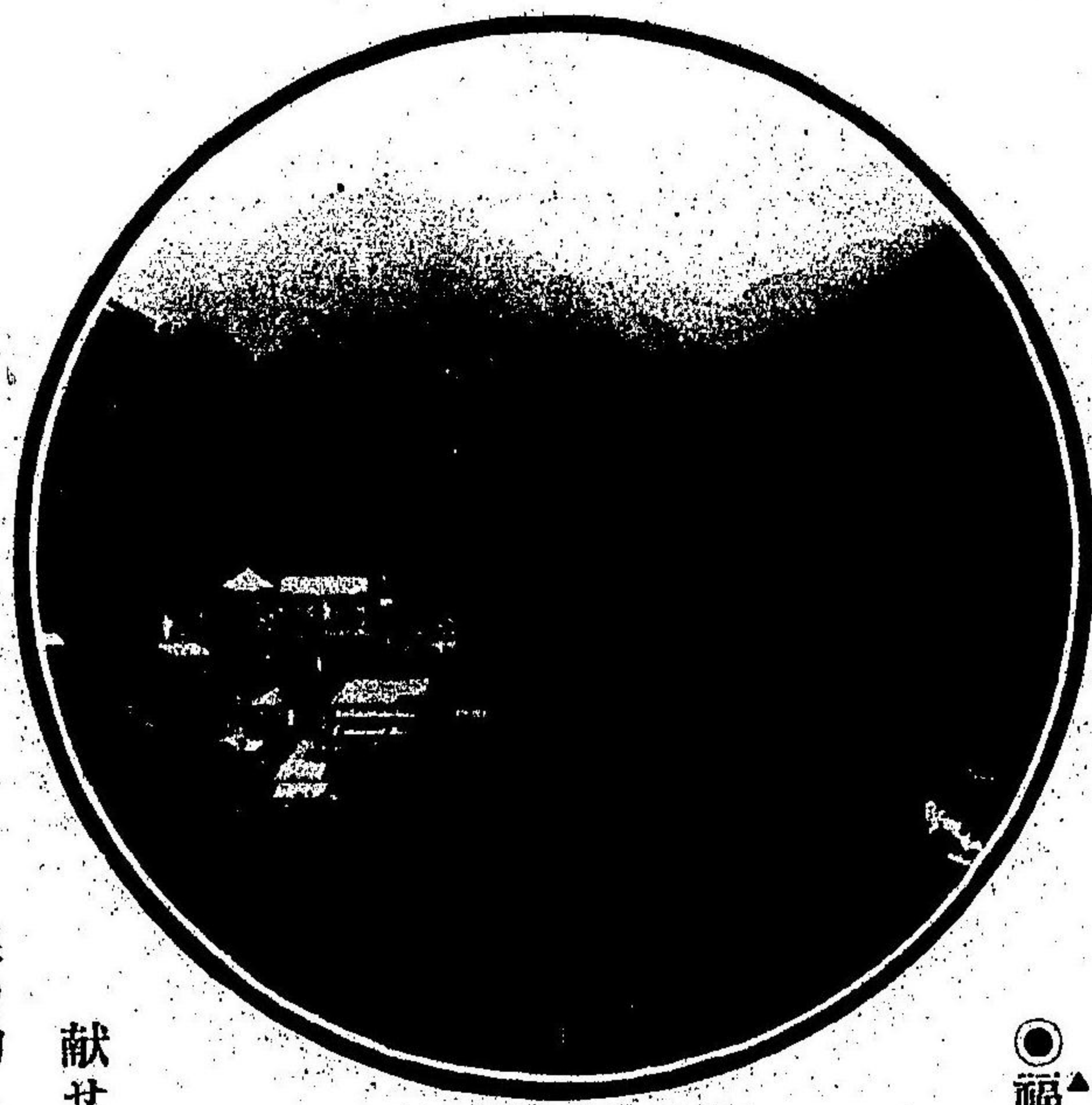
里腕車の便あり)

一名福の山ともい
ふ三重郡朝上村大
字田口にあり山腹
に毘沙門堂あり福
王神社も共に祀ら
る此毘沙門天は敏
達天皇の時百濟より
献せしものなるか推古天

皇の勅に依り此山に安置すと傳へられ銅製三尺の立像あり

遠近の崇敬多く齋戒沐浴して數十日間參籠祈願する者亦少からず天狗杉、千段杉等の觀るべきあり又

湯の山の温泉



福王山

三重郡

一八一

茶水晶、瑩石を産し奇卉の採るべきもの亦多し

西行舊跡



●西行庵の舊跡 朝上村福王山の麓田口の里に小高き岡あり其の岡の邊に小湖あり風致閑雅にして愛すへし西行法師行脚の途次暫く足をこゝめしは此地なり彼の山家集に載せる

伊勢のにしふく山と申す所に侍りけるに庵の梅のかむはしく匂ひけるを

柴の庵によるく梅の匂ひきて

やさしき方もあるすまひ哉

竹成羅漢山



に刻みて五層に積み上げ山に螺旋を作りて樹木を點綴し山上より瞰下すれば全山の羅漢双眸の裡に入

は此處にて詠せしなり後翁滿大人を初め歌客の訪ふこと數次なり里人の歌を石に刻みて長く法師か自適の跡を留む

●竹成羅漢山 菰野村湯の山温泉より北方一里竹永村にあり京都御

室仁和寺の末大日堂松樹院照空法師の創立にかゝる五百の羅漢を石像

るへしこの地四時の景亦頗る宜しく四日市へ三里菰野へも腕車の便あり湯の山温泉の浴客にして此地

に過ぎらざる者殆ど之れなしといふ

●有節萬古 萬古燒の鼻祖沼波弄山の歿後森有節其の業の絶へむこと

を愛ひ窯を三重郡朝日村大字小向に設け名谷山の赤土及白土を採掘し弄山の製に倣ひ每器印するに萬古を以てす世

人有節萬古と稱して之を珍重す有節は其の

號にして通稱與五左衛門文化五年桑名田町

に生れ幼より美術工藝を嗜み後年萬古業を

繼きて刻苦研究を積み模型を作り藥質を撰

み菊花の盛土を製し金屬を以て狸燕脂及黒

有節萬古



色染着等を爲すの發明あり天保三年桑名侯より食祿五人口を賜ひ元治元

年苗字帯刀を許され明治十五年病歿す其の男勘三郎業を承け號有節を襲

ひ益其の業を磨き内外博覽會共進會等の有功賞牌を受くること亦多し

●燒蛤の濫觴(松緑にて燒く)

富田停車場のある三重郡富田村は古より蛤の生産地として有名なるか建久の



燒蛤本家四日市

頃焼蛤を創めたりしも當時貝の鞆帯を切る(後方)ことを知らず且口を啓かしむるに困み居たりき後松
毬を拾集して之を炙りしに蛤の口を啓くこと容易に目を切る業さへ覺りたるより大に稱賛を博するに
至れり元祿年間寶井其角此地に滞留の砌この焼蛤を製せしに

はまくりの焼かれてなくやほごきす

其角

の句を詠せり其の頃同村桑名藩に屬せしため盛に時雨蛤を製造して之を曲物に入れ桑名城及城内春日
神社鳥居の圖を添へたるより終に桑名の焼蛤と呼ふに至れり今は其の漁獲往時の如くならざるため營
業者の數を減せしも四日市屋は尙廣く時雨蛤を製造す

●縣立第二中學校(富田驛より四町) 三重郡富田村海岸へ七町紅塵到らす研學の適地なり生徒五百
名

四日市市

●四日市港(戸數五、〇二二人口三〇、〇七四) 四日市市は神戸横濱の中間に介在せる樞要の港なり
貨物は東海道鐵道に由るものあり關西鐵道に由るものあり及將來中央鐵道の完成するに於ては之に由
るもの必ず少からざるべく東海道北陸道畿内より出て又之に入るの貨物は擧て本港を経由するもの
謂ふも誣言にあらず殊に名古屋市の繁盛は駭々として禦くへからざるの勢あり幸に本港は三十尺以上
の水深を保つを以て熱田と相待て其足らざるを補ひ名古屋市の門戸となるに於ては四日市市の將來亦
隨て望を屬すべきなり兩市の有志焉に見あり輔車相頼り唇齒相助け或は會社の合同を行ひ或は商業の
共營を謀り昨年兩市の人相商かり共同して四日市熱田兩港間の解船營業を開始し兩港の連絡を便にし
たるか如き大に人意を強くするに足る是に於てや内外商船の來往する者陸續相接し殊に日本郵船會社
は内地に北清に定期の航海を爲すや必ず本港に寄泊し貨物を満載す熱田、津、神社、鳥羽及和歌山縣
各港並大阪、神戸へは商船會社の定期船あり緒明其の他社外船の往復亦甚た頻繁なり税關の統計に依
るに輸出入の増加年々著しきものあり殊に北清及韓國との貿易は頗る旺なり本市は明治二十二年特別
輸出港に指定せられ尋て特別輸出入港に編入せらる明治三十二年開港場と定めらる運輸の便は市民の

四日市港



企業心に利用せられて商況自ら生氣を帯ふ獨り築港の時機未だ到來せざるは至憾とするも蓋し時勢は長く之を許さざるべきなり市塵西南に斷ゆるや沿岸里餘弧形を作る者昌榮新田と稱し其の尖端を朝日の洲と號す松間を逍遙して涼を趁ひ沙汀を漫步して月を賞し或は泗泳を樂み或は沙干狩を試む一として雅懷を養ふに足らざるはなし關西鐵道は毎年夏季名古屋より臨時列車を發して遊客に便せり本市に在る會社及工場の重なる者左の如し

三重紡績株式會社

關西鐵道株式會社及附屬鐵工所

四日市銀行

三重鐵工所

四日市製紙株式會社

四日市製油場

四日市倉庫會社

四日市米穀株式取引所

四日市繭絲商會

四日市電燈會社

四日市醬油釀造合資會社

四日市石灰合資會社

三重人造肥料會社

川村組(萬古陶器製造販賣)

三重製網會社

精米會社(四會社あり)

四日市印刷會社

三重洋行

其の他略す

重要商品及物産は三重紡績會社の綿絲織布を第一とし米は伊勢米を主とし附近十餘國の産米を取引し外國米臺灣米の出入亦頗る多し白米糠を賣出する額は殊に著し綿花石炭菜種の輸入あるは工場あるに依る殊に石炭は汽車に依りて他縣に搬出するの量少からず種油白絞油の産額は甚だ多く古より伊勢の水と稱せり酒味噌醬油茶は本縣産を主とし肥料は北海道の胴餅滿洲の豆粕を輸入し油粕は製油場の産出に係り人造肥料會社は人造肥料を製造販賣し萬古燒漁網四日市綿は此地にて産出し生絲羽二重の取引亦侮るへからざるものあり時計、燐寸、磁器の名古屋より出て又は名古屋を経



神訪社

て来るものは多く輸出を目的とせり其の他重要な物産及商品は一々此に列擧せず

●諏訪神社及保光苑(四日市驛より五町濱田に在り) 祭神は建御名方命事代主命を共祀す明治三十七八年戦役の記念として域内に接して公園を設け之を保光苑と名け梅櫻萩楓を雜植して其の風致を添へしむ散策探勝の名區に數へらる苑内に松妻亭三奇菴の喫茶店あり

●汐干狩(四日市昌榮新田濱) 春渚遠くして清き處三々伍々おのかしとなる手籠提けて脛も露はにくさくさの貝拾ふこと如何にその心身を一日の清遊に

樂ましむへきか關西鐵道會社

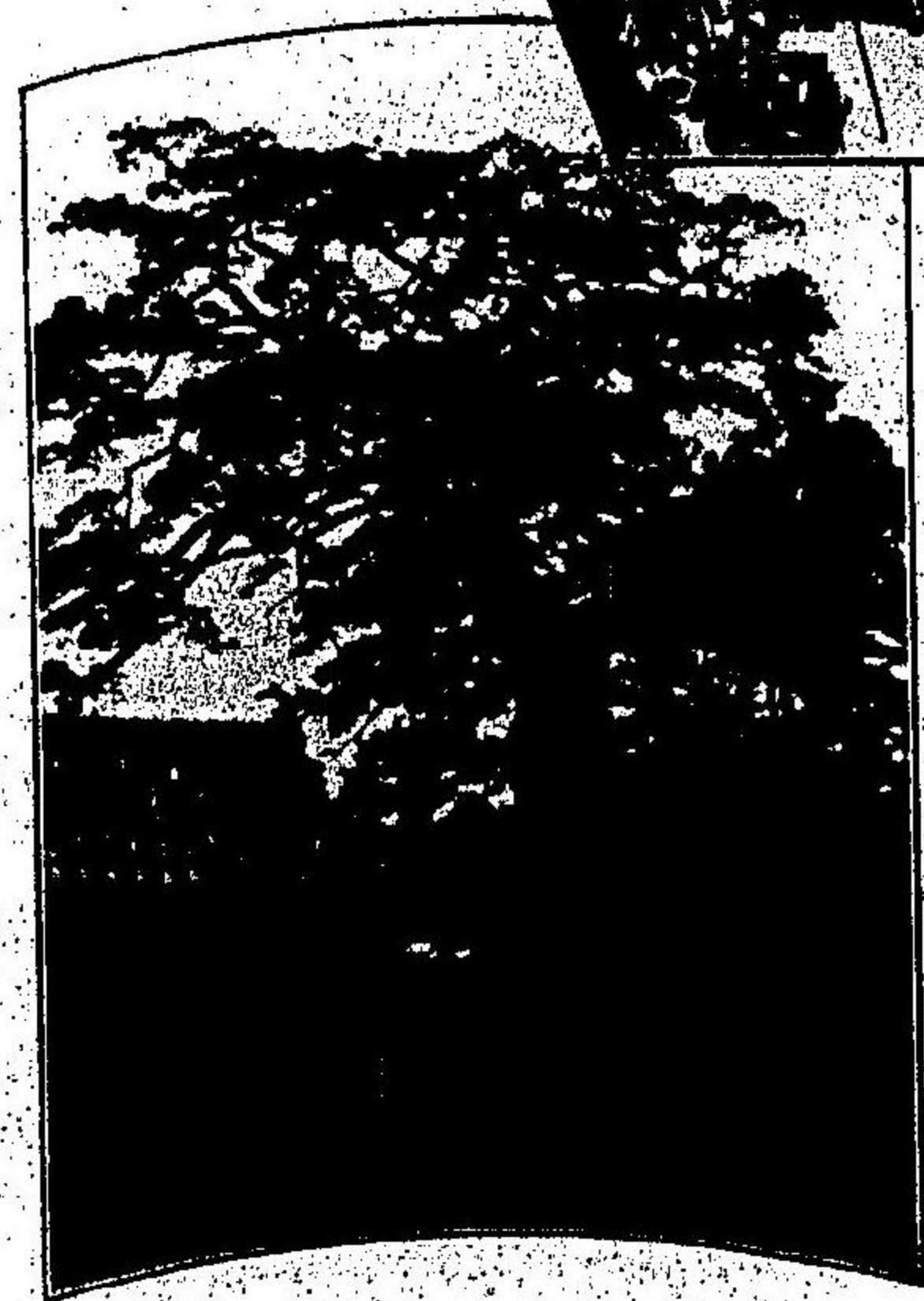
社は毎年汐干狩列車を發して京阪神名の紳士淑女を迎へ設備至らざる所なし

●龍燈の松(一名駒繫ぎの松) 四日市大字新丁眞宗

不動寺にあり寺は寛永十六年弘法大師の彫まれし佛像霞か浦に漂着せしに依り一院を建て之を安置し龍寶山



祭市日四



松の燈龍

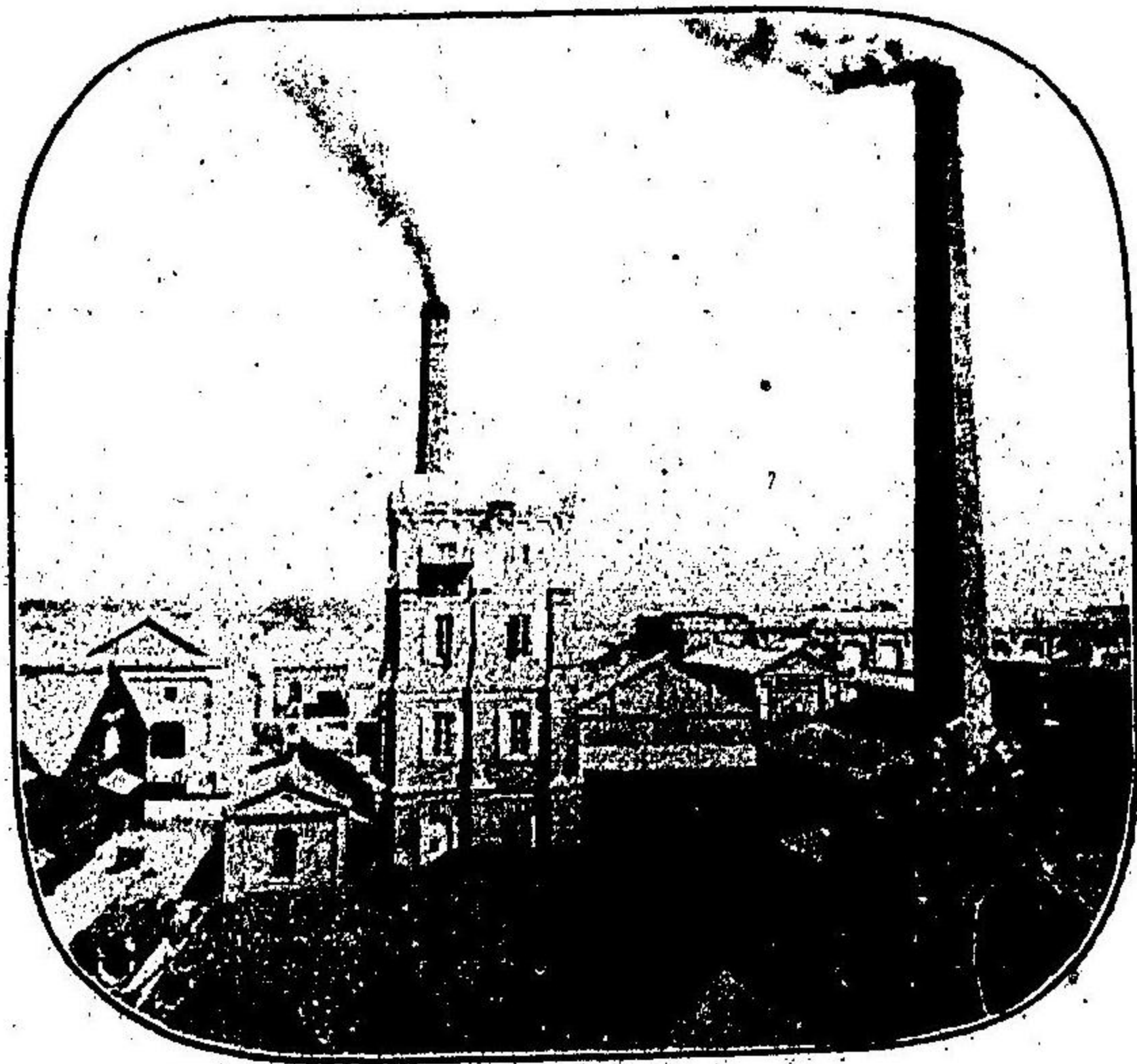
不動寺と稱し越傳禪師開祖たり當時同境内は海濱の小林中にありしも星移り

物變りて今は同市の中部となれり古來同寺には龍燈の松、黄金の鐘、漢々石の三種傳來尊重せられしか松は現に幾百年の霜雪を凌ぎて周圍五抱に餘り枝幹茂りて天を摩するの趣あり昔は龍神此松を愛て毎夜燈を點せしことあり又徳川家康東上の途驛驪を繫ぎて暫し憩はれしに因み若干の御朱印地を給ひしことあり樹名是より起りて天籟長へに颯々たり

●四日市祭(諏訪神社祭禮) 祭禮の初は貌として考ふ可からされとも安永享保年代の記録に存せり毎年九月二十五日二十六日二十七日の三日間にして初日は町練と稱して三四の隣町組合を練り廻り中日は西町を始めとして比丘尼町久六町より新田江田北濱田を練り廻り末日は各町孰れも諏訪神社へ練りつゝ參拜して祭典の式終るへし殊に比丘尼町久六町の大名行列は懐古の資料たるべく納屋町組の鯨舟の如きは裝飾華麗動作快濶眞に捕鯨の實況を見るに異ならず其の他各町の練物は互に壯麗を競ひ商舖業を休みて珍什、奇物を展列し全市人を以て埋めらるゝの觀あり

●四日市海員寄宿所 日本海員救濟會三重支部の事業として設立されたるものにして昨三十九年七月工を起し本年三月に至り落成せり本所の位置は四日市市大字稻葉町の海岸三瀧川の口に臨み四日市港の埠頭を距ること數町の處にあり前に伊勢灣を扣へ知多の半島は近く指呼の間に隱見し朝熊の峰巒は遠く模糊の裡に透迤たり若し夫れ樓に上りて眺矚を縦にせむか西北一帶の山脈は參差として連亘し

三重紡績株式會社



東は内海の光景一眸の中に集り汽船煤烟を吐きて往來し眞帆片帆其の間を點綴す所内を應接室、寢室、食堂、病室、浴室、圖書閱覽室、喫烟室に區劃し更に之を高等海員用普通海員用の二つに分つ又海員娛樂の用に供するか爲種々の設備あり因に三十九年十二月末三重支部特別會員は三十八人にして通常會員は四千六百八十五人なり

●三重紡績株式會社(濱町にあり四日市驛より五町) 明治十九年七月一日の創立にして目下の營業科目は綿糸紡績綿糸撚絲、綿糸織布とす資本金參百八拾五萬七千九百五拾圓にして本社を四日市市に置き工場を同市濱町、本社附屬工場、川島分工場、津分工場、愛知分工場とし其の支店營業所を名古屋市中ノ町、出張所大阪市北區中ノ島に置き工場を名古屋分工場、尾張分工場、津島分工場、西成分工場とす鍾數十九萬三千三百九十六鍾織機二千八百九臺を運轉せり三十九年中の製産價格は千百六拾七萬八千四拾八圓五拾壹錢六厘なり本年亦一大擴張を爲すの計畫あり職工の規律衛生にも最も注意し保護の道亦甚た周到なり明治三十八年十一月鳳輦

宇治山田町に駐まる其の十六日特に侍従を本社に差遣はさる誠に光榮と謂ふべきなり

●四日市製油場(四日市驛より六町大字濱町) 由來四日市は伊勢の水の産地として名あり初め四日市製油會社は純然たる洋式搾油を我邦に興せし嚆矢たるに拘はらず業務の經驗に乏しかりし爲明治三十四年解散に決せり現場主九鬼紋七深く之を憾みとして事業の全部を繼ぎ場名を改め業務の處理を革め技術者を海外に派して研究せしめ新式器械を購ひ製造法を改良し以て左の生産力を現はすに至れり

製造品
菜種油、白絞油、種板粉粕
ポイルド油、ペイント

商標(星印)

| | | |
|-------|-------|------|
| 産額一箇年 | 菜種油 | 八千石餘 |
| | 白絞油 | 三千石餘 |
| | 菜種粕板粕 | 六十貫目 |

販路 海陸軍、東京、大阪及内地各府縣並清國、韓國

明治三十八年十一月十六日宇治山田町行在所より特に侍従を差遣はされ業務の狀況を視察せしめらる是に於て製油場の信用愈々世間に高し

四日市市

一九一



四日市製油場

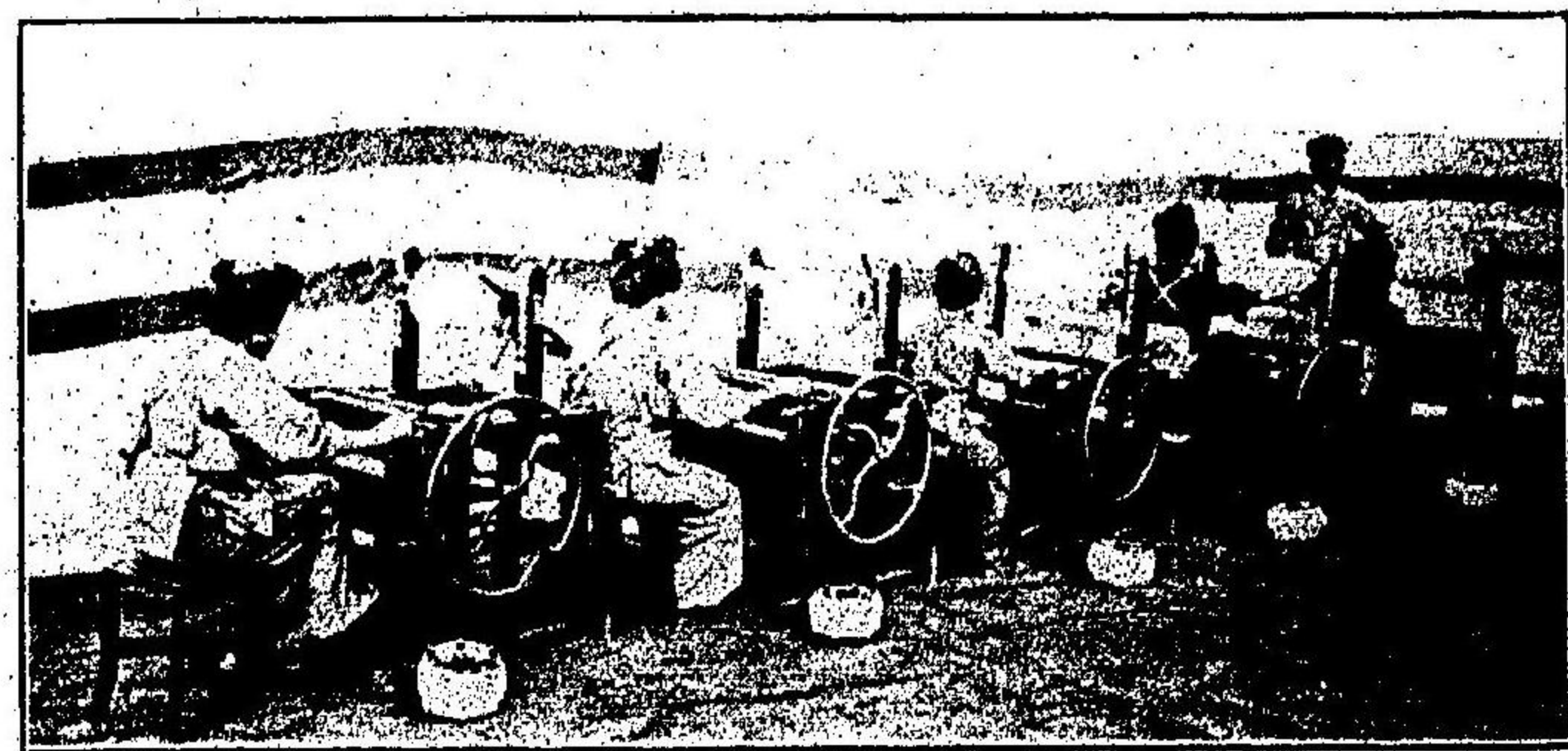
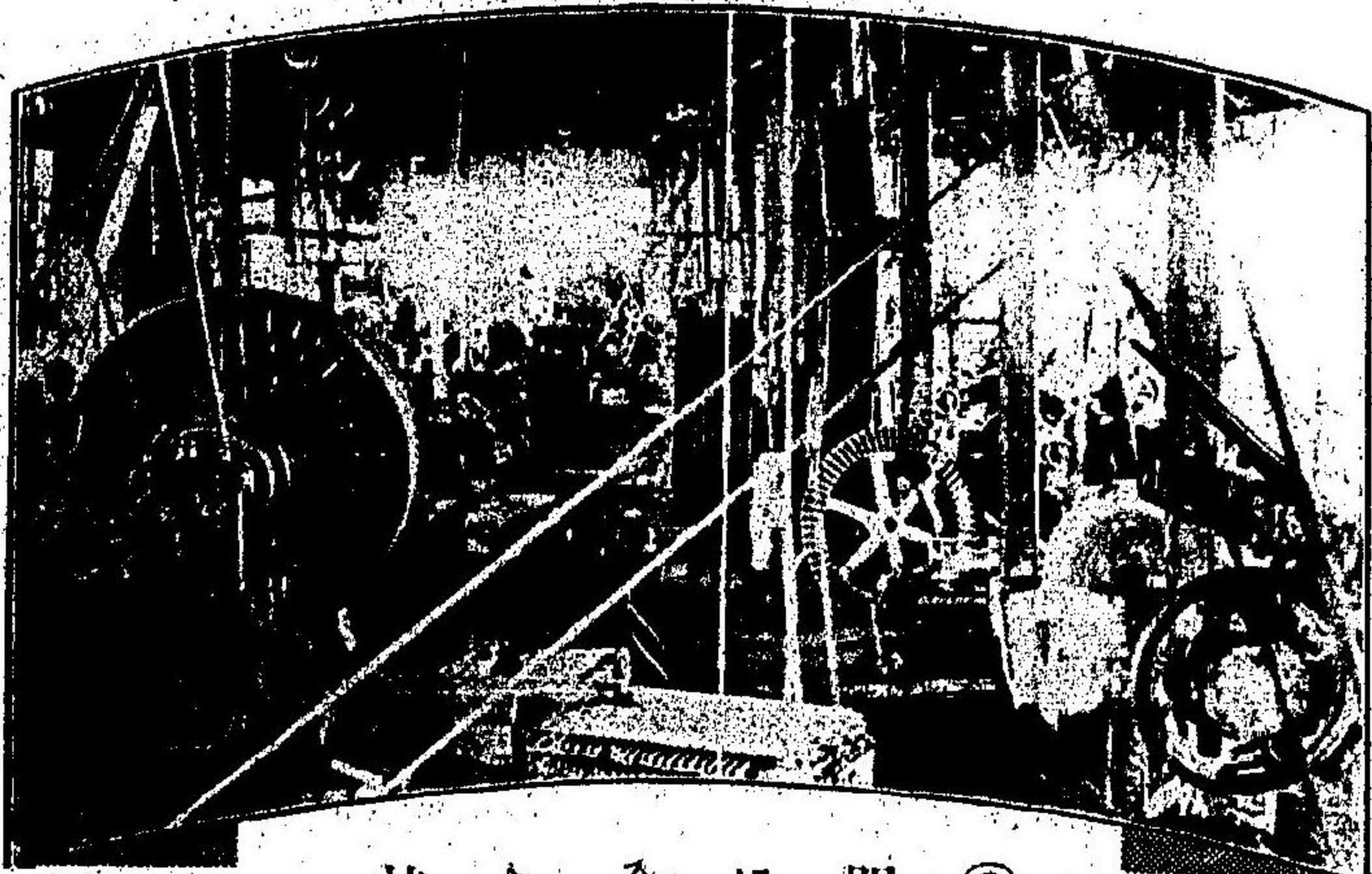
●三重鐵工所(四日市市大字高砂町)

明治三十八年八月の創立にかゝり合資組織を以て汽機、汽罐、唧筒並製造用諸機械の製造販賣を營む現在資本金拾五萬圓一箇年約八萬餘圓を製造せり

●三重製網合資會社(四日市市濱町)

明治三十四年十月三重製網所の創立に起原し翌年三重紡績會社の製網業全部を繼ぎて事業を擴張す是より先き編網機械を發明して第四二七一號特許權を得全く機械的製網の實を舉ぐるを得たり一箇年の産額網地三萬四千六百反價額貳拾萬八千九百拾圓に達し本邦各府縣は勿論清韓

場工鐵重三



社會資合網製重三

兩國への輸出も亦頗に増加せり本社の資本金は拾萬圓にして出資社員九名なり

●四日市米穀株式取引所

市内新町にあり明治二十六年十二月設立の許可を得二十七年一月立合を

開始し三十六年十二月第一期營業滿期となりしに依り更に其の繼續の許可を得て現今に至れり本縣三取引所(桑名、津)の一にして當所立合相場の變動は實に全國相場界に重きを置かる三十八年中の賣買出來高は左の如し

米穀

四十九萬八千三百四十五
六百四拾九萬九千八百八拾貳圓

株式

八種
貳拾五萬千八百參拾九圓

●萬古燒及合資會社川村組工場

萬古燒は桑名の人沼波

弄山に出て手頭捏造の典雅を以て賞賛せられ屋號に因りて萬古燒と稱せり天保年間森有節弄山の流を汲みて萬古窯を再興し精巧の物を出せり後山中忠左衛門の刻苦發明に依り製陶業者輩出し四日市萬古の名大に揚る就中川村又助専心

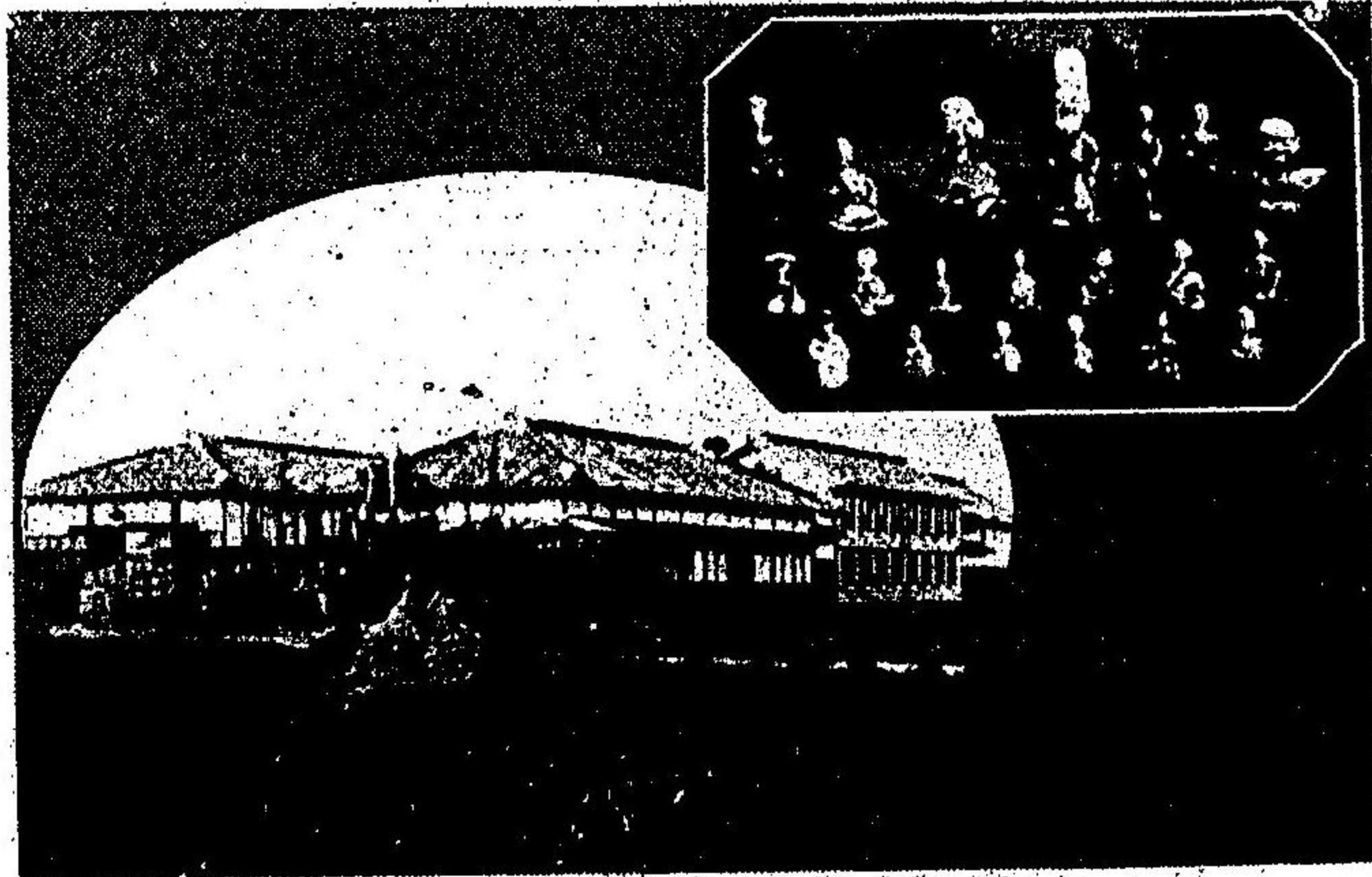


所引取式株穀米市日四

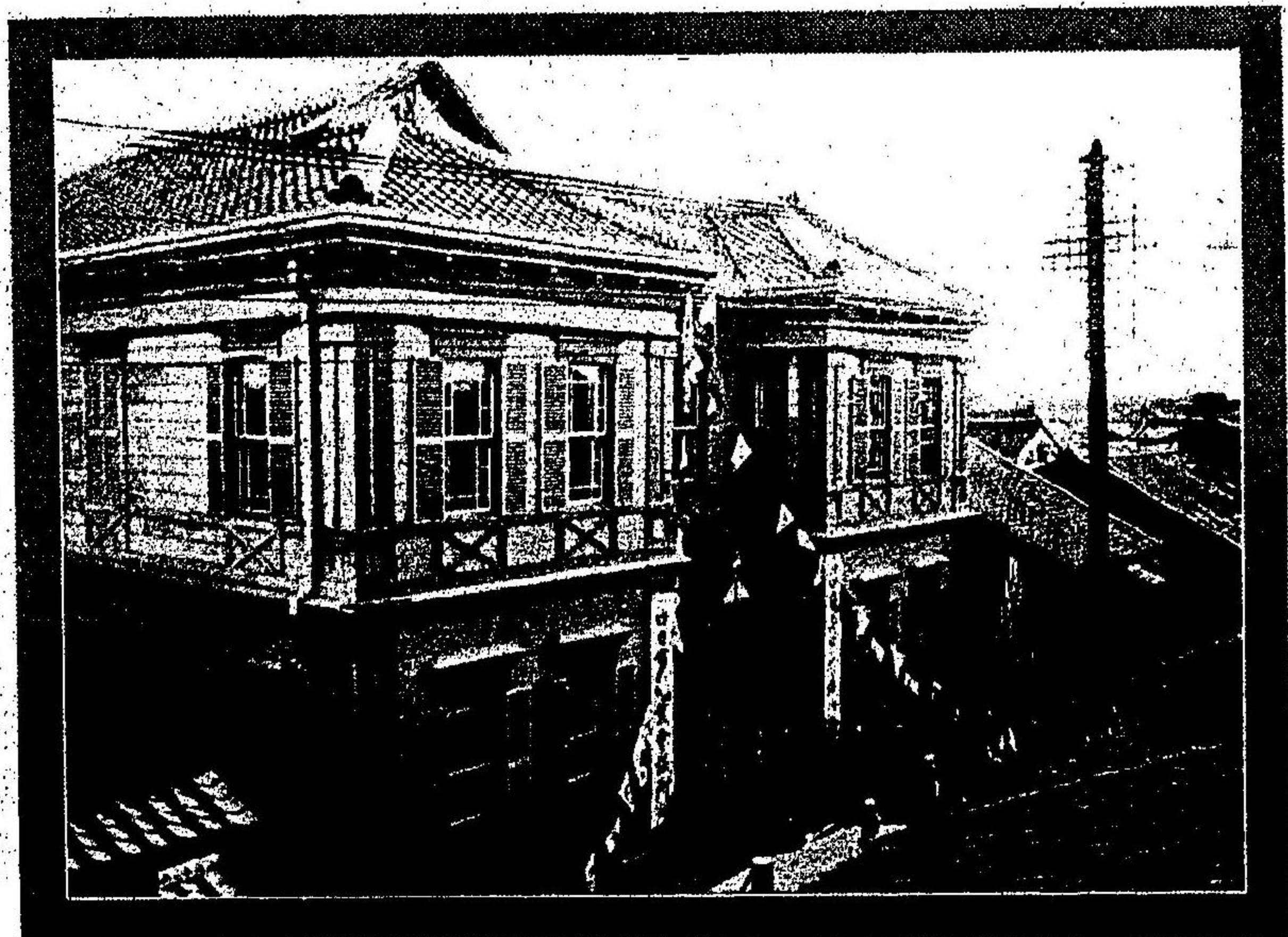
斯業に従ひ合資會社を設立して其の衝に當り幾多の改良を企て、美術品日用品を製し又販路を海外に擴張して輸出額

形人振首助又村川

場陶製村川



一箇年七萬圓以上に達し産額約拾六萬圓に上れり
●四日市商業會議所(四日市市大字濱町) 明治二十六年五月の創立にして現在選舉有權者は三百



所議會業商市日四

六十名議員三十一名を選出し一箇年經費約五千圓を投して各種の經濟事情を調査研究す

現任役員氏名左の如し

- | | | | |
|------|--------|-----|---------|
| 會頭 | 九鬼 紋七 | 常議員 | 齋藤 恒三 |
| 副會頭 | 伊藤 傳七 | 同 | 南川 三右衛門 |
| 常議員 | 吉田 常吉 | 同 | 平野 太七 |
| 庶務部長 | 味岡 平太郎 | 同 | 鈴木 廉平 |
| 會計部長 | 山中 源三郎 | 書記長 | 松永 直次 |
| 常議員 | | | |

●縣立四日市商業學校(在四日市市濱一色) 明治二十九年六月井島茂作の創設にかゝり三十年一月

町立に改め同年八月市制施行と共に市に移し三十七年四月縣立となる生徒四百名

●四日市市立高等女學校(四日市市大字南新町) 明治三十四年四月裁縫學校の創立に起原し専ら着實なる新家庭の婦女子を養成するの目的を以て中等教育及家政、料理、裁縫、簿記等の實務を授け本科及技藝專修科の外に専攻科を設け時々市の上流者を來賓として生徒の献立調理にかゝる試食會を開き料理及作法を研究するの料とせり生徒二百五十名

桑名郡

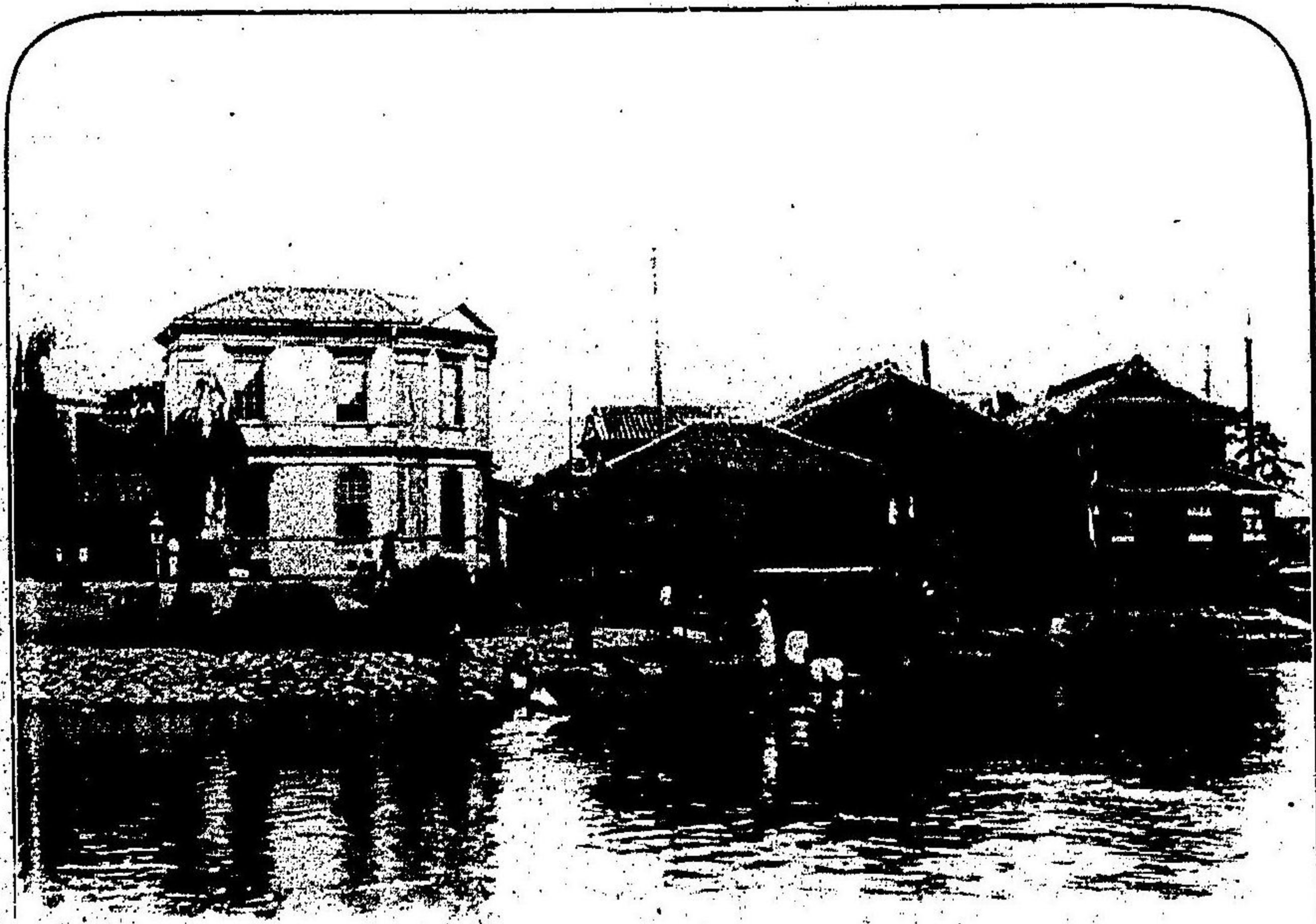
◎桑名町 明治初年に至る迄松平氏の管治せる所にして縣下六市街の一なり西員辨街道に當り東木曾揖斐長良の三川を控へ南伊勢海に面し尾濃勢三國に跨る百貨集散の地たり本町三崎通宮通等最も殷盛にして川口は其の港なり此より熱田へ七海哩往時間遠の渡とて東海道樞要港の一なり桑名停車場より町餘戸數三千六百餘人口二萬餘なり

桑名に遊ひて熱田に到る

芭蕉

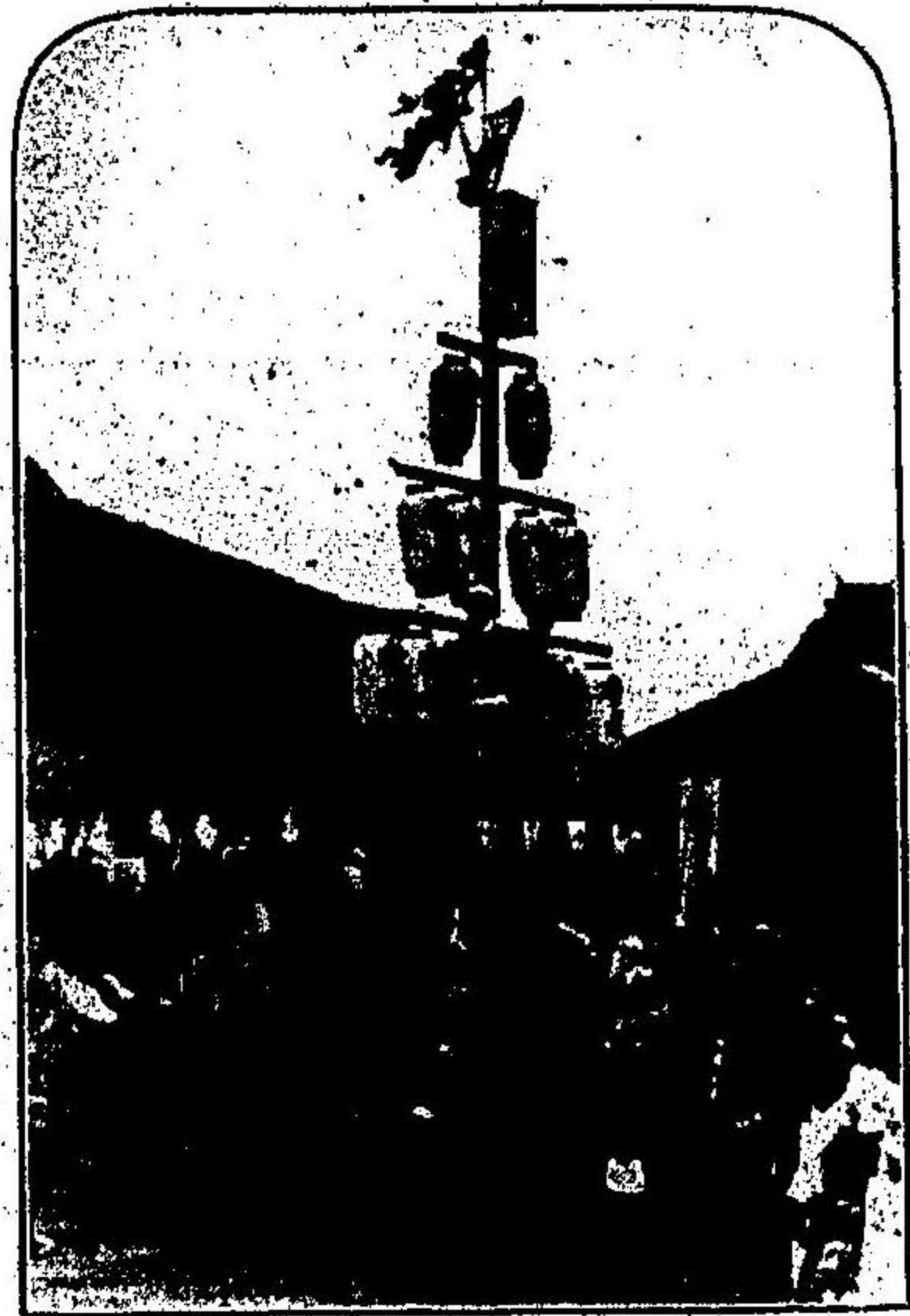
あひそ來ぬ鮎釣かねて七里まで

◎桑名中臣兩神社 三崎通に鎮座す桑名神社の祭神は天津彦根命久々斯比乃命にして中臣神社は



桑名川口

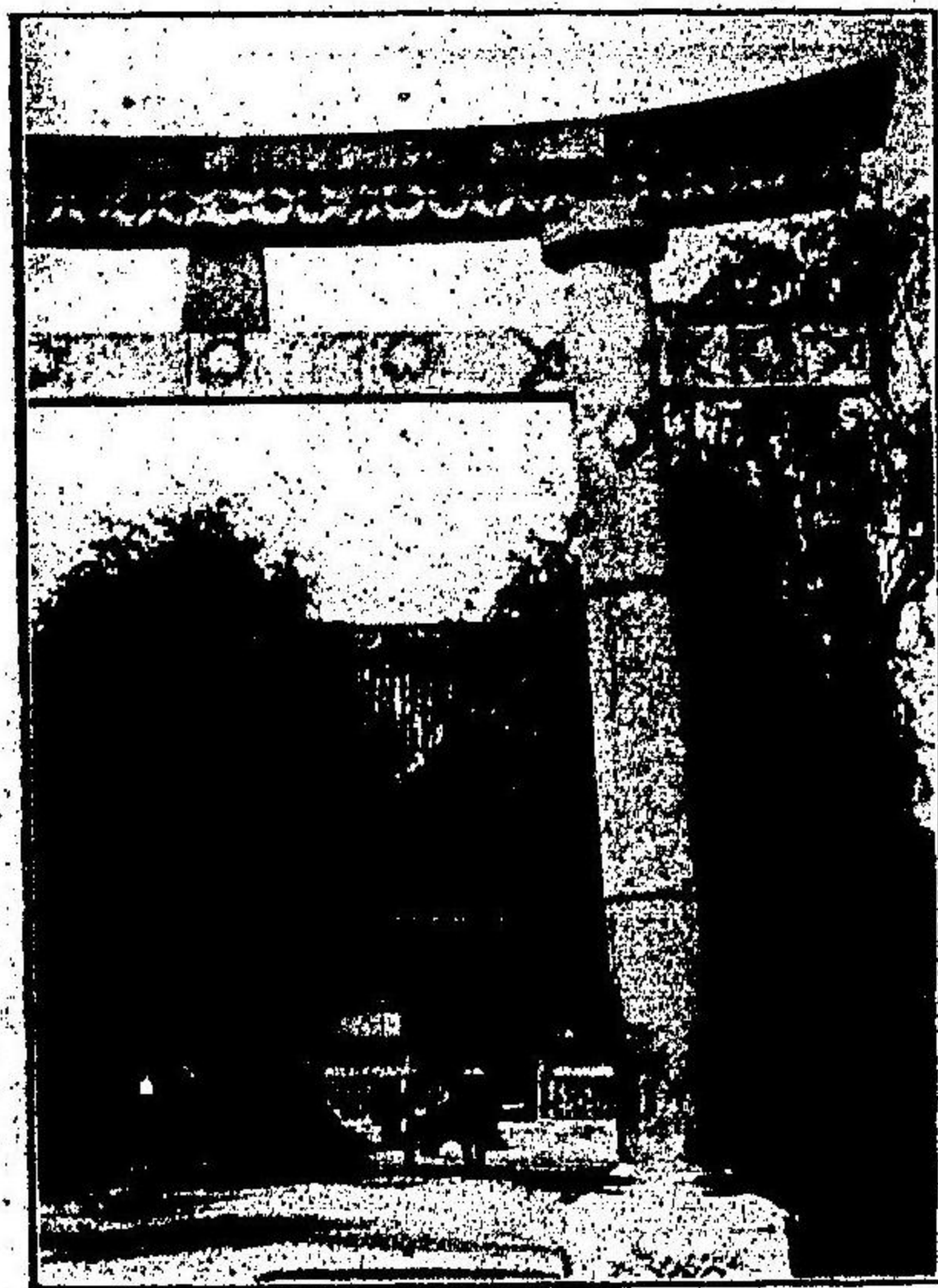
石探祭



天日別命を本座とし春日四社の神を合祀す俗に春日社といふものは是なり兩社相並ひて前に百疊敷の大拜殿あり又銅の大鳥居あり年の七月七日に行はるゝ石探の祭の賑ひは人の能く知る所にして此の祭は馬場の修繕に際し町屋川原の石を採りて供へしに始まり桑名町四十餘箇町各競ふて壯麗なる山車を曳き列ね打つや太鼓の音につれて神の心はいさ知らす人こそ先に浮かれる

老若男女喧擾の状恰も狂するか如し

◎鎮國守國神社 舊桑名藩祖松平定綱及八代城主定信を祀る始め吉の丸に在りしを近年舊城本丸に移せるなりと定信は幕府の老中に任じて寛政の治績を挙げ後年奥州白河に閑居して悠々自適専ら餘生を風月に樂しまれたる白河樂翁公其の人をいふ公や智深く識高く曠世の偉材にして其の文章道德は一代に高し遺風は猶藩



中臣神社

士人の間に行はれ淳樸敦厚の美俗今に存せり

すゑ終にあたちか原の露の身も

國を守りの鬼となるらむ

樂翁

天武天皇御遺跡

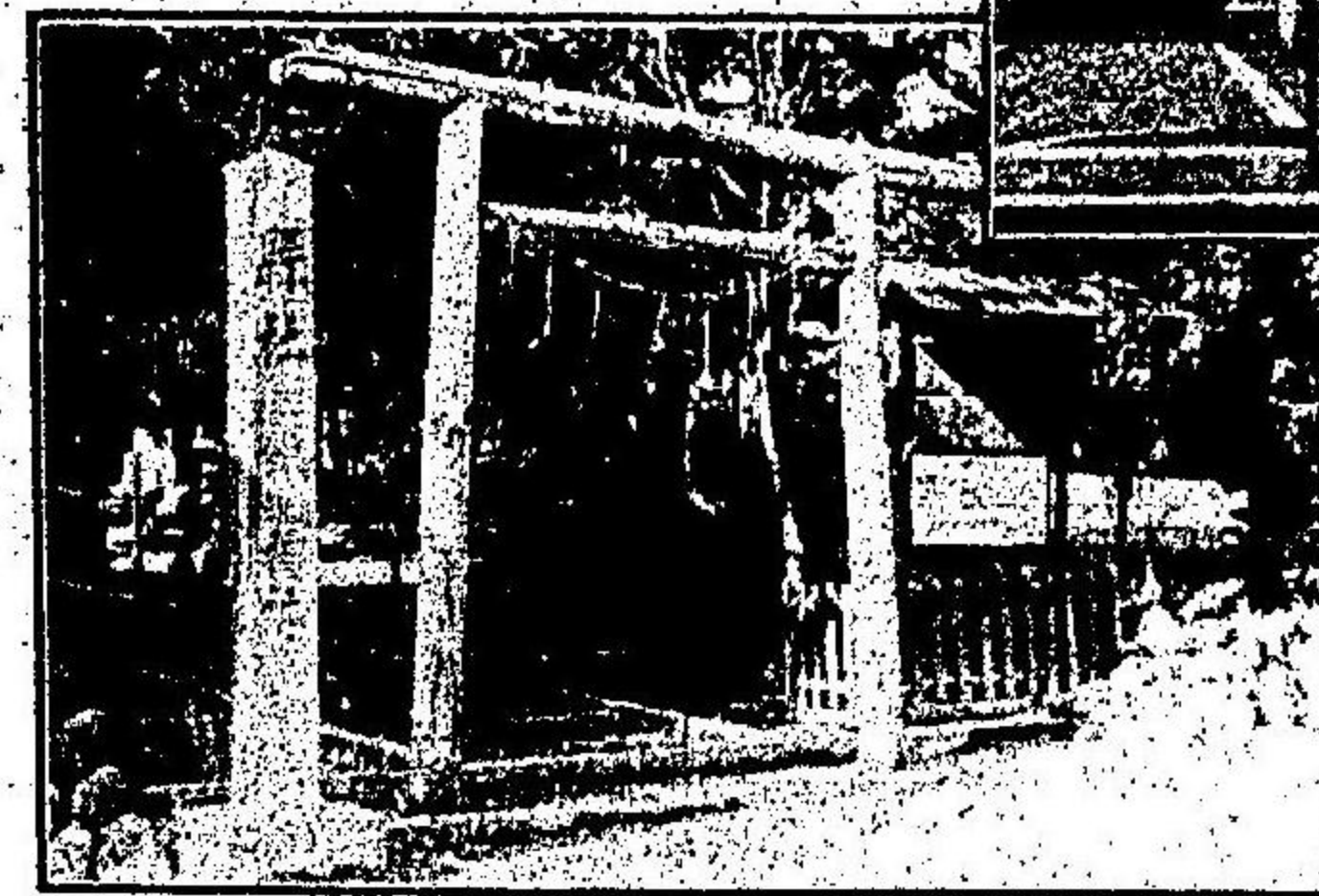


◎天武天皇御舊跡(桑名驛より二十町) 桑名町
大字鍋屋町にあり壬申の亂に際し大海人皇子の其

の妃と俱に宿どり給ひし舊跡を紀念し奉る爲め町民一社を建造せるものなり皇子の遺跡は其の近傍新屋敷と稱する地に在りといふ

◎本統寺 桑名町寺町に在り東本願寺の別院なり昔時本願寺織田氏と難を構へ末寺門徒より軍需を徵發すること甚だ急なるに當り尾濃勢三國の門徒遂に當寺を起して總道場と爲す時に元龜二年なり慶安二年始て本統寺と號す第三代住職瑛晶惠淨院と稱し古益亭と號す領主越中守と詩歌互に往答し交情最密貞享年中芭蕉翁來りて寓す

桑名古益亭にて

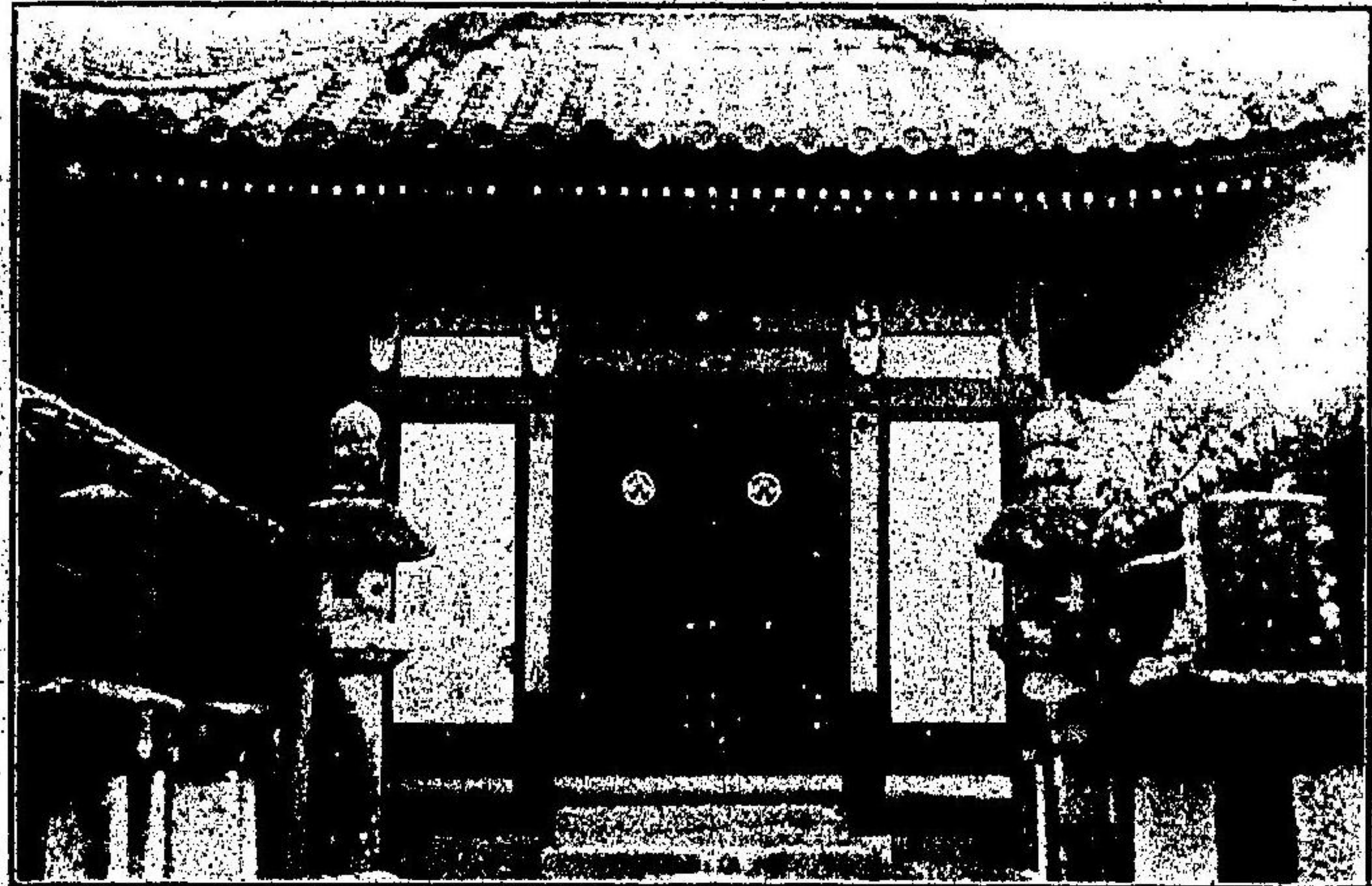


鎮國守國神社

ふゆほたむ千鳥に雪のはらふ

芭蕉

本多忠勝の墓

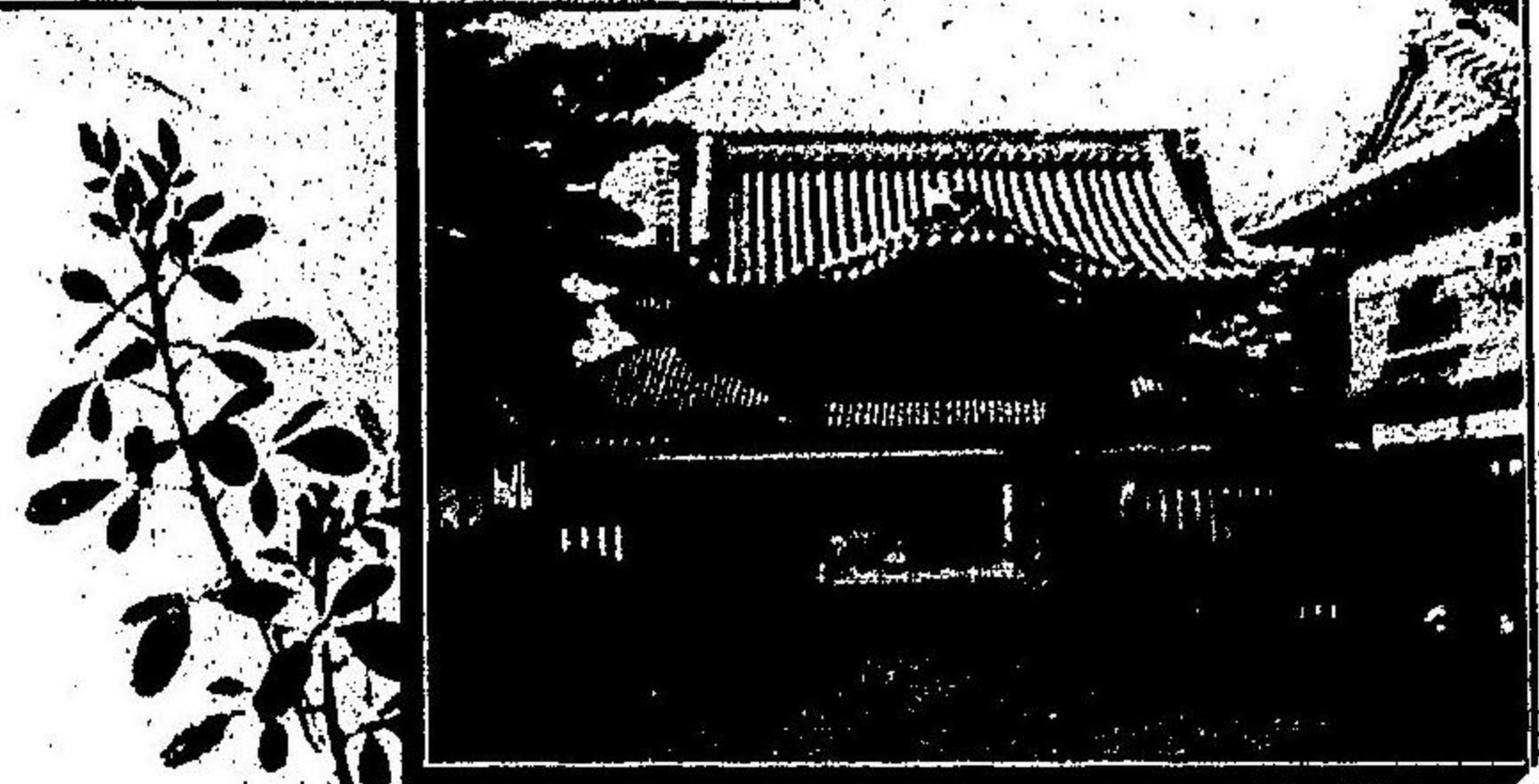


を正して英風を仰かざるはなし淨土寺には忠勝手裁の老紅梅ありしか近時寺の火災に罹りしに當り移して桑

桑名郡

◎本多忠勝墓 桑名町清水町淨土寺に在り徳川家康の股肱四天王の一人として驍勇の名ありし本多忠勝が

實を易へしは則ち此地なり靈祠の左右碑あり蒼然として古色を帯ふ忠勝の重臣中根忠實梶勝忠殉死の屍を埋むるなり來りて日本古武士の靈を弔ふ者襟



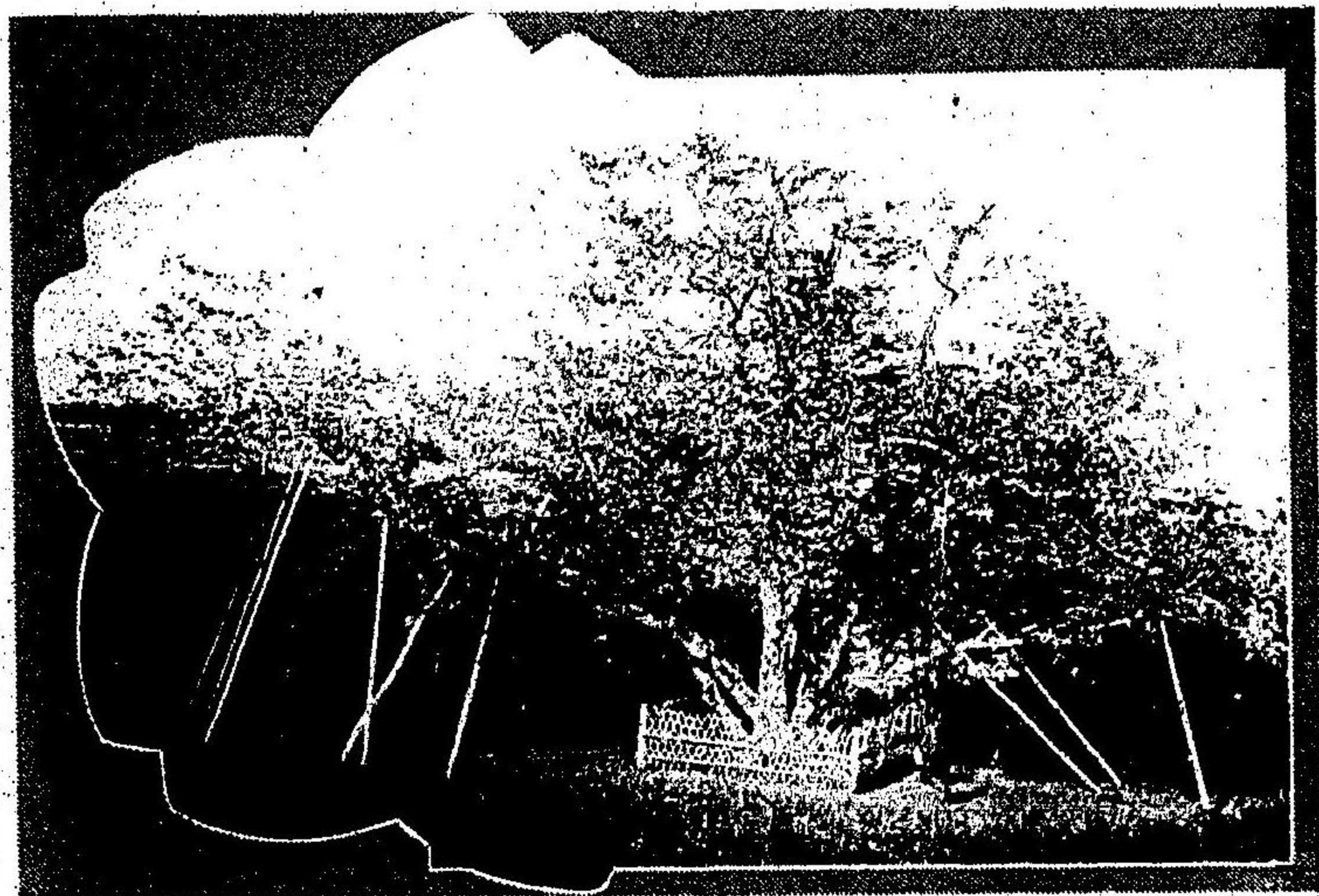
本統寺同庭園

名町松平家見の宅に植ゆ

●照源寺金龍櫻(桑名停車場より三町) 寺は大山田村大字東方にあり舊桑名領主累代の塋域にして境内に金龍櫻と唱ふる老樹あり一根八幹繁枝茂條地に曳きて人を搏つ稍離れて之を望めは燦として紅帷を張るか如し傳へ言ふ藩祖定綱の攝津金龍寺より分植せしものなりと

●播磨山の松茸狩 桑名町を距る僅に十八町大山田村に屬す松樹翁鬱として幽谷を蔽ふ夙に松茸の産出を以て名あり乃ち期節に至れば松茸狩と稱し老來り少集まり林間酒を煖めて香茸を灸ふるあり醉歩踉蹌婀娜の北くるを逐ふて痴態を極むるあり亦天國の樂園たり

●時雨蛤 蛤は二大河の海に吐出する所即ち河海の潮流鹽梅適良の地に産す是れ其の形狀頗る大に味の美なる所以か貝合せなどに用ゆる最も妙なり時雨蛤は十月頃より製し



櫻龍金寺源照

松茸狩



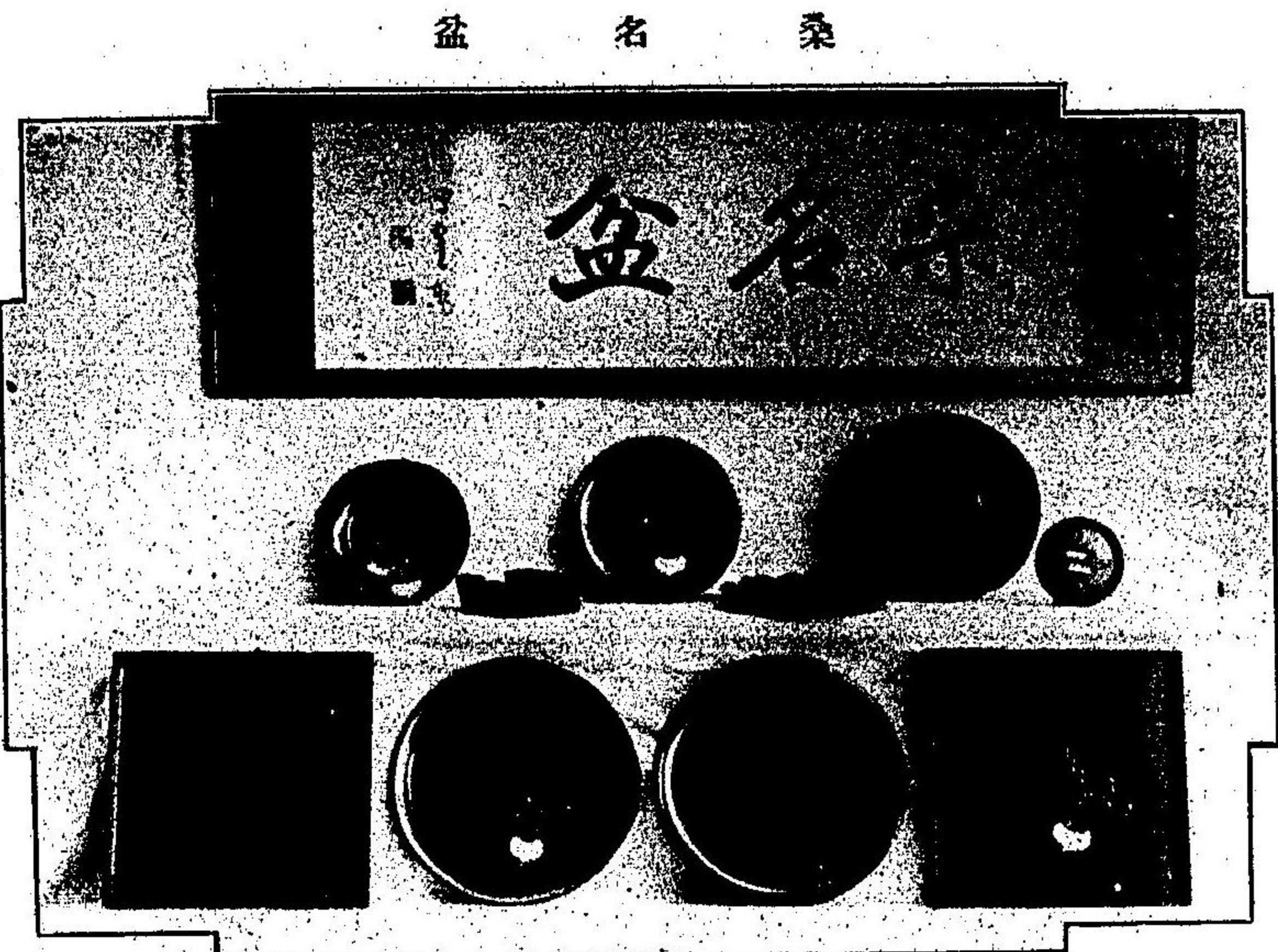
始む時雨と名けたる真に此に出つると云ひ或は時雨蛤を製する時大名店先を通り掛りてこれは何なるやと問ひしに此の時恰も時雨の降りければ天氣の事ならむと誤りて時雨と答へしか應て此蛤の名となれるなりともいふ近時製法に種々改良工夫をこらし販路亦漸く擴れり從來曲物に入れたるを現今



所造製蛤雨時

は多く鐘詰として數年月を保ち遠路の携帶にも頗る輕便なり

時雨るゝや焼き蛤のゆる音 其 角



すにあり就中蘭花最も妙なり古雅にして清楚古來茶人の愛賞せる所なりしか故に多くは茶器として製

◎桑名盆 一名蕪菁盆といふ古雅にして堅牢夙に江湖に稱せらる昔は蔬菜、菓實、草木等を畫きしか文政年間藩主松平樂翁公愛翫措かす乃ち汪信民の「菜根嚼得は百事成る」の語意を寓し家臣谷文晁をして蕪菁を畫かじめ之を幕府に献上せり爾來専ら此圖を用ひしに世人の嗜好亦之に傾けるより遂に蕪菁のみを畫きて一種の特産とはなれるなり此の意や蓋し勤儉素朴の美風を涵養するに在るへし當時は其の色青黒の二様なりしか漸次改良を加へ今日は金蒔繪を施し優美なる菓子器會席膳等を製造するに至り販路日を逐ふて廣まり桑名蕪菁盆の聲名天下に高し

◎萬古燒 此の器の特長とする所は手頭捏造の急須を専らとし之に優美艷麗なる花鳥の彩色畫を以て模様とな

作せられき近時需用漸く多く自然技術大に進み花瓶置物又は翫弄物など殊に得意として製作するに至り販路隆々日に月に般盛に赴きつゝあり製作の鼻祖は元文年間沼浪弄山(方寸齋とも號す)桑名に窰を開き阿蘭陀交趾を摸擬したるに創まり聲價甚た熾なりしか一時大に衰頹せしを天保の始め森有節其の廢絶を歎き再興の上自から有節萬古と名けしなりと近來旋盤を用ひて杯などを製するに至る其の古萬古と稱し器底に萬古又は年號を欸するは實に鼻祖弄山の意匠に出つ聲價今猶貴し蓋し萬古の名は所謂萬古不易より取りたるものなりといふ

◎珙瑯燒 桑名町廣瀬與左衛門の拮据經營に係る銑鐵鍋釜類食器製造は遠く慶長二年に創め累代連綿今日に至る今を去る三十七年前主人珙瑯質を附着せしめたる西洋鑄物器具を見感奮措かす意らく我銑鐵鍋釜の鐵氣は人身に害あり除去せざるへからすと恰も好し美濃大垣藩醫飯沼某長崎に蘭學を修むる傍ら珙瑯燒製法の著あるを聞き乃ち谷九一をして就て之か研究に當らしむ成らす於是當時萬古燒竈元として有名なる森有節を招聘し攻究意匠を凝らすこと歳餘漸く曙光を認めき而かも重要な原料は高價を以て遠く海外に仰かざるを得ざるか故に隨て其の製品の價格高きに過ぎ言はゞ一種の貴重品視せられまた一般の需用を滿たすに至らず爾來専ら鉛分除却の方法に心を碎き刻苦研究に従事すること多年其の功空からす三十二年東京衛生試驗場は細かに之を檢定し全く鉛分を含有せざる衛生上無害品な

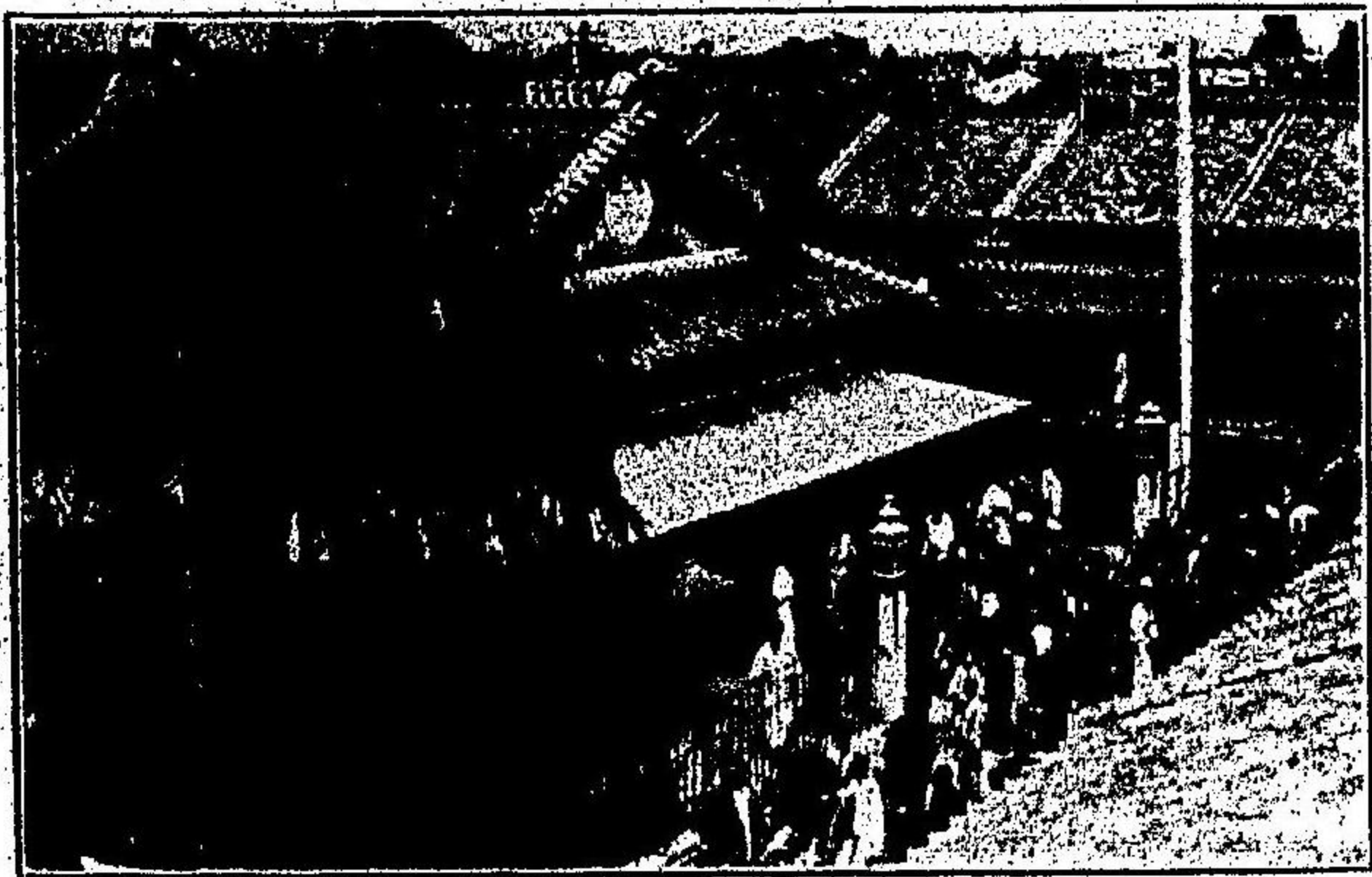
りと證明せり三十三年及三十四年内務省令飲食用器具取締規則の發布ありしか些の支障を受けず販路滋増加し日を追ふて其の聲價を博するに至れり三十九年一月面積七百餘坪の工場を新設し着々世の需用に應じつゝあり現に一箇年の製造高鍋釜及其他の食器六十五萬三千三百有餘個價額九萬參千七百餘圓に上り其の輸送先の重なるものは滿韓地方を始め東京大阪京都名古屋九州函館外敷市なりこそ目下珪瑯燒製造者の甚た僅少なると色彩の完備せざることにより獨逸製品に對し聊か遜色ありと雖増資一番更に之か技巧を進め販路の擴張に注意せは將來有望の事業となるへし



燒 瑯 珪

●桑名米穀取引所 今を去ること百二十年前天明年間舊藩廳の許可を受け米市場を公開せしに創まりしといふ爾來會員組織を以て米市場或は米會所と稱し明治二十六年十月改めて株式組織とし米穀會所と稱へ又米穀取引所と改むる等變遷一ならざるも連綿として今日迄取引を繼續し來れる經歷は已に久しく取引の堅確なる深く世の信用を博し京阪間に介在して優に一頭角を顯はし其の一昂一低は以て他の標準として重視せらる亦斯界の一雄鎮たり

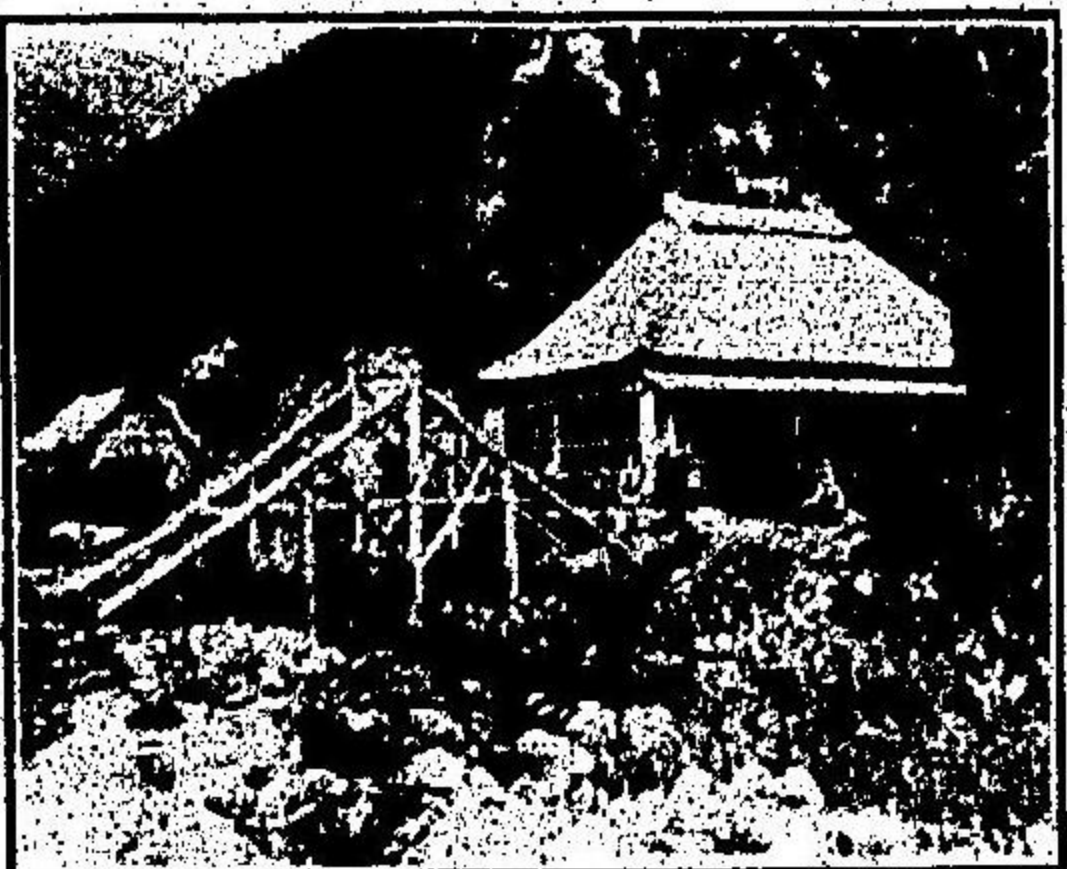
桑名米穀取引所



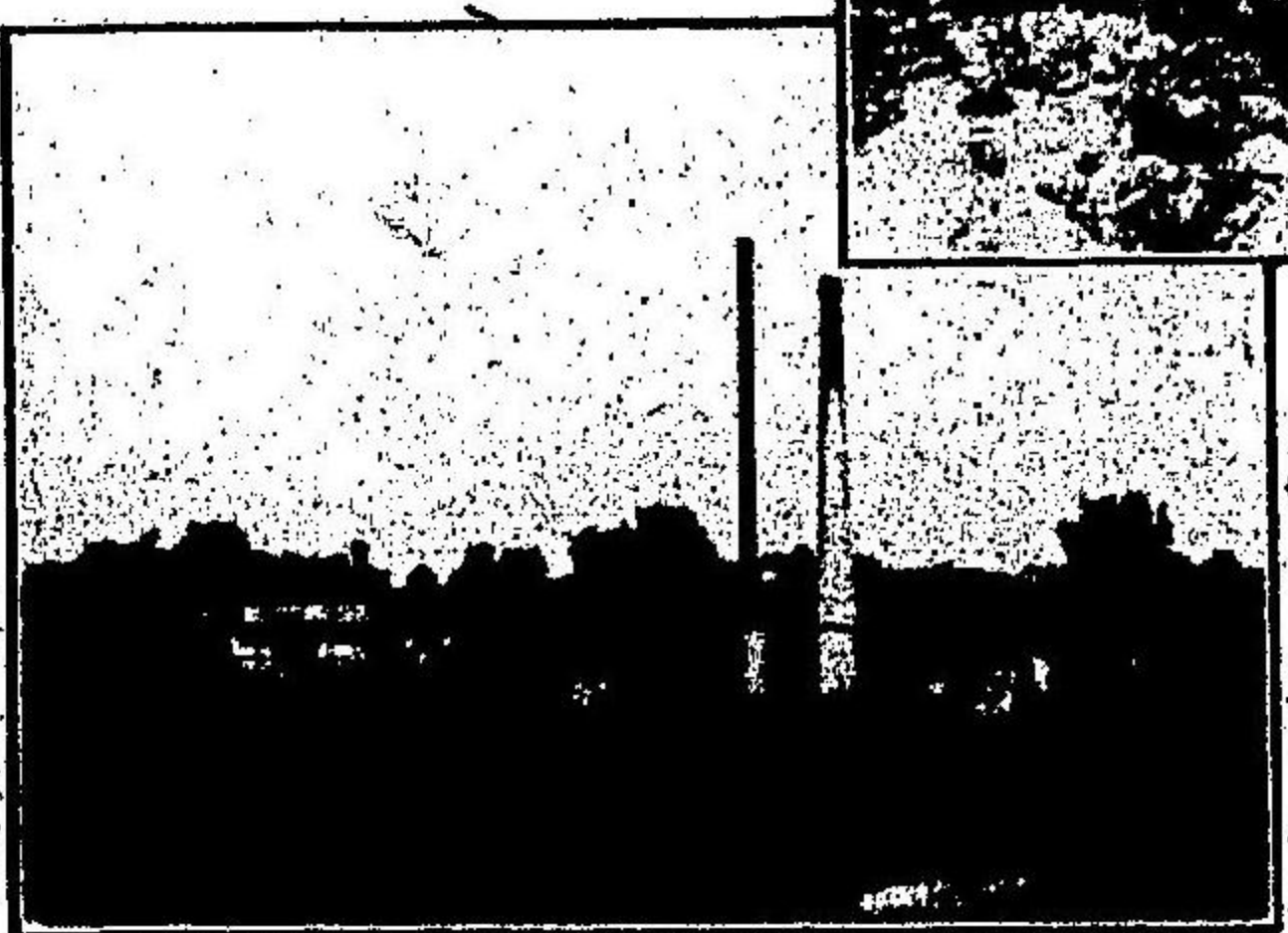
三十八年賣買出來高
五三一、二七〇石
七〇、〇一四、四四七石・七〇〇

●諸戸の山林施業 桑名町故諸戸清

六は明治二十二年始めて植林事業に志



諸戸山林事務所長島村排水機器

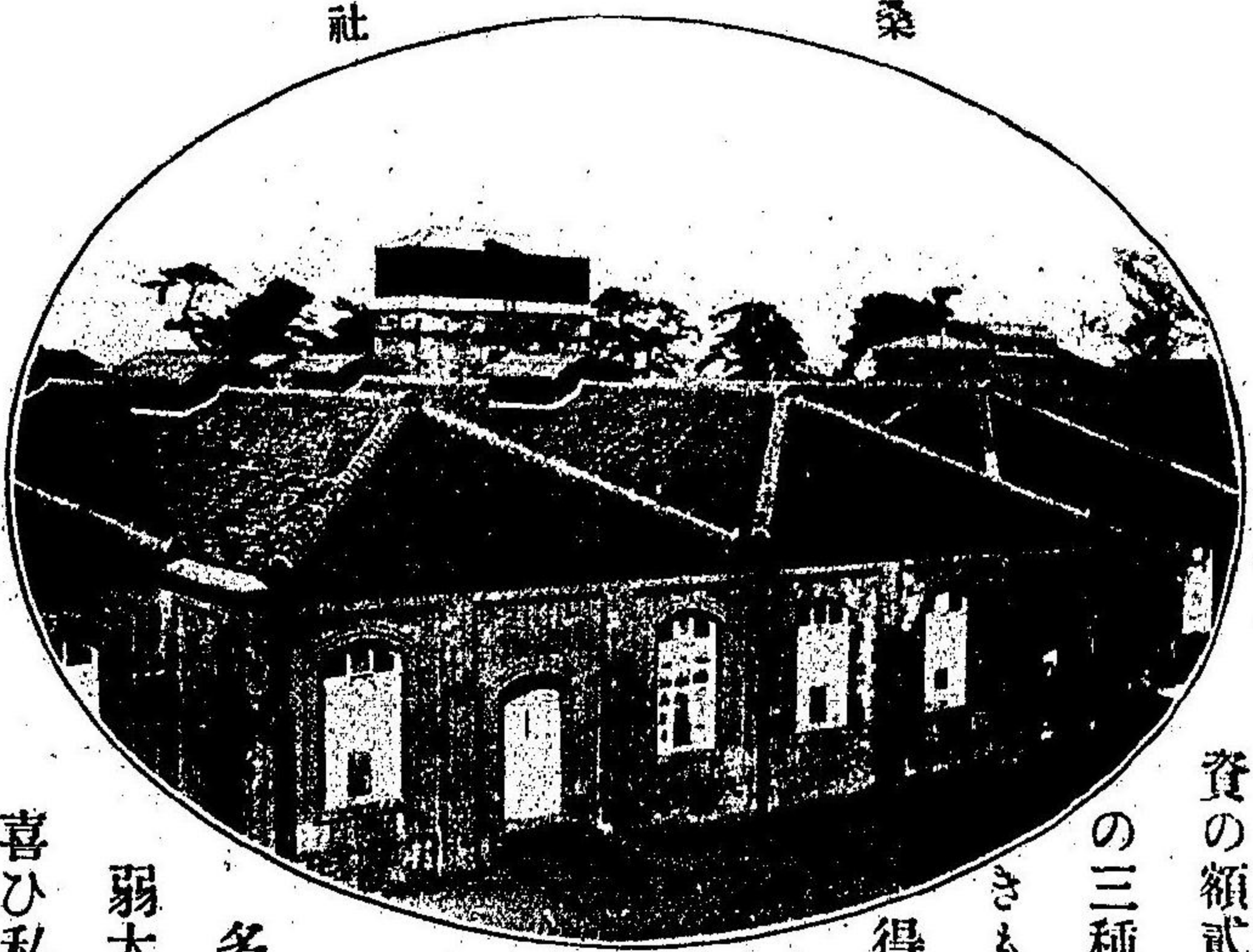


し各地を巡遊して林業の實況を視察し長を擇ひ範を採り又學生を選て林學を修めしめ經營年所を累ね終に一大林業家と爲れり常に曰く樹株一億三十年の後價二億を獲る難からず子孫の計焉れに加ふるなしと本縣多氣郡萩原村、同郡領内村、鈴鹿郡坂下村、同郡加太村、阿山郡丸柱村、名賀郡箕曲村、北

牟婁郡尾鷲町及神奈川縣中郡東秦野村地内に於て手を下せし反別實に一萬〇三百五十町歩餘にして投

資の額貳百拾八萬參百九拾圓に上れり其の植栽せしは杉、扁柏、松の三種とす車道を開き林道を通し防火線を畫し整然として見るべきもの多し清六の業廢山荒谷を購ふて濯々たる密林を造くるを得意とす故に土砂を并止し水源を涵養し以て公益に貢獻するの功亦決して少少にあらず

桑名紡績會社



を敷設し桑名町赤須賀村及大山田村の一部益生村の一部へ給水するの装置を作り同時に消火栓數十を

●桑名町の上水道 桑名町及赤須賀村は揖斐、長良兩大川の河口に位する低地なるを以て飲料水に乏しく且其の質良からず爲めに疾病者を出すに至る桑名町故諸戸清六此に感ずる所あり明治三十二年以來百難を排して水源を探り幾多の縦坑を掘り水質の試験を行ひ遂に桑名町を距る西方一里弱大山田村大字西方に於て一水脈を發見せり是に於て清六大に喜ひ私財拾五萬餘圓を抛ち經三吋乃至八吋の鐵管延長三里九町餘

設け火災に備ふ郷人長く其の慶に頼れり明治三十八年十一月十七日 今上陛下 神宮に御參拜あらせられし千歳一遇の秋に於て清六の水道事業殖林事業等御勸奨の御主旨を以て宮内大臣より行在所に召させられ優渥なる御沙汰を傳へられたり清六家門の榮實に極まれりと謂つへし清六更に其の事業を大成せむと欲し先づ益生村全部の給水を計り貯水池の擴張鐵管約五百間の埋設を企て未だ全く其の功を竣らすして而て天忽ち其の人を奪ふ時に明治三十九年十一月十二日人之を惜まざるはなし

●長島村排水機械 桑名郡長島村に在り關西鐵道桑名停車場よりせは川口迄約十八町夫より揖斐長良合流を渡るに八町弱の渡船に依るへし又長島停車場よりするも三十町を出てす由來木曾揖斐長良三川の沿岸部落か年々歳々漲水の爲めに被る損害は單に現實の收穫物のみにも決して少額にあらず去れば之か豫防方法に就ては幾歲月官民共に苦心經營する所ありしか遂に排水機械の方法を講ずることとなり茲に始めて積年の愁眉を開き農家到處に嘻々の聲を聽くに至れり明治三十八年十一月十六日今上陛下行幸の際は長くも特に侍従を差遣され具さに視察せしめ給ふ臣民の感泣して永く聖恩の深きを忘る能はざる所なり因にいふ同様の排水機械を据付けたるは楠村、伊曾島村、城南村、木曾崎村、七取村の七箇村なり皆効益の著しきに驚けり

●城南村貝津の濱と福地の濱 桑名停車場を距る約三十町揖斐川末流の沿岸に位するもの之を貝津

多度神社



の濱といふ行くこと十六町にして福地の濱に達す附近には無数の櫻樹あり節に仗りて眈を裂かは碧波茫洋勢山尾洲の雲烟に罩まる沿岸は遠淺にして魚介の發育殊に宜しく春夏の候汐干狩楯干網鵜繩漁の遊興を添ふるあり草に踞して綸を垂れ舟に棹

あけほのやしら魚白きこと一寸 はせを

◎多度神社 桑名より西北三里多度山の麓に在りて俗に北伊勢大神宮といふは是れなり天津日子根



城南村貝津の濱

命を祀る一目連社とて天目一箇命を祀れる別宮あり社域森閑として老樹鬱然天を蔽ふ早魃の際は雨乞の靈徳顯著なりとて參詣者極めて多く御幣を受け幣の地に就く時に雨降ると言慣はし其の途次休憩せすして居村に持ち歸るなりとそ年の五月五日の大祭には流鏑馬の古式あり遠近の男女群集雜鬧す山頂三杉あり其の地三本杉と稱し眼界開豁木曾、揖斐、長良三川改修の狀形圖を展へて指點するか如し又神社の傍大黒屋、宮川屋なる二軒の旅館兼料理店あり庭前數弓の池を鑿つ深さ丈餘清泉玉の如く湧て斷へず數百の大鯉悠然として樂む人の餌を投するを待つものゝ如し客あれば則ち割て膳に上ほす潑瀾として長三尺に至るものあり

多度川の清き流れに御萩して多藝の原に宮つくります

はせを

宮川の我名をちらせ落葉川

◎揖斐川の鐵橋 名古屋驛より關西線に乗りて南する人は湛々として桑名郡の北東を環流する木



揖斐川鐵橋

會、揖斐、長良の三大川に於ける三大鐵橋を越ゆへし橋の長さ共に八丁を越ゆ此圖則ち揖斐川に架せるものなり水流清冽舟を泛へて鐵橋を望めは宛然として一條の虹に似たり

寶曆治水碑



●寶曆治水碑 三重岐阜二縣の境界に當り木會、揖斐二川の相會する所名けて千本松と云ふ桑名町の西北二里油島の地頭にあり即ち寶曆治水碑の在る所なり寶曆年間幕府薩摩藩に命じて水を治めしむ藩乃ち重臣平田鞆負伊集院十藏等を遣はし工事を董せしむ千本松の地工事最も難し漸く成らむとて而して崩壞するもの幾回なるを知らず鞆負等毫も屈せず敢然邁進終に使命を全せり然とも工費得て支ふ可らず其額參拾萬兩大に豫定を超過するに至る工竣るや鞆負以下五十二士屠腹して命を矯むるの罪を謝す時人之を憐み一大碑を建て功業を世に傳ふ寶曆治水碑即ち是なり

員辨郡

●笠田村の大溜 濃州街道の北凡十八町員辨郡笠田村大字笠田新田にあり東西百二十五間南北三百八十五間周圍廿五町三十五間面積五萬四千八十五坪にして寛永十三年桑名藩主松平定綱の命に依り上笠田村二井利兵衛の工を督して築造したるものとす大泉原村大字大泉新田笠田村大字笠田新田及宇野の入會にして灌漑反別約百町歩に及ふ其の傍に二祠あり一は天照皇大神を奉祀し一は松平定綱の靈を祀る毎年九月二十四五日の兩日古の行列式に倣ふて辨天祭を行ひ頗る雜鬧す域内老松古檜あり堤上の眺望亦佳なり

●鳴谷山聖寶寺 員辨郡大泉原村楚原より一

笠田大溜池



員辨郡

二 其上同



一 其寺寶聖



は瀧の北數町に
あり眞宗本願寺
派にして本尊阿
彌陀如來を安置
す寶徳年中蓮如
瀧

里西藤原村坂本藤原ヶ岳の山麓にあり臨濟宗
妙心派に屬し本尊は傳教大師の作千手觀音を
安置す釋迦如來堂湧泉閣寺あり境内頗る廣く
且雅致に富む寺の南一里餘懸崖千丈の處瀑布
あり清涼避暑に適す
●石榑瀧及照光寺 石榑瀧は楚原を距る一
里餘南石加村大字石榑にあり直下數丈逆に翠
微を蘸し盛夏避暑に可なり南山長崎院照光寺



上人此寺に留錫したるに因り今尙四月二十四日より三日間寶物を展覽せしむ土地高燥にして風光頗る

閑雅なり

●鴨神社 員辨郡丹生川村大字丹生川上字中街道にあり鴨別雷命

玉依毘賣命伊邪那岐命八幡大神を

合祀せり域内廣く樟杉翁鬱を作す

大祭は毎年九月二十日にして大松

明を點し優劣を競ひて奇觀を呈す

●篠立の風穴 三國ヶ嶽の東麓

員辨川の水源に位し員辨郡立田村

大字篠立に在り一大洞窟俗に風穴

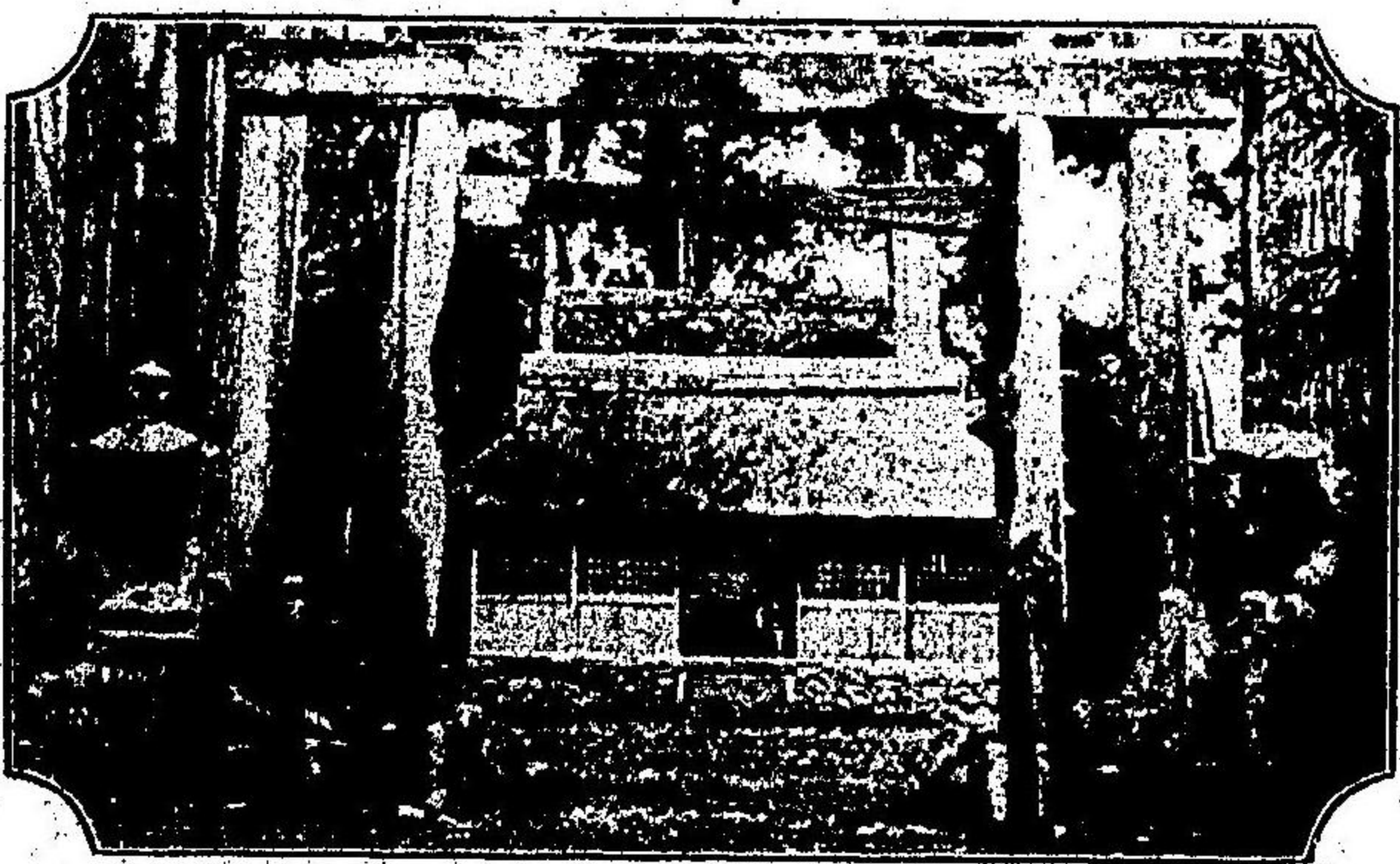
と稱し窈然として窮極する所を知

らす洞中高三丈に餘る處あり屈回

曲折左右上下に岐れ所々に鐘乳石あり入て之を探るに(其一)抜穴は

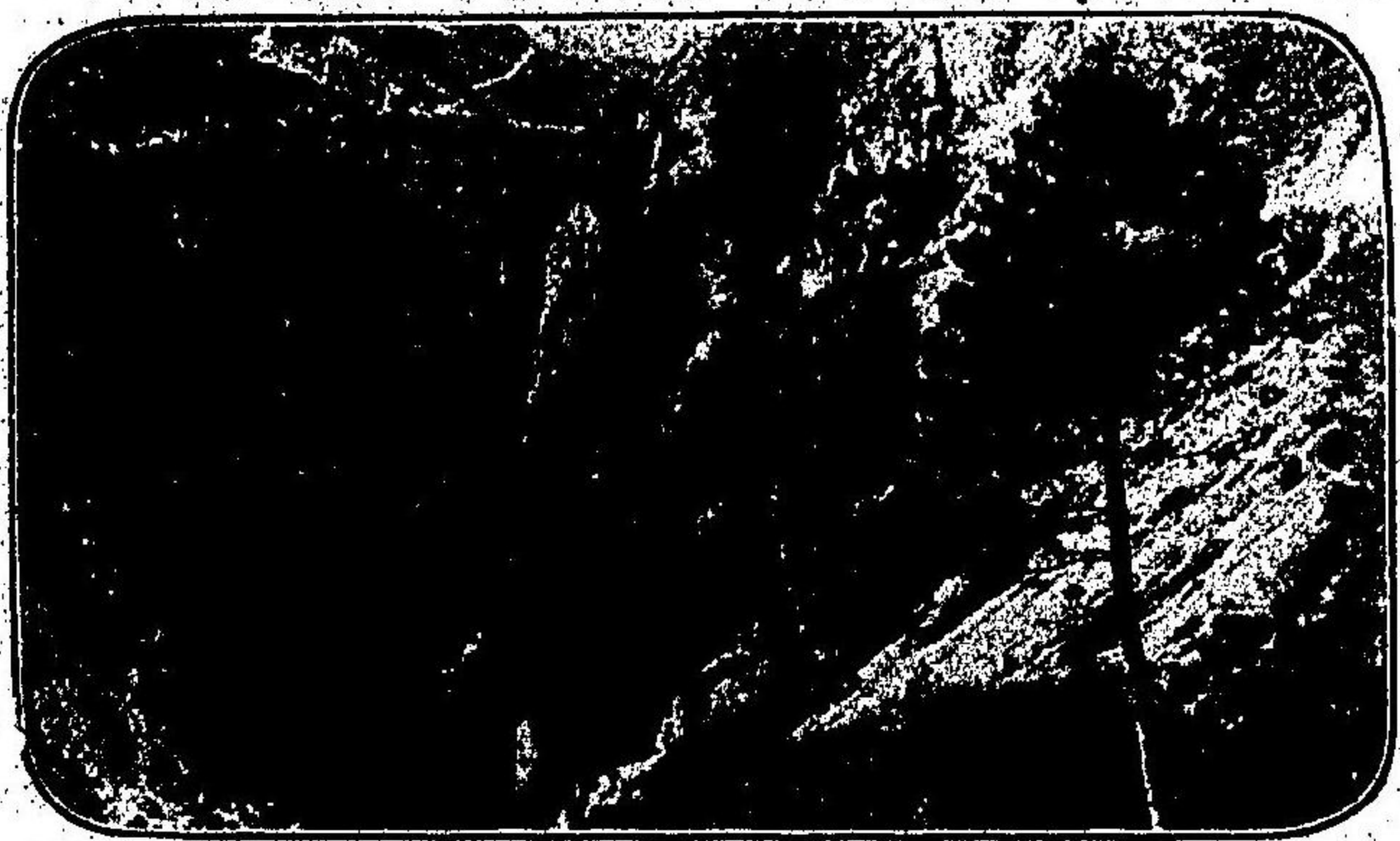
日光の通するに因て此名あり(其二)白龍ヶ瀧は凄然として幽致あり

鴨 神 社



員辨郡

篠 立 風 穴



(其二)香爐穴は二層の室を成し修行者の居りし所と稱す(其四)神泉は清澄掬すへく四時涸渴することなし(其五)神門は石柱左右に立ち里俗傳ふ古は童子之を守り戒めて曰く「門に入る者は視る勿れ聽く勿れ言ふ勿れ」と寛永十三年松平定綱其の臣三輪某酒井某をして洞中を檢せしめたれとも終に底止する所を得ず或は云ふ伊勢津彦命の棲む所なりと悠遠にして固より致ふへからず

白幣

八風を起したまひし昔より今に御稜威の通ふ穴かも

阿山郡

◎上野町(戸數三、二一〇人口一四、七九九) 伊

賀國第一の都邑にして本縣六市街の一に居り伊賀伊勢三十五萬石を領せし藩主藤堂氏の本府たりし所なり伊賀米、傘、伊賀木綿等の名産あり大和の月瀬梅林に至るには上野驛より下車し人車(往復壹圓以内)を僦ふを便とす齋藤拙堂の月瀬記勝能く仙界の趣を描き盡せり

◎鍵屋の辻 上野市街の西端にある辻を云ふ寛永の勇士荒木又右衛門か妻の弟渡邊數馬を助けて仇敵河合又五郎か其の黨與と共に西國に落ちむとするを要し奮闘して讐を報じたる處にして所謂伊賀越仇討の遺跡なり

阿山郡



鍵屋の辻

上野公園



●上野公園 上野舊城趾にあり園内古松老杉の間に櫻楓を點綴し一陣の下に伊賀の全土を望むへし文祿年間筒井定次の築造に係り慶長以後藤堂氏の本城たりし遺跡なり

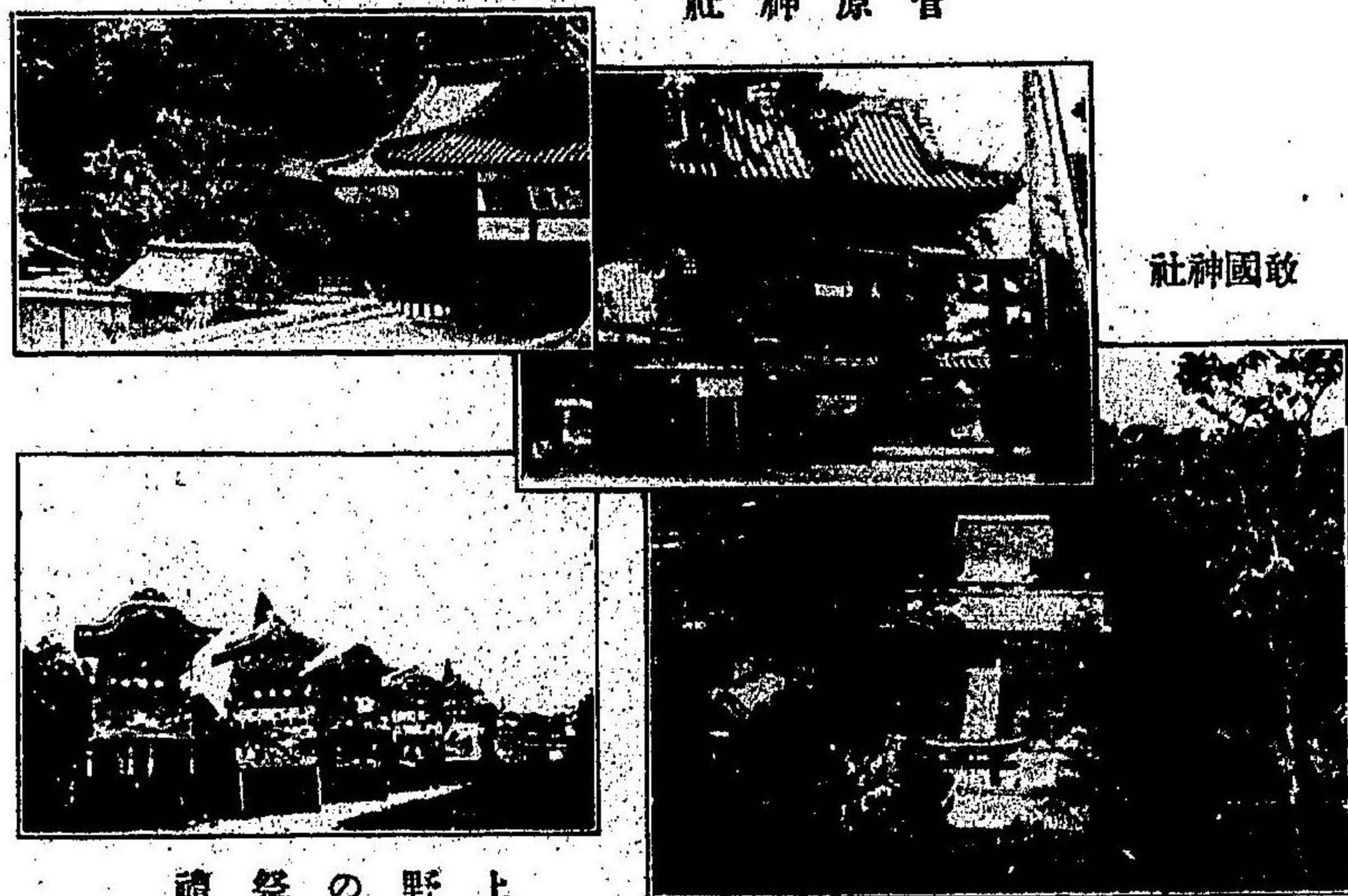
●敢國神社(佐那具驛より十五町許上野町より一里) 阿山郡府中村大字一の宮に鎮座せる國幣中社にして延喜式内の大社伊賀國の一の宮たり祭神は大彥命、少彥名命、金山毘賣命の三柱を合祀す城内森嚴にして社殿は慶長年間國主藤堂高虎の再造に係り建築宏壯を極む毎年十二月五日の例祭を行ひ神樂競馬等の催あり

●縣社菅原神社 上野町の中央東町にあり菅相丞を祀る寛文九年藤堂高次社領の寄進あり爾來其の例を襲く明治十三年郷社を改めて縣社に列せらる毎年十月二十五日の大祭には京都祇園祭に摸せる美麗の山車を曳

菅原神社

菅原神社

敬國神社

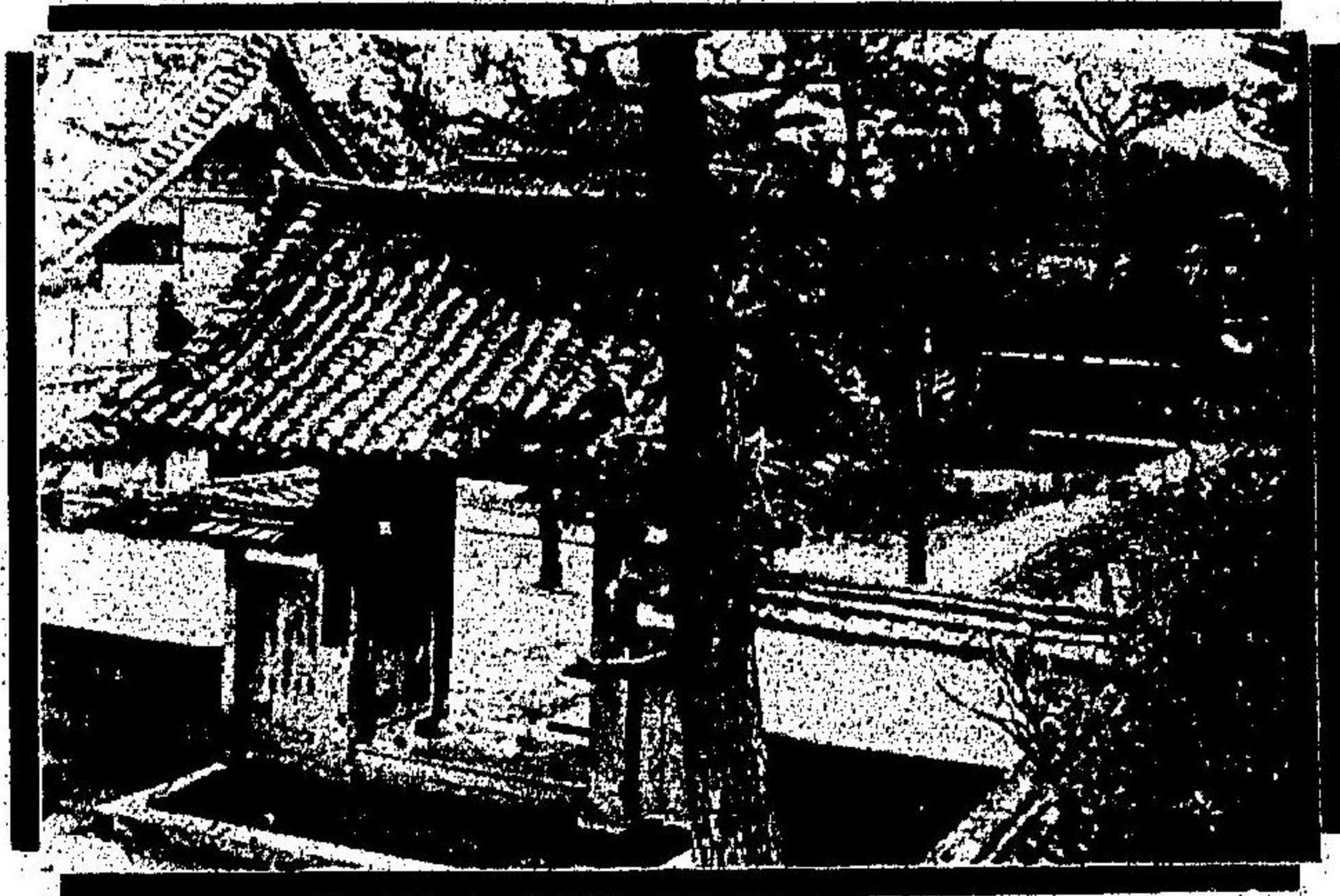


阿山

上野の祭禮

出し甚だ盛況を極む
●山溪寺及敬叟和尚
年藤堂高虎の創建する所にして寺祿三十六俵十八扶持を附せらる敬叟禪師は當寺の第十世にして天嶺和尙の徒となり深く禪道を究めて之を嗣く禪師の知人絢屋忠兵衛新田苛重の貢賦を憤り村民に代りて藩主へ直訴す

山溪禪寺は上野町にあり元和元



山溪寺

る所あり禪師其の罪に坐せられて久米河原に於て死に處せらる實に寛政四年十二月二十一日なり當時
 徒弟等相謀り身を以て師に代らむことを請へとも許されず禪師從容自若として曰
 く天命は避くへからず國法は枉くへからず唯將來佛門に盡す所あれと願て衆
 に告ぐるらく我今刑刃に斃ると雖も我靈は不滅なり諸人頭上の病を救はむ
 と今に至りて庶民の信仰淺からず香烟絶ることなし

芭蕉塚



芭蕉翁像

民草に露の命は消ゆるとも恵むころは萬代のする

世 辭

●芭蕉翁故郷塚 農人町眞言宗愛染院にあり俳聖芭蕉
 庵桃青又風蘿羽扇釣月羊角と號し名は宗房通稱忠左
 衛門伊賀國柘植村に生れ上野城代藤堂良忠に仕へ
 しか二十三歳にして退身せり翁幼にして穎悟長じ
 て老莊禪を修め俳諧を北村季吟に學ひ正風派を起
 し足跡全國に遍じ又江戸に住み五十一歳浪華に於て歿
 せり門人遺髮を奉じて此に埋む碑面「芭蕉桃青法師墓」の文

字は其の門人嵐雪の筆なり翁又經世の材を懷き江都水道は後世長く其の澤を享く一介の墨客を以て翁
 を評するは恐らく翁を知らざる者なり

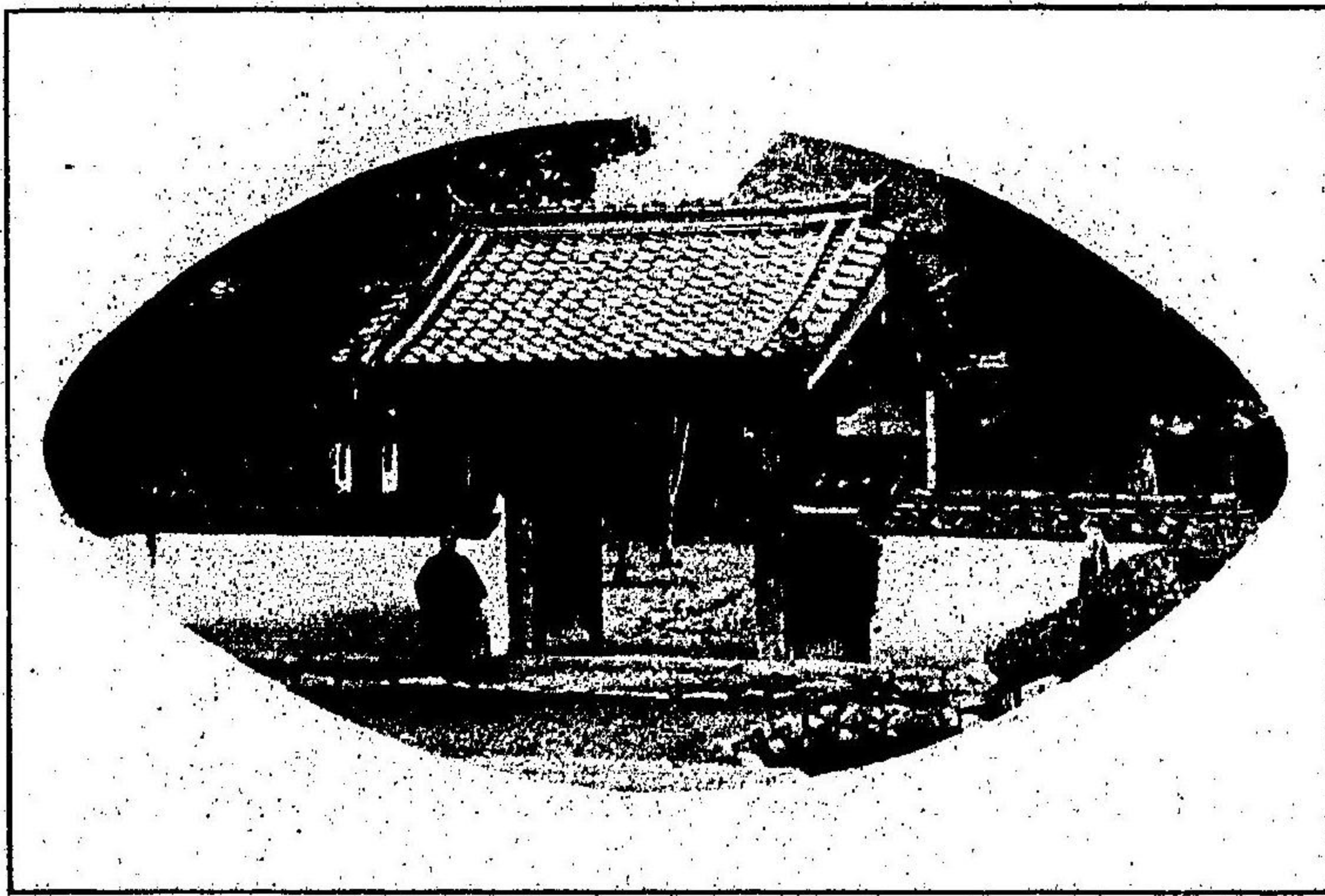
●芭蕉翁誕生地紀念碑 柘植停車場より十町許阿山郡東
 柘植村大字上柘植梅櫻檜杉參差鬱蒼の間に在り閑雅幽達人
 をして泉下の俳聖に親炙するの感あらしむ碑面

古さとや臍の緒になくここの暮 はせを

は老鼠堂永機の筆なり

紀念碑を距る西二町萬壽寺は松尾家累世の菩提所にして有
 志胥謀りて芭蕉文庫を設くるの計畫あり

●阿山郡圖書館(上野町にあり) 明治三十七八年戰役に
 際し教育上好個の紀念を貽さむか爲同郡私立教育會に於て
 附屬圖書館を設立し和漢洋の書籍を蒐めて三十八年一月八
 日開館せり三十九年四月一日郡會の決議を経て郡立圖書館
 と更む蒐集の書冊一萬四千十五冊にして舊藩藏書を引繼ぎ



芭蕉翁誕生地

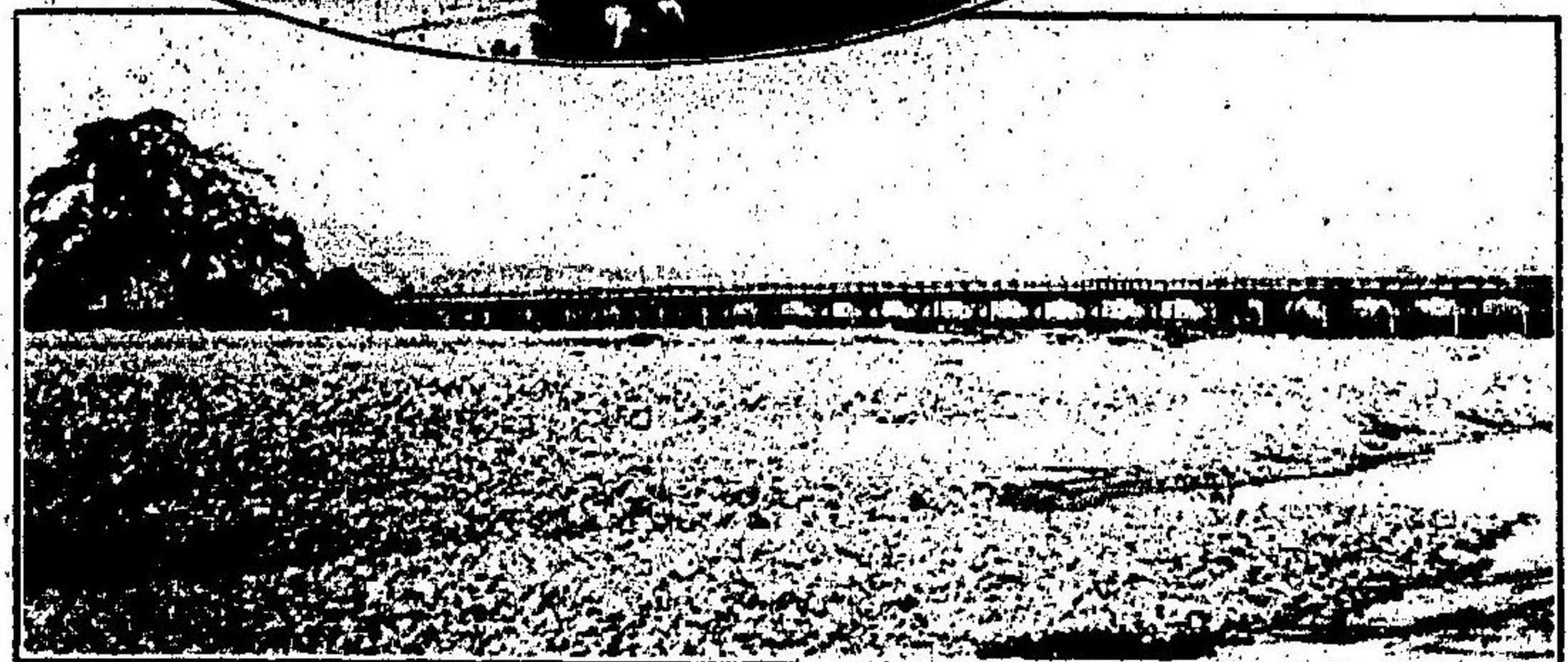
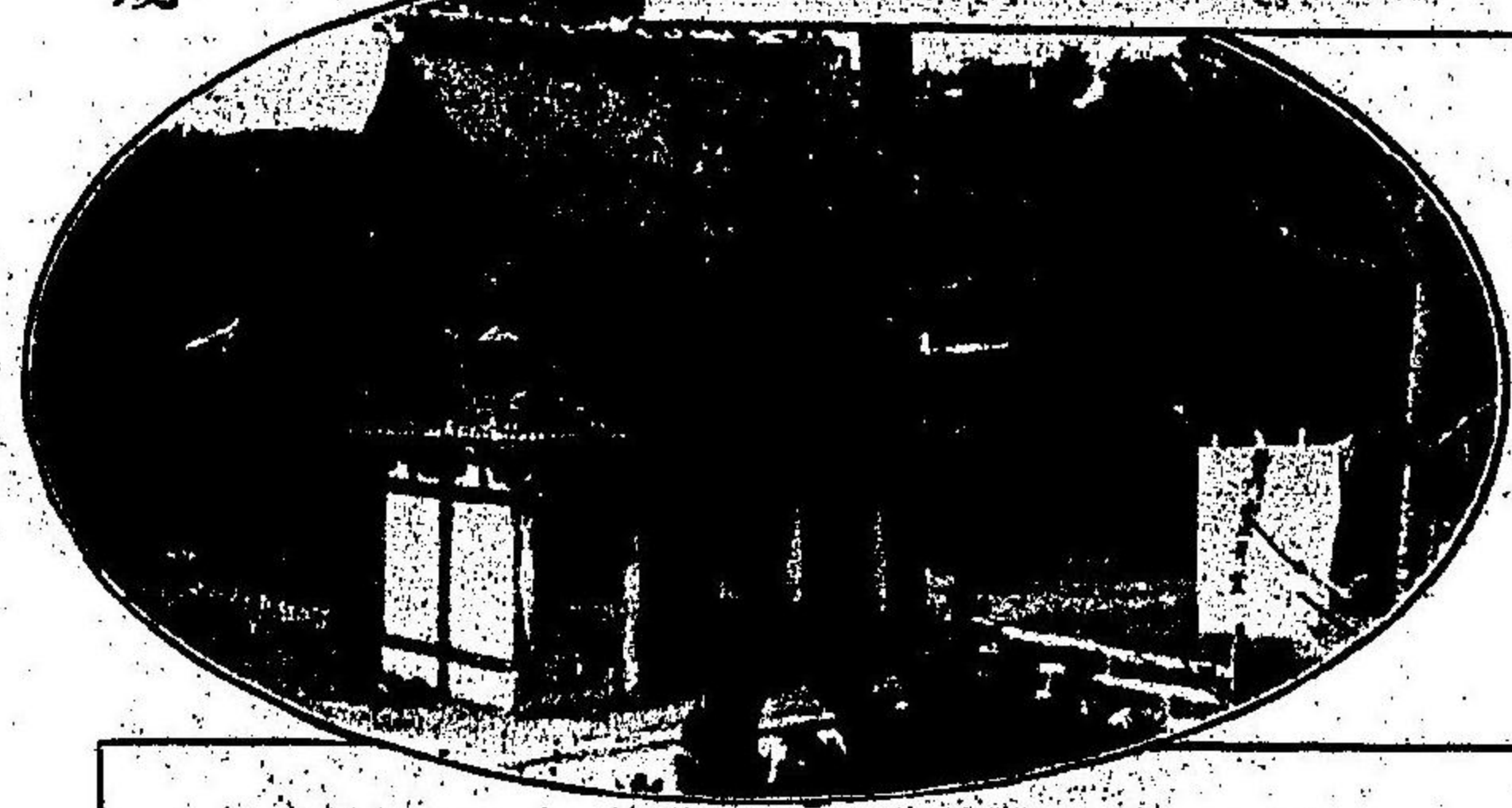
其の他概ね地方有志者の寄贈に頼る館は丸の内尋常小學校に連り舊藩校の建物にして講堂校舍庭園其の他當時の趣を存せり

◎服部橋 上野町の北五町服部川に架す縣道南堤の老松三株各其の形に依り菅公の三僕に因みて

梅松櫻と呼ぶ今は其の一株を失ひたるも天籟颯々として風趣愛すへし橋南に丸萬亭あり川魚料理を命じて涼を納れ月を賞すれば歡興更に深かるへく殊に七夕の星祭に集ふ老若盃蘭盆會の燈籠流に集る男女は清流幾萬の螢火と共に夥し



圖書館
正月堂
服部橋



◎正月堂(島ヶ原驛より十八町)

觀音提寺と稱し奈良二月堂の別院にして聖武天皇勅願實忠和尚の創立なり正堂及山門は一千餘年の古建築にて樓門の二王は春日佛師の作として考古の資料と稱せらる

◎高倉神社(上野驛より十町許新居村にあり) 祭神は高倉下命

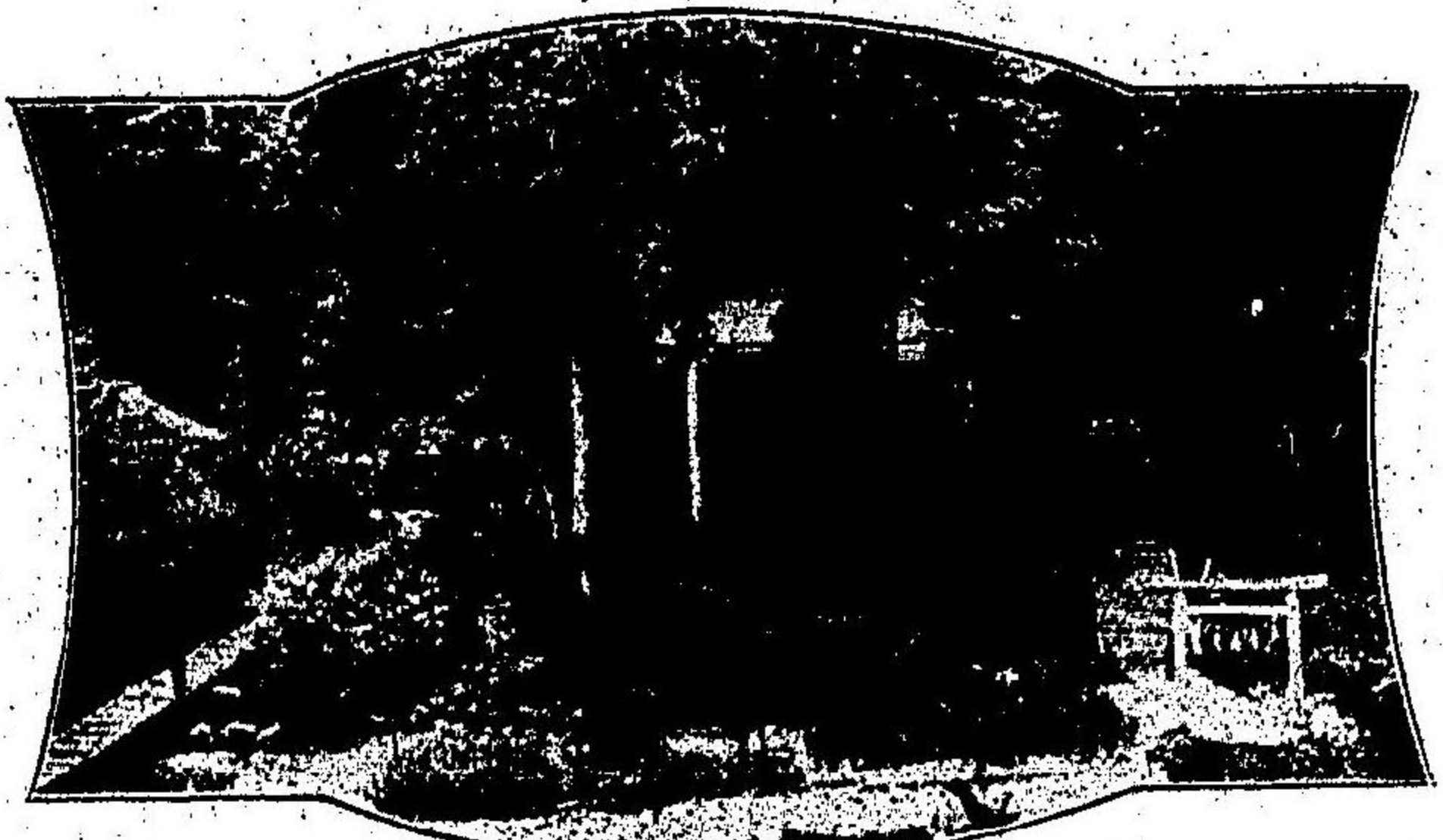
(手栗彦命、天香語山命とも稱す)を祀る往古神武天皇東征河内國を経て大和國を平け玉ふ時皇軍利あらさりしも會ま祭神の靈夢に依り天劍を得玉ひじより皇師再び振ふて遂に戡定の功を收められたりと傳へられ神德赫々として久邇宮朝彦親王殿下同邦彦王殿下の崇敬淺からず社殿は天正二年の建立にして伊賀國守護職仁木長政之を造營せりといふ

◎西蓮寺 長田村にあり延暦年間傳教大師の創造にて觀音寺と稱

せしか中興の祖眞盛上人錫を此地に止めて天台宗眞盛派西蓮寺と改め諸伽藍を再建し實に本派の中本山なり後土御門後柏原天皇の歸依深く上人に依りて授戒せられたりと云ふ寛文年間國主藤堂氏より寺

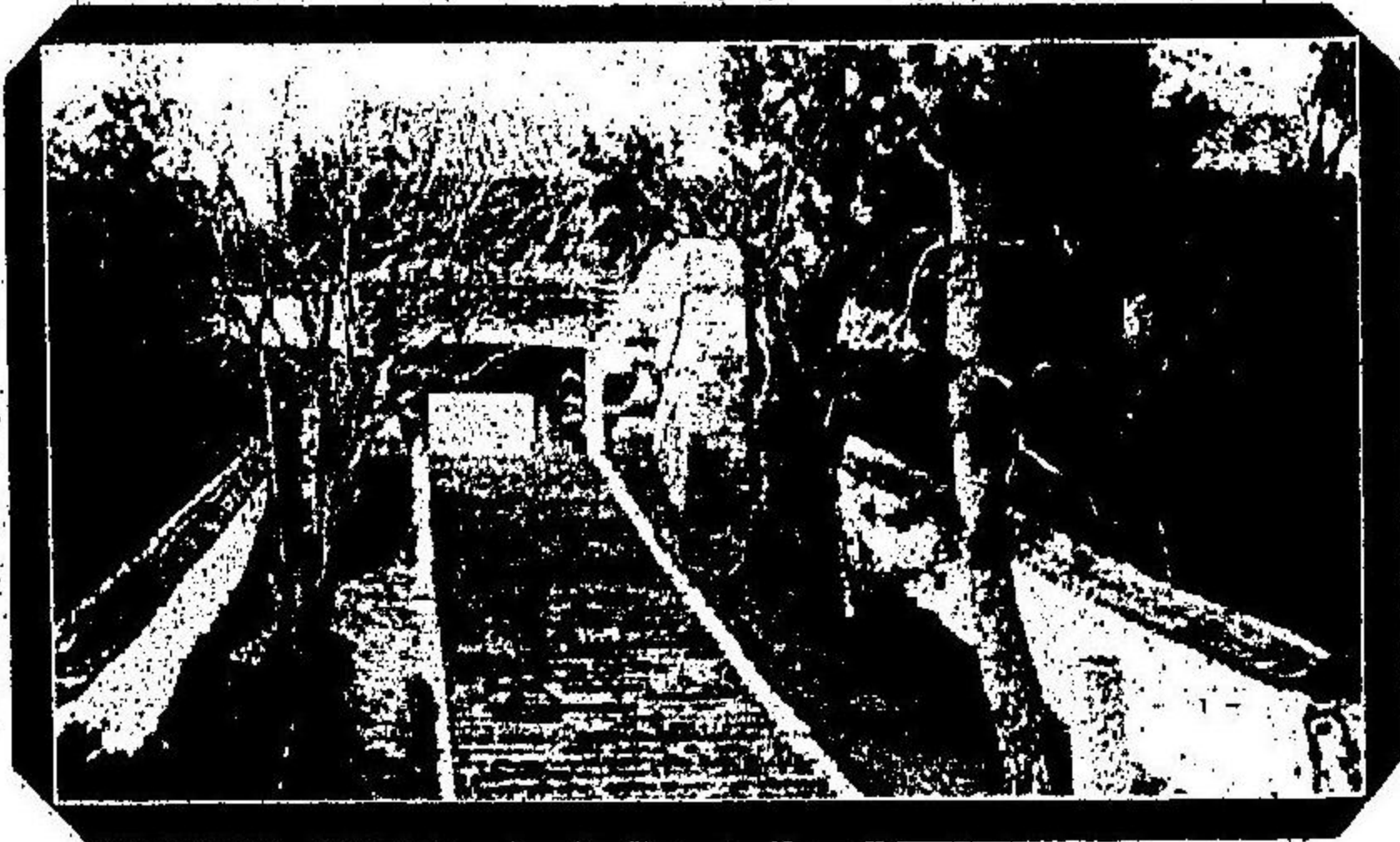
領四石五斗を與へられ代々其の例を襲ふ上人は後に圓戒國師慈攝大師の諡號を給はりし高德にして境

高倉神社



阿山郡

西蓮寺



内亦觀るに足るものあり

●新大佛寺 阿波村にあり山號を五寶山と稱し眞言宗に屬す後鳥羽法皇の勅願所にして源賴朝の寄進に依り建久八年俊乘房重源上人の開基なり本尊盧遮那佛安阿彌の作丈六の座像脇立十一面觀世音傳教大師の作五尺の立像等を安置す大佛堂の裏に巖窟不動明王の像を安置す弘法大師の作と傳へらる大佛殿及堂塔十二坊舎は天正の兵燹に罹り現在の堂宇は享保年間の再建に



新大佛寺全景

係ると云ふ大佛山の中央に龍王ヶ嶽一名雨乞ヶ嶽あり頂上に八大龍王を祀る早天に際し嶽に登りて雨を乞はす必ず雲霓の効驗ありと傳ふ

丈六に陽炎高し石の上

桃 青

●巖倉峽(上野驛より西二十町許) 長田、服部、柘植の三川合流の處を峽の入口とし其の流域約二

哩の間風景絶佳なり南涯櫻樹多く奇岩相連りて危崖水を壓す忽ち湍と爲り忽ち湍と爲り或は渦し或は鳴り其の奇趣名狀すへからざるものあり就中豹岩、獅子岩、太鼓岩、千疊敷、屏風岩等は神斧鬼鑿の

妙を極め關西線中稀有の勝區なり

●巖倉發電所 新居村大字西山字巖倉にあり

本社は上野町大字福居町にして三十八年十一月の創立資本金七萬五千圓(拂込濟)利用水路の延長千二百八十間發電機百「キロ」三相六人流式にして電線延長二萬五千二百六十九間二尺二千九十二箇(換算)の電燈取付數を有し電動機四基を取付居れり社長田中善助社務に執掌せり

●伊賀燒 上野町の附近丸柱、河合、玉瀧の

三村より産する陶器にて丸柱燒とも稱し古代伊賀燒を繼げるものにして花瓶、茶器其の他日用

食品を製し一種古雅の風趣を存す今或人の陶史に載する所左の如し

阿山郡

二二三

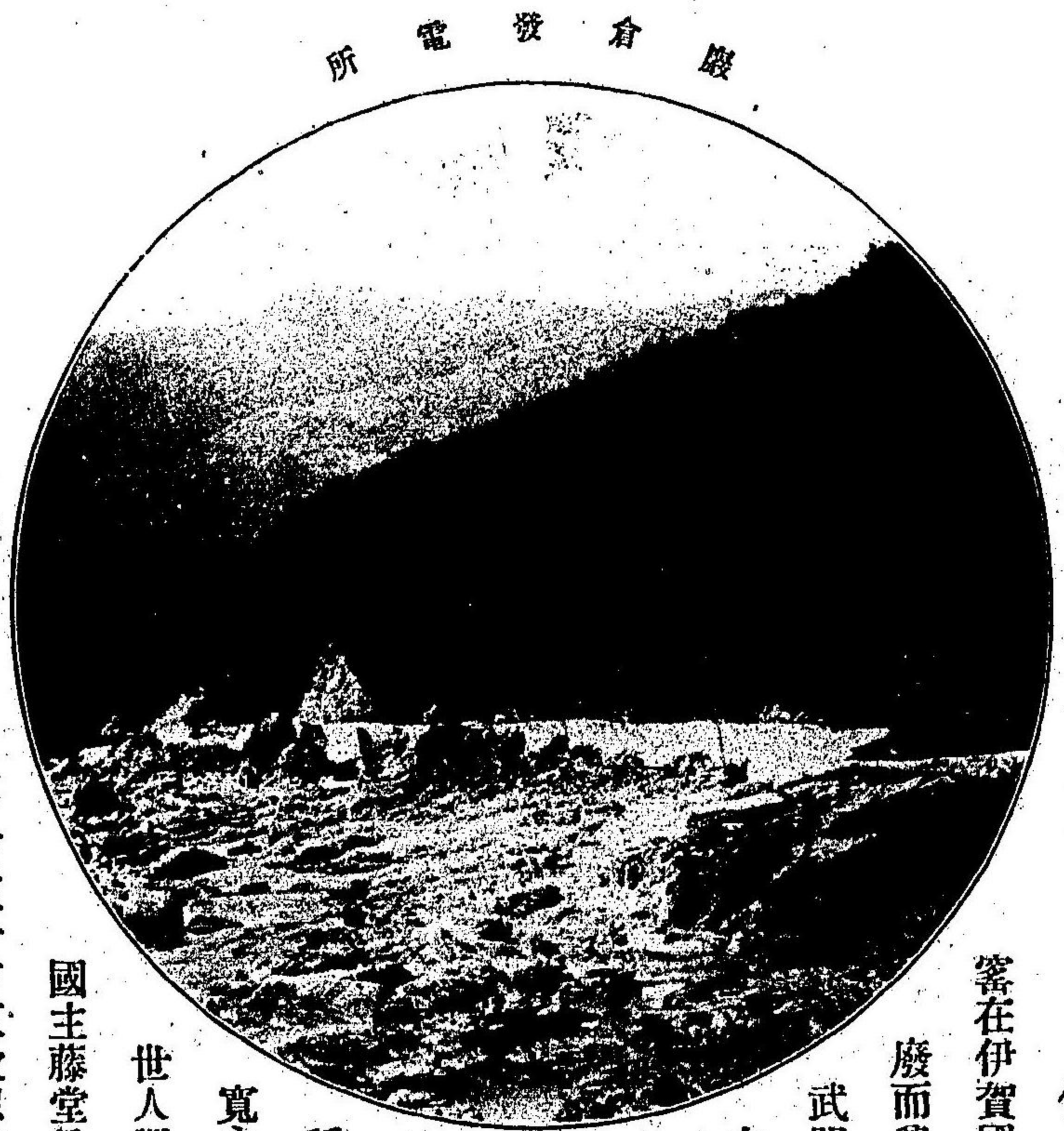
巖倉不動明王



巖倉峽太鼓岩



伊賀 窯



窯在伊賀國阿山郡丸柱村或云剝自天平寶字間。後廢而興者三矣。至享祿際漸盛也。或云肪于建武間。未得確據也。姑記數家所記。以待博古之士也。寬永以前所製大率日用器皿也。香櫃壺之類。世人謂之古伊賀燒。以地近江信樂其陶式與信樂窯器大略相同。故世稱二窯一色者難鑒定也。第不同者伊賀窯器其質較細而堅。故差重矣又有一種黃釉信樂所無。與信樂濁黃釉迥殊矣。寬永間小堀政一教工人製茶器。其制始精矣。世人謂之遠州伊賀燒。政一任遠江守故曰遠州。寬永十二年。國主藤堂侯招京都陶工孫兵衛。及傳藏燒造注子一百二十有三枚以收藏焉。世人謂之御藏燒藤公自是數令工

所電發倉殿

人燒造茶器世人謂之藤堂伊賀燒。時有良工新次郎者其所製器。或有酷肖于萩窯高麗左衛門所造器者。謂之伊賀萩。新次郎歿後陶業漸衰。濫疎無準。僅存遺韻。以造日用雜器為主。至輓近亦漸盛也。伊賀原土出于丸柱村白土山。或云郡之石川村山土也相傳其土性柔色白。瑩然有光矣。今不詳其土之所在也。

伊賀窯器肌色不過白赭二種也。釉色則以淡綠黃為特色。竝以醇雅見稱。常多所用之釉即是黑白及淡紅淡黑各色亦間用之。其過銹法則或有全體一色者半體分色者止色于內面者成波爛狀者成雲煙狀者成繩束狀者。不可盡記。或有釉色變而成焦黑可愛之色者世人珍重之傳云窯天有太過不及之差。別偶然呈奇色。工人不期然而火候使然也。

伊賀窯多取南蠻呂宋窯式仿之幾於亂真也。世人稱伊賀陶鍊土器者。蓋多呂宋窯器也何以言之土細釉潤。碎紋亦較疎於伊賀窯器。而其品格在伊賀窯器之上也試以指頭彈之其音鏘然而清矣。伊賀窯器有印一封者其狀宛然履齒痕也。相傳當初印小童之履齒謂之下驛印。下驛謂連齒履世人愛之新次郎惟以竹刀刻草體新字於底面



場工細藤繪

●**檜籐細工**(上野町より四里) 玉瀧村農會の創業にして三十七八年戰役に際し軍人遺族救護會との共同事業とし平和克復の後再び村農會の經營に移せしものなるか其の材料は檜の削片を用ゐて織物を製し之を敷物とし若は各種の日用品翫弄品を作りて海外輸出に供するにあり工場監督の任に當れるは癡兵元歩兵軍曹周吉氏なり其の業や容易に傳習せしむることを得て老幼之に従ふべく而も輸出品として販路洋々の觀あるは眞に農家の好副業と謂ふべし

●**縣立第三中學校**(伊賀上野町にあり) 本校は明治三十二年四月の創立にして上野驛を距る二十町上野舊城趾の内にあり生徒五百名

名張市街新町橋景



名賀郡

名賀郡

●**名張町**(戸數一、一五三人口五、四一七) 伊賀國名賀郡の都邑にして上野町より南五里大和より兩宮に參拜するの要路に當り藤堂氏の舊支府にして葛、榧油及び菌蕈類を産



赤目瀧其

二二七

す市街の南端名張川に架するを新町橋と稱し水明山紫一陣の涼風衣袂を拂ふ

●赤目四十八瀧(名張町より二里許)

瀧川村大字長坂の山中にあり山麓延壽院まで新道腕車を通す

へく院より溪間に沿ひ躋ること二町にして行者瀧に達す是より進めは鑿々飛瀑の名を馳する布引、不動、荷擔、琵琶、龍ヶ壺、靈蛇ヶ瀧、大日瀧等に至るへし就中布引瀧は直下百十尺倒に百練の糸を垂るゝか如く千尺の素簾寒うして卷かす一潭の碧玉碎て痕なしと咏みけるも斯くやありけむ不動瀧の豪壯は赤目中の巨人を以て目するに足り百仞の絶壁に奔放するの状當に都人士の神飛ひ魂馳すへき所なり傳へ云ふ役行者か此山を開きし時不動明王赤目の牛に騎して出てたるより名くと固より脱塵の仙郷にして曾に銷夏の勝地たるに止まらず春花秋風の探勝亦頗る妙なり嚮に名張町民相謀りて此勝區を撮影して東宮殿下に上り幽谷の仙寰始めて雲上に達するを得



赤目瀧其二

たりといふ

●香落澗(名張町より一里二十町)

箕曲村大字青蓮寺にあり青蓮寺川に沿ふて溯る事五十餘町の間

断崖所々に懸泉の清きあり杉影潭に蘸し松樹水に俯す石隙灌木雜卉を嵌し岩罅丹楓疎竹を挿み奔流激

發峻崑を避け亂石と闘ひ忽にして深碧と爲

り又忽にして奮注す其の状筆舌に盡し難し

●阿保御墓 阿保村にあり垂仁天皇の皇

子息速別命の御墓にして域内森嚴なり

●兼好塚 名張町の東三里阿保村を距る

五十町種生村國見山の麓山静に雲深き處に

あり此地は徒然草の著者卜部兼好法師か塵

世の名利を捨てゝより橘成忠に頼りて跡を

潜め静に道念を凝らし松風蘿月に殘生を樂

香落上瀧



みたる處にして墳墓は田井庄の林叢中にあり僧海道其の遺跡の壇滅を歎き石に勒せむと欲して果さず里民其の志を繼ぎ竟に一大碑を建てりと云ふ

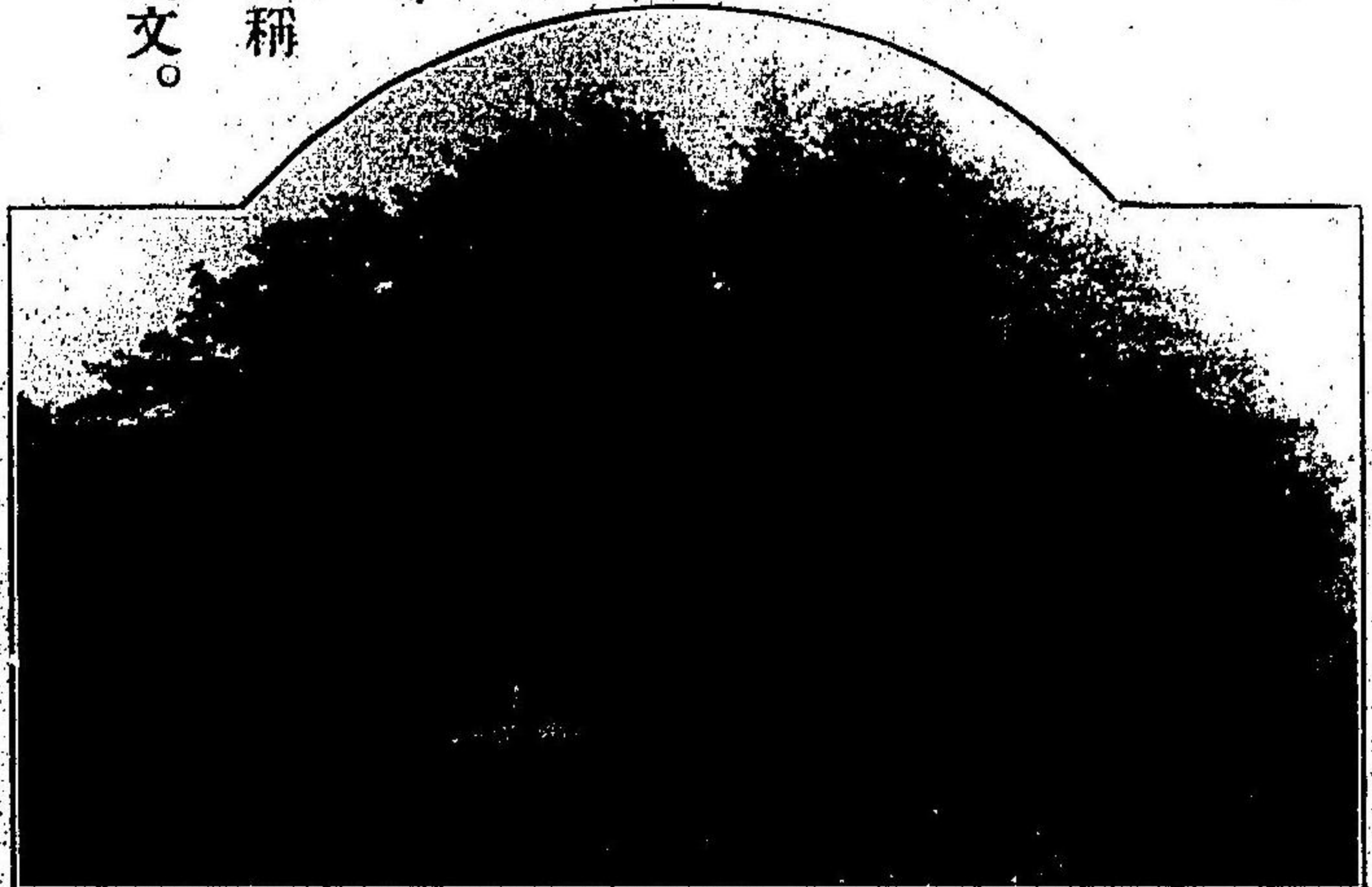
土方子爵の篆額川田博士の撰文あり其の銘に曰く

香落の二道行 布



壇。彼哉彼哉。難與爲群。飄然去都。手掃緇塵。種生之水。
國見之山。風月寄與。漁樵結隣。自師之遊。物換星遷。世稱
其藝。我愛其人。佛乎非佛。仙乎非仙。謂我不信。祝諸遺文。

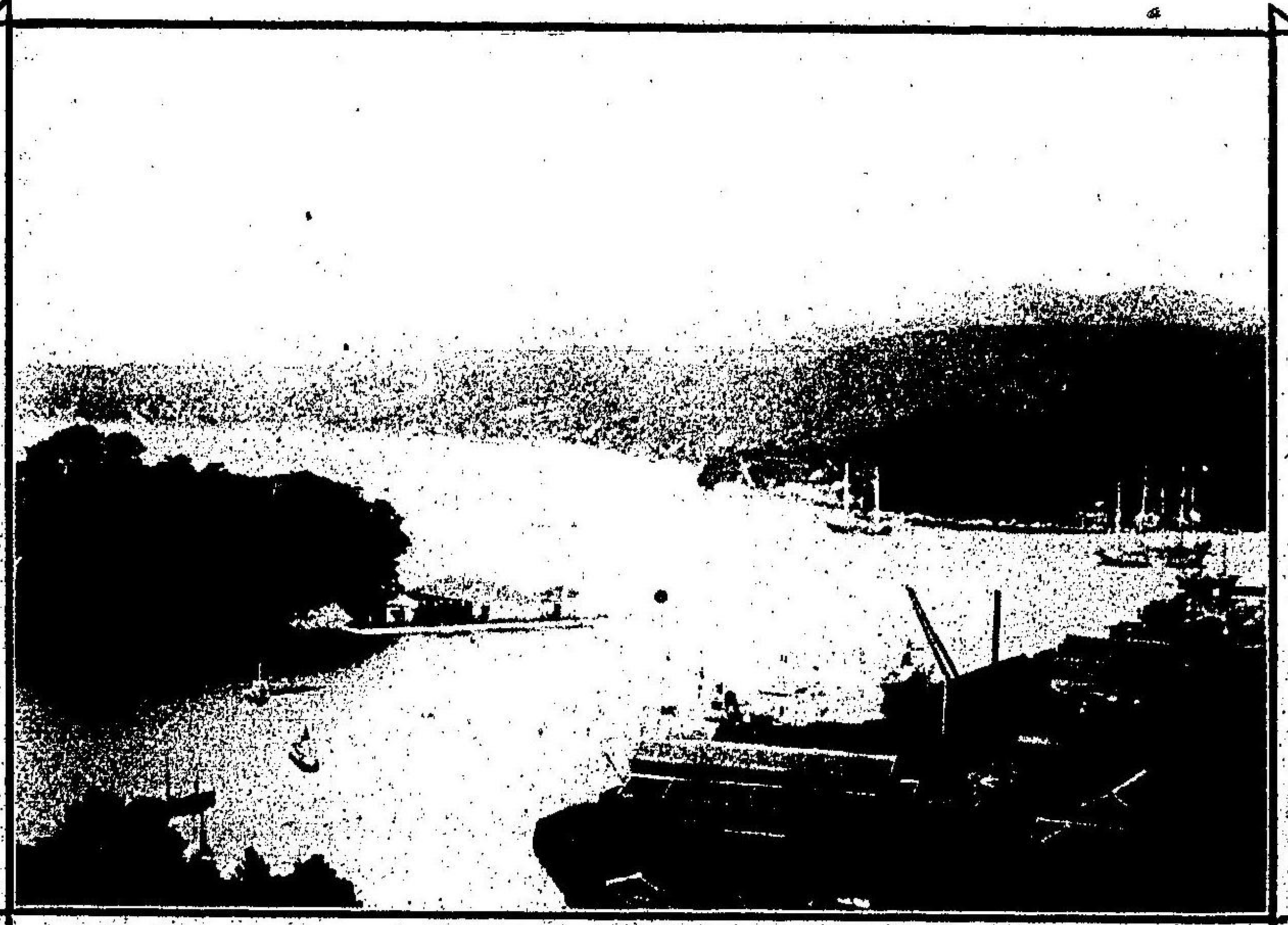
夢想妙詰。託足權門。頓阿慶運。爭雄詞



阿保御墓 息速別命御墓

志摩郡

●鳥羽港 往時未だ汽船の便を知らざるに方りて
は遠州洋七十五里の航程に上に先ち必ず本港に船
して天候の定まるを待ち又遠州洋を航し得たる者は
此港に入りて安着を賀せしと云ふ古來港名の世に知
られたるもの之か爲なり灣内水深く浪靜かに最も船
舶の碇泊に適す南は渺茫たる太平洋水天相接して一
髮の青を認めず東に遠州洋西に紀州洋淼漫として涯
際なし地海陔に僻在するも船舶の出入常に頻繁にし
て商業特に殷なり市街は山を西北に負ひ暖潮を東南
に抱え冬暖夏涼常に人に可なり舊城趾は近く海水に
枕み坂手島咫尺の間に在り桃取管島の諸島また目睫
の間に迫る稍々離れて神島を望み左方の青嶽を知多



鳥羽港

半島とす海城の朝暉、小島の晩照、笠山の春景、飽石の秋月、鵬濱の征帆、津口の容船、佛島の群鷗、坂手の炊煙、鍋島の暮雪は古來鳥羽の九勝として其の聲名播磨八景と伯仲の間に在り日和山に登りて茶亭に憩ふ雅興筆舌に盡し難し外國遊客の宇治山田市に來る者必ず腕車を鳥羽に驅り舸を僦ふて奇巖怪嶼を歴訪す是れ勝景の外國に聞ゆるなればなり明治十年 今上陛下鳳駕を駐めさせられし時其の一月二十六日天氣快晴

浦風も荒磯浦もけさなきて
かもめたちたつ鳥羽の海面
と御詠あらせられしそいと畏こし
宇治山田より四里餘東行二時間半二見浦より一里半一時間を費せば足る熱田、大阪、伊勢各港へ定期の便船あり

日和山



●日和山 鳥羽港の西北端なる丘陵にして蒼志、菅島、坂手等の諸島を始め伊勢灣口に散布せる大小の島嶼は眼下に伏侍し尾張の知多半島參河の伊良湖崎は淡粧秋波を送くるに似たり天霽れ雲散するときは富士、八ッ峰、駒ヶ嶽諸乎として煙霞の間に依約たり常に此

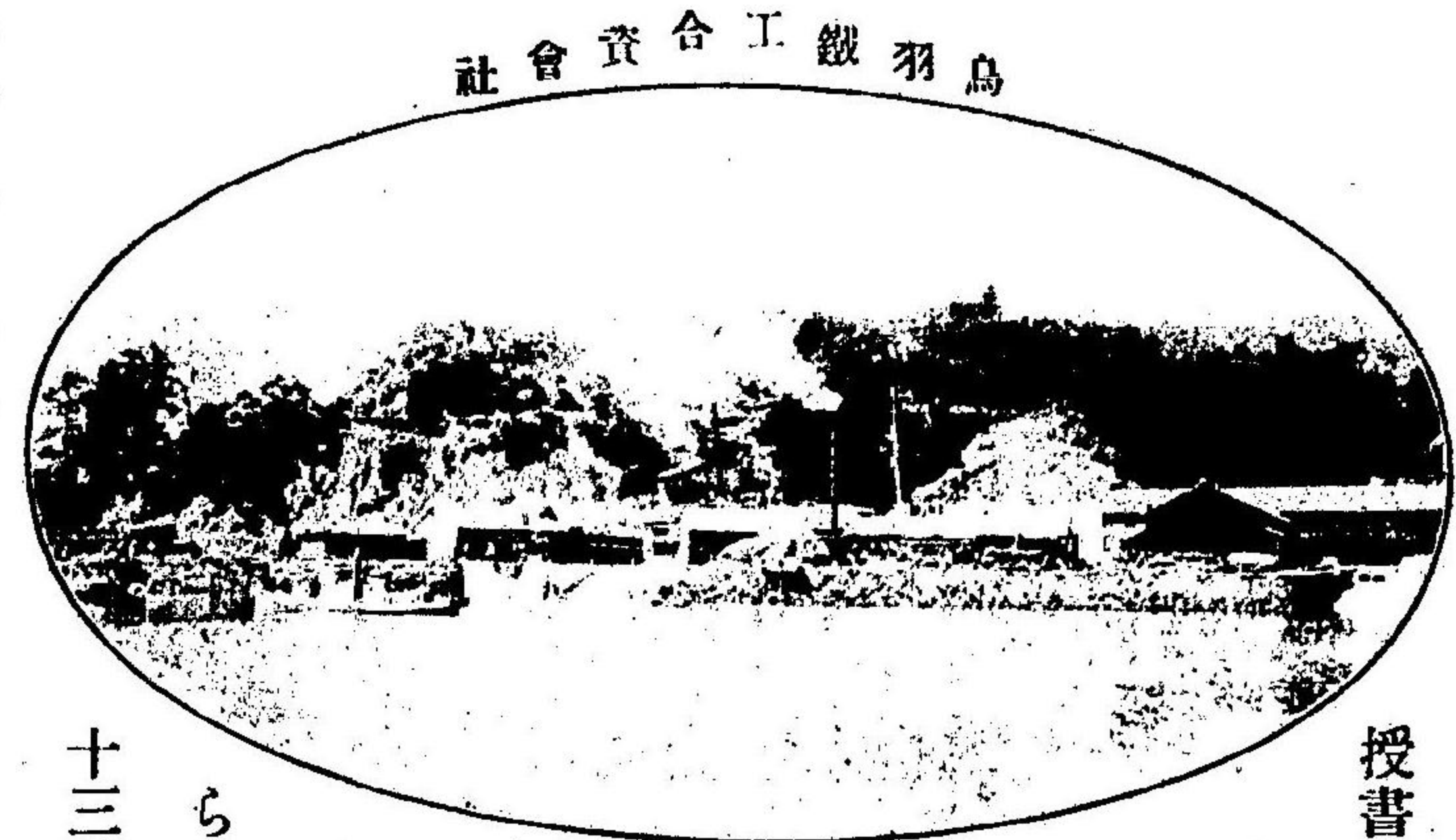
に登りて晴雨を卜するを以て日和山の稱ありと云ふ明治二十四年八月 皇太子殿下此山に登臨あらせらるる山靈心あらは無上の光榮に咽ひしなるへし

●海水浴場(錦浦館) 鳥羽町の西北端岩崎海岸の砂清く浪靜なる所に濱せり温浴冷浴の設備を完ふして内外縉紳の來遊に備ふ鳥羽一等の旅亭にして冬は暖にして夏涼し而て春漁秋釣亦一として可ならざるはなし鮮魚を割て淺酌し几に凭て風景を娛む我れ吾を忘るゝなり

●近藤眞琴翁碑 鳥羽港の海岸鳥羽城畔にあり翁諱は眞琴字徽音芳隣と號す通稱誠一郎志摩鳥羽藩士天保二年九月江戸鳥羽藩邸に生る夙に經書を脩め後蘭學を攻究すること多年幕府の軍艦操練所に航海術を學ひ尙蘭人「ヒラ」の航海書を譯し之を上梓す翁の名之より漸く著る爾來或は官に或は野に一に我海軍の爲めに盡瘁し文久三年東京に攻玉社を創立して子弟を教養す明治八年海員の養成及び航海の擴張を圖らむとして攻玉社本校の外に航海測量練習所を設く是れ鳥羽町立商船學校の前身なり我海軍、我航海業の今日あるは翁與て力ありと云ふ



近藤眞琴翁碑



少からすといふ

へし航海教授書、颶風論、勅諭衍義、英國海軍砲術全書、流潮論、便路航法、造船論、天文航海術教授書、彈道論等は其の遺著なり明治十九年九月特旨を以て正五位に進められ病を以て卒す享年五十五明治三十八年十一月十七日 陛下平和克復

神宮御奉告として 神宮御參拜の御祭祀料金貳拾圓を下賜せらる

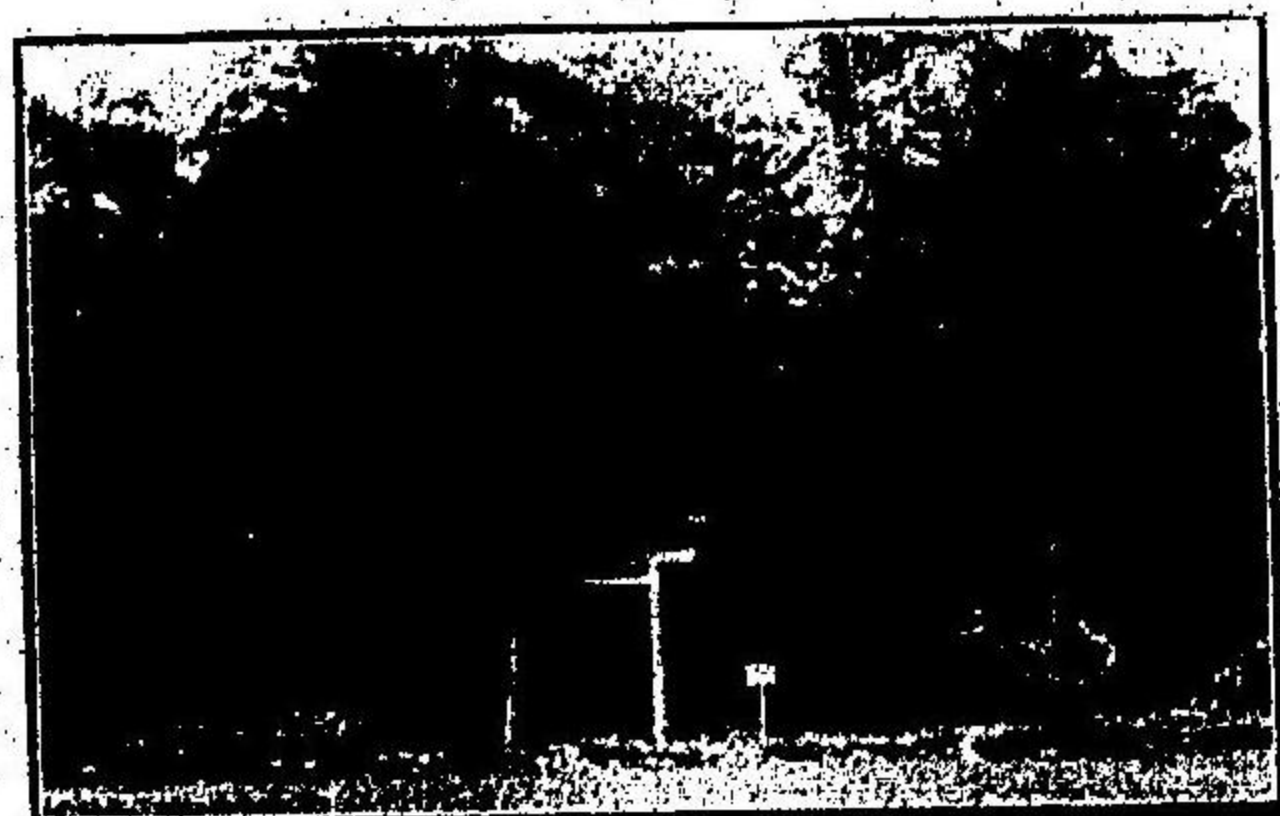
●鳥羽鐵工會社(志摩郡鳥羽町) 同會社は明治十一年舊鳥羽藩士相謀りて二の丸に於て造船業を創めたるに起原し同二十九年安田善次郎武井守正等資本金參拾萬圓を以て其の業を繼ぎ主として船舶及諸機械の製造修繕を業とし兼て航運及船舶貸與を營めり其の後工場並船渠を改造して總噸數二千噸の船舶を入渠せしむるの設備を爲せり創立以來製造の船舶は九百八十一噸修繕船十二萬五千噸に達せり特に我驅逐艦追風、夕風に要する船具を製造し惠風の修繕を命せられたる如き同會社の信用を卜し得へし所有汽船鳥羽丸は第五號より第十三號に至り五十鈴川丸と共に熱田、福江間の航運に當り建造中の船舶亦

●伊雜宮(磯部村大字上の郷)

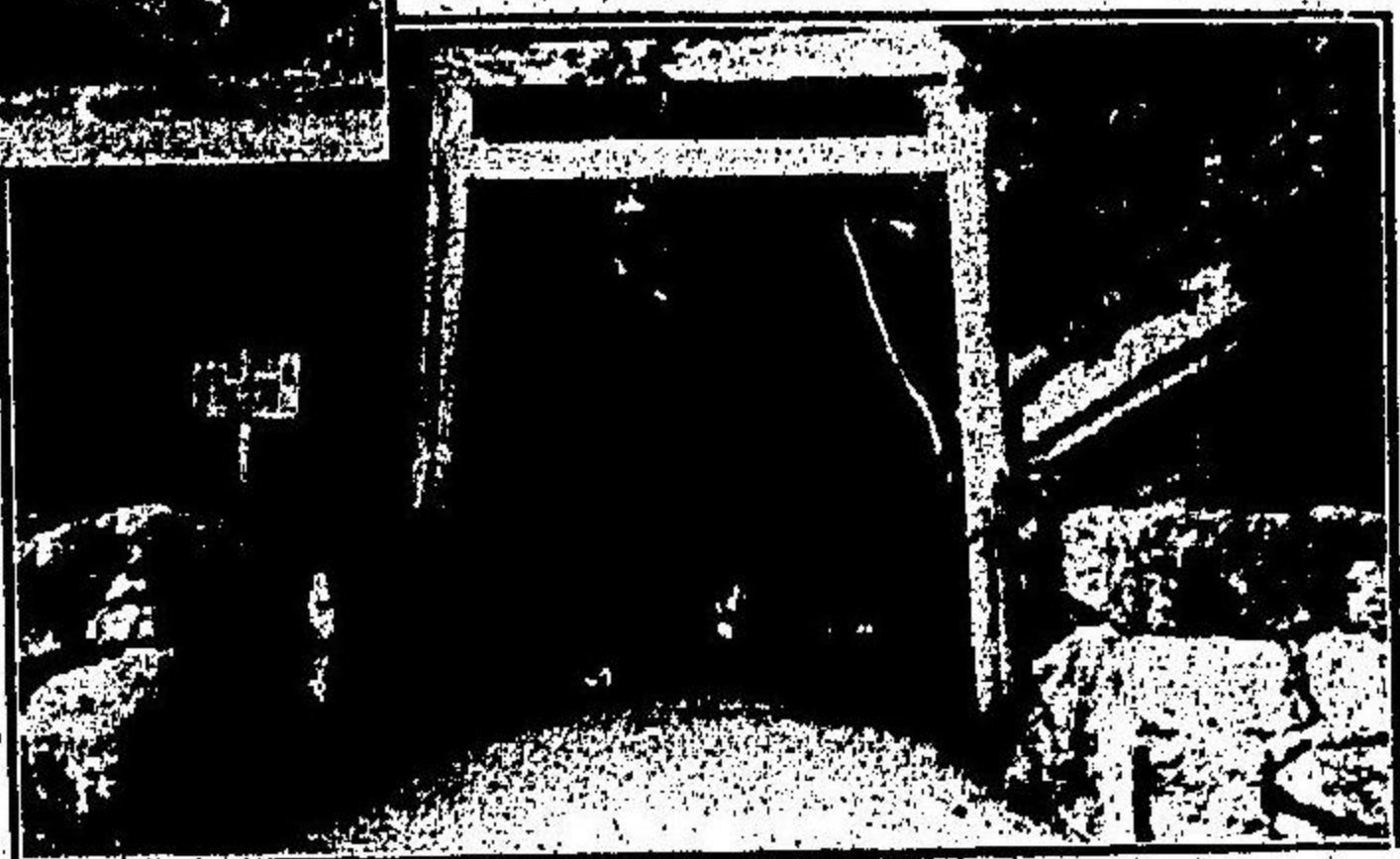
皇太神宮の別宮にして宮域一町餘附屬神苑あり老杉古檜鬱蒼として千古の靈地たるを思はしむ當宮の起因は遠く垂仁天皇二十六年倭姫命志摩國に成らせらるゝの時伊佐波登美命に命じ神宮を此に經營せしめ給ひ後玉柱屋姫命を祀れるものと傳ふ故に伊射波神社(即ち伊雜宮)には伊射波登美命及玉柱屋姫命の二座を祀る古來伊勢三宮と稱へ兩大神宮と共に國民の崇敬措かざる所なり

●御田植と千田の御池

千田の御池は鳥羽港より約四里宇治山田市より逢坂山を越えて約四里半磯部村大字上の郷にあり俚言傳へ云ふ垂仁天皇の御宇二十七年秋高馬肥の候とかよ一羽の白鶴瑞穂を乍持て 皇大神宮に奉獻せしかは奇しき事よと乃ち倭姫命をして此地に引水池と苗代とを作らせ給ひしは即ち是なりとそ水涸れ僅に數歩の凹所を存するに過ぎざるも何時の頃より始りけん伊雜宮の片邊りなる神宮司廳の附屬地を以て之に代へ年の六月二十四日御田植と稱へ其か式を

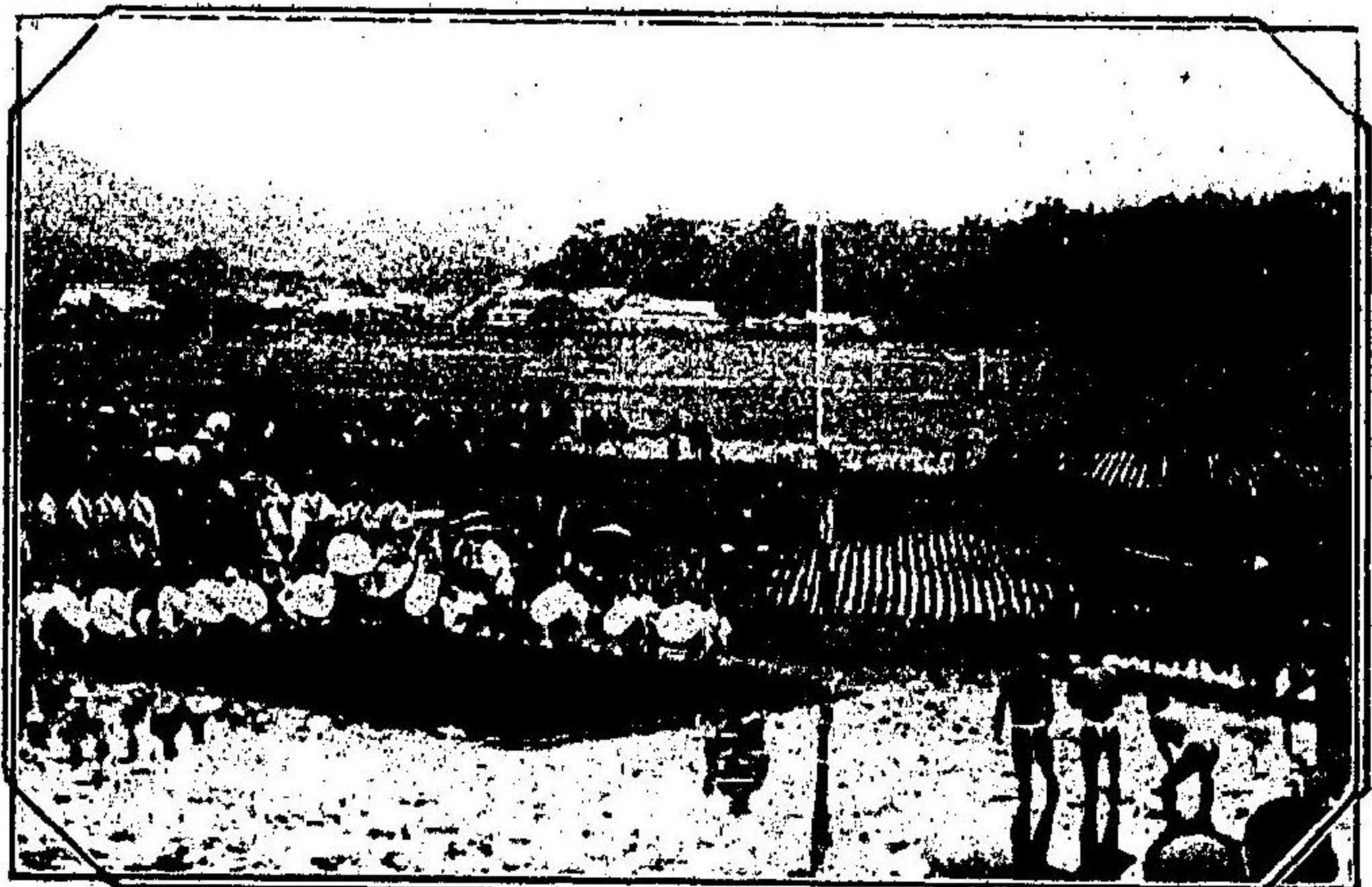


社神長美佐



宮雜伊

行ふ此の式には磯部村上の郷、中の郷、下の郷の三部落より年毎に交る／＼早乙女として妙齡の處女



一の植田御

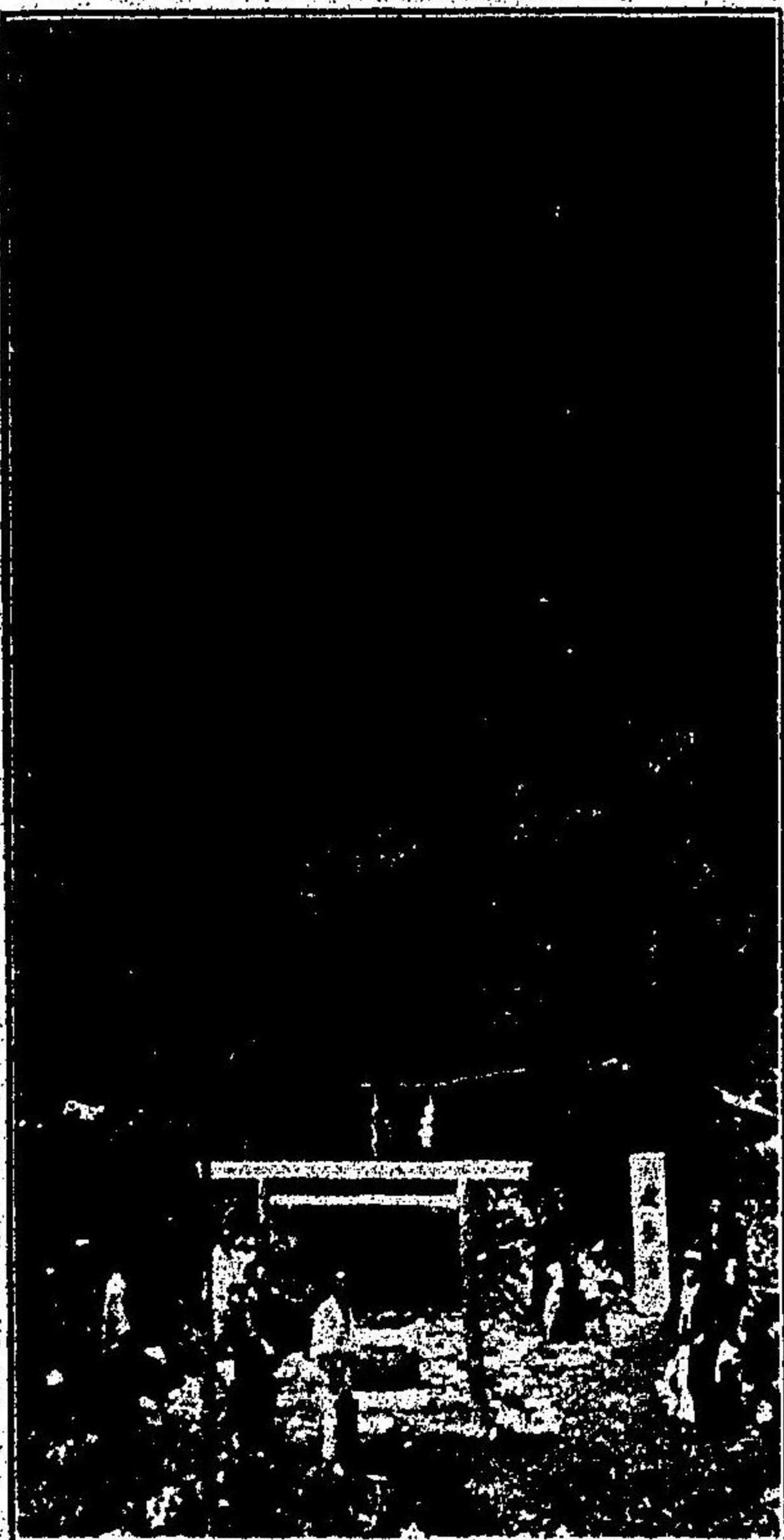
素袍等の形の鎌倉時代のものに酷似せるよりすれば或は同時代の創始ならむか由來する所中世以前た

八人を撰ひて苗を取らしめ且植ゑしむ先つ供田の畔に三丈餘の青竹を樹て修祓を行ひたる後竹取とて青竹を倒すや近郷幾百の漁夫群り集ひて且つ折り且つ奪ひ合ふ様最と滑稽を極むこは此の竹片を得たる者は其の年の漁獲最も多しこの里俗あるに因る尋て烏帽子素袍を着けたる謠士八人大小鼓各一人笛二人にて樂を奏す赤衣黒帶に一文笠着けたる早乙女の後方に隨ひ美装せる二人の少童は早乙女の前頭に「サ、ラ」にて棍棒を摩しつゝ樂に和して秧草を挿む挿秧の半はに至るや早取挿てふ一種の酒宴茲に開かれ若布にて酒酌み交はし早乙女は則ち酌手の任に當る於是前記二人の少童は謠と奏樂とに拍子とり／＼舞ふこと數次尋て再び挿秧に移ると前の如し此日遠近より集ひ來る者常に一萬を超ゆ式の起原は今之を詳かにするに由なしと雖其の烏帽子

るは想像するに難からず云々と某考古學者は語れり

◎佐美長神社 志摩國名社の一伊雜宮を距る西南約八町の山上大字惠利原の地に鎮座す祭神は大歲神伊雜宮の所攝たり社域二町三反

戸岩の天



餘老樹鬱蒼伊雜宮に次ての古き靈地なり

◎天の岩戸 磯部村大字惠利原逢坂山舊道の西約二丁の溪谷に一個の巨巖洞窟をなすあり臥石立岩四周に亂據し清流一條窟内より出

つ之を窺ふに暗黒灯して湖れば涼々たり澁々たり愈々進て愈々深し忽にして一大瀑布あり豪響雄觀耳



二の植田御

爲に聳し眼爲に眩す炎暑の時と雖凜冽久しく立つへからず故に又水穴と稱し又瀧祭の窩と云ふ相距る
數丁にして風穴あり水穴と洞石質にて口を北位に開く
洞中數坑あり狭きあり廣きあり洞の延長十町に及ぶ宇
治山田市より腕車を驅らは往復約五時間に過ぎす

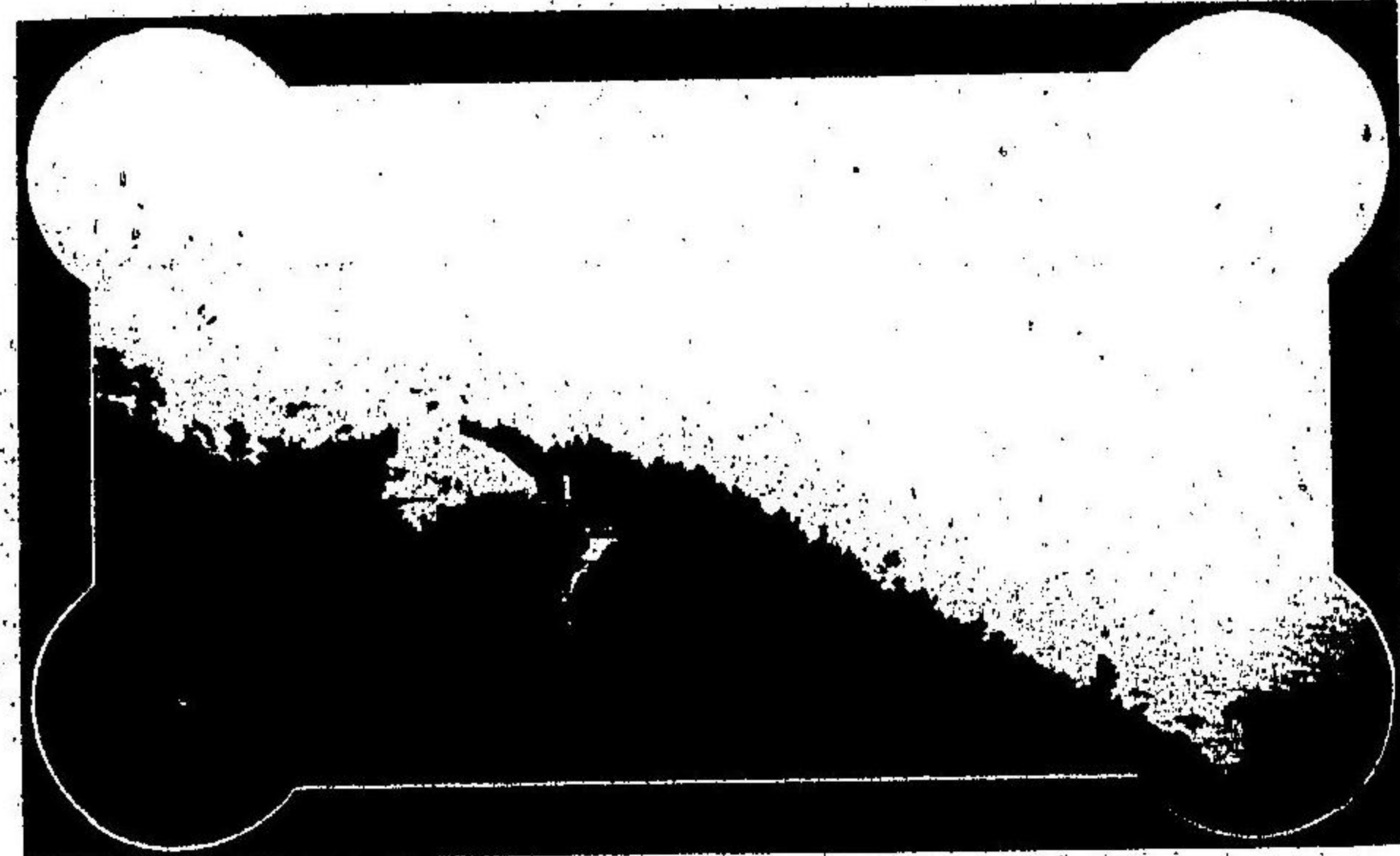
●鸚鵡石(磯部村大字惠利原) 一名和合山と云ふ明
治三十三年故小松大將宮殿下登臨の勞を親からせさせ
給ひたる所にして高一百餘尺巾四百餘尺の巨巖たり巖
窟狼藉其の腹背に峭立し老杉を戴き薜蘿を纏ひ幽趣雅
致其の妙を極む東面して岩に向ひ高吟放歌せば直に反
響して巨巖豪呼して之に答ふ乃ち鸚鵡石の名ある所以
なり巖頂は坦々として脚を息ふに足る志摩南岸の奇勝
舉げて一眸に入る機織岩、絹懸松、獅子岩、甌石、鼎石
皆其の傍に在り好奇の士請ふ瓢を携へて一遊を試みよ
●菅島燈臺 鳥羽港を距る海上二里菅島村の東端岬角にあり明治五年の創設に係る燈光四等不動の



鸚鵡の岩

白色にして海上七哩を照すといふ尾參二州は淡く微かに望むへく無數の
島嶼亦處々に散點して漁舟翻々此間を

縫ふ風趣殊に佳なり



菅島燈臺

●大王崎と老崎 兩岬共に波切村に
あり大王崎には望樓の設けあり鳥羽港
を距る八里十三町往年九
鬼氏の城壘を築きし所な
りと云ふ斷崖海を壓して
狂瀾に當り危巖怪島縱橫
起伏怒濤之に觸れて銀屋
崩るゝか如し然かも風暖
に波靜なるときは茫洋と

波切の老岬



波切の大王岬

して水天彷彿たり學童笑て指して曰く亞米利加彼に在り矣
●國崎の鐘岬 鳥羽港を距る三海里志摩國の極東に位し

澎湃たる太平洋に面する長岡村の岬角なり老松天を摩し白沙地に輝く邊狂浪巖を撃て散る其の狀壯快言ふ可らず南は安乘大王の岬角に對し東は參州の大山、伊良子の峯巒雲煙模糊の間に浮ひ眞に畫中に在るか如し村は小濱を隔て其の對岸に在り内宮鎮座の時より神部の地と定められ鮑を探りて捧げし古例今猶存し毎年鮑鬻斗を献上すといふ

●安乘崎燈臺 安乘村の東端大洋に突出せる岬角にして近局的矢港を脚下に瞰み右遙に大王岬に對し近く左に明神岬あり志、參二州の光景亦眸底に聚まる岸頭の巖石は其の奇を競ひ波濤之に激して白沫を飛す處眞に壯絶を極む海岸一帯老松蟠屈し瑟音濤聲に和す清趣掬すへきなり

●青峰山正福寺 鳥羽港を距る一里二十餘町志摩國の中央加茂村大字松尾青ヶ峰の半腹にあり眞言宗にして天平年中行基菩薩勅命により開基せりとそ本尊は十一面觀音なり堂宇の結構堅牢にして壯嚴、彫刻



國崎の崎岬



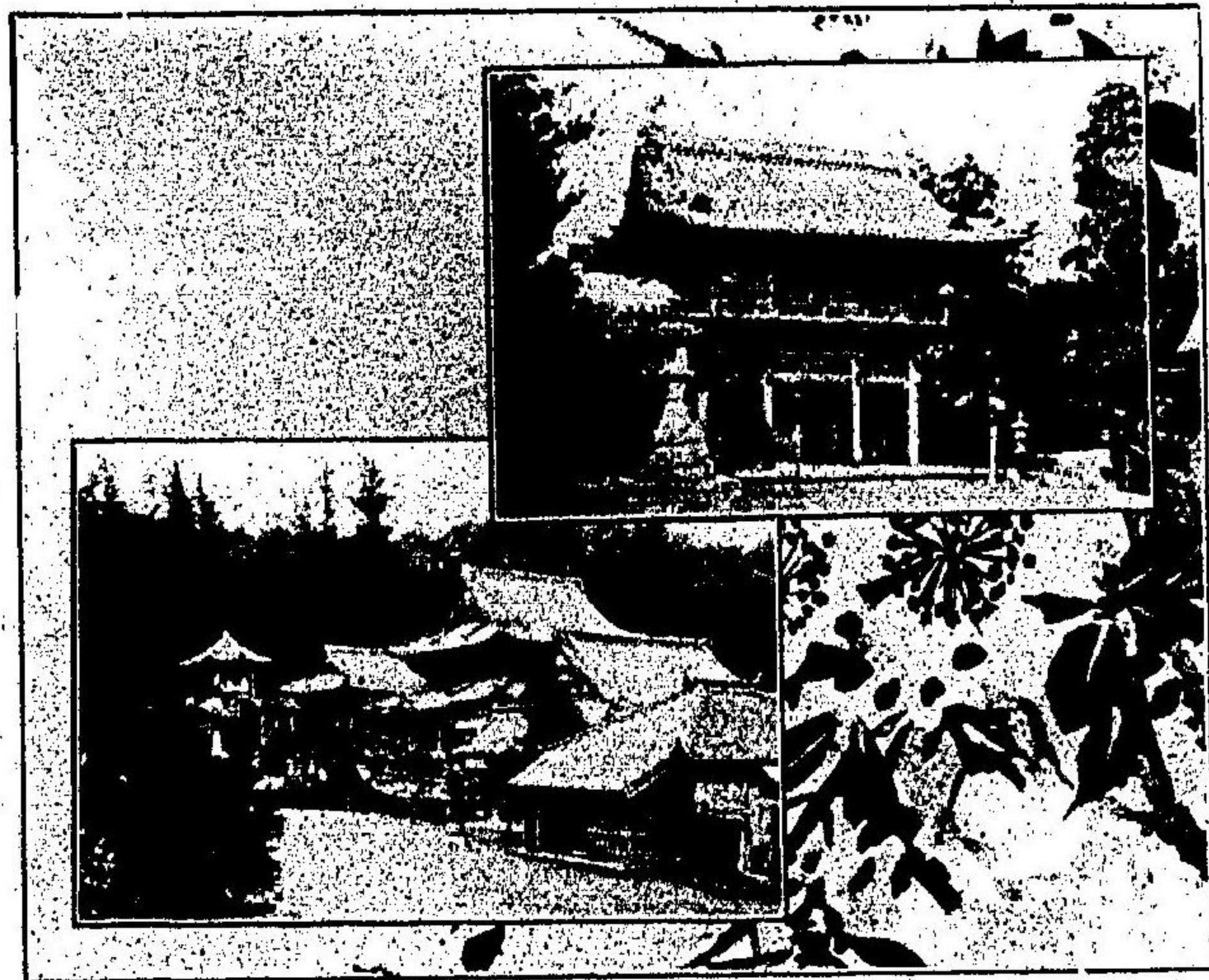
安乘崎燈臺

の巧美最も其の妙を極む山上は東遙に富士山を雲間に望み西紀州四國の峰巒を遠見すへし寺内の老杉

古檜は亭々として天を衝き鬱蒼たる綠蔭は以て三伏の暑を忘れしむ四顧開濶國內の山川歴々として呼へば則ち應へむとす

●學生浦 鏡浦村大字浦村、今村、本浦との間に介在せる海岸一帯是なり鳥羽港を距る二海哩幾多の奇島怪嶺は處々に散點し島壁巖頂老松の蟠屈する等景致や

青峰山正福寺其大門口



眞に一幅の妙畫と稱すへし浦に連り大瀉浦あり冬季群鰯の灣口に入るを窺ひ之を漁す鰯網漁場の狀況亦一種の壯觀なり



學生浦

●的矢港

鳥羽港を距る五里三町海水深く灣入し安乘崎明神崎相對して灣口を扼す渡鹿野島は其の

前面に當り灣内風波靜かに帆檣林立風景最も愛すへし港は志摩國三大灣の一にして外洋航行の船舶は時々碇泊するのみならず一朝風伯の怒に逢ふや此に難を避くるを常とす

●國分寺 鳥羽港を距る

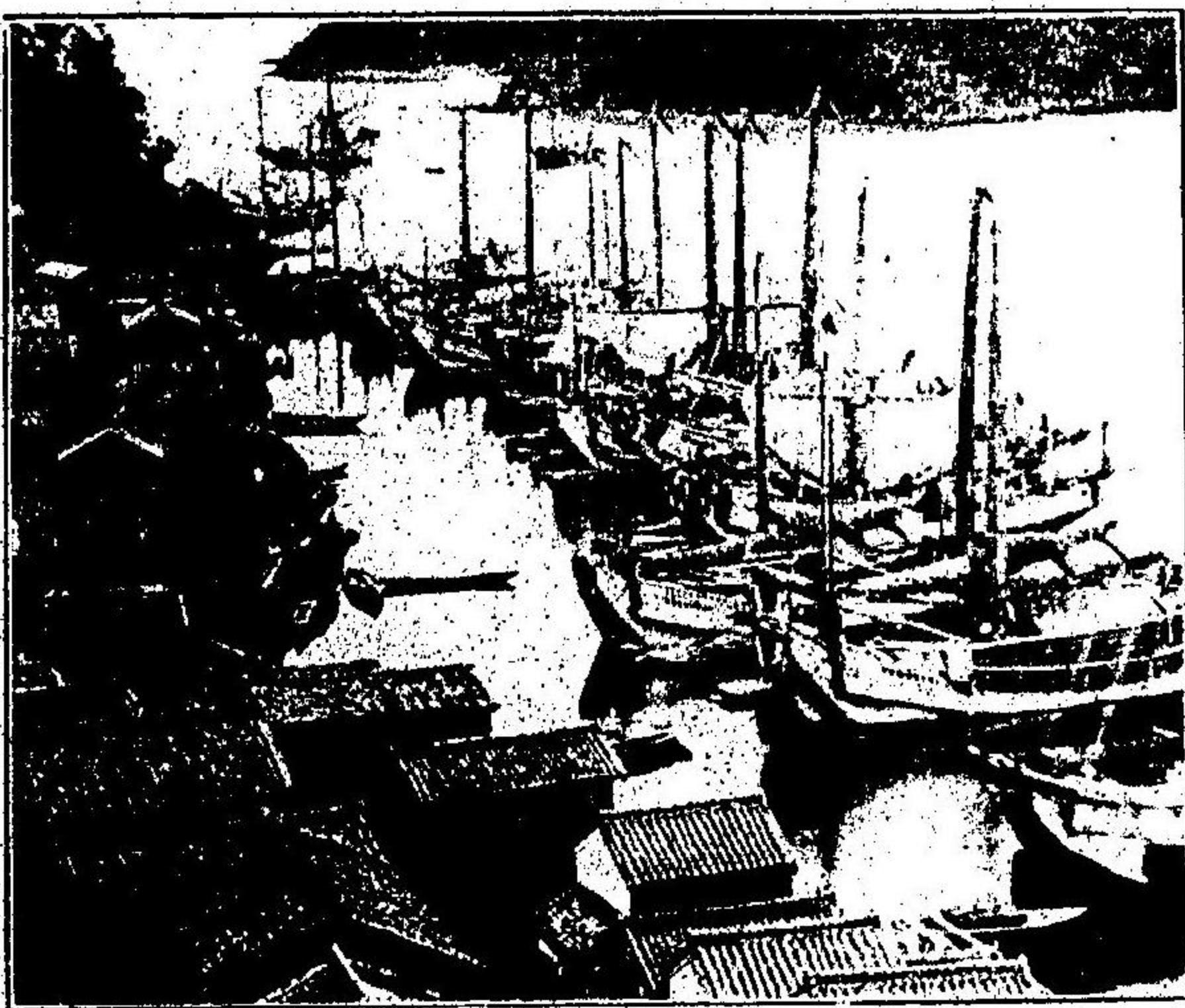
六里餘國府村の北端山中にあり聖武帝の勅願により天平十一年の創立に係り善哉上人の開基藥師瑠璃光如來は其の本尊にして丈け六尺



寺分國

の座像行基菩薩の刻なり應仁元年兵燹に罹り堂宇悉く鳥有に歸せしか同六年之を現所に移し草堂を結びて本尊を安置し天保八年再建に着手同十五年に成る天台

港 矢 的

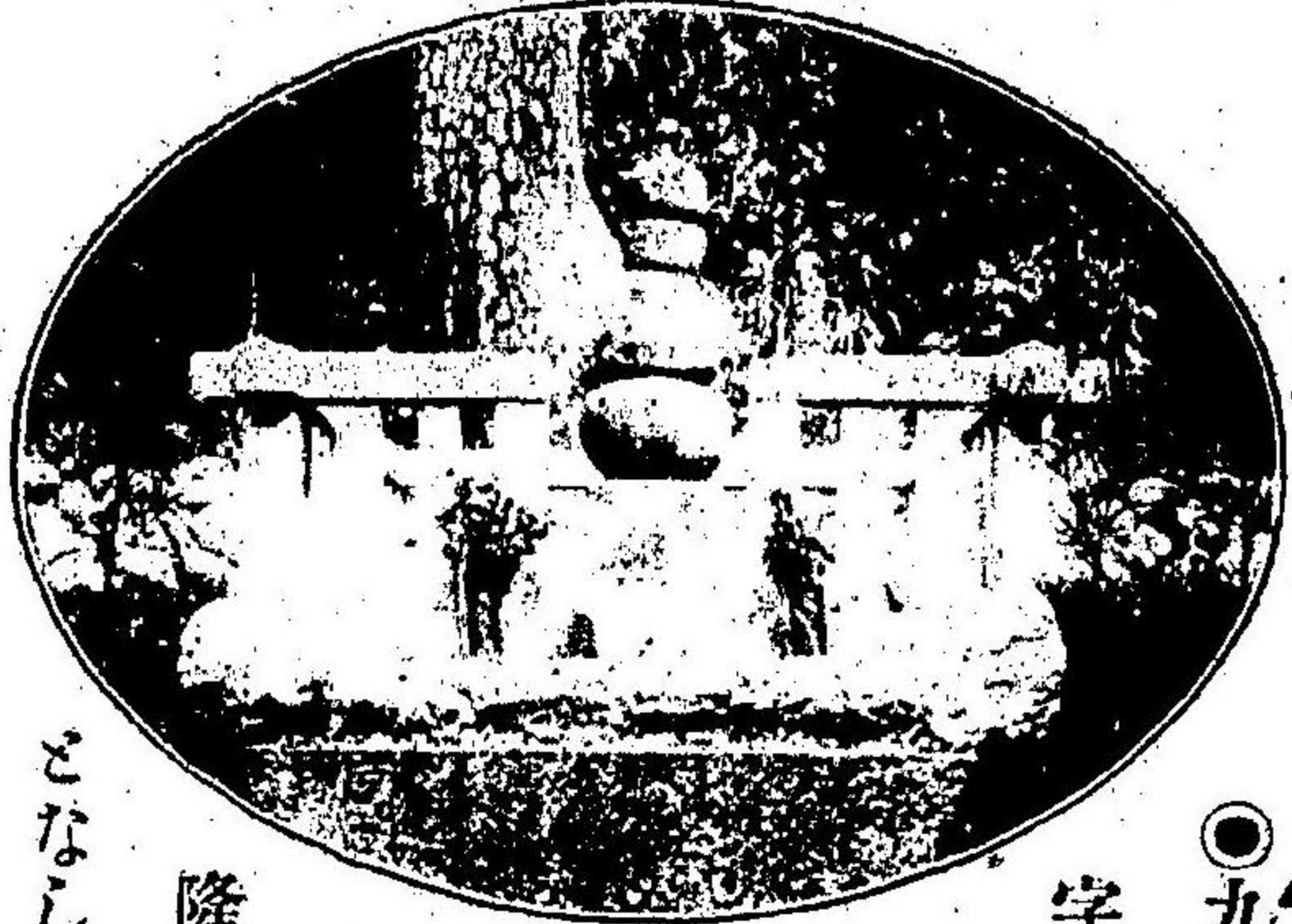


宗に屬し延曆末寺なりと云ふ寺内森閑として俗塵を絶ち國府の濱は近く脚下に迫りて漁舟點々其の間に往來す一國一寺の靈場として將た避暑避寒の好適地として其の名遠近に高し

●九鬼嘉隆墓 志摩國荅志村

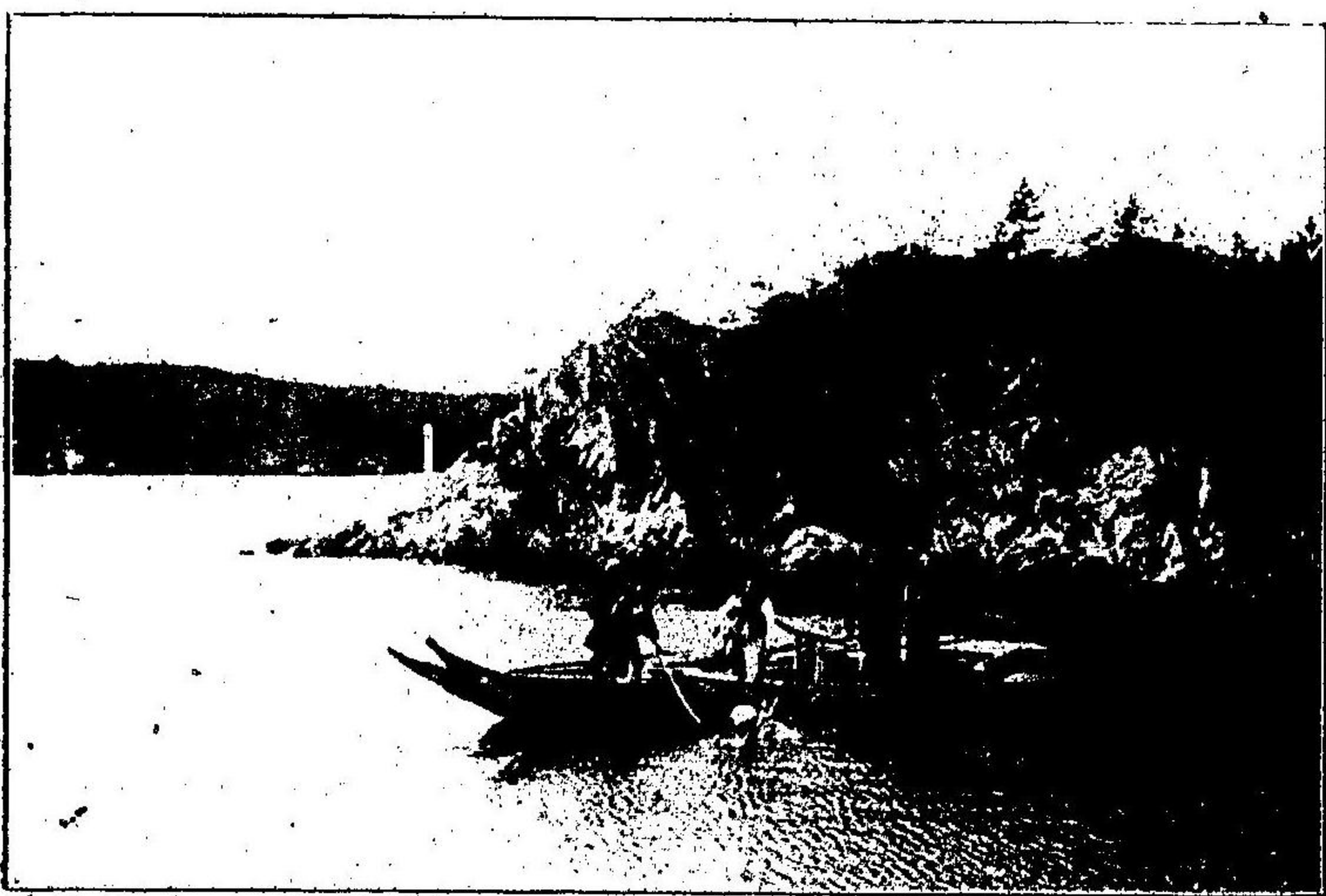
字和具に在り傳へ云ふ嘉隆關ヶ原の一戦に敗るゝや罪を恐れ遁れて此に匿る子守隆功を立て父の罪を贖はむことを請ふ乃ち許され

九鬼嘉隆墓



て恕罪の使者此島に臻る嘉隆誤りて糺罪の爲に來れる者

となし勿皇及に伏して斃る時人之を憐み墓を建てゝ其の靈を祭ると云ふ荅志村の風景大王崎老崎の風景と兄たり難く弟たり難し鳥羽港より漁船一時間



場 殖 養 貝 珠 眞

にして達す

●眞珠貝養殖場 御木本幸吉の事業にして英虞灣神明浦に在り抑眞珠貝は珠粒にして千個に一個の眞珠なき程なれば氏は天工を助くるに人爲を以てせんご苦心慘憺殆んど寢食を忘れむ迄に研究すること多年始めて眞珠貝に或る方法を施し數年間之を海底に放養して珠粒を形成せしむることを案出して特許を受け二十六年本場を創設し凡そ六萬餘坪の海底に種介を放置し四年の後之を採取するの計畫を定めしか爾來成績極めて良好にして名譽歐米に噴々たり現今に於ては百十三萬七千九百餘坪に擴張し東京銀座に商店を有す佛伊米英の諸邦より多數の注文を受くるに至る前途最も多望有益の事業なり

明治三十八年十一月十七日 鳳駕宇治山田に駐まる幸吉召されて行在所に至り宮内大臣より事業勸奨の宗旨を傳達せらる幸吉感泣措く所を知らず退て曰く幸吉の業今日微々稱するに足るなし乃ち今此事あり豈感奮興起以て恩光を拜せざるへけんやと亦以て其の抱負を見るに足るなり幸吉多徳島に養殖工場を設備し別莊を構ひ多數紳士の往訪を待てり順路は鳥羽港より織部村を経て神明村に到る即ち養殖場の在る處なり行程六里餘

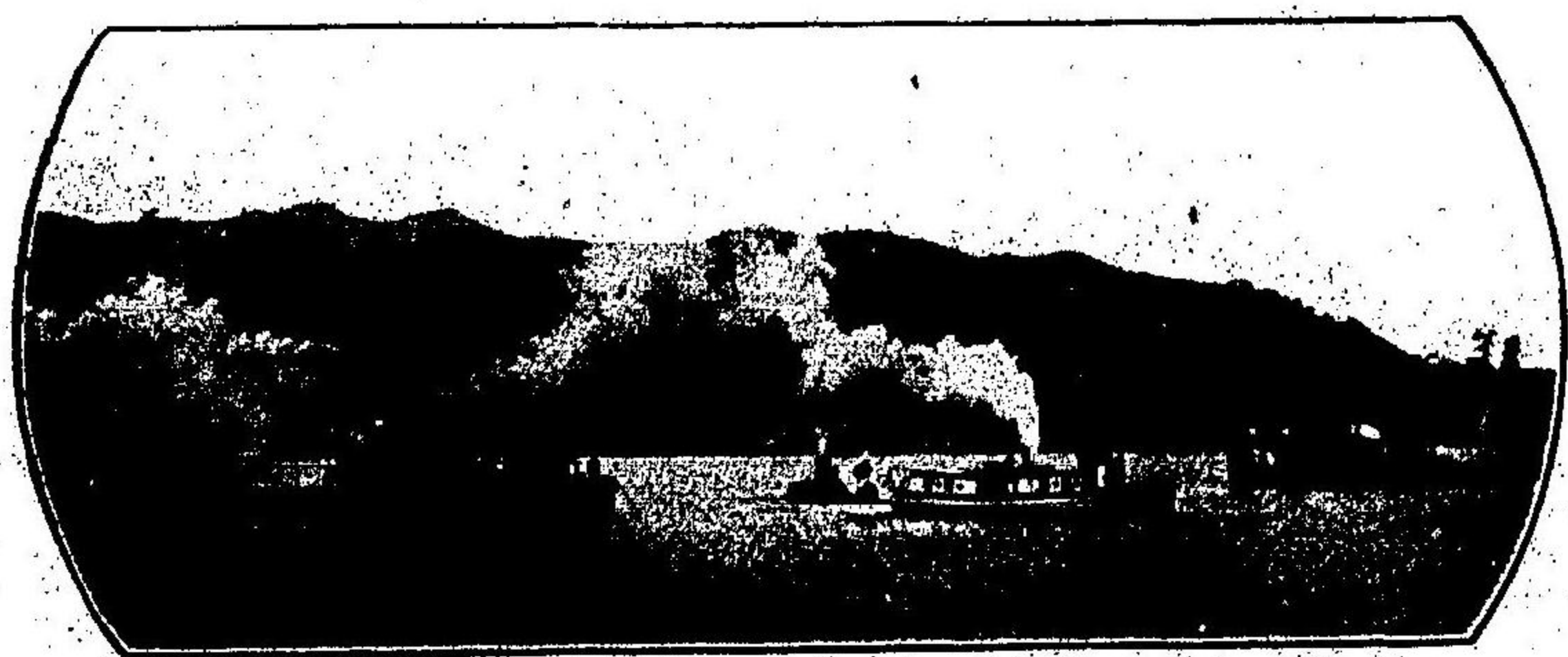
●縣立水産試験場 濱島村にあり明治三十二年の創設に係り場内總面積一千六百五坪場合百二十八坪にして製造室、機關室等十一棟に分れ階上には標本陳列室を設け衆庶の縦覽に供せり漁撈、養殖、製

造の三部に分ち諸種罐詰の製造、眞珠介、牡蠣の養殖試験等を施行し之か改良發達に全力を盡しつゝあり漁撈に就ては昨年三十五噸のスクーナ形遠洋漁業船を新造し紀州遠州二灘に亘る遠洋に於て本縣漁民の有志を便乗せしめ、よか、しび、かつを、あら等の漁業を試験す又沿岸水産上の調査氣象觀測を行ひつゝあり

●鳥羽町立鳥羽商船學校(志摩郡鳥羽町) 明治十四年八月故近藤眞琴海員養成の目的を以て鳥羽商船學校を設け歿後一時廢校の状態にありしも二十七八年戰役の際に至り有志相謀りて之を再興し東海商船學校と稱し三十二年町經濟に移せり本校は航海科在校三箇年實習三箇年機關科在校三箇年實習三箇年年半にして外に航海及機關科を通して豫科一箇年なりとす生徒百八十四名、實習生八十三名山内萬壽治、藤田四郎、門野幾之進

其の他鳥羽出身者多く之に與かる

●緒明造船場 造船場は緒明菊三郎の經營に係り現に工事中に屬す今や灣内の浚渫及理立を企て大船渠數箇を設け倉庫を建設しクレーンを裝置し以て近國の貨物を吸収せんことを計畫せり緒明齡六十有三嬰鏢とし



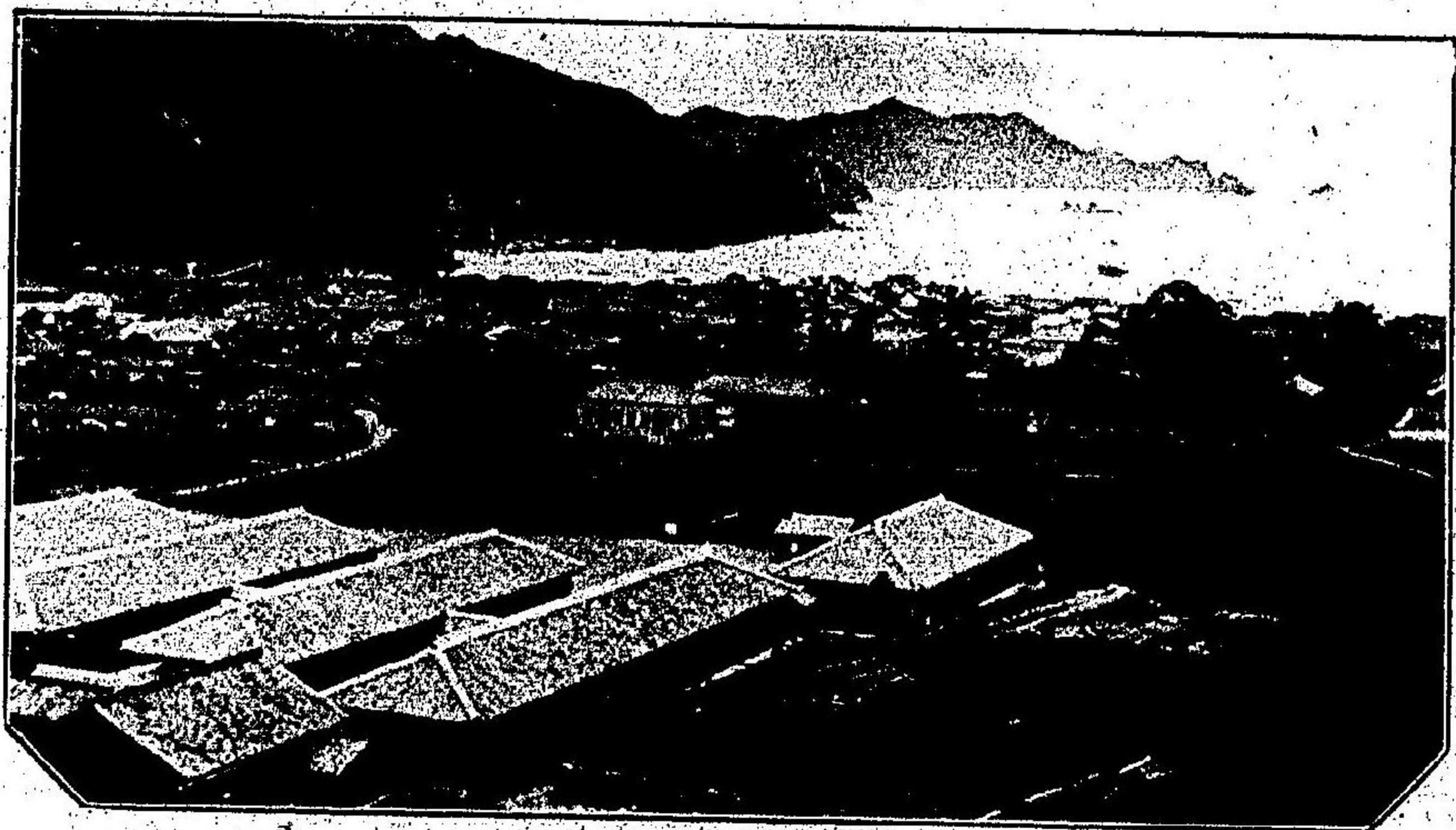
緒明造船場

て工事を督し資を投すること百數十萬蓋し數年を出てすして其の工を竣るへし鳥羽の般盛足を曉て待
つへきなり況や鐵路の此の地に達する亦遠からざるに於てをや又況や緒明の望を囑せる銅鐵の鑛業果
して的中するに於ては其の利費られざるに於てをや

北牟婁郡

◎尾鷲町(戸數一、七八三人口九、二〇九) 尾鷲港に臨み紀
北第一の市街にして九木岬須賀利岬を以て灣口を扼し灣内廣
く桃頭、娑婆留、雀島、裸島等の島嶼點々基布し怪松水に靡
し奇巖は覆ふに千年の苔を以てし浪平に水深く大船巨舶の碇
泊に適せる良港たり大阪商船會社熱田大阪間の定期航路に當
り郡の重要物産たる木材漁獲物の搬出甚た熾なり郷社尾鷲神
社尾鷲公園及土井八郎兵衛の挽材工場、竹林、柑橘園等觀る
へきもの鮮からず

◎尾鷲公園 尾鷲町南浦の西方中村山にあり眸界開豁全灣
の山態木容攢めて一幅に在り近來有志胥謀りて表忠碑を建て
明治二十七八年及明治三十七八年戰役に健闘したる忠死者の
靈を祀れり園内の古松は颯々として長へに其の毅魄を吊ふの



尾鷲町

趣あり旗亭あり觀瀾亭と名く茗を煮恭を圍むへく又淺酌低唱春花秋月を翫ふへし山下幾千株の梅花を

賞するは殊に妙なり

●國市濱挽材工場 尾鷲町字國市濱にあり土井八郎兵衛の所

有工場の一にして明治三十五年三月の創立に係り工場九十坪原
働機室二十四坪汽罐はコルニツシユ形汽機は不凝縮横置單筒
(大湊町菊川鐵工所作)を用ひ挽材及飽滑作業を爲し鋸は三十六
吋の圓鋸にして摩擦ハンドル付機械を使用せり其の剖面は挽材
機の進行して舊位に復するの時動力に依り之を飽滑するを以て
當工場の特徴と爲し又近來石炭の燃料を廢して挽屑を用ふるの
考案を爲せり外に製板製材工場を有すること五六箇所多きに
達し第五回内國勸業博覽會には其の殖林施業方法を編纂出陳し
て名譽金牌の榮を荷へり

●熊野山林 引本町又は尾鷲町より船津村(三里強)を経て進

むて御料殖林地を過くれは勢和紀の三國に跨れる大臺ヶ原山に入るへし山脈一帯千古斧鉞を加へざる

國市濱挽材工場



の深山幽谷にして氣候溫暖乾濕宜きに適ひ加るに造林施業方法其の當を得て杉檜の生育甚盛なり近來
學生の修學旅行を企て林業家の跋涉視察を爲すもの漸く増加し林相の優秀なること自ら世に喧傳せら
るゝに至れり

●竹林 尾鷲町にあり土井八郎兵衛の經營にして繁茂
の狀人を驚かすものあり周圍三尺に至り長さ之に適ふ花
瓶に用ひ床柱と爲し其の他用途甚だ廣く眞に逸品なり土
井氏は此郷の富豪にして一門の所有に屬する山林は各處
に鬱葱たり面積廣大にして主人猶其の境域を知らざるも
のあり蓋し祖先善を積み子孫餘慶を享くるものなりと云
ふへし明治三十八年十一月 鳳箏宇治山田町に駐る其の
十七日八郎兵衛召されて宮内大臣より御勸奨の御主意を
傳へらる世人其の光榮を欽す

●魚跳溪の奇勝 尾鷲町より二里三十町相賀村大字使山の西方銚子川の上流なる瀧の川にあり岩石
倨然として老牛偃臥の姿をなせるものあり突兀として猛虎負嶼の狀をなせるものあり奔流その間を激



土井の竹林

下し或は急湍となり或は碧潭となり游魚躍然として跳る故に此名を得たりといふ紀北第一の勝區なり
隣村船津の山野には野猪棲み麋鹿息ひ兔奔り雉子鳴く大字馬場の大田沼には群鴨の閑眠を貪るあり狩

魚の跳の景一其



獵家の垂涎
措かざる所
なり又同村
大字船津の
西北少許の
山中には大
木森の瀧あ
り直下十五
丈巾一丈瀧

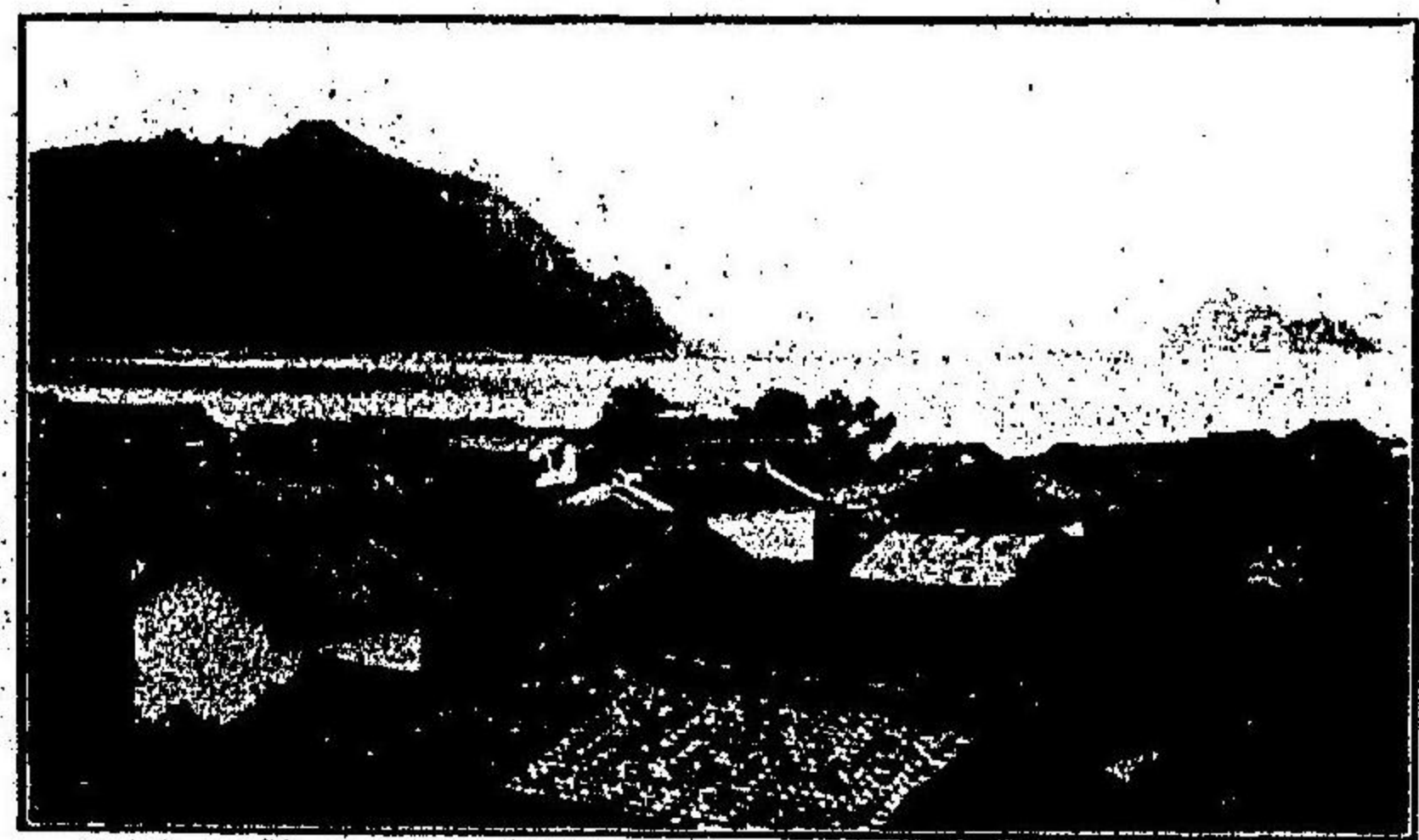
魚の跳の景三其



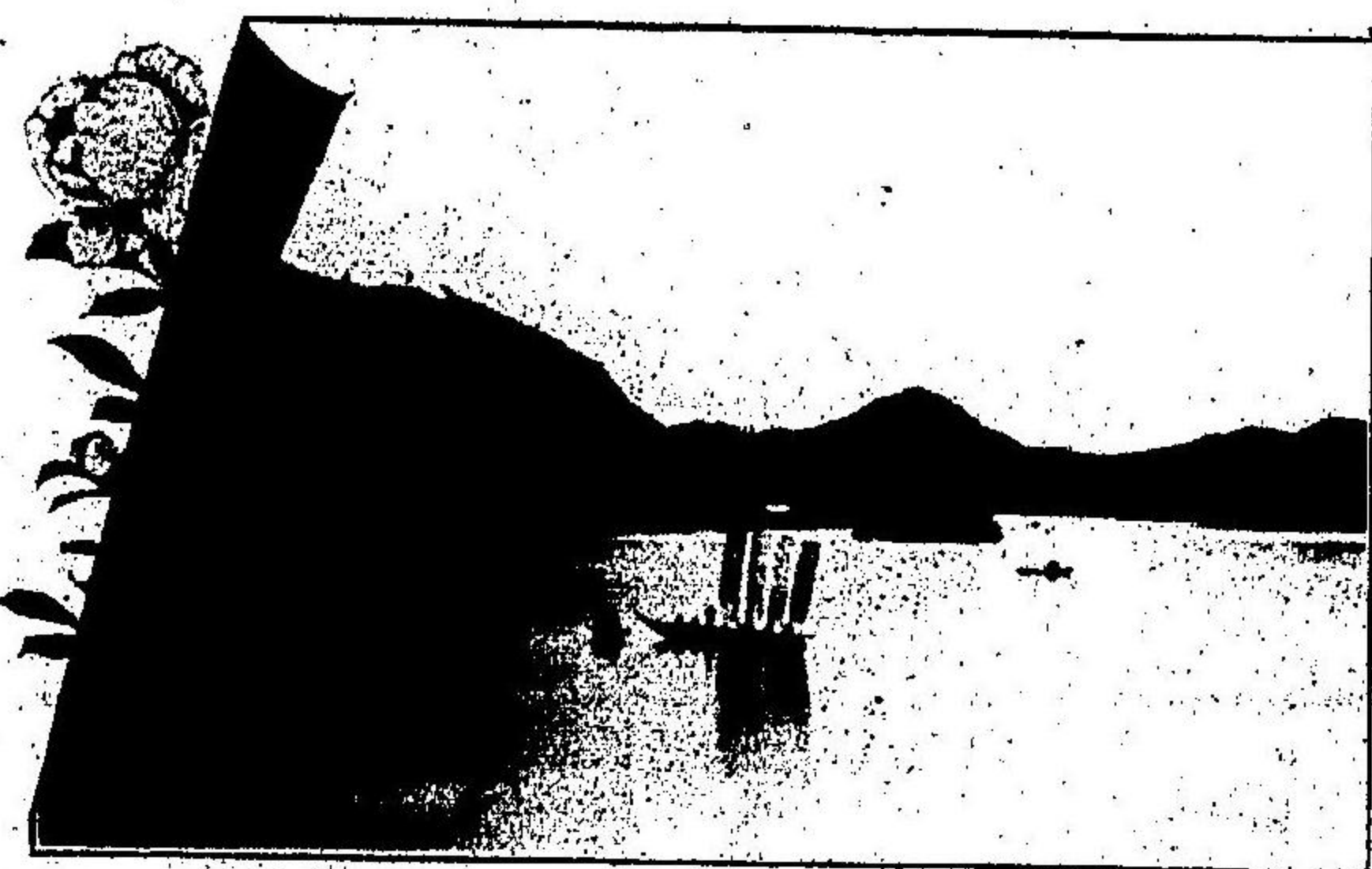
壺深く巖聳立引本灣より遙に望見するを得へし

◎引本町及其の八景 引本町は桂城村須賀利村に包擁せらるる海灣にして南より北に向ふて深く入ること二里穩波洋々として明鏡の如く風浪を避けて投錨する船舶常に絶へず市街は海岸に沿ふて六百

引本八景一其



引本八景二其



島勝港

戸三千口を有し嚴冬爐を圍むを要せず

三伏尙扇を知らず

網代の落雁

長濱の夕照

北浦の歸帆

辨天の夜雨

向山の晴嵐

松島の秋月

吉野の晚鐘

天狗の暮雪

の八景は騷客の吟情を馳する所なり

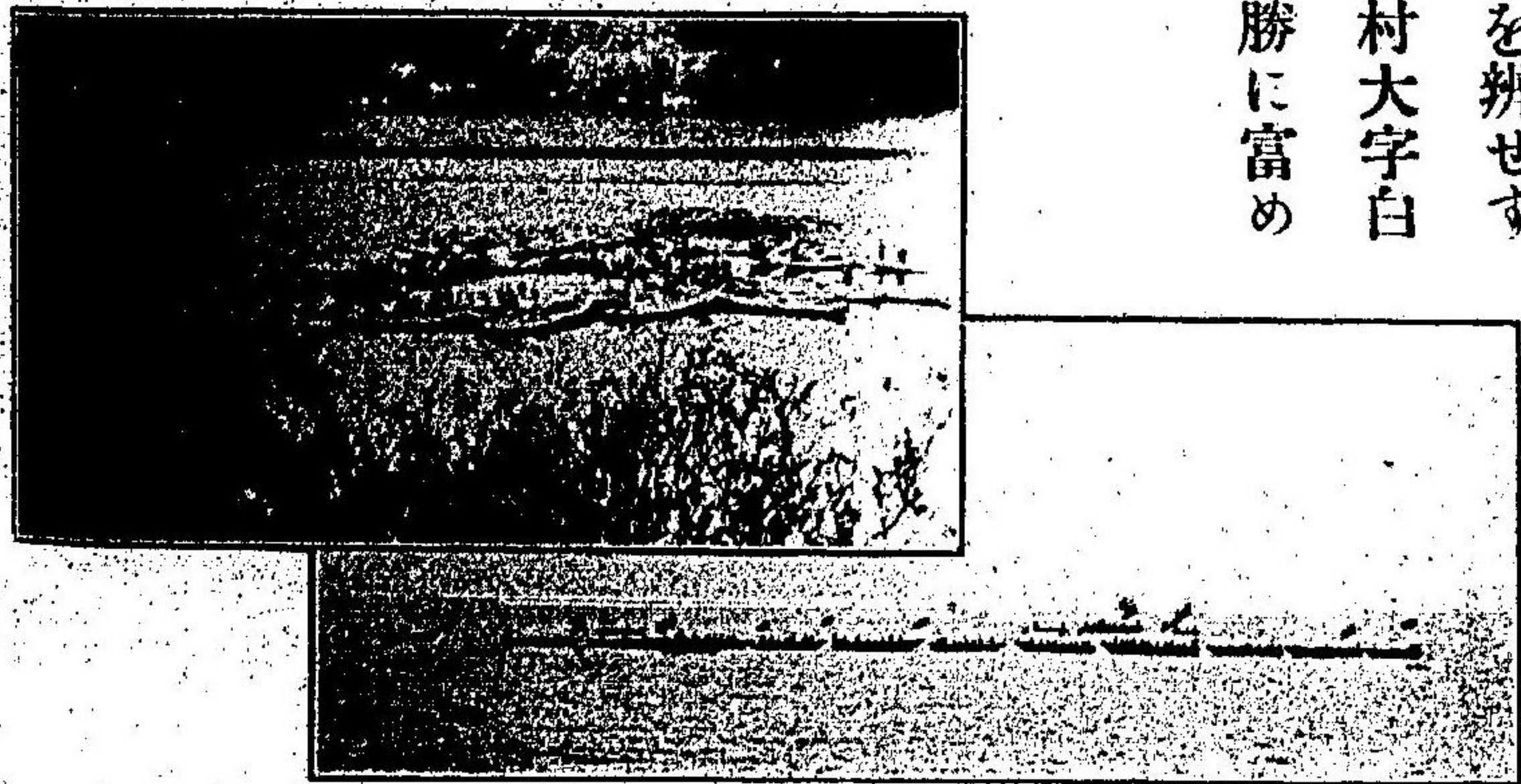
北牟婁郡

●島勝浦及白浦 島勝浦は桂城村大字島勝にあり大阪商船の寄港所なり天満洞門と稱せらるゝ自然の洞穴あり長十五間巾八間潮水之に通す之を窺ふに闇黒にして景狀を辨せず洞邊浪を被る處傲巖亂據松樹崖角に懸りて姿態危からむとす白浦は同村大字白浦にあり灣内靜穩にして長島、錦村より渡船の便あり一遊すへきの景勝に富めり

●須賀利港 引本町より北外海に出てむとする處東西北の三面山に擁せられ南に海洋を控へて深く灣を爲せる所を須賀利港とす冬暖に夏涼しく山腹の普濟寺に躋らは眺望更に妙なり

●九木浦 尾鷲灣頭の一角より突出して南牟婁郡北輪内村に接する九鬼村にあり尾鷲町より三里汽船の寄港所たり漁民鱒漁の大敷網を定置して一箇年の漁獲高拾萬圓以上に及ぶといふ

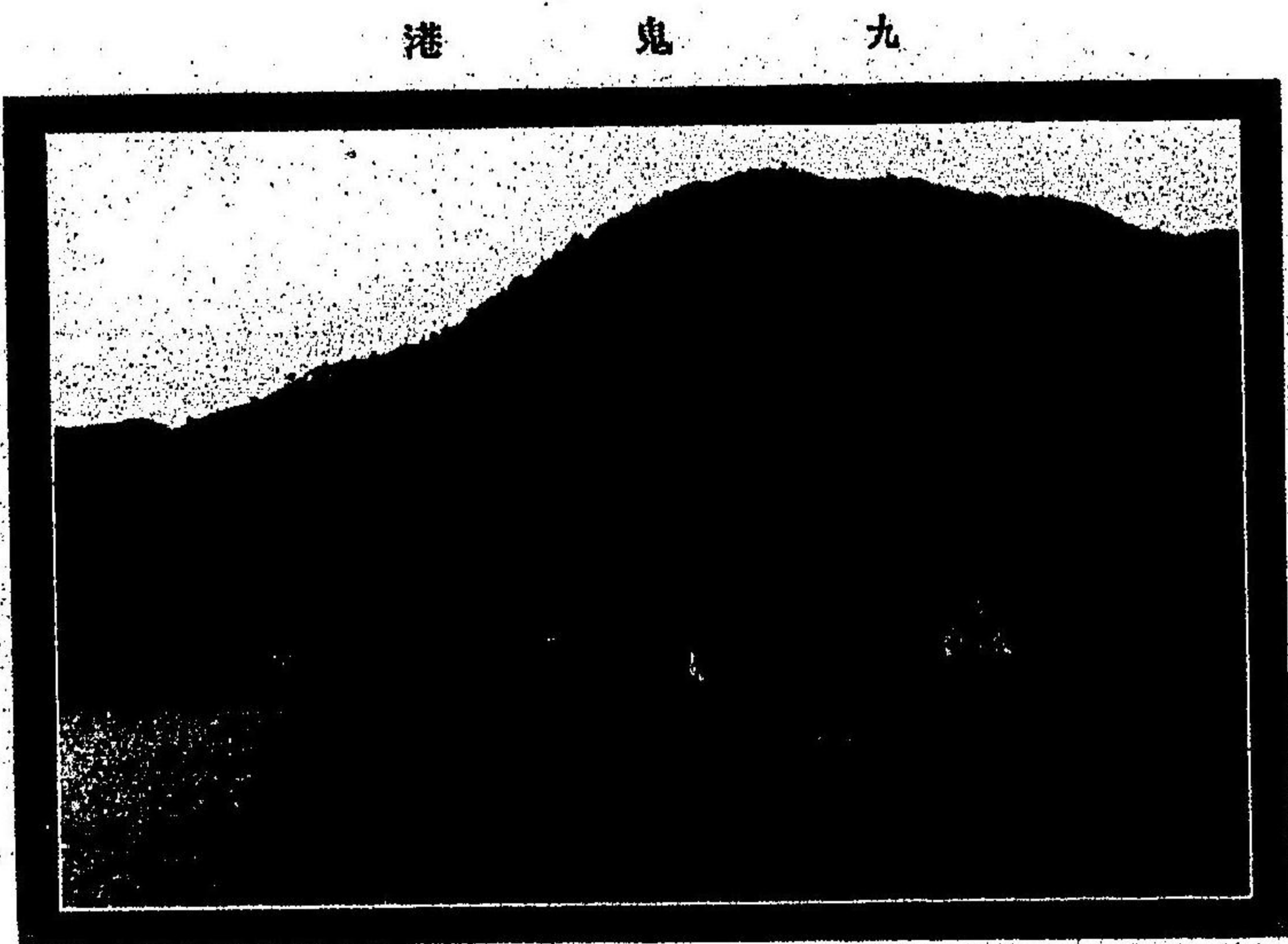
●九木灣内鱒大敷網及鮪漁業 北牟婁の漁利に富むは人の知る所なり中に九木浦に於ける鱒漁業は一箇年の漁獲高實に拾五萬圓に上ると云ふ鱒大敷網は定置漁具にして陸地の基點より海中百八十間餘



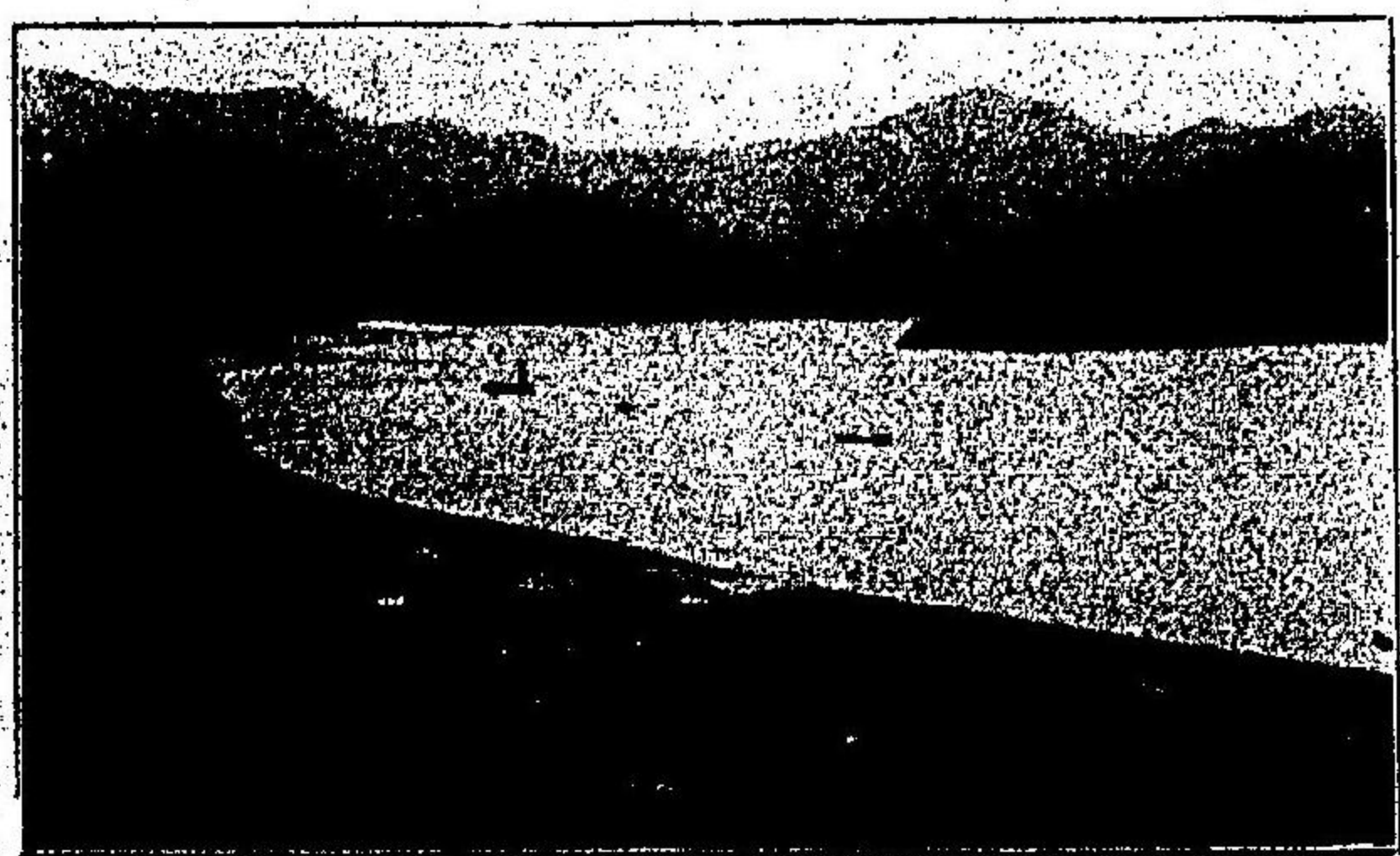
九鬼灣内鮪漁一其及二其

に達して垣網を設置し魚群の潮流に従ふて最終點に敷設せる橢圓形の底張網に集まるや臺船魚見樓より號令を發し圖の如く配置せる十數艘の漁船をして豪呼勢を作りて網を繰り揚げしむ網漸く迫まり魚漸く窮し群鱗跳躍捕へて船に投すへし眞に壯觀を極む

鮪群九木灣に入るや全浦の漁民に通報し直に楯切網を以て灣口を遮斷し魚群の逃逸を防ぎ巻取網を繰らして漸く游泳の區域を狭めつゝ捕獲す本圖は明治三十九年一月其の實景を寫したるものにして一箇年楯切網の使用數五六回一回の漁獲高五六千圓に達す



九鬼港



長島港

●長島港 汽船にて紀北に遊ぶ者の第一上陸地にして陸地よりすれば熊野街道を野後より人車又は馬車すへし北牟婁郡屈指の都邑にて港灣廣濶汽船和船の便極めて宜し海岸の風光甚だ絶佳なり

●江の浦及名倉灣 江の浦は長島港の入口にして漁船の繫泊場なり前面大向井の山脈東に延きて海に入る月明の夜之に蒞めは山影模糊として江上に浮ひ宛然涅槃像に似たるに因り寢釋迦山と稱せらる名倉灣は長島町の東八町二郷村にあり水を隔てて朝向山を望み灣口ひかきの鼻と稱する勝地あり

●丹敷戸畔の塚 長島町東二里許錦村の灣頭人家櫛比の街道に丹敷戸畔の石棺あり此邊一帶の地は往古熊野の一部にして丹敷戸畔の領せし所なり神武東征の時險を擁し戈を横へて皇師に抗せしも金鷄の向ふ所遂に當る能はずして誅せらる是れ古墳の存する所以なりとこそ毎年正月丹敷降伏の狀に擬したる祭あり之を神武祭と稱す又同村不行谷に神代の遺墟あり



丹敷戸畔の塚

南牟婁郡

●木本町(戸數八六〇人口四、六五六) 紀南第一の都邑にして尾鷲町より陸路十一里海路二十里西北山を負ひ東蒼濱に臨み南方豁然として平野數里に渉る長汀を七里濱といひ坦夷九里の人道を通し腕車敷時間にして和歌山縣新宮町に達すへし大阪商

船の定期航路に當り貨物の集散甚だ殷盛なり

●鬼ヶ城(木の本町を距る十町許) 木の本町の東海岸に鬼ヶ城と稱する奇巖あり其の狀屋宇の如く高さ十間餘其の下は窟をなし怒濤激越して壯觀を極む



●文字岩 木の本町の西北花城山の西麓字疊堂と稱する處にあり橋南豁曾て熊野に遊ひ秦

驚去徐仙子。深入前秦雲。借問超逸趣。千古堆似君。

梅華仙史題

鉦岩高二十間巾十二間文字の大き方一尺五寸ありといふ

●花の窟(木の本町より西南五町餘) 有

井村大字有馬の海邊にあり毎年二月及十月の二日巨繩を窟頂より前方の松樹に掛け繩幡三旒を絶じて之に百花千草を纏ひ以て神前に供するを例とせり

光俊朝臣

神まつる花の時にや成ぬらむ

ありまのむらにかゝるしらゆふ

大巖壁立すること二十七間正面に方三間許

の壇を作り玉垣を周らし拜所を設く花の窟の名は増基法師の記行に始めて見ゆ花を以て祭るより起れるものなるへし下より十間許の上に方五尺餘の洞あり土人御からこと云ふ日本書記に伊弉册尊の御陵とあるは即ち此處なり

●王子の窟 花の窟より七八間を隔てて相對せる巖を王子の窟といふ伊弉册尊の御子軻遇突智の神



岩 字 文

靈を祀るに依り此名あり又聖の窟ともいふ拜所を設くること花の窟に同じ

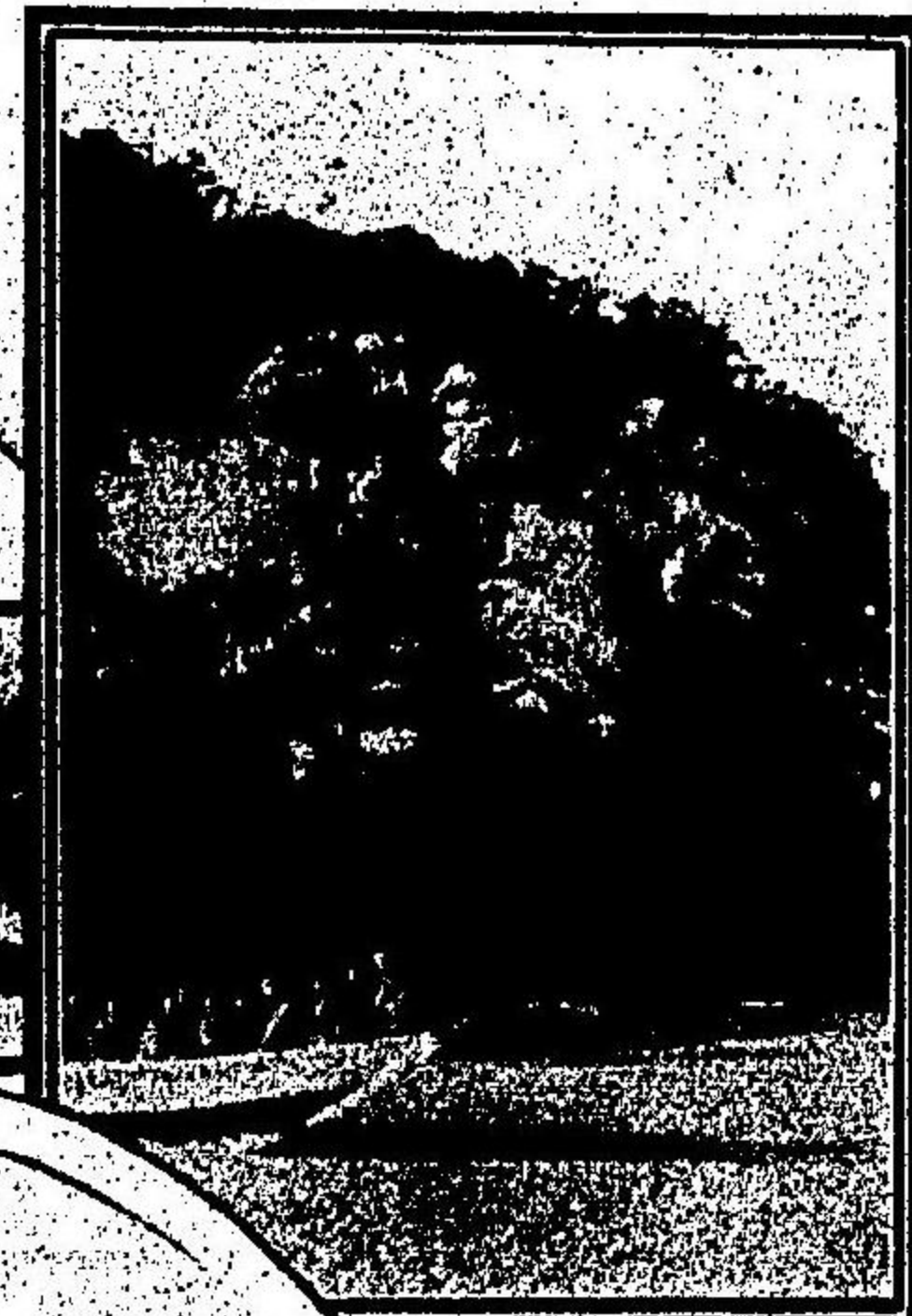
●海八町 海八町は木の本町より車道八

里にして小川口に出て舟を漕ふて音無川の上流北山川を湖ること里許三、重奈良、和歌山

三縣界の交錯點なる入鹿村大字木津呂にあり幽峽八町前後左右斷崖にあらざるはなし歎

巖高き千仞天小にして而て山高く碧潭深さ百尋水靜にして而して風來らす宛然壺中に在るか如く隨て進めは又隨て一寰を成す巖態石狀千變萬化應接に暇あらず蓋天下の絶勝なり旅館あり奇峯雲を拂ひ金鳥早く没し蟾蜍

窟 の 花



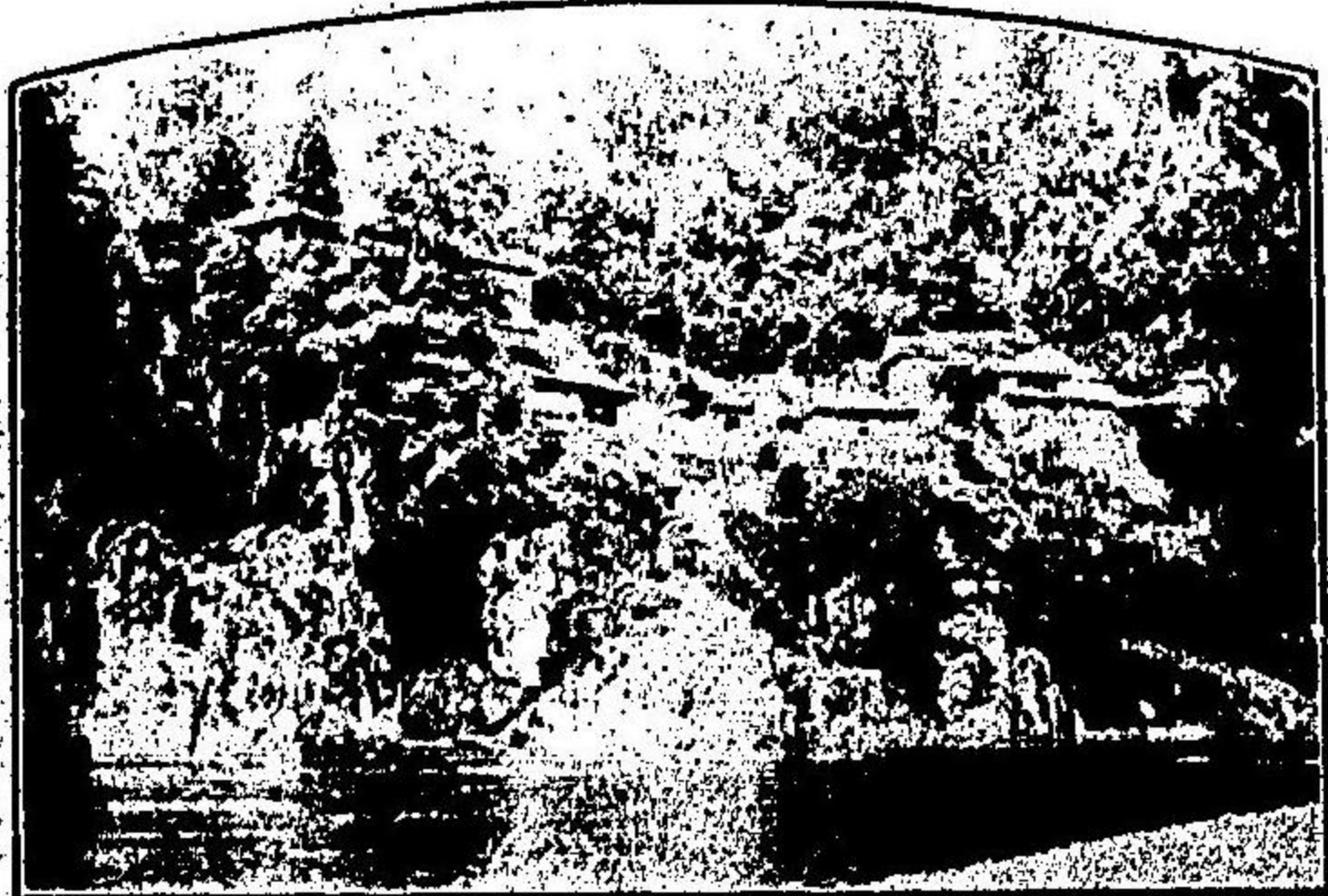
窟 子 王



岩 子 獅

暁く出つ欵乃聲裡
野趣愛すへし頃者
郡内の有志瀨峡保
勝會を組織し遊艇
腕車旅館の設備を
整へ都人士探勝の

瀨八町其一二



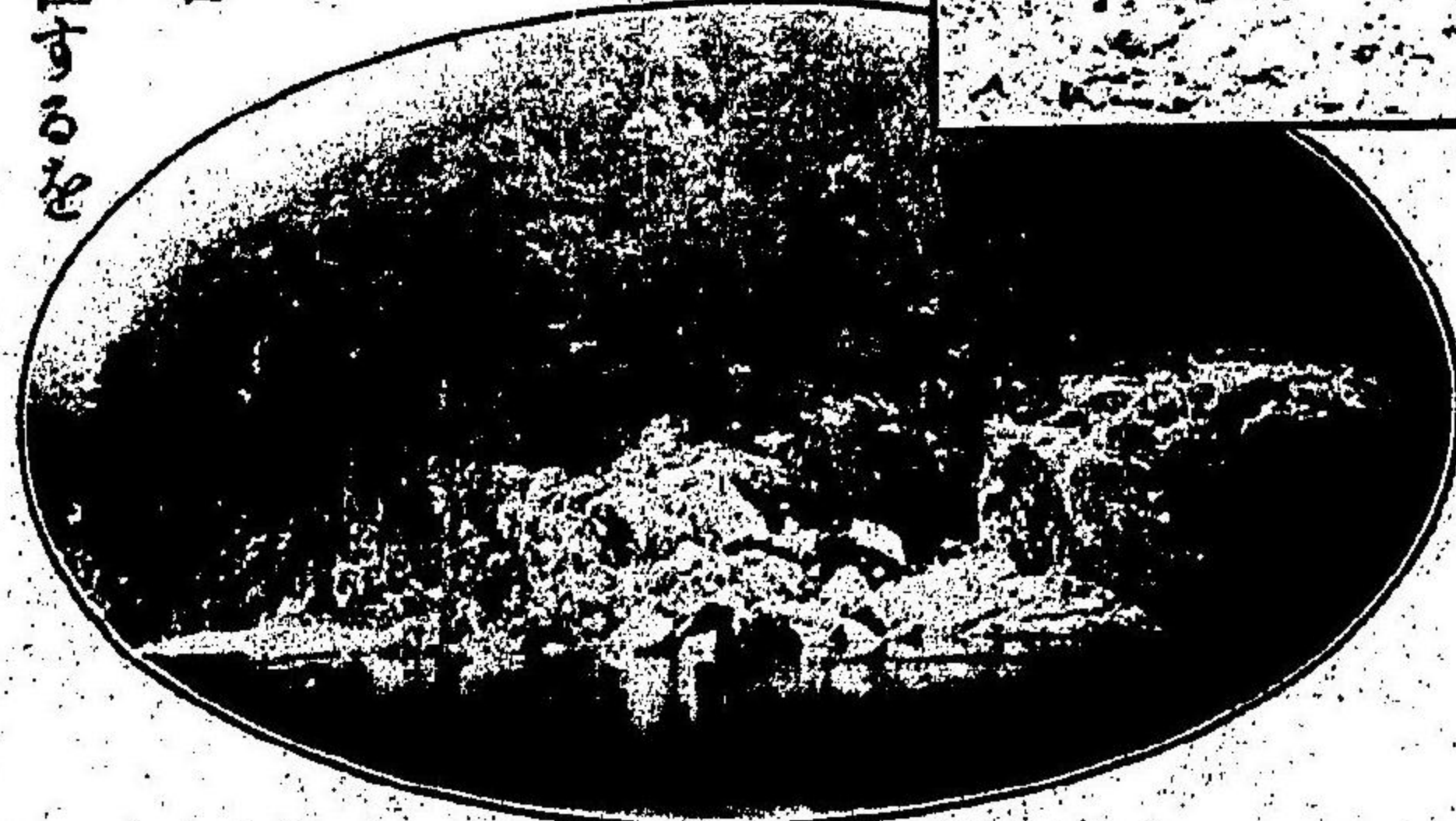
せる所舟二艘を運らすへし更に舟を進む
れは大衝、屏風岩、筏の場等探勝者の驚喜
すへき奇景鮮からす舟中北山郷の離落點在するを

川沿岸神川村にあ
り驕巖蟠占廻り岩
と稱す其の洞をな



便を謀るの舉ありとい
ふ
●花知の奇勝 瀨八
町の更に上流なる北山

瀨八町其三四



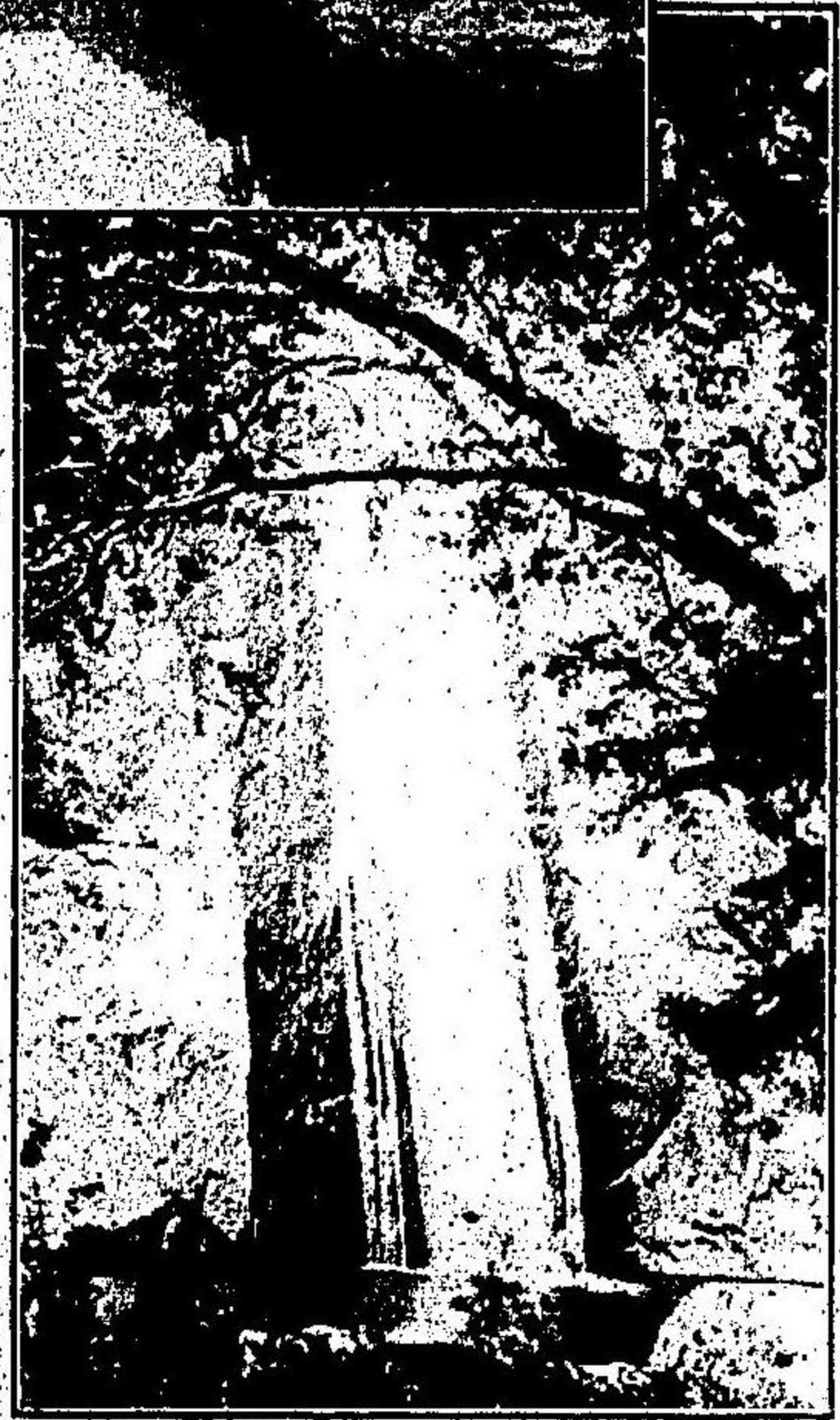
花知大瀨



下す眞に布引の名に負

かすといふへし

讀人しらす



布引の瀨

望見し得へし

●布引瀨(木の本町より九里)

入鹿村大字大河内にあり瀨八町よ
り音無川を下り舟を上川村楊枝に
捨て陸行一里にして達すへし直下
四十尋皎然として陡崖に循ふて瀨

白雲とよそには見えし布引の

瀨つひよきは世にきこえけり

●室子神社阿子師神社(木の本町より三里)

新鹿村波田須

より逢坂峠を越ゆれば荒坂村に室子、阿子師の兩神社入海を隔

てと相對せり室子神社は彦稻飯命、阿子師神社は三毛入沼命を祀る



室子神社



阿子師神社

神武東征の時舟師二木島沖にて暴風に遭ひ二神海に陥りて薨じ給ひしか土人波靜かなるを待ち海を搜ねて屍を獲、詔を受けて此に葬りしものなりと傳へらる

●海福山最明寺 荒坂村大字二木島にあり禪宗曹洞派に屬し北條時頼入道最明の開基にして紀南に於ける名刹たり

最明寺



●光福寺(南牟婁郡飛鳥村) 飛鳥村大字神山にあり曹洞宗に屬す寺は七百餘年前平維盛の建立したるものにして長祿年中足利專恣の時に方り南朝尊雅皇子奮戰勇闘大和路を経て此地に落ち薨去せられ當寺に遺骨を葬むれり境内廣くして老松古杉蒼鬱たり
●辨慶産家塚(木の本町より九里) 御船村字鮎田にあり武藏坊辨慶産家跡と稱す曾て喬樟抱圍九尋餘なるありしか寛政の頃枯凋せりと云ふ碑あり辨慶産家楠跡の數字を刻す

光福寺



●二木島港 汽船の寄港地にして尾鷲、木の本間の要

港たり此附近賀田、古江、三木里等の短汀曲浦は何れも風光明媚の水郷にして鯉鮪の漁獲を以て有名なり往古荒

坂村は神武東征の時丹敷戸畔を誅し玉ひし地にして荒坂津と稱するは此港なるへく荒坂とは二木島

辨慶産家塚

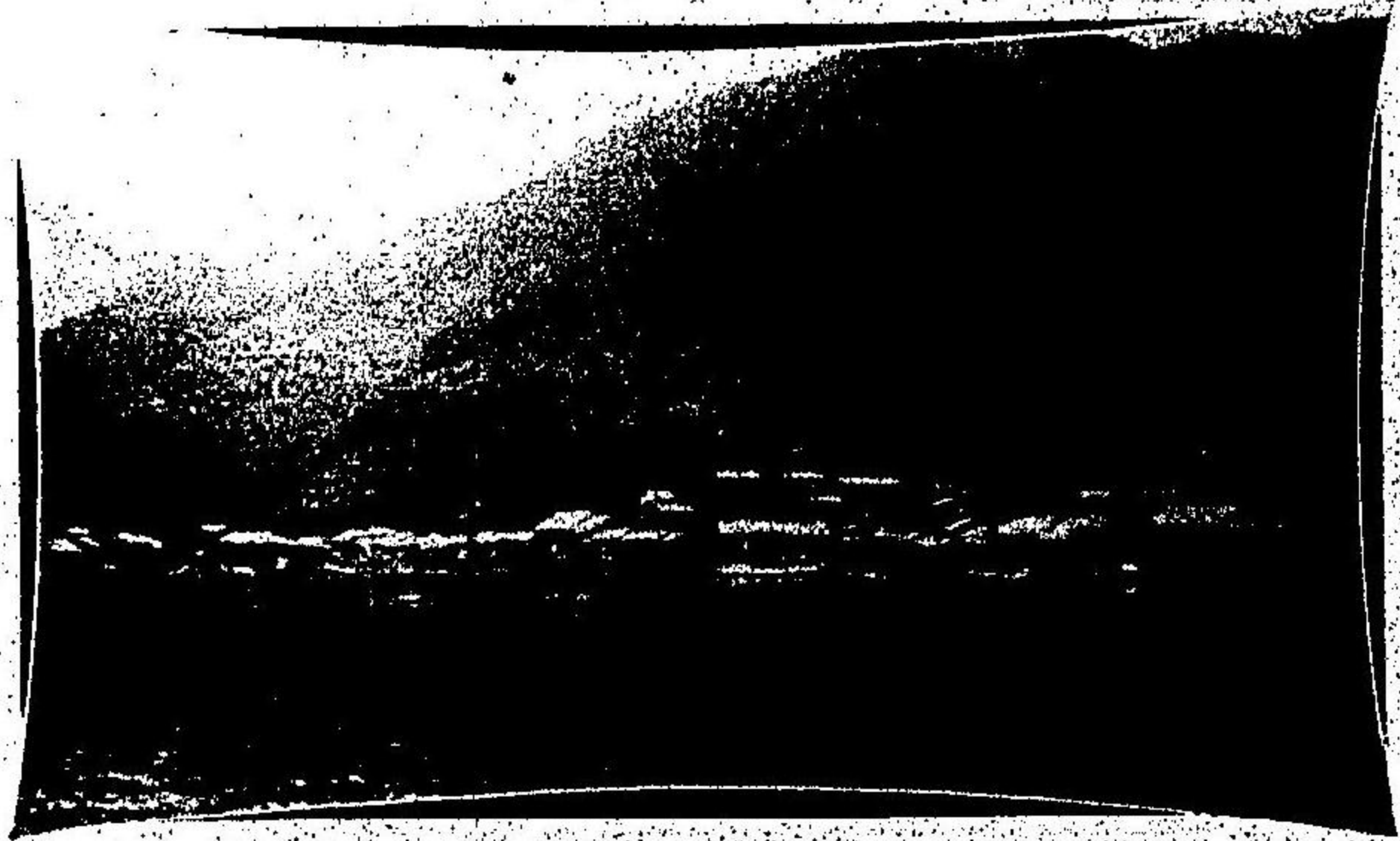


の東曾根太郎曾根次郎の峻坂を指せるものなるへし

●鵜殿貯木場 鵜殿村字江崎にあり明治二十二年三月の築造にして面積一萬八百坪あり初め鵜殿村民奈良縣吉野郡十津川郷及同郡北山郷の惣代等と謀りて築造せしものなりしか三十七年協定の結果専ら鵜殿村の所有に歸し今は同村長の管理する所たり此地音無川の河口に枕み紀州木材の搬出地として夙に世に著はる

●鵜殿挽材工場 鵜殿村字外松原にあり明治二十一年の創業にして

南牟婁郡



二木島港

鵜殿貯木場

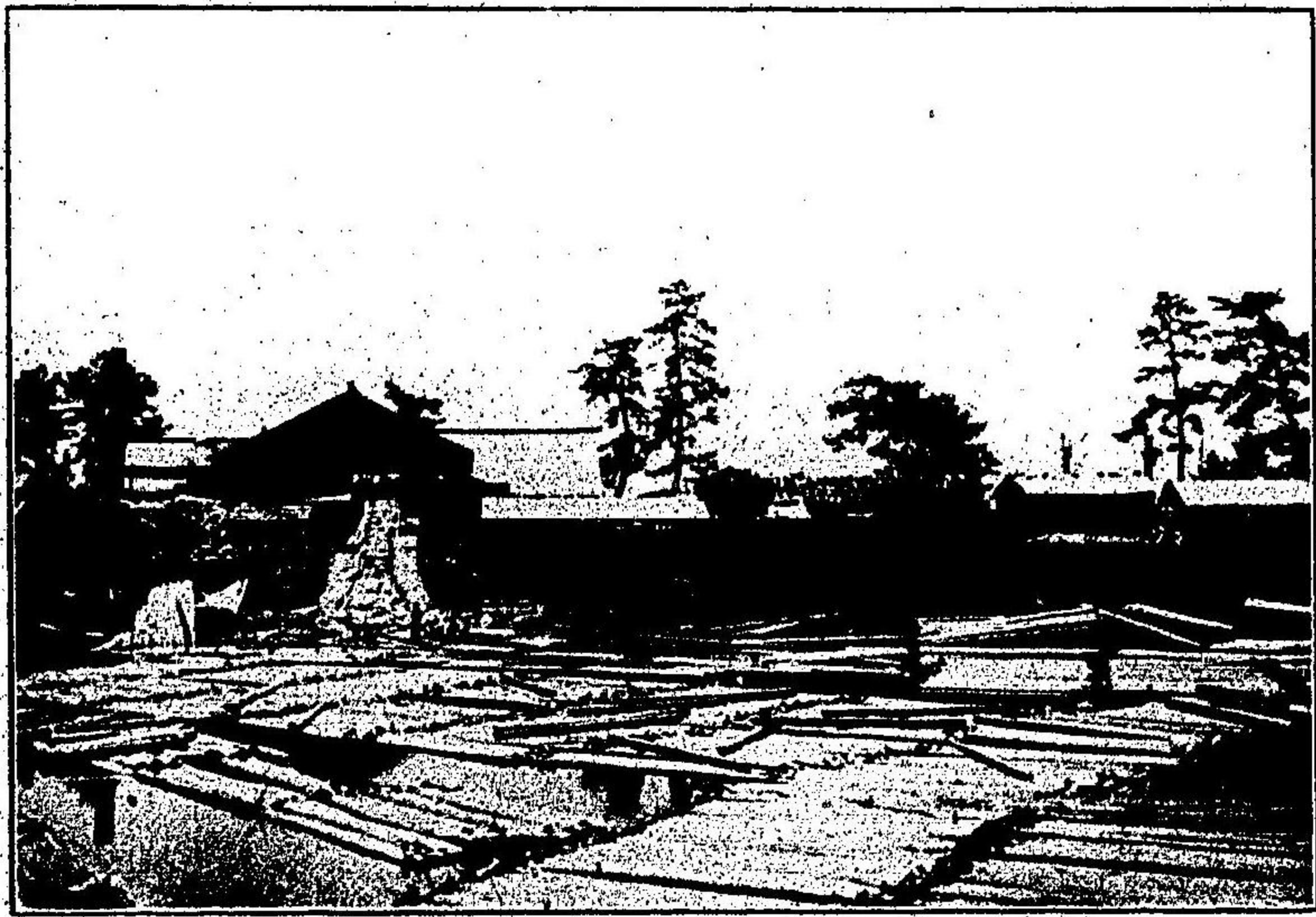


資本總額壹萬九千圓初
め合名會社なりしも後
更めて株式會社となせ
り現今の専務取締役は
安田秀藏にして蒸汽力
を用ゐて製材製板を營
めり敷地一町八反歩建
物二百五十坪汽鐘はコ
ルニツシ方鐘二個實馬
力九十馬力の原動力を
以て立鋸二臺丸鋸四臺
鉋臺一臺鑿鉢一臺鋸目

立ポンチ臺一臺其の他附屬機械を使用せり

●秦徐福の墓(木の本町より一里強)

新鹿村大字波田



鵜殿挽材株式會社工場

須にあり秦の始皇帝六國を夷け天下に號令するに當り不老不死の靈藥を求めて萬年の榮華を貪らむと
し徐福を蓬萊に遣し仙藥を探らしむ徐福は片帆滄溟を破りて熊野に上陸し復還らす此地に歿すと傳ふ
波田須の波田は秦と音通するより來ると云ふ一説に云く徐福の墓は新宮町に在る者眞なりと何れか是
なるを知らず

●阿田和の捕鯨船 鵜殿村木の本町間に於ける七里ヶ濱に臨みて阿田和村あり(木の本より四里二
十八町)古來有名の捕鯨地にして冬期は巨鯨の時々近海に來游するあり漁船又は網を以て捕獲するの
狀壯觀なり

山嵐一二の銚の轍かな

蕪村

手捕にやせんと乗出す鯨ふね

同

曉や鯨のはゆる霜のうみ

曉臺

百艘の船に取り巻く鯨かな

子規

●郡立女子技藝學校(南牟婁郡木本町) 明治三十九年の創立に係り女子に適應せる技藝と必須なる
學科を授け兼て婦徳を涵養せむとすにあり其の裁縫科は校の最も重きを置く處とす生徒定員一百名

明治四十年四月一日印刷

明治四十年四月三日發行

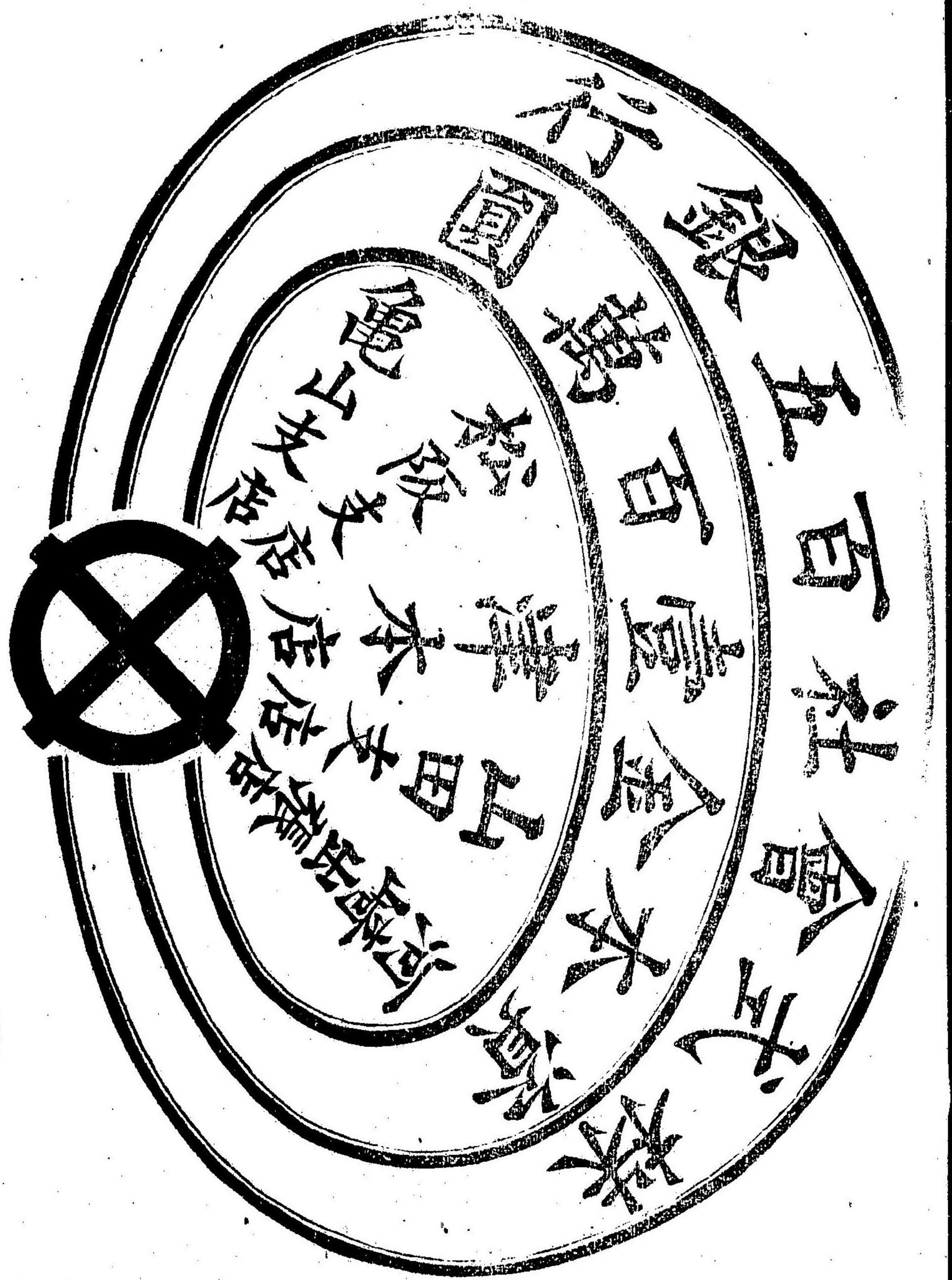
第九回關西府三重縣協賛會編纂

東京市日本橋區兜町二番地

印刷者 金澤求也

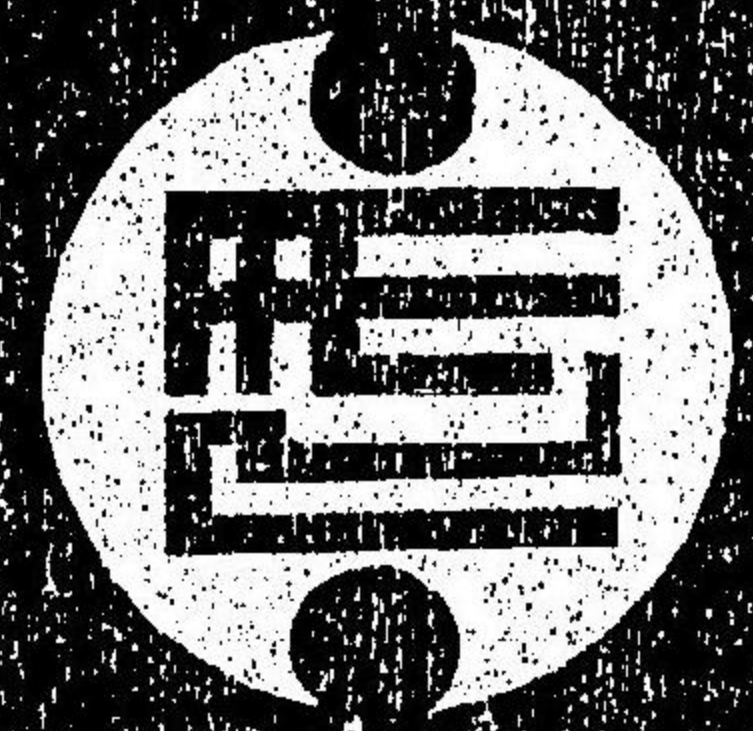
東京市日本橋區兜町二番地

印刷所 東京印刷株式會社



頭取 海野謙次郎
 營業長 鈴木弘徳

津市京口町



株式 伊勢銀行 會社

| | |
|-----|-------|
| 一身田 | 一身田支店 |
| 龜山 | 龜山支店 |
| 關家 | 關家支店 |
| 伊豫町 | 岩田出張店 |
| 新町 | 新町出張店 |

株式 津農商會社

津市地頭領里

電話一〇七番

電略ノホ

南出張店

津市石田里

田丸支店

度會郡田丸町

柗原支店

多氣郡川添村

久居支店

一志郡久居里



東京(日本橋京橋)神田(本所浅草)芝

大阪(東西南北)京都横濱

神戸名古屋藤沢横須賀

大磯御殿場熱海甲府

濱松豊橋枇杷島熱田

津島蟹江長堅福井

敦賀多治見彦根櫻川

奈良鳥取松山潮岬

串本長島錦下里新宮

尾鷲引本島津堅後

柗原鳥羽山田丸大淀

丹生齊宮松坂久居龜山

曾布菜名阿下喜上堅阿保

株式 三重縣農工銀行 會社

本行 電話 長二九〇
支店 電話 七〇六三

一 農工業改良發達ノ資本ハ本ノ方法ニ依リ

便利ニ貸出シ可仕候

年賦貸

二十ヶ年以内ニ於テ年々同
金額ヲ住拂ヒ元利ヲ完済
スル方法

定期貸

五ヶ年以内ニ於テ元金ヲ分
済シ又ハ一時償還スルノ方
法

抵當ハ不動産ニ限リ候尤モ都市町村公

共團體ニハ無抵當ニテ貸出可仕候

排水灌溉道路修繕等ノ町村大守事業及

農業者ノ肥料共同購入資金ハ貳拾人

以上連帯ニテ御申込相成候ハ無

抵當ニテ貸出シ可仕候

一 定期預リ金ト有價證券ノ保護

預リハ上トシテ確實便利ニ取扱可仕候

海軍御用酒



翁銘酒樽油
は原料を精選

し多年の精製

に合理的製造

を採用製造す

故に品質の純

良風味の作

る殊に夏季防

腐蝕を用ひ

して變味せ

るは弊店獨特

の優技を誇る

所又其筋の御

検査に明証す

ひ至便にし

用諸君の御愛

甚高、隨て販

進物用には

尤も恰當の

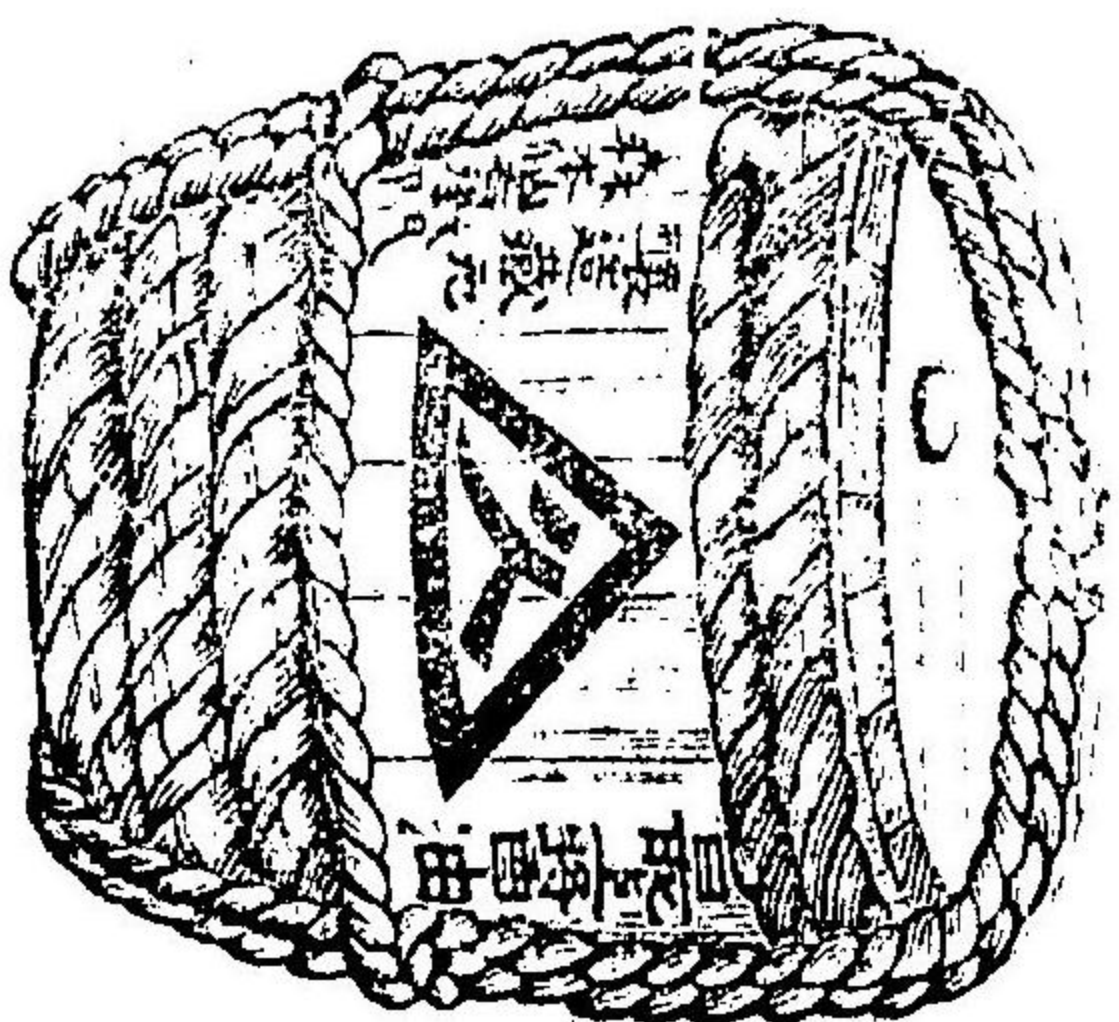
品あり

大方の各位御

試用御高計お

らんことを希

最上 芳馨 佳味 醬油



頭受賞製博覽博園内川止第

最優等賞金看板受領

三重縣下銘酒投票第一位

元造 釀

三森 重縣 津市 岩田 右衛門 南橋 門



救國軍

三木屋治平
 三木治進
 三木治進遠店
 關西鐵道津驛前
 三木治出張店
 三木治出張店
 三木治進遠店
 三木屋治平

紙

三重縣津市京口町

村田長左衛門

NESTLÉ

連帶責任
取引正確

國內通運株式會社

津取引店(津市丸之內)
津驛荷扱所(津市停車場前)

NESTLÉ

近江國甲賀郡湯田

田中信一郎

伊賀上野農人町

寺井與三吉

宇治山田浦浦ノ橋

奥村宅一

松坂日野町

中村辨吉

津市岩田町

藤崎新藏

津市入江町

同支店

津市常磐町

同支店

支店及特約販賣所名

醬油

銘酒

神戶

釀造元

三重縣津市餘慶町

十一屋

高井作右衛門

阿漕浦

風光明輝絶景無比ナリ
 四季：保養ニ適シ就中避暑ニハ他
 ニ比類ナシ
 水清ク岸遠淺ニシテ游泳及海水浴
 ニハ尤モ適當ナリ
 別荘建貸家ノ設備アリ又御望ミニ
 ヲツ更ニ新築ノ上御貸上ゲモ御相
 談可仕候

三重縣津市極樂町

後藤仁兵衛

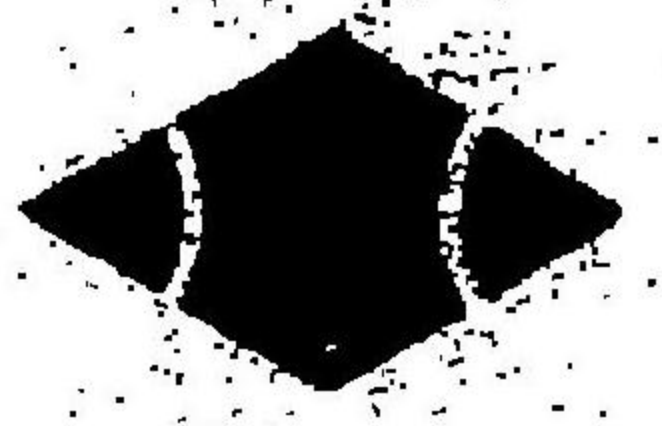


登録商標
 露

之ノ露 ハ純真芳烈者ニ有害物ヲ含ザル好
 飲料酒ナリ
 之ノ露 ハ内閣勸業博覽會及共進會品評會
 ノ有功優等賞牌ヲ受領スル丁數次
 ナリ
 之ノ露 ハ征露戰役中陸軍省ノ御用ヲ蒙リ
 滿州軍ヘ納酒シタリ
 之ノ露 ハ征露全勝平和克復御奉告トシテ
 東京殿下伊勢大廟ヘ御参拜之節御
 買上ノ光榮ヲ蒙ス

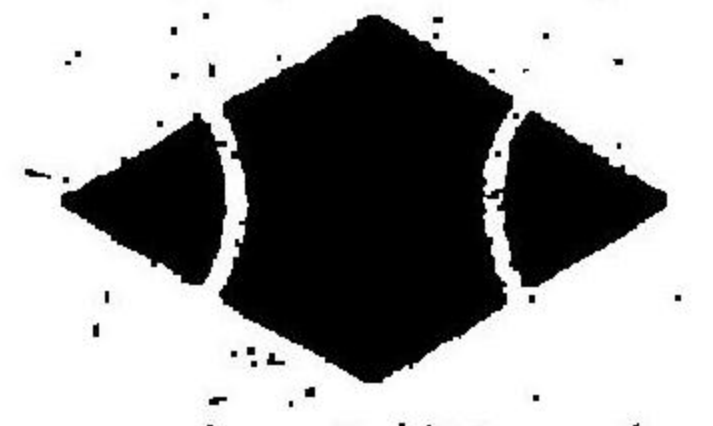
醸造本舖 伊勢津市上瀬町 青山久四郎
 一手販賣店 同市築地 川喜田四郎兵衛
 同 宇治山田市河崎 岡島庄吉
 同 東京新川 三橋甚殿

肥料酒類
 販賣業

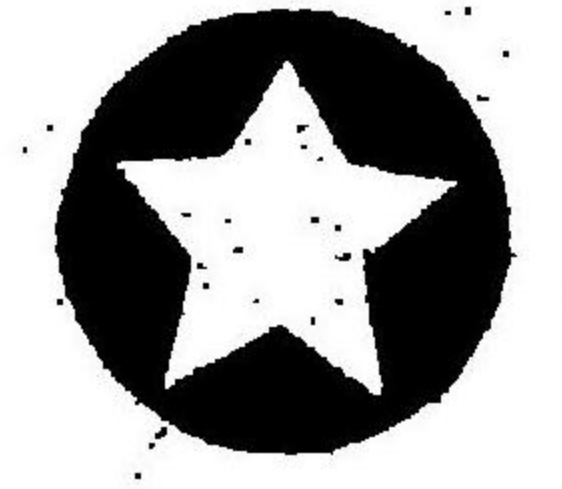


津市京口町
 小島惣右衛門

肥料穀物
 委託賣買業



津市船場町
 元馬場屋敷
 小島支店



東京深川釜屋堀
 東京人造肥料株式会社
 特約販賣所

長電話 四參番

柳 柳屋吳服店
津市分都町

吳服太物齋

THE TAILOR FOR FOREIGN CLOTHES.

S. MUMEMOTO & CO.

T.S.U. ISE. JAPAN

部 服 洋

戰後洋服界、發展伴大活動、
目的以全圖裁縫就、永多佛人、
手元於養成之技師、橫濱、
聘用致候付裁縫、薪新ナト至、
高尚ナト加之廉價ニ耐久のナト、
弊店、絶迄保証之所有之候
間續々御用命奉業上候



部 貨 雜 來 舶

帽子各種・メリヤス・膝掛草鞋
洋服附屬品・文房具類・金庫
小間物類・其他舶來雜貨一切
右季節向各種荷着仕居候間
續々御用命之程奉願上候

官鹽卸小賣并ニ再製鹽販賣
米穀委託販賣業

津市築地町

舞野久兵衛

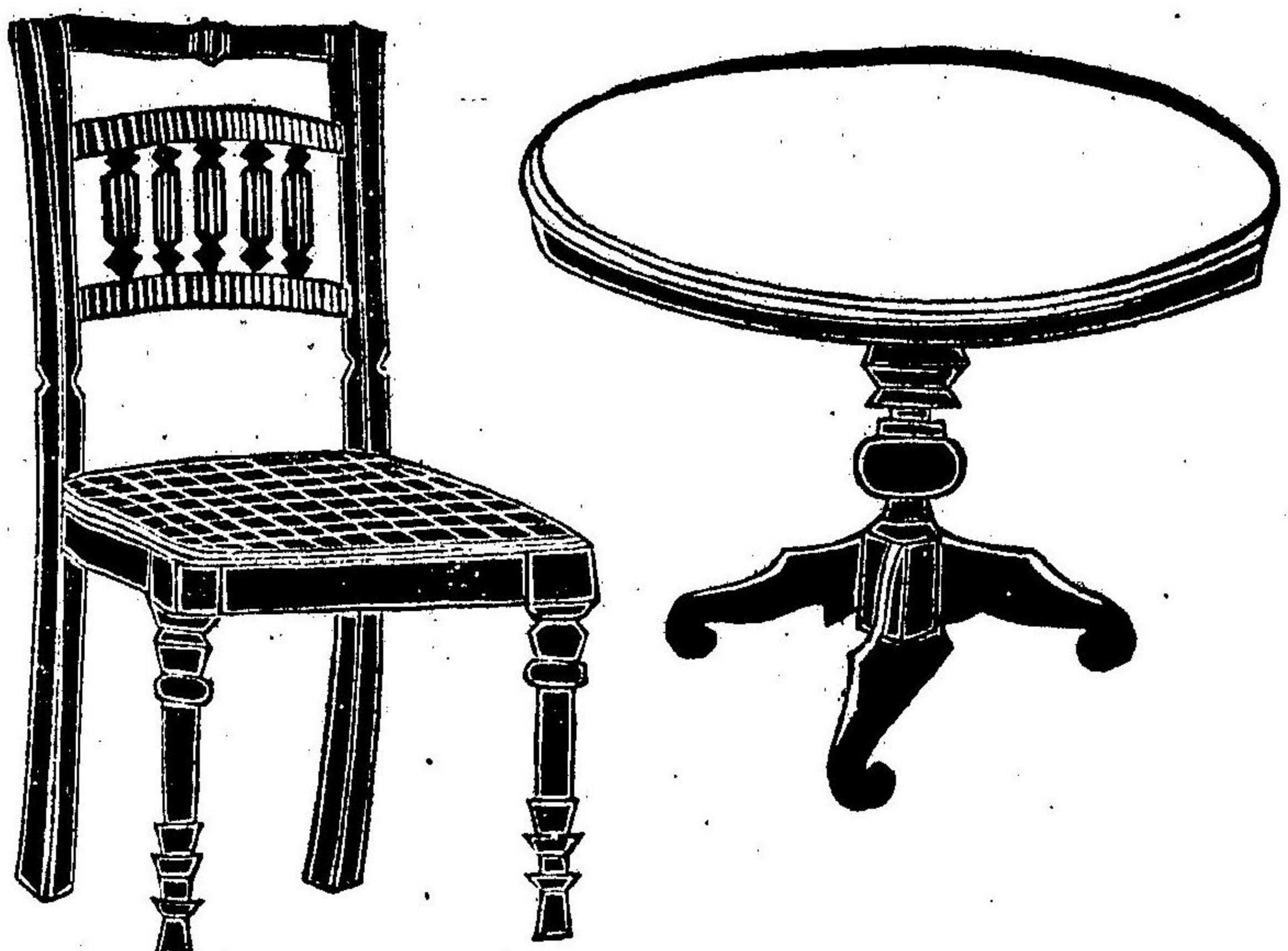
洋紙 和紙 卸商
學校用品



津市分部町

三藤治兵衛

西洋家具建具指物商



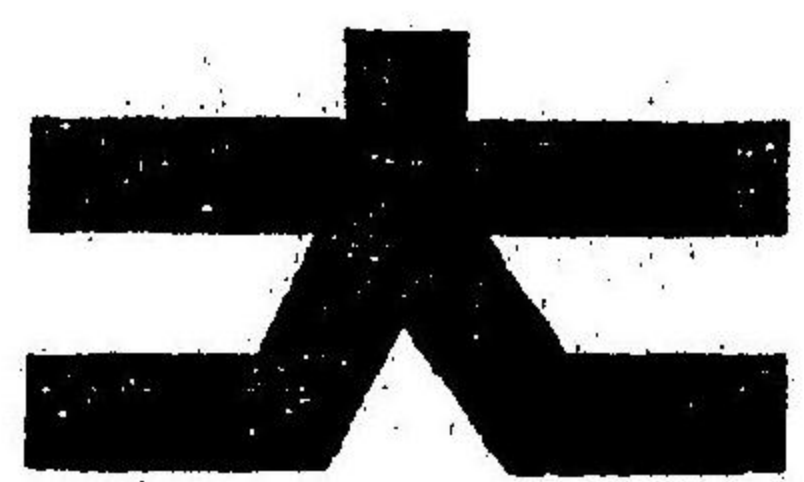
西洋家具は
安價なる籐
張椅子より
極上等安樂
椅子及卓子
其他一式建
具指物は並
障子兩戸よ
り極上等座
敷欄杆其他
商店用諸戸
一切製作物
品

諸官衛
社御用達

津市地頭領町

川出牧五郎

大坂商船株式會社



津荷客扱店

津市築地町

太田回漕店



營業種目

- 一 内外藥品
- 一 醫療器械
- 一 物理學器械
- 一 博物標本
- 一 運動及七器械
- 一 滋養洋酒及食品
- 一 繪具染料
- 一 有名賣藥

誠實と迅速に廉價と撰品を旨として御用達可仕候間多
 少に不拘御用御高命の榮を蒙り度奉懸願候

諸官衙御用達
 津市伊豫町
 藤枝仁兵衛商店

津市釜屋町

肥料商

田中林助本店

商號 田中林

營業種目

海產魚肥料 各種人造肥料

米產 硫酸安母尼亞 雜穀類

津市築地町

內外米雜穀
肥料問屋

田中林助支店

電話(タ)又(タナカ)

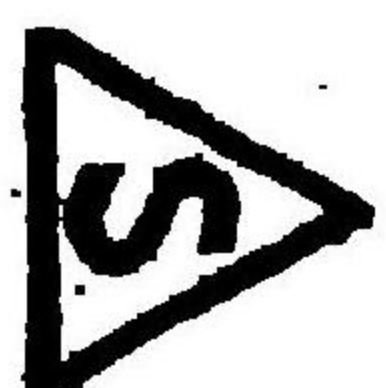
營業管
目科業

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 委 | 大 | 海 | 內 | 外 | 米 | 雜 | 穀 |
| 托 | 豆 | 產 | 肥 | 料 | 料 | 料 | 料 |
| 販 | 柏 | 料 | 料 | 料 | 料 | 料 | 料 |
| 賣 | 賣 | 賣 | 賣 | 賣 | 賣 | 賣 | 賣 |

登錄商標



機寸製造所



勢

陽

社

社主 水谷喜八

三重縣津市停車場前北入

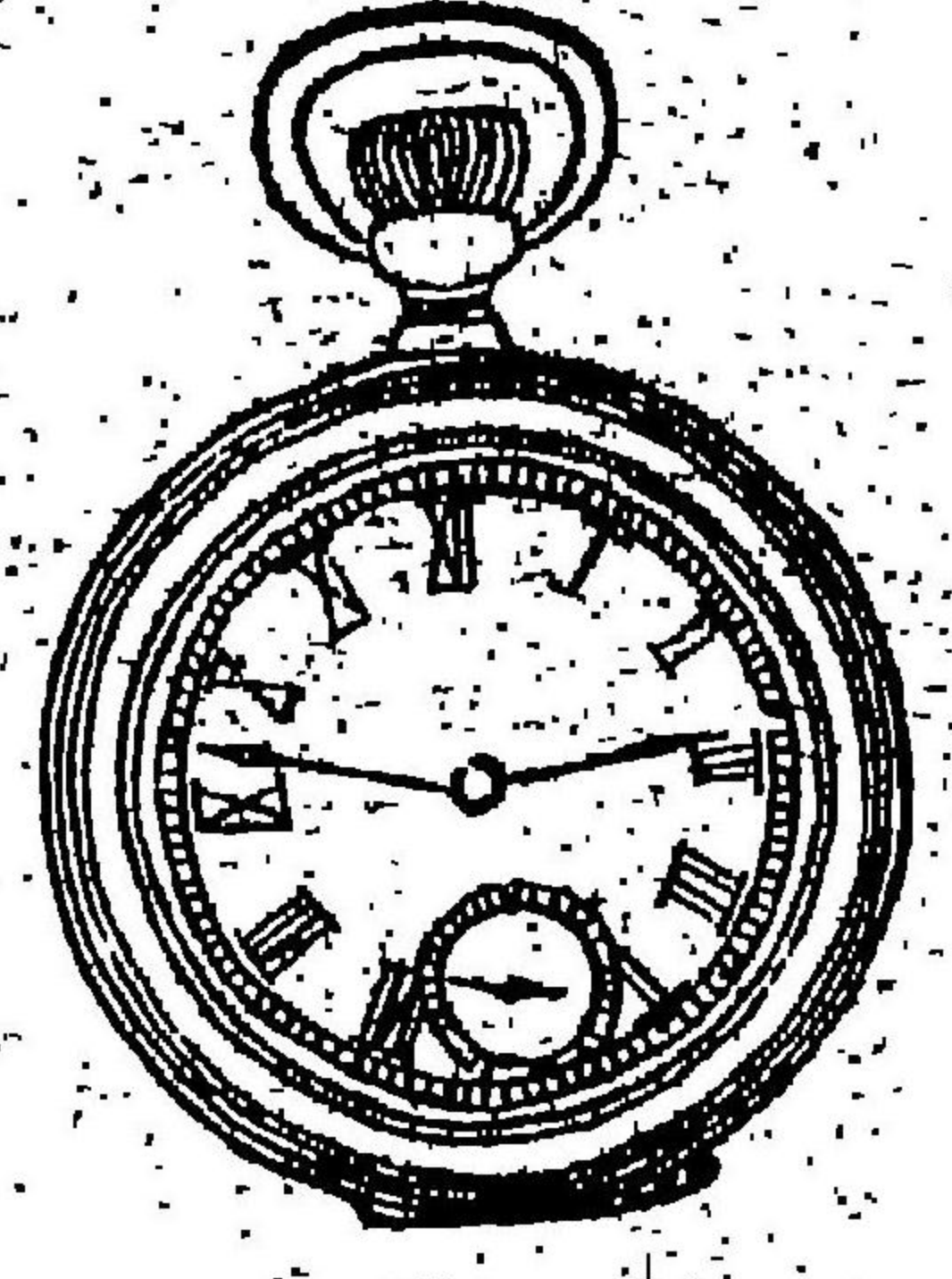
木綿問屋

日 倉 富田金七
三重縣津市上濱町

出 の 富田支店
大阪市東區平野橋東詰

織 富田支店
紀州新宮御幸町

富田織布工場
三重縣一身田大字中野

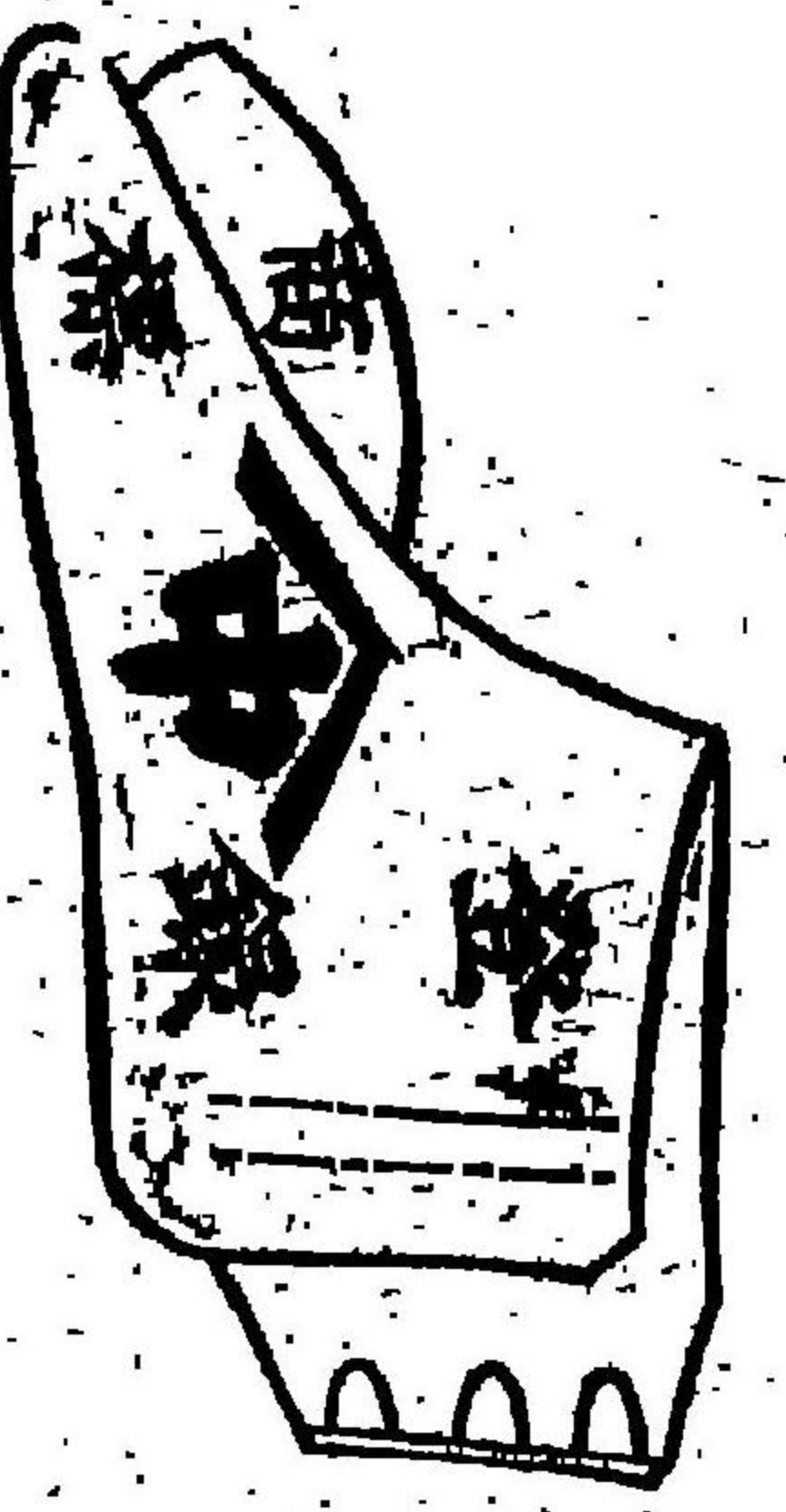


○時計類 ○時計修繕専門
○眼鏡類

販賣所 林時計店
津市分部町

◎全國到ル所ニ販賣セリ

製造發賣元 堤 助
三重縣津市宿屋町 高橋中屋商店



第五回内國大博覽會ニ於テ二等賞牌
受領其他名譽ナル賞牌數個受領
チドリたび

津市大門町

津支店

資本金
貳百萬圓



株式會社

愛知銀行

四日市藏町

四日市支店

洋服裁縫 舶來箱價

弊店ハ百事誠實ヲ旨ト
シ專心永遠ノ御愛顧ヲ
希望ス

郵便振替貯金口座
番號第參六壹八番
電信器稱ヲサシヤ
長電話六壹番

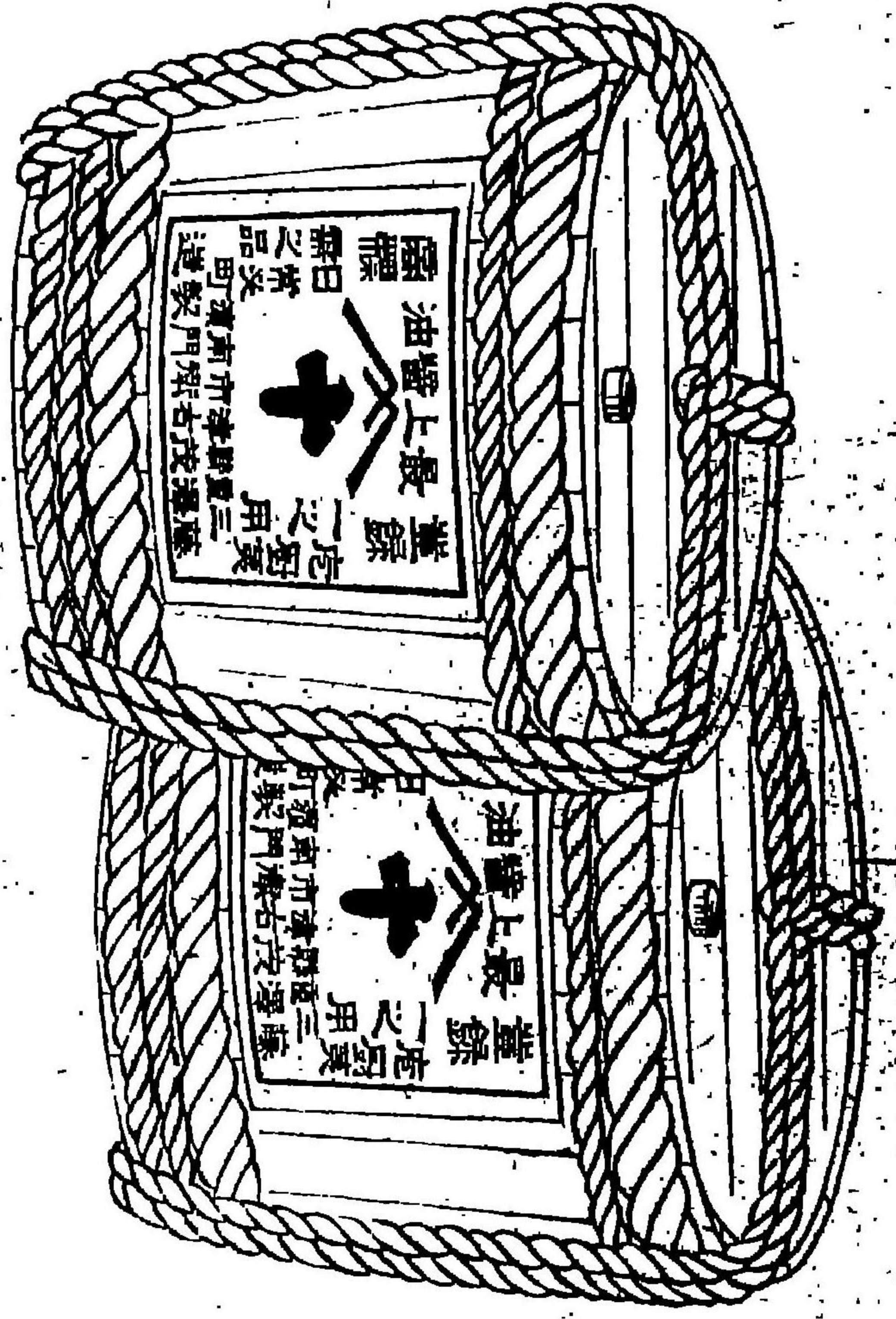
子屋源

本店津市大門町

- 第一支店 紀伊國新宮町
- 第二支店 津市中之番町
- 第三支店 韓國釜山辨天町
- 第四支店 韓國京城南大門通

藤澤授古門

三重縣津市南濱町



千日回國研



株式會社 仲買人

津米穀株式取引所

三重縣津市東町二十六番屋敷

創立 明治二十六年十一月
 資本金 拾萬圓
 積立金 五千貳百圓

- 岩田末吉 (津市東町)
- 堀内喜兵衛 (津市新立町)
- 別所周太郎 (津市東町)
- 岡半右衛門 (津市東町)
- 奥田喜一郎 (津市東町)
- 永原奎藏 (津市新立町)
- 丸岡爲之助 (津市新立町)
- 安藤芳松 (津市東町)
- 塩見專三郎 (津市東町)

貨物運送中 取扱

明治運送會社取引店

伊勢津市停車場前

山中傳四郎出張店

長電話 五參番

伊勢津市阿漕停車場前

山中傳四郎出張所

長電話 五壹番

伊勢四日市々停車場前

山中傳四郎支店

長電話 壹〇六番

神戸市榮町貳丁目

山中傳四郎出張店

長電話 壹〇壹七番

伊勢四日市々川原町

山中傳四郎本店

長電話 壹壹四番

營業項目

純良醫藥品
有名諸賣藥品
工業用藥品
繪具染料品
物理化學器械品
化學用藥品類
度量衡器具類
寫真術材料類
騰雲液附屬品
洋酒並煉乳
洋食品各種
滋養品各種

三重縣津市分町部

加藤勝藏商店

高野商 屋本 電話 五拾六番

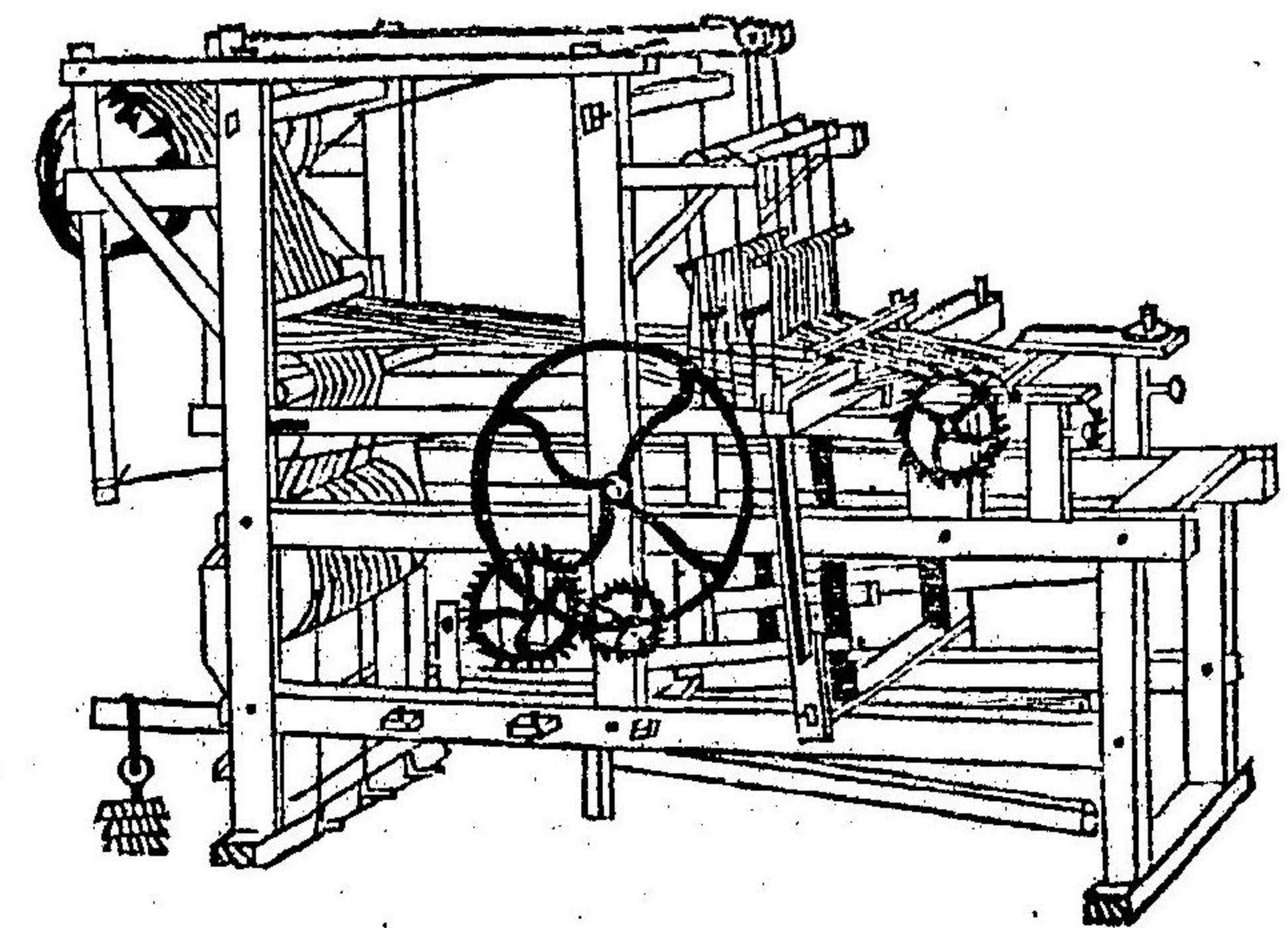
郵便 座口三千七百八番

凱旋紀念五二共進會
 有効金牌受領
 製品浴巾ハ宮内省へ御買上テ蒙ルム

特許淺野式浴巾織機

發明者 淺野新八

一本タオル織機ハ女子ニテモ
 簡易ニ使用スルヲ得ル最
 新ノ發明ニシテ從來ノバツ
 タン織ニ比シ三倍以上ヲ製
 織シ得製品ハ一定均一ニシ
 テ輸出ニ適ス



三重縣津市萬町

淺野商會

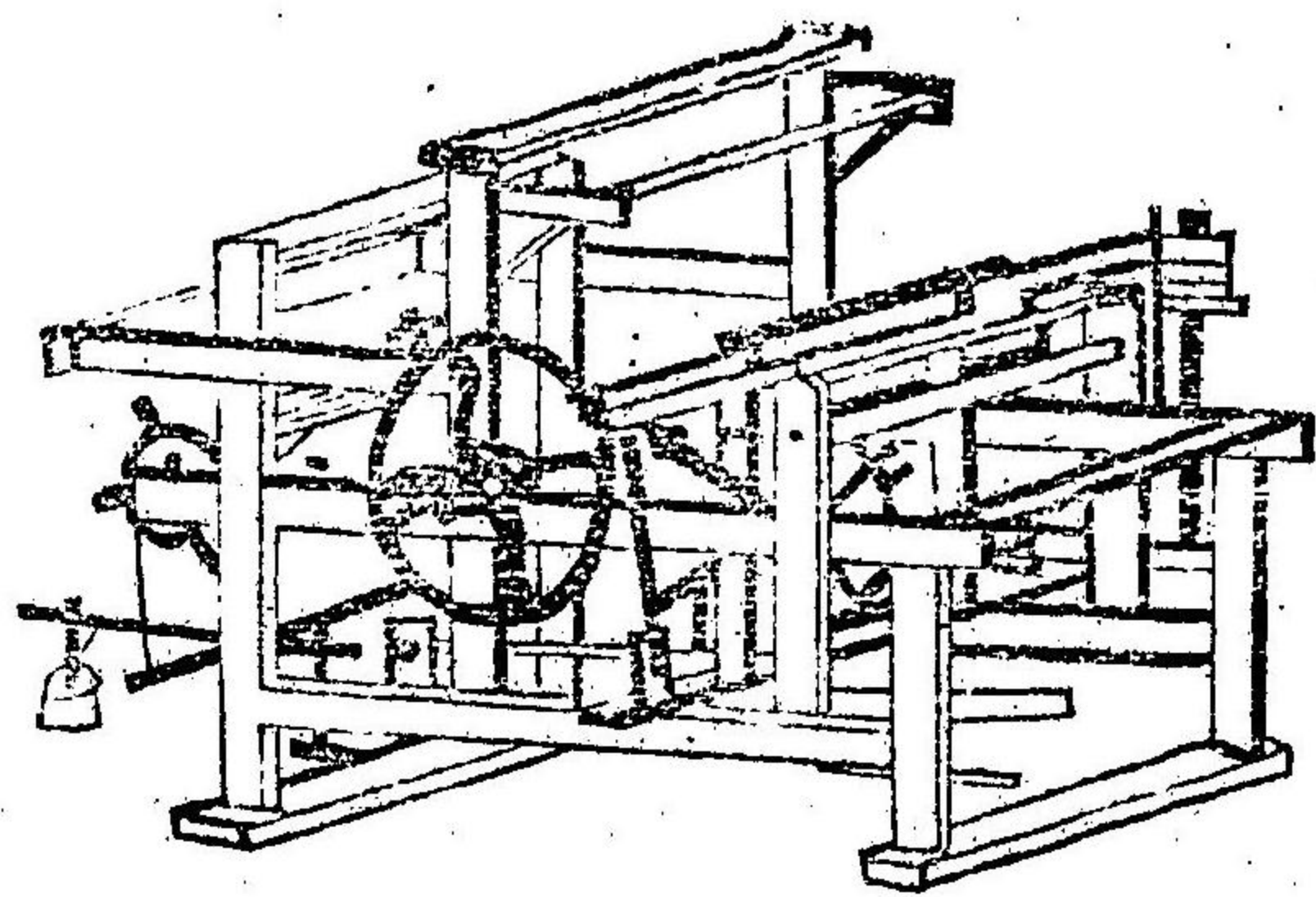
織機製造販賣所

鐘ニ金
 淵應五
 紡ジ百
 績第圓
 株貳及
 式等ヒ
 會賞金
 社ニ益
 懸當受
 賞撰領
 募シ
 集賞

特許淺野式停止裝置織機

發明者 淺野新八

一本織機ハ素人ガ簡易ニ使用
 スルヲ得ル者ニシテ若シ
 縱糸内へ杼ヲ插ミ箴打ナセ
 ントスル時ハ本機ハ自動的
 裝置ニヨリ直々ニ運轉ヲ停
 止シ縱糸ヲ毫モ切斷スルノ
 憂ハ無キヲ以テ織布ハ一定
 均一ナラシムルヲ得



三重縣津市萬町

淺野商會

織機製造販賣所

和洋酒塵

津市公園前

辻本店

同雜貨

清國旅順口乃木町三丁目

伊勢屋 辻支店

篤實ト懇切
正直ト機敏
ハ當店ノ特
色ナリ



目種業營
疊紙石米内 外 砂 糖
利 堅 油 粉

大日本精糖株式会社特約販賣店

津市上濱町

伊藤太七商店

長電話壹壹五番電器イタ



津市旅館

(イロハ順)

| | | | | | |
|---------------------|-----------------------|---------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 榮町 鍋屋 電話長七〇番 | 京口町 加喜伊 電話長壹貳〇番 | 藏町 岡宗 電話長參七番 | 岩田橋詰 橋龜 電話長貳八番 | 中之番町 林家 電話長貳八番 | 榮町 井筒屋 電話長六八番 |
| 榮町 勢榮館 電話壹貳四番 | 丸ノ内 式屋 電話長四七番乙 | 萬町 金時 電話長四七番乙 | 中之番町 國分屋 電話長貳〇番 | 西町 古梅軒 電話壹貳壹番 | 停車場前 松坂屋 電話長壹八番 |

會席御料理

并ら御茶漬

四季花あり

津市入江町

生月

COOKERY

日本御料理
西洋御料理
内喜亭

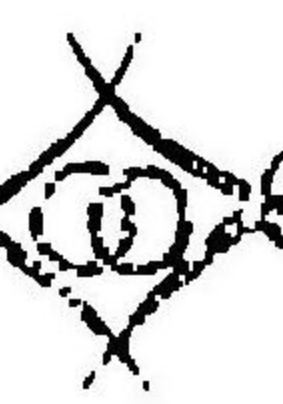
津市西町小路東へ入ル

玉突遊戯場アリア

◎實用ニ適スル全國無比ノ織機ナリ

專賣特許七〇六二號 實用新案四〇七六號
創業明治貳拾五年三月

登商



特許(丹羽式)輕便足踏織機

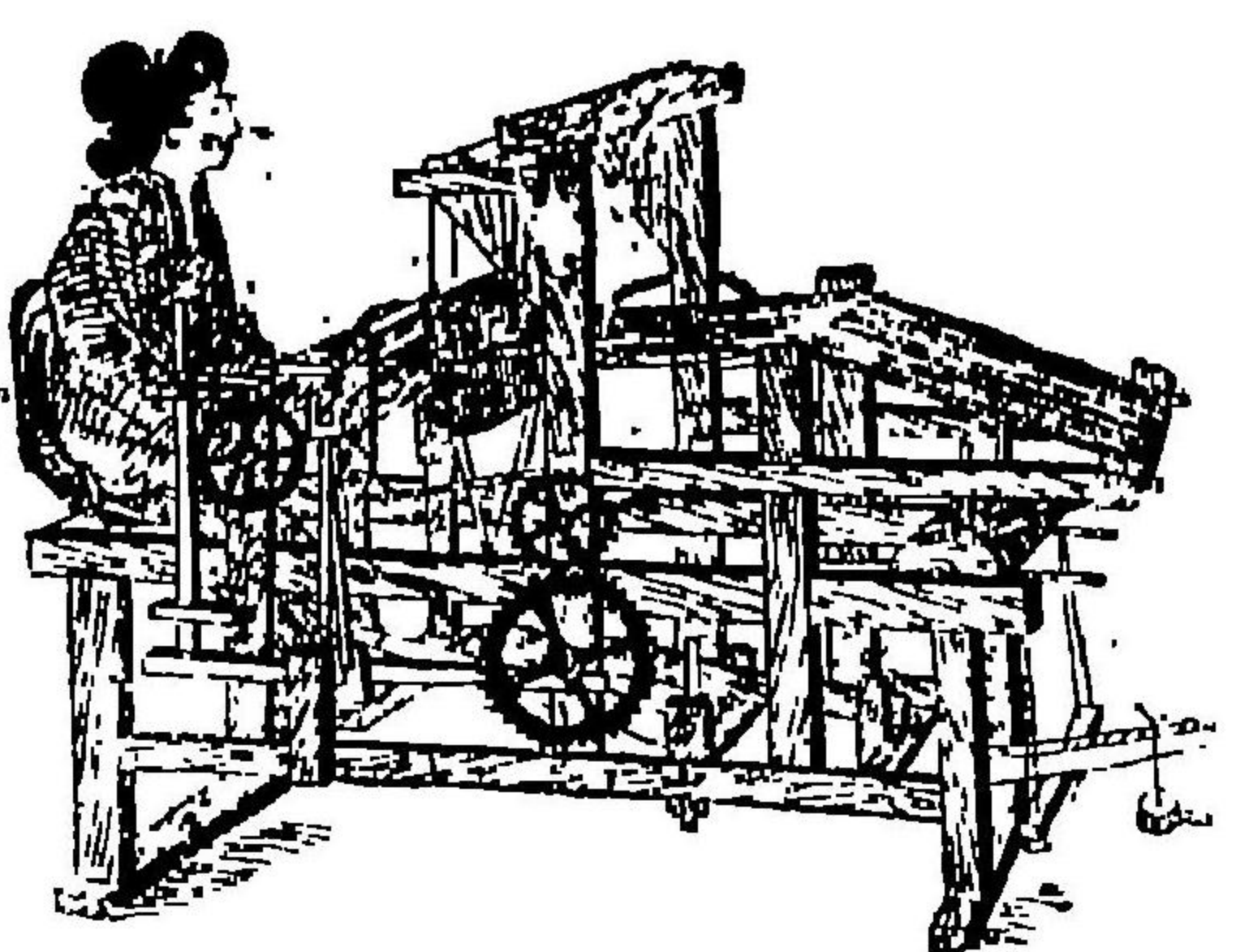
録標

凱旋紀念五二共進會ニ於テ

賜宮内省御買上之光榮 有功金牌受領

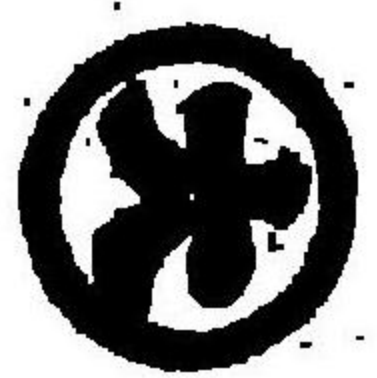
鐘淵紡績株式會社ニ於ケル全國織機懸賞募集ニ應シ審査ノ結果二等二當
選シ 金杯并金五百圓受領

○説明書并定價表ヲ要スルキハ返信用切手參錢封入申込ノ事



三重縣津市下部田

製作販賣所 (舊松田式繼續者) 丹羽商會



吳服販賣業

前川幸助

三重縣津市東町



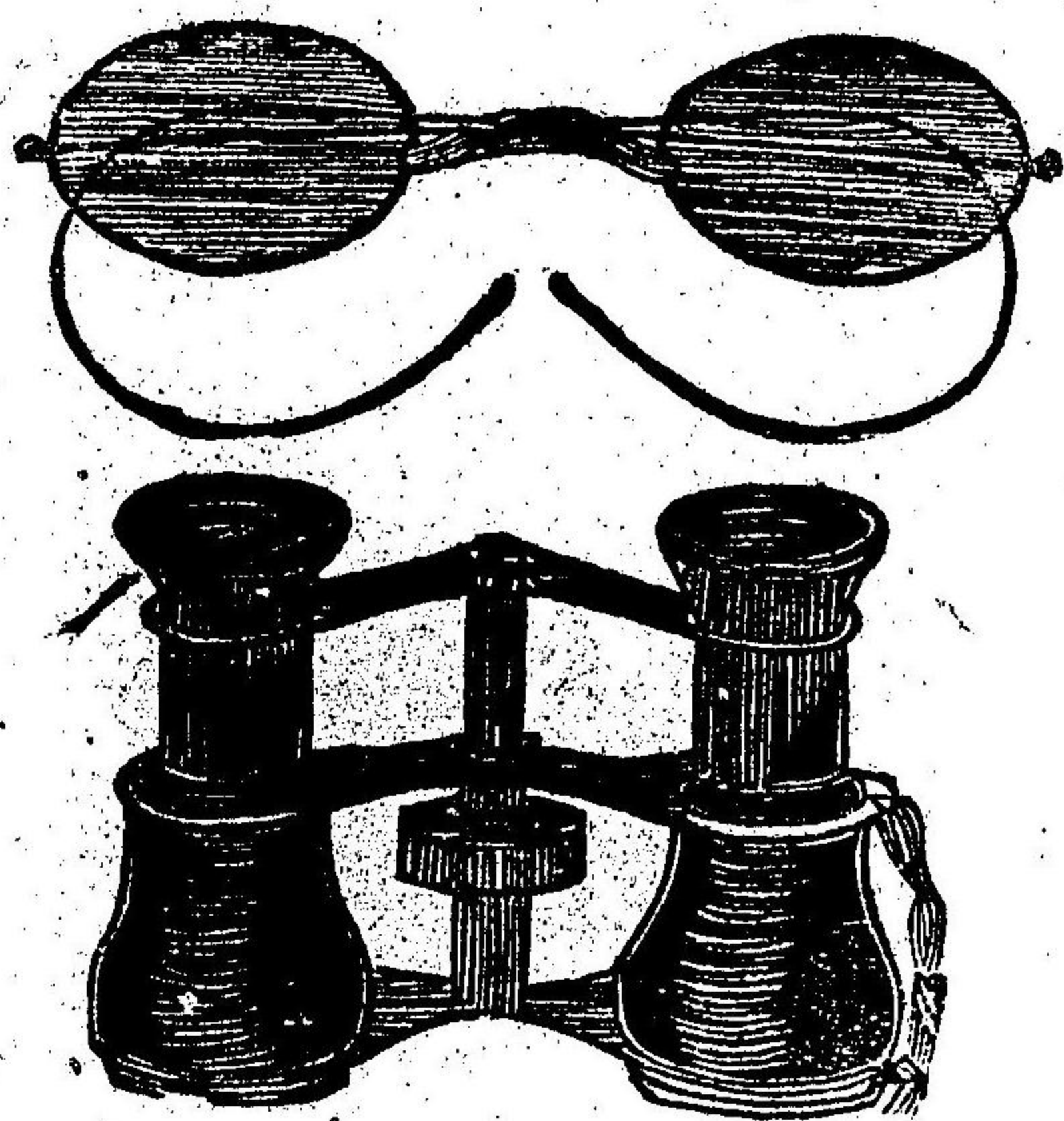
伊勢津分部町

岡藤四郎商店

岡田勢太郎商店

取引 確實

○內外眼鏡類一式

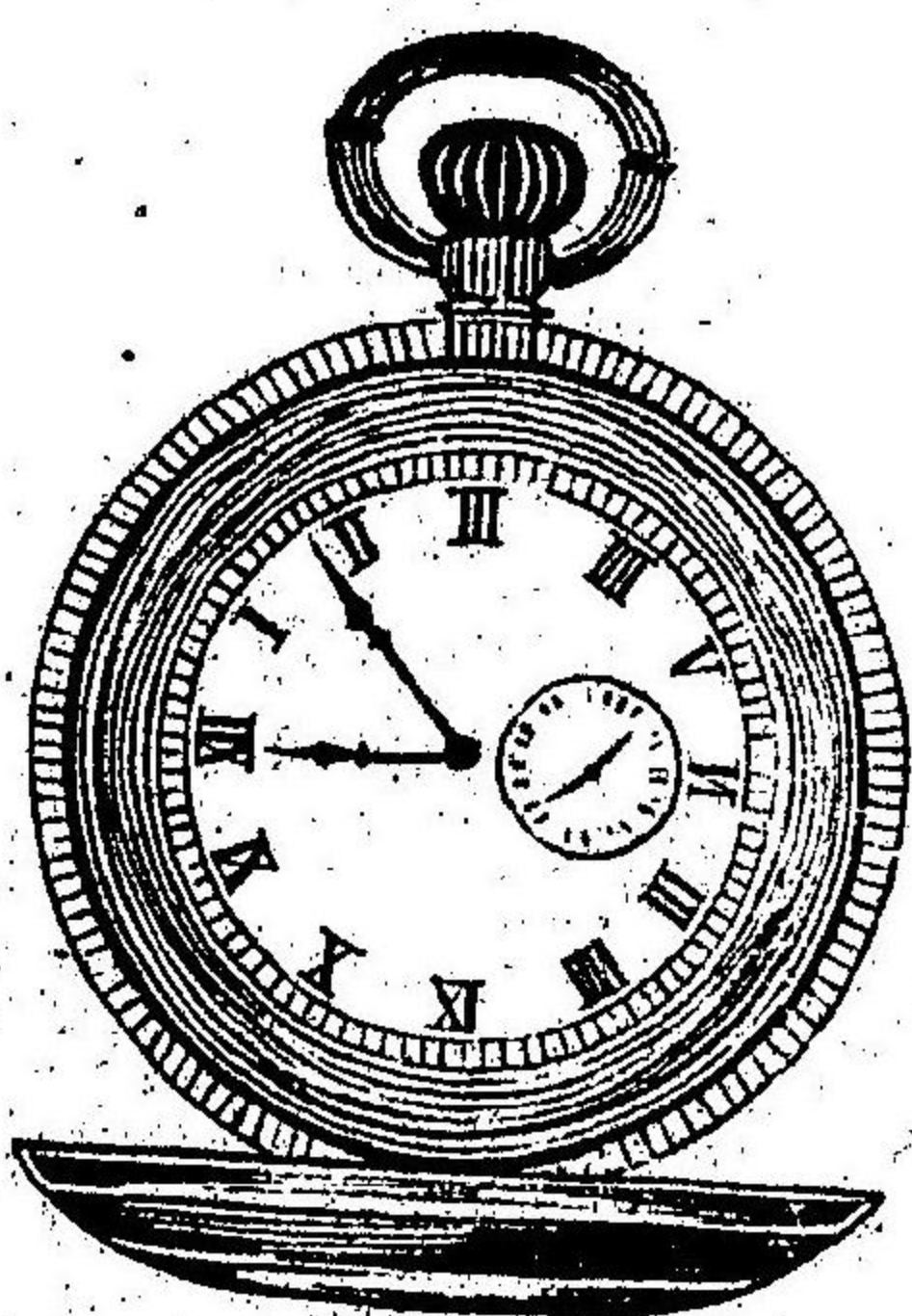


○關西各眼瞭院御用達
○舶來雜貨各種

三重縣津市大門町七番邸

白子屋商店

營業種目



誠實
薄利
正札附

○各國時計類眼鏡指輪其他附屬品一式
帽 子 シヤツ 和洋化粧品
袋 物 羽織紐 學校用品
院具類 津名産物 火き焼
名所繪葉書其他雜貨品種々
右之品誠實薄利ヲ以テ販賣仕候間御用仰付
之程奉願上候

時計商 津市大門町 嶋地商店
雜貨

御買上品

天皇陛下
皇太子殿下

伊勢神宮御參拜之際伊勢編
木綿特別織
右天覽を仰候處特に御買上
數品の御恩命を拜す
第三四五回内國勸業博覽會
有功賞牌及褒狀受領
各地聯合共進會一二等及三
等有功賞牌數個受領
其他褒狀

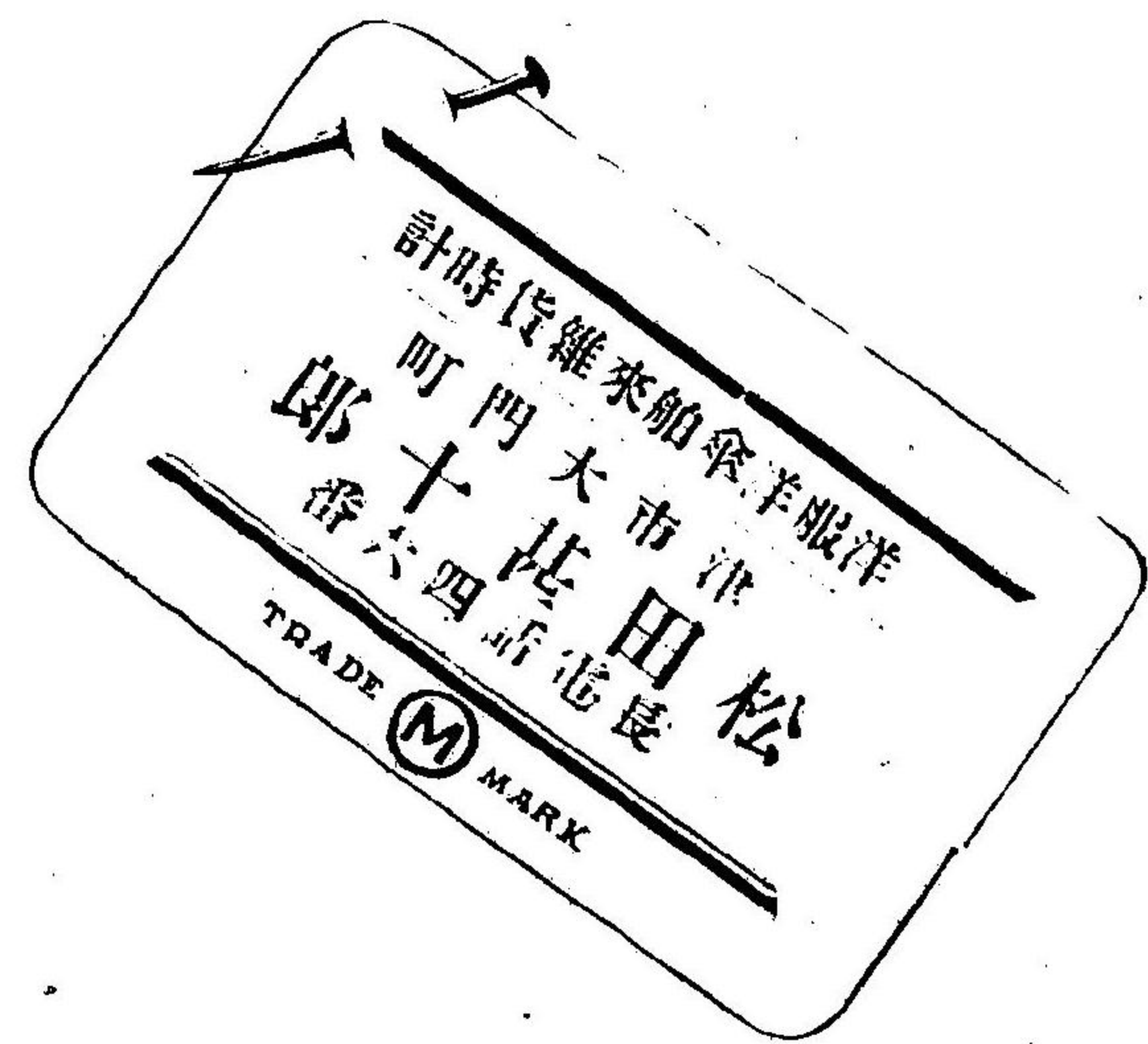
登錄商標

伊勢工織

津市 牧野織工場

國產木綿 製造元
ユウキ織

伊勢國津市常磐町
令 牧野房吉商店



無堅速製卓技
比牢速作越術

信用確實
價格低廉

材料精選卸賣仕候

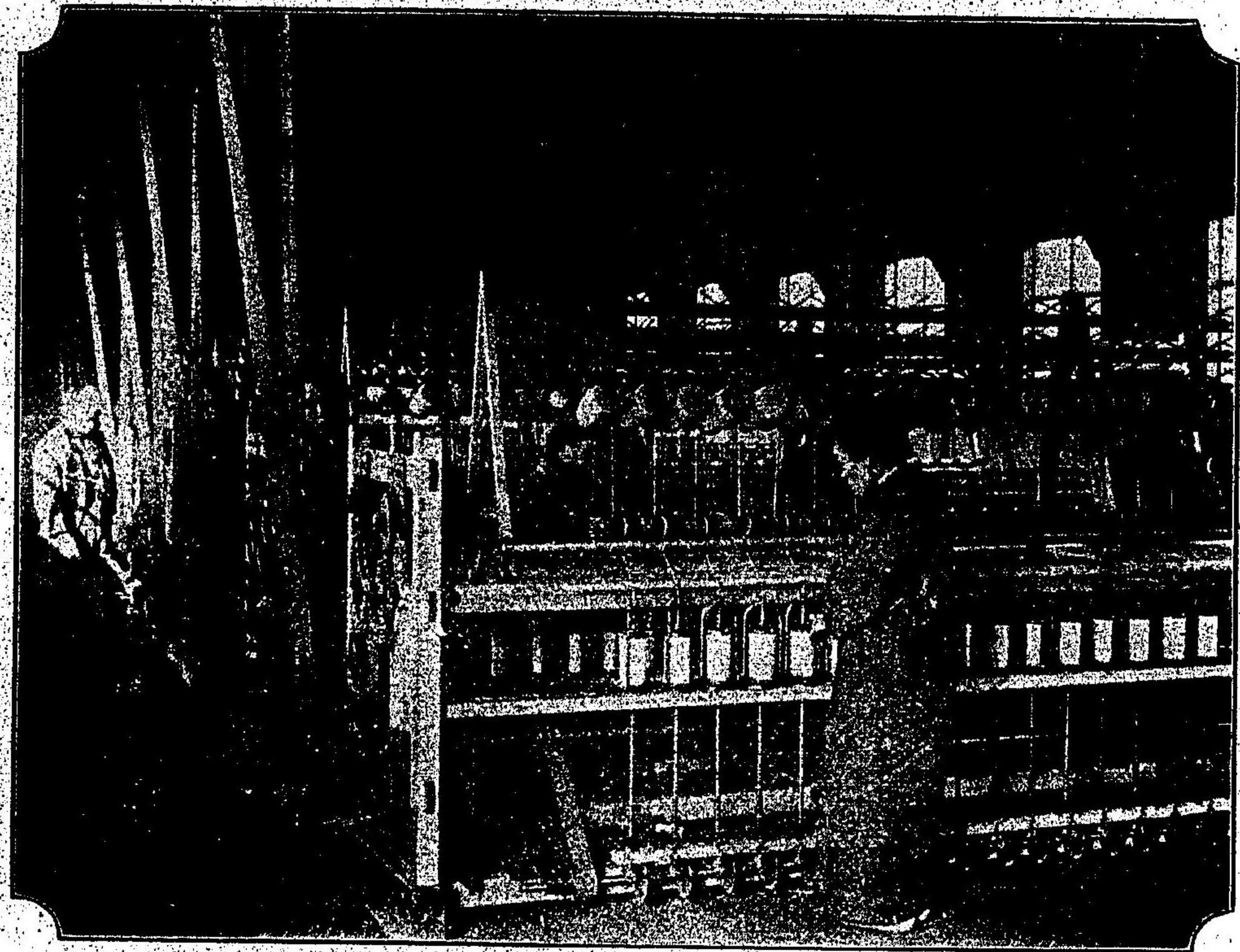


靴製造商

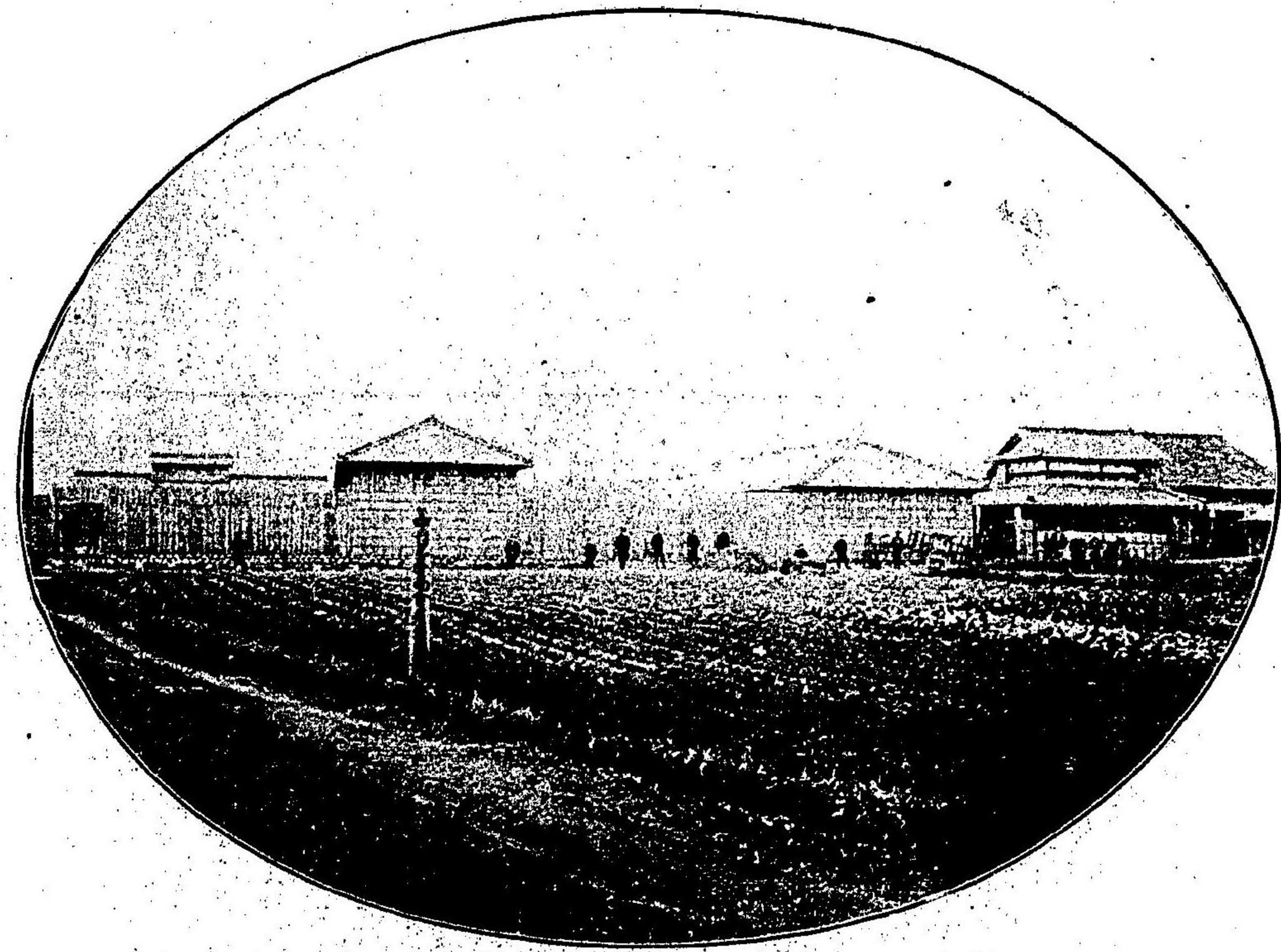
津市丸之内貳拾九番地

西岡密次郎

敬白



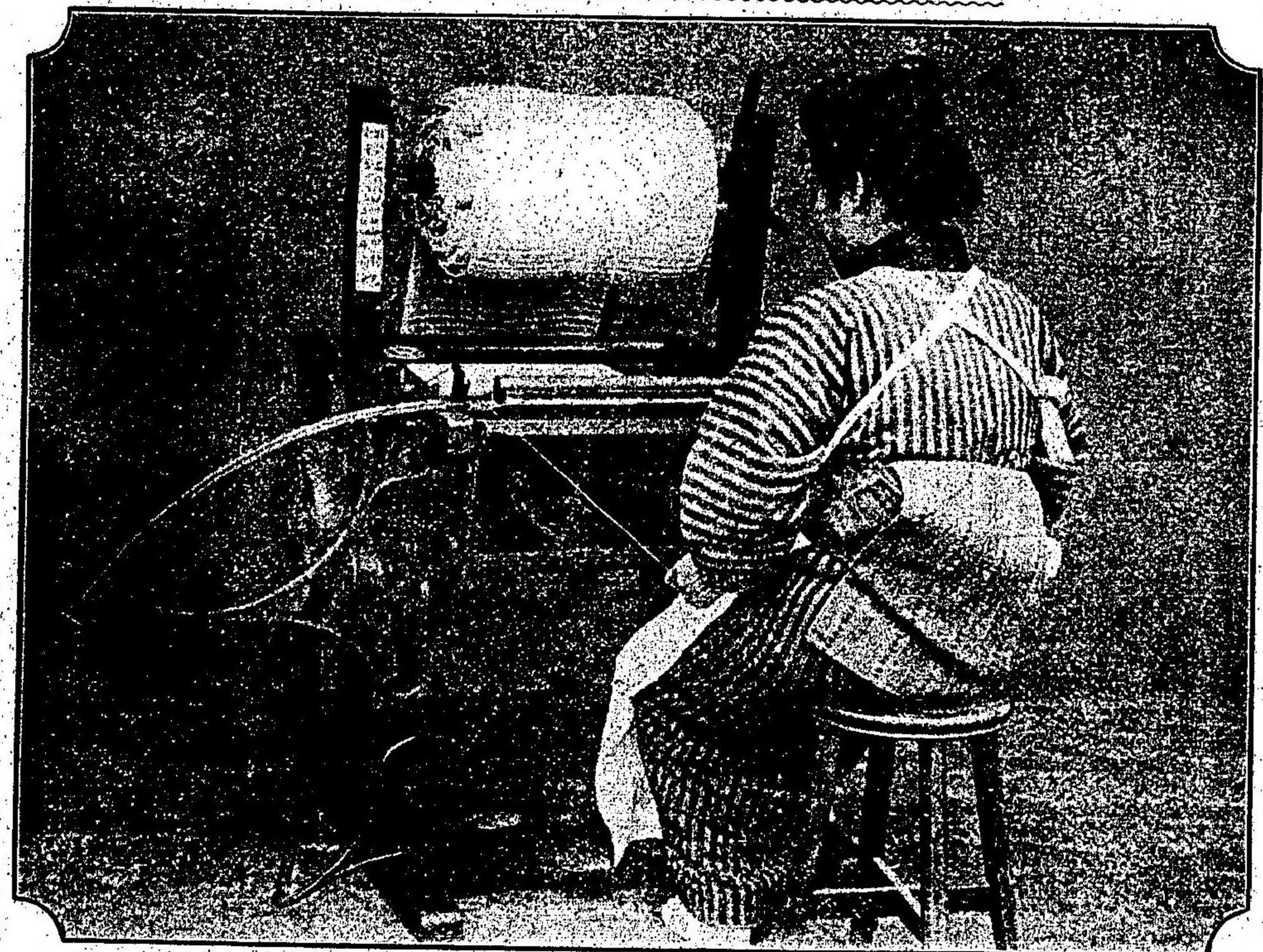
業實販造製 械機經編 糸際綿 網漁糸綿 目科業營 (部作製糸織) 會商弟兄村中



械機網編 (號五一八三第案新 號四四八六第許特) 會商弟兄村中



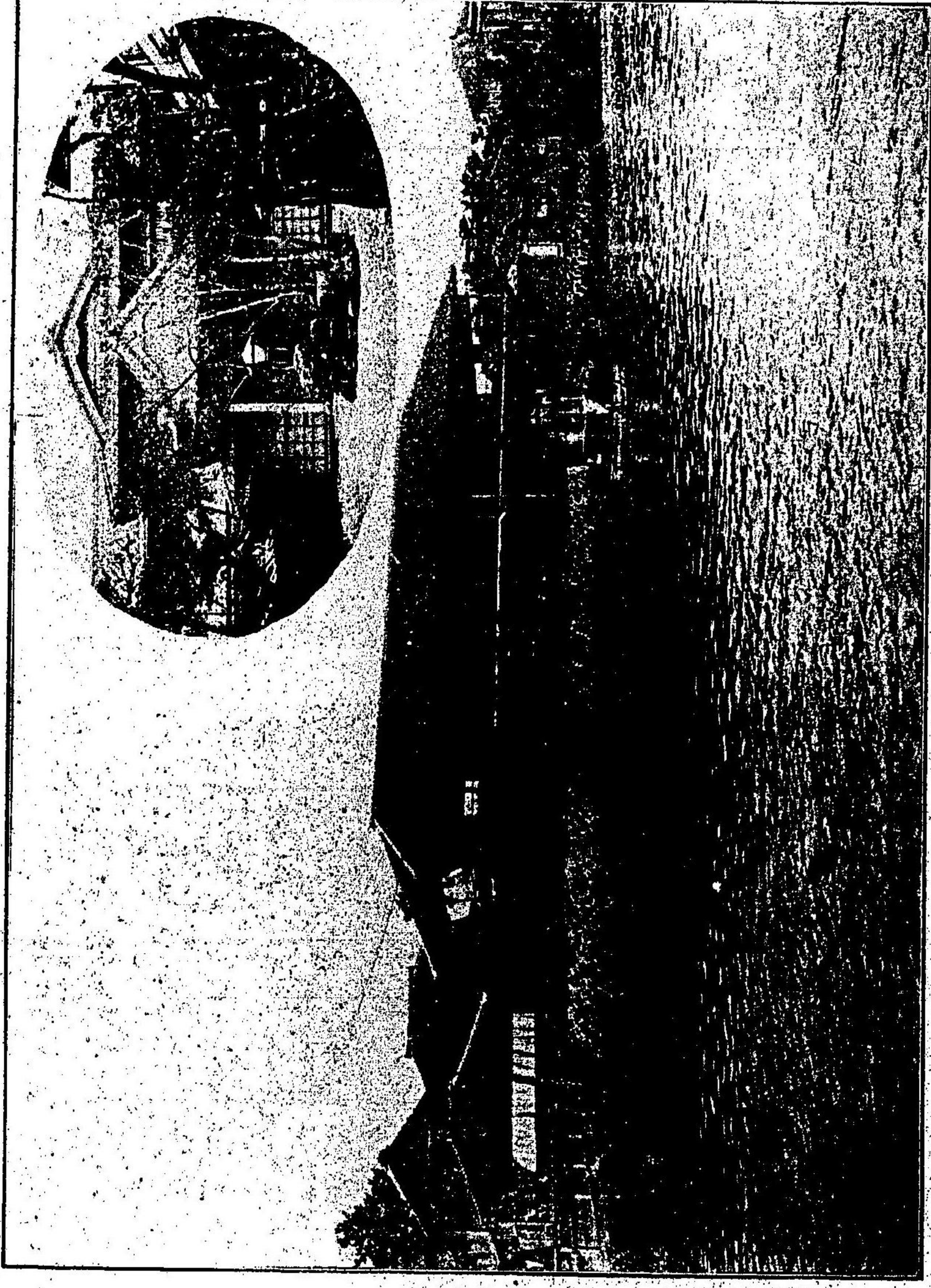
〔(ナ)(カナ)署電〕 會商弟兄村中 市津縣重三 (部作製械機) 會商弟兄村中



〔(ナ)(カナ)署電〕 會商弟兄村中 市津縣上三 (部編) 會商弟兄村中

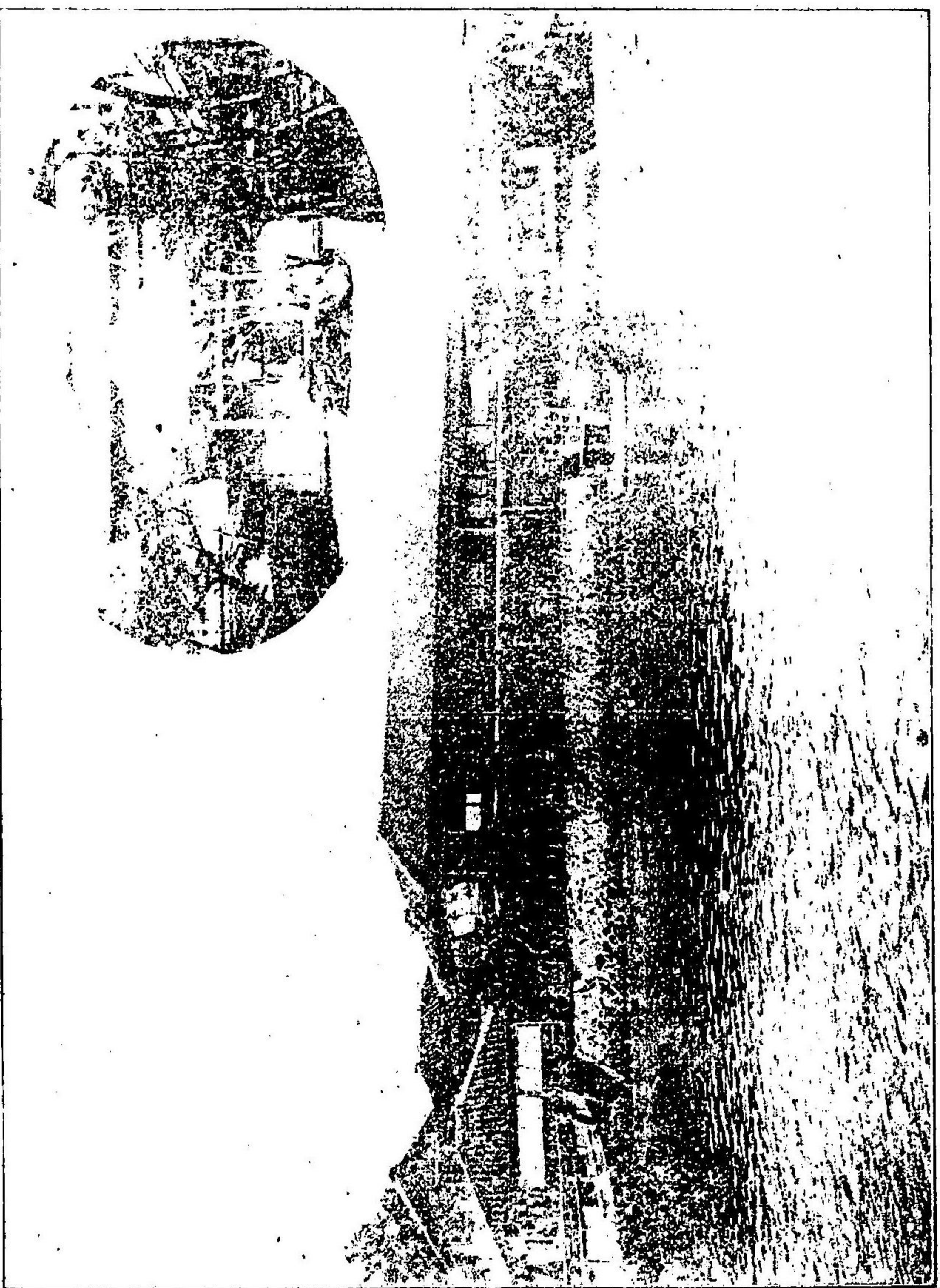
旅館高等料御

伊勢國津市海岸
海水浴常設備



聴潮館

伊勢國津市海岸
海水浴常設備



磯潮館

旅館御料理
等

捕乾魚問屋
生魚

弊店ハ誠實ヲ旨トシ懇切丁寧ニ且一層勉
強可仕候間陸續御送荷ノ程伏而奉希上候

伊勢津市

△ 岡藤左衛門

電話長四〇番

ま
す
は
かり
全
部
製
作
販
賣

津市東町

記號  伊藤辨之助

衡器部

津市東町本工場

量器部

津市丸ノ内支工場

支工場主任 加藤喜平

實
用
新
案
登
録
木
製
桿
秤

伊勢國津市分部町

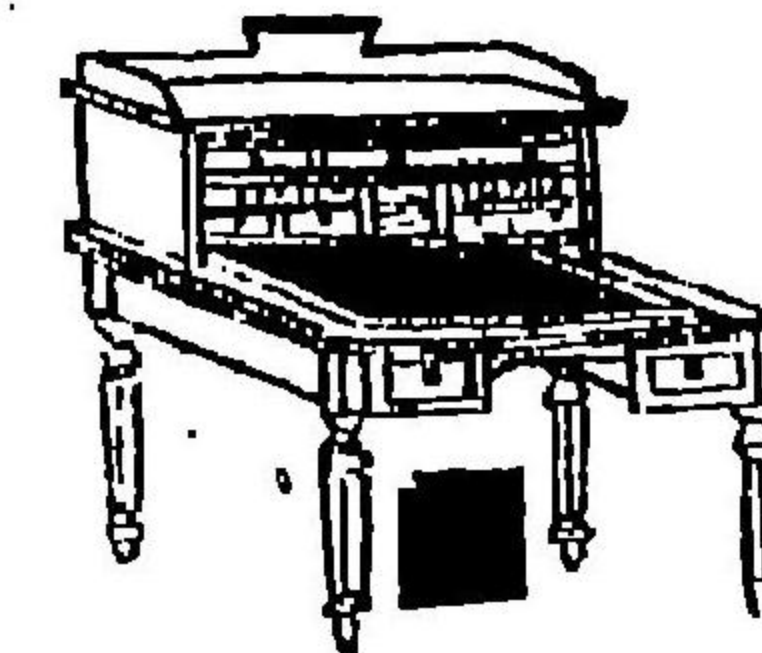
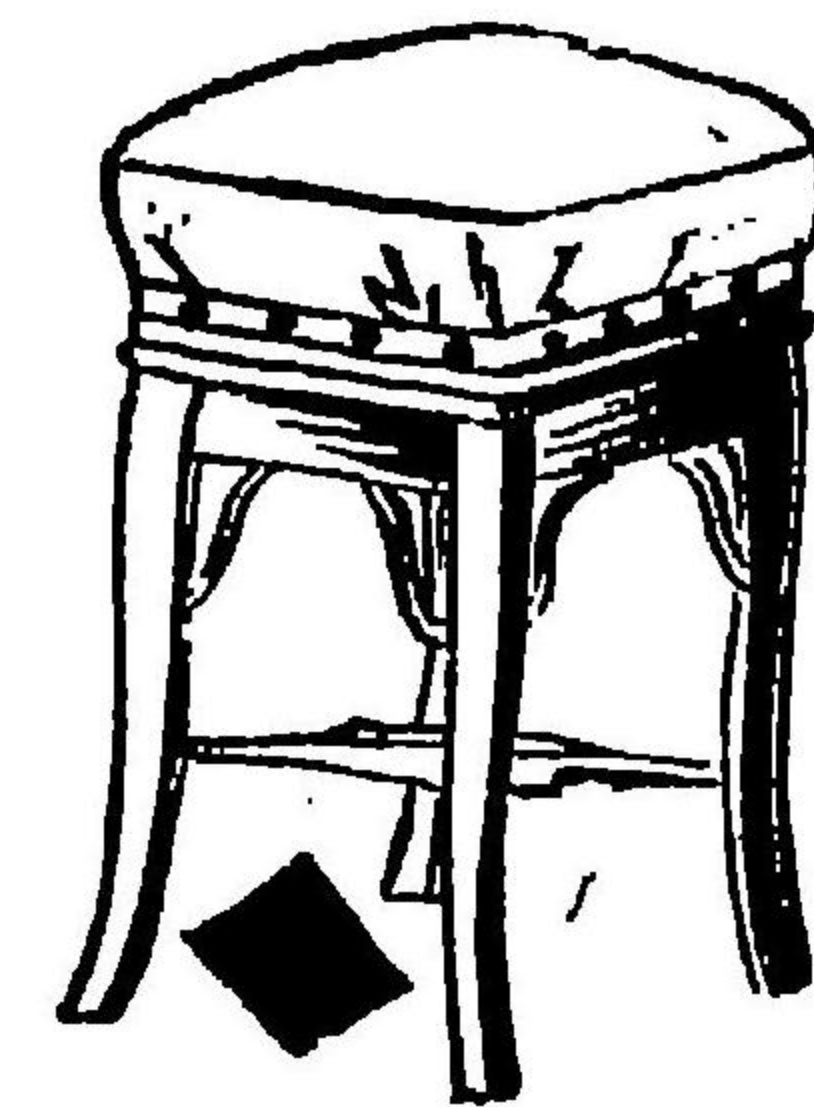
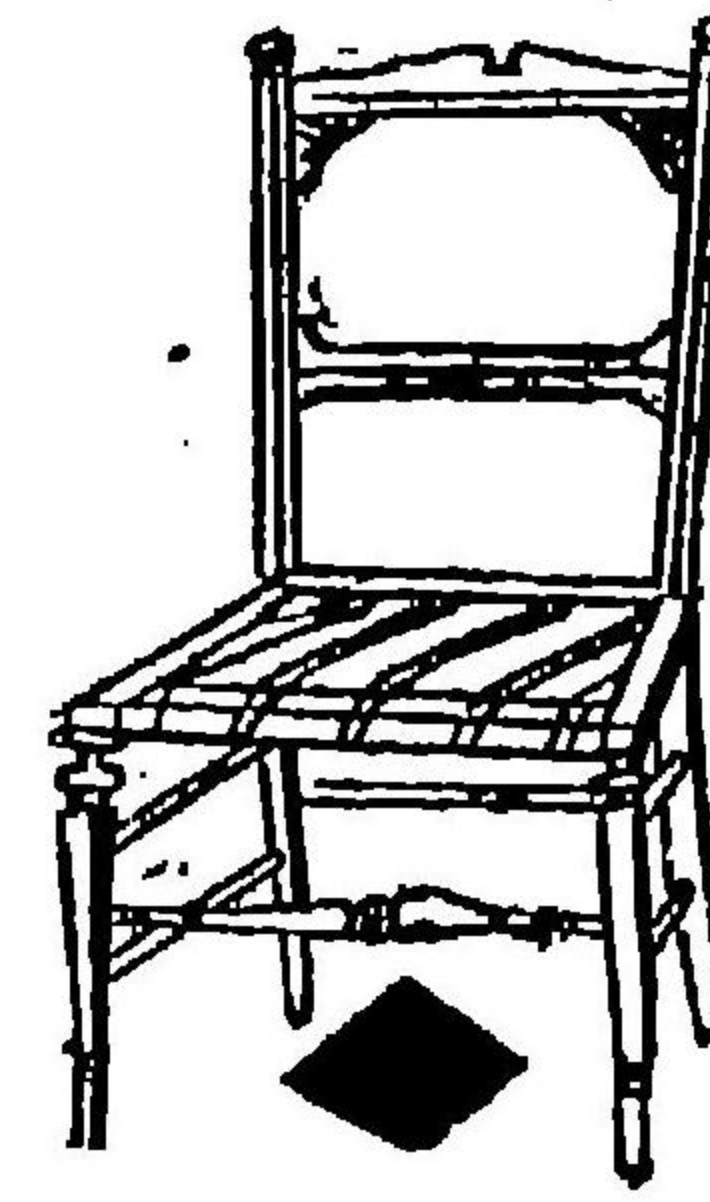
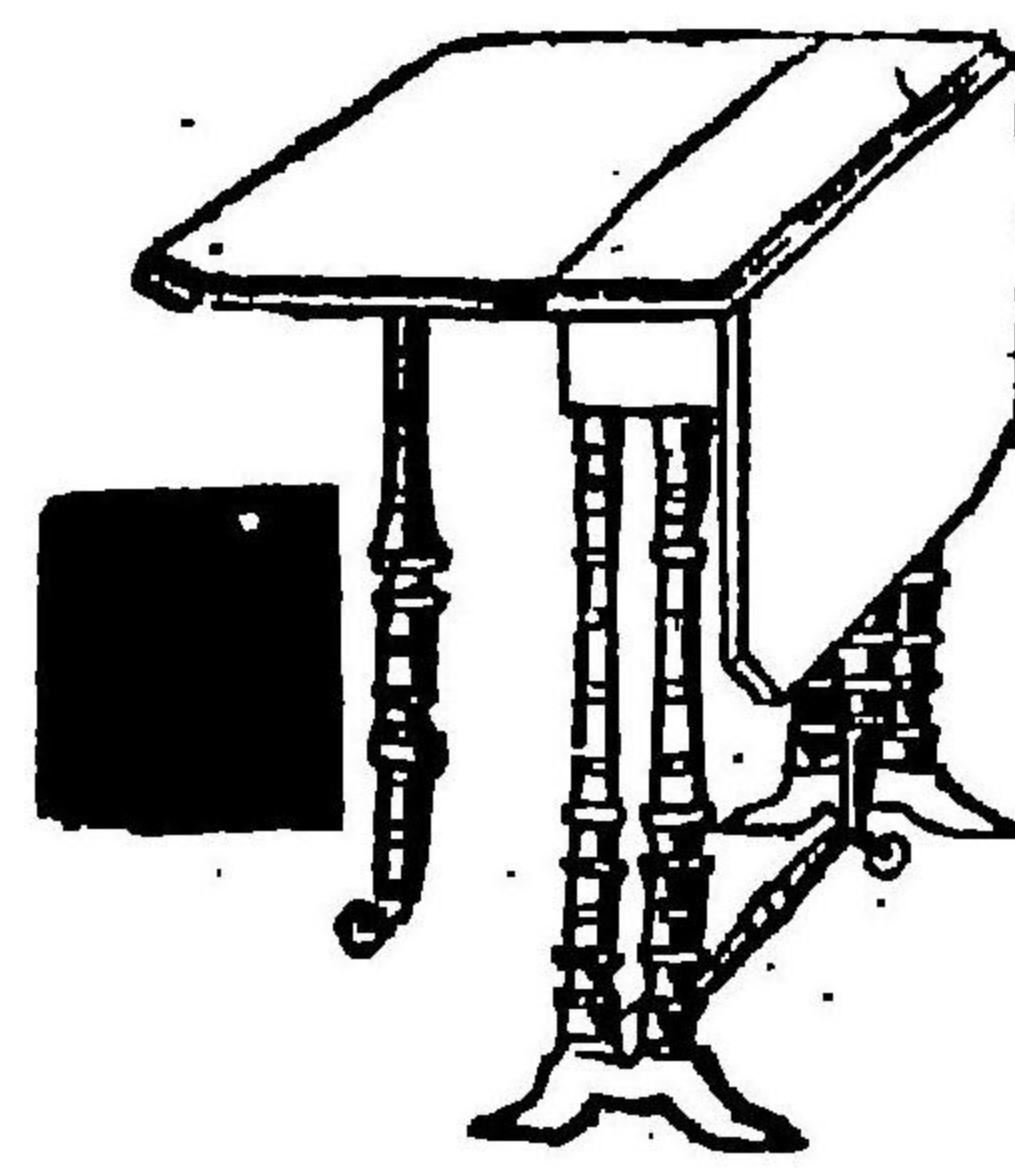
 川北傳造本店

米穀肥料委託賣買部

津市築地町貳番邸

電話略名(ウロユノ)或ハ(ウ)

電話長 四十二番



歐米風室內裝飾
 具家
 製 造 販 賣
 津市地頭領町
 杉田秀治郎

製作百數億

安心



買給

創業明治七年

製筆、墨、硯

文房具

問屋

三重縣津市東町

花月堂三橋支店

主關本茂一郎

丸 三 印
完 全 肥 料
各 種

登 錄 商 標 

製 造 元
三 重 縣 津 市 八 幡 町
倉 田 製 肥 所
(電話 二六 番乙) (發 電 略 號) (ク) 又 (ハ) (ク) (タ)

酒 類 問 屋
丸 山 藤 七

三 重 縣 津 市 東 町

商 號 紙 藤

萬塗物並ニ嫁入道具

日用品類

右特別廉價ヲ以テ販賣

仕候間御購求ノ程希上

候

津市大字萬町

販賣所
度量衡

国榭五商店

引

吳服太物

正

な

札

し

付

分
紙平吳服
津市宿屋町

營業科目

材木賣買問屋業
建築用材料一式
土木建築請負業
山林伐採事業
器械挽製板業

△ 材木店

津市船頭町

國分市太郎

紀州新宮町

△ 國分製板出張店

洋反物 太物 販賣商

津市宿屋町

□ 中川藤右衛門

三重縣津市地頭領町

木綿製造販賣
并各地木物類



三軍兵衛

三重縣津市地頭領町

木綿商



藤枝政次郎

商號紅屋

履物卸商

三重縣津市萬町

⊕ 大村屋吉兵衛

親 中央ノ市津 丁

津停車場ト阿漕停車場トノ中央

兼御
旅料
館理

津市京口町

加喜伊

長距離電話百廿番

共進會場ト水産品評會教育品共進會場及餘興地トノ中央

切 丁三へ陀彌阿の府國寺音觀丁一へ所役市津 寧

魚

八

問屋

三重縣津市魚市場

羽田吉商店

電器(ハタ)又ハ(八)

電話長一二番

營業品畧目

●内外化粧品各種

●袋物弗入煙草具

●内外石鹼及器具各種

●和洋香水香油各種

●鼈甲蒔繪櫛笄各種

●羽織紐帶ノ各種

卸問屋

津市分部町

谷新商店

長電話 四七四ノ甲

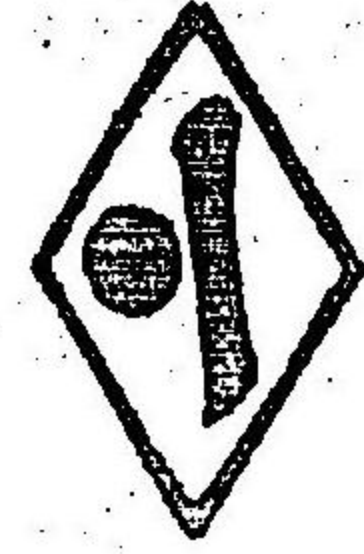
今杉山惣七

津市萬町

綿糸石油商

各種大豆粕
 米雜穀類
 大野油商油粉粕
 東海肥料
 日比野安全肥料
 日肥過磷酸
 三重人造肥料
 內外海產肥料
 肥料部
 和洋酒類
 味噌溜問屋業
 酒類部

卸小賣



津市築地町

川喜田商店

電話番號(カシ)又(カ)
五五番

内外綿糸商

三重縣津市大門町
多門屋號

伊藤佐兵衛

長電話 三八番
電略(イトサ)又ハ(イ)

弊店義

生鹽干魚海產物一切及

青物鳥類委託販賣問屋業之儀

元錄以來明治之今日ニ至ル迄御蔭ヲ以倍々

隆盛ニ趣候ハ全ク花主諸君之御引立ニ外ナラント深ク

不堪憾謝候尙今後特一層之大勉強正實ニ取扱可申候間

何卒不相變御愛顧ヲ賜リ澤山御送荷之程幾重ニモ奉懇願候也

津市魚問屋

辻彦作主人及店員敬白





鮑柏清
製造

三倉田与三兵衛

海産魚
津市魚町

海産肥料
人造肥料
各種販賣

津市築地町

久世外兵衛



海産商

三重縣津市魚町

八羽田貞吉

津市入江町

大觀亭

電話

長六六番

高
御料理
等
旅館

商標



長服陸山小細

古着起商

津市 中之番町

飯田商店

乾海鷄
青物
海鷄
青物
商

帝國軍艦御用達
津市藏町

内田忠八
六百七口也



金物類

電氣 諸機械

カバ イ ト

アルミニウム

製品 特約店

津市分都町

吉田恒七商店

安

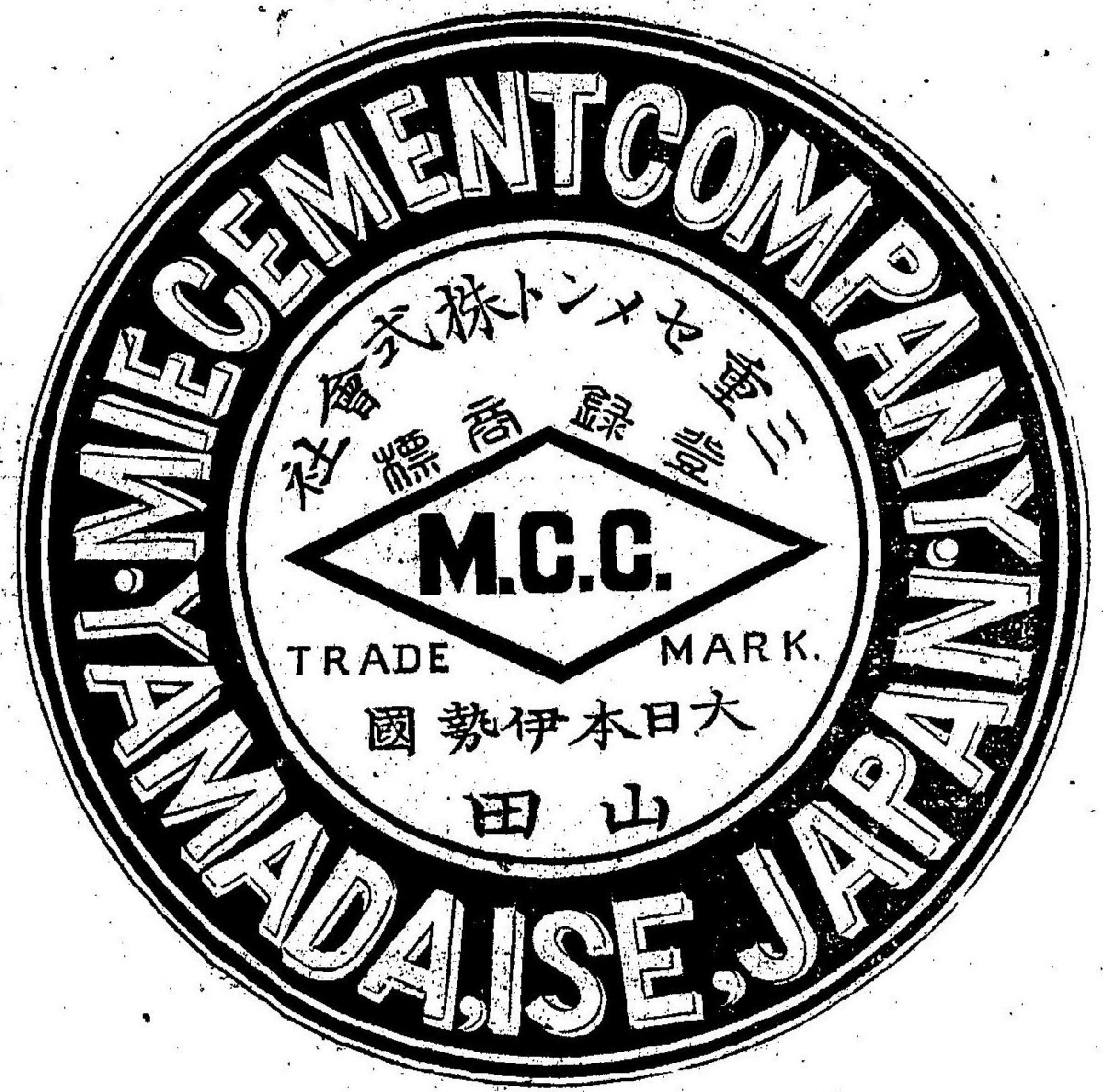
呉服 太物

洋衣 物

津市宿屋町
金子安兵衛

伊勢山田和旅館五二會館

- 一 五二會館ハ土地高燥空氣清良山海ノ眺望極メテ佳絶ナリ
- 一 五二會館ノ眺望中天氣清朗ノ時ハ伊勢海ヲ隔テ富嶽ヲ遠望スルガ如キハ最も壯快ヲ感スル處ナリ
- 一 五二會館ノ周圍ハ天然ノ山地ヲ以テ庭園ニ取込ミタルモノナレハ區域廣大ナルガ故ニ食後ノ散歩等ニ極メテ愉快ナリ
- 一 五二會館ハ御茶料ヲ申受ケス極メテ斬新ナル組織ヲ以テ來賓ヲシテ安全ニ且ツ愉快ニ宿泊セラル事ヲ專一トス
- 一 五二會館ハ和洋旅館ヲ兼營スルヲ以テ西洋室ノ御使用且ツ御食事ノ如キモ總テ洋式ニセラル、等ハ來賓ノ御望ニ任ス而テ其價格ハ決シテ高キヲ食ラス來賓ニ對シ先ツ總テノ價格表ヲ一覽ニ供シ其御望ミニ任セテ取極メテ爲スガ故ニ何レノ方ニテモ少シモ斟酌ナク宿泊セラル、ニ心置ナク極メテ御隨意ナリ
- 一 五二會館ハ附屬商品陳列場ヲ設ケ土地ノ物産ヲ集蒐シ賣品ニハ總テ正札ヲ付シ御土産物御買求メニ極メテ御便利且ツ御安全ナリ
- 一 五二會館ハ門前ニ御休息所ノ設アルニ付御用ノ御方ハ同所ヨリ電話ヲ以テ御申付アラハ何事ニテモ即座ニ御用辨ヲ承ルヘシ
- 一 五二會館ハ山田停車場ニ御出迎人ヲ差出シ置クニ付何事ニヨラス御申付アラハ萬事御親切ニ御用辨申上クヘシ



一均良佳

本社セメントは製造法改善の結果
品質の佳良と製品の均一なるを以
て諸官廳諸會社に於て如何なる試
験にも合格せざるなく常に純良な
る事實を證明せらるゝ處なれば御
需用の諸君他品と實地比較御使用
の上續々御注文奉願候

三重セメント株式會社

山田市外宮前

旅館

(ルテホ田山)

宇仁館

停車場前全支店

旅 館

伊勢古市

油 屋

山田停車場前

油屋支店

HOTEL
TOBAYA

伊勢古市町
旅館 元宿 禮 船 館
と ば 家

本館ハ外宮内宮中央ノ旅館
ニシテ空氣流通眺望最モ宜
シク貴賓ノ御宿泊ニ適ス。

御旅館

ハ至極御便利
今回協賛會御客人ノ用便スル爲離
座敷五ツ間程新築落成仕候間精々
御來宿ヲ願上候

御料理

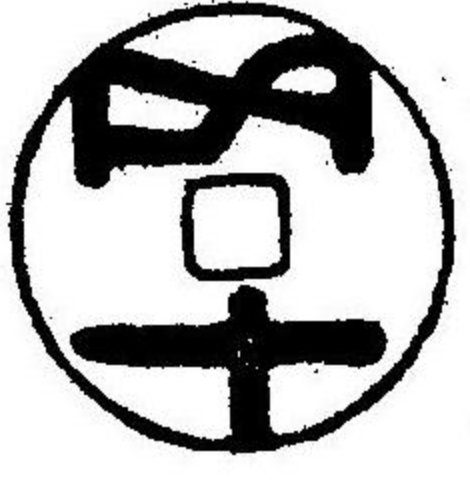
ハ新鮮
近時東郷大將伊藤侯其他有名ノ御
方々ノ御満足ヲ忝セシ料理會場ニ
御座候

山田市字八日市場町

與可樓

伊勢山田市尾上町

宮内省御指定
勅使齋館
旅 館
十 五 樓
十 文 字 屋



伊勢山田市尾上町

旅 館
彌次喜多樓
藤 屋

館旅御等中

伊勢山田市 外宮前本店
停車場前支店

高 千 穂 館
たかちほくわん

北 屋 村

- ◎本館、支店、別荘、百有餘間客室有、私設電話架設ス
- ◎弊館ノ信用ハ、神宮役員、各鐵道係員、共進會々員、地方商家、警官、御問合セノ上御光來希上候
- ◎汽車中ニテ心切らしく申シ外宿相す、め候御注意ラセテ

宇治山田市曾禰町壹番地

旅 館 部 柳屋杉井ぢらう

材木販賣部
自轉車同

杉井直輔

御料理 伊勢古市
御旅館 あさ古

聚遠樓

參宮旅館

拙邸ハ五十鈴川ニ臨ミ神苑ニ對シ
 四季共ニ眺望絶佳ナルヲ以テ
 御參宮ノ諸君御來宿願上候也

伊勢宇治山田市今在家町

宇治橋上岸

澤瀉大夫

資本金五拾萬圓

貯蓄兼營

本店 山田 宇治山田市宮後町
 支店 鳥羽 志摩郡鳥羽町
 波切 同 郡波切村



滿州臺灣北海道其他全
 國到處所送金ノ便アリ

出張所 河崎 宇治山田市河崎町
 二俣 同 市二俣町
 宇治 同 市浦田町
 和具 志摩郡和具村

| | |
|------------|------------|
| 貯蓄 | 行銀重三社會式株 |
| | 行銀蓄財重三社會式株 |
| | 店支島前 店支羽鳥 |
| 店張出口浦 | 店張出崎河 |
| 店張出羽五 | 店張出治宇 |
| 町本岡田山地在所店本 | |

宮内勢伊

御料理 御旅館

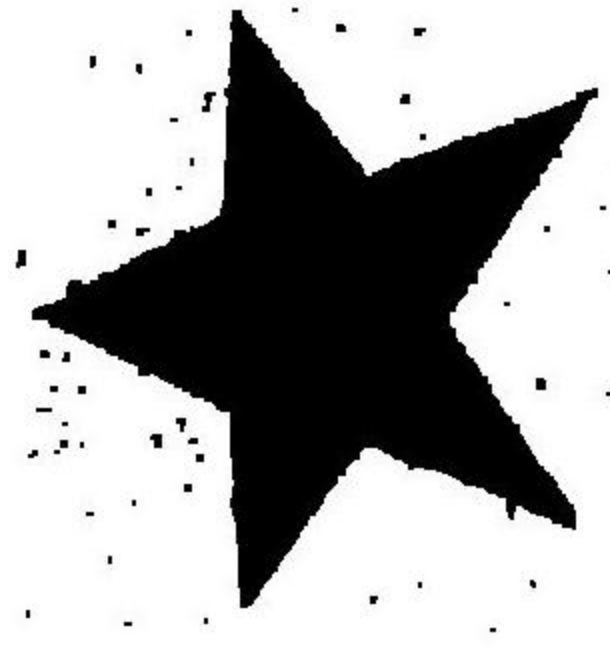
すし久

木月樓

旅 館 山 田 館

伊勢山田外宮前

有之人力車夫他宿をすめ候者
馬車に付御注意御來宿を乞ふ



GREET JAPAN

ルテホ都神

同スライシヨン前

伊勢山田外宮大世古町

神風館

神風館支店

御料理旅館

伊勢山田大市古町

戸田屋

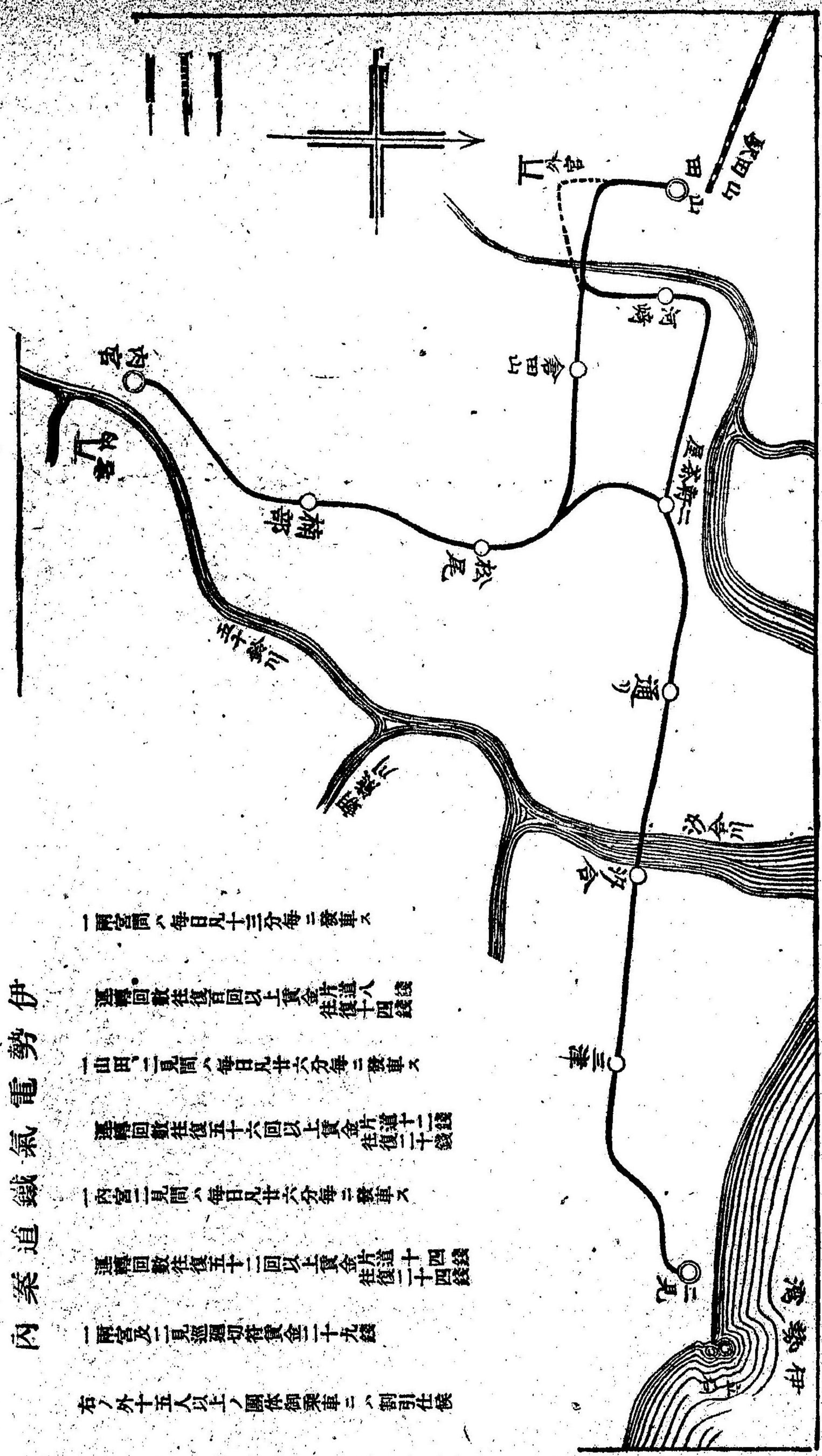
客室 清潔 新 煎 割 清 雅

切 遇 特 新 清 割 煎 雅

三國山田市

山田米油株式會社

製油精米製造
並ニ原料販賣業



- 伊勢鐵道電氣
- 一 伊勢間、每日凡十三分、每二發車、
運賃回数往復百回以上、實金片道八錢、
往復十四錢
 - 一 山田、三井間、每日凡廿六分、每二發車、
運賃回数往復五十六回以上、實金片道十二錢、
往復二十錢
 - 一 内宮、三井間、每日凡廿六分、每二發車、
運賃回数往復五十二回以上、實金片道十四錢、
往復二十四錢
 - 一 内宮及三井、運賃切符實金二十九錢
- 右ノ外十五人以上ノ團體御乗車ニハ割引仕儀

重要物產 各漆器販賣問屋

仙全長

伊勢山田市河崎町 村田仙右衛門

久保田五兵衛

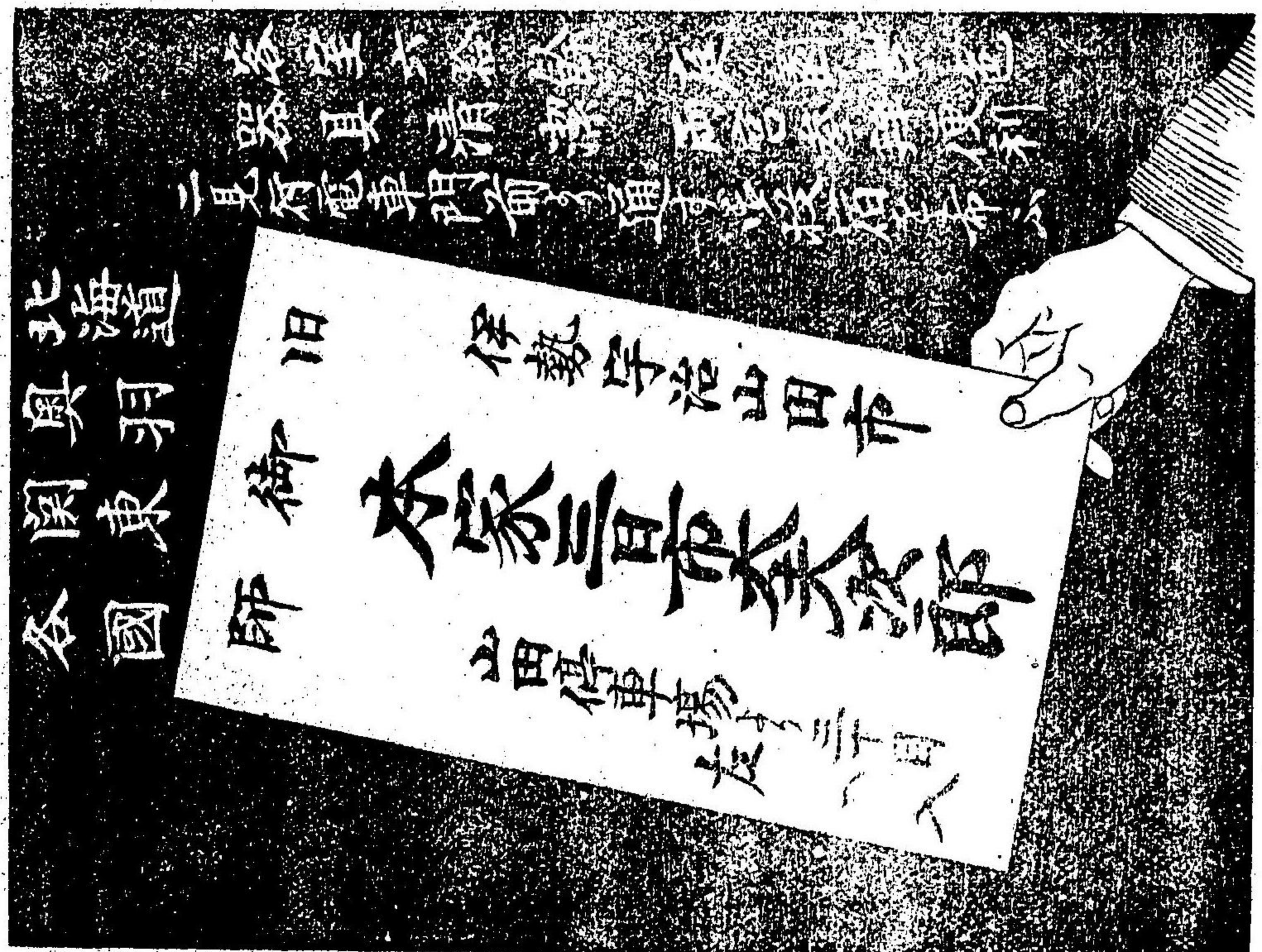
岡村長四郎

山田漆器ハ廉價ニシテ

本

伊勢山田市岡本町 若井源助
片岡善兵衛
橋本佐兵衛

堅牢無比ナル事ヲ保証ス



つむ屋村上

前所役郡
余二ヨリマヨリ山田停車場

町淵岩市山田

旅館

伊勢山田傘製造販賣

伊勢山田傘製造業組合

伊勢山田新八
 吹上町 西村圓吉
 二俣町 田邊猶三
 浦口町 山本徳松

本會ハ惟神ノ大道ヲ宣揚スルヲ以テ

本旨トス其大綱左ノ如シ

一天神地祇ヲ崇奉シ賢所及歴代ノ皇靈ヲ遙

拜ス

一天壤無窮ノ神勅ヲ主旨トシ國体ヲ恢張ス

一天叙ノ舞倫ヲ章明ス

一神事ハ歴朝ノ儀範ニ則テ之ヲ執行ス

一教旨ヲ宣布シ人心ヲ感化ス

伊勢國宇治山田市中之町
 敬神神樂教會本部

會長 伯爵油小路隆重

伊勢國宇治山田市茶商輸出組合

(順はろい)

八中久企正吉又生

| | | | | | | | | |
|-------|-------|------|-------|--------|-------|------|------|------|
| 小津幸次郎 | 脇田文治郎 | 中村光藏 | 中川久兵衛 | 野村四郎兵衛 | 藤本正次郎 | 小林猪造 | 江村伊平 | 平井利吉 |
|-------|-------|------|-------|--------|-------|------|------|------|

伊勢國朝熊岳壹番屋敷

萬金丹本舖 野間園彦

伊勢宇治山田市尾上町十四番屋敷

萬金丹支舖 野間園彦 支店



道鐵線宮參

○重なる列車にはホーンを乗込ませあり
○山田、松阪、阿漕驛に荷運夫を置き御荷物の運搬をなすしむ
○各驛に於て手荷物の一時間預り及配達をなす
○山田、筋向橋、宮川、田丸、阿漕驛に於ては公衆電報の取扱をなす
○各驛より重なる地方へは人力車賃金の定めあり驛長に於て萬事御世話可致候

便利

○二十五人以上空時に御乗車の節は其哩程に依り相當割引をなす

團體割引

○官線、關西線、阪鶴線、南海線等其他重要な各鐵道と汎く連絡の取扱をなす

連絡鐵道

○冬 二見、鳥羽の避寒。丹生、柳原の鑛泉。神苑の雪景

○秋 二見浦の漁遊(鯉鱈)の大祭。宇治橋の月。神路の鹿聲。沙干。田丸、相可の躰狩。宇治山田

○夏 阿漕浦の海水浴。幸洲浦の避暑。岩内の杜鵑花。大石瀧。柳田川、宮川の鯉、鮎狩。二見の游浴。鳥羽日和山の眺望。朝熊山の風光。神苑の蓮及納涼。五十鈴川の河鹿。西行谷の瀧

○春 香良洲の櫻花。久居の桃林。宮川堤の櫻花。神苑、文庫の櫻花。神山の展望。二見浦の曙并に貝拾

名勝案内

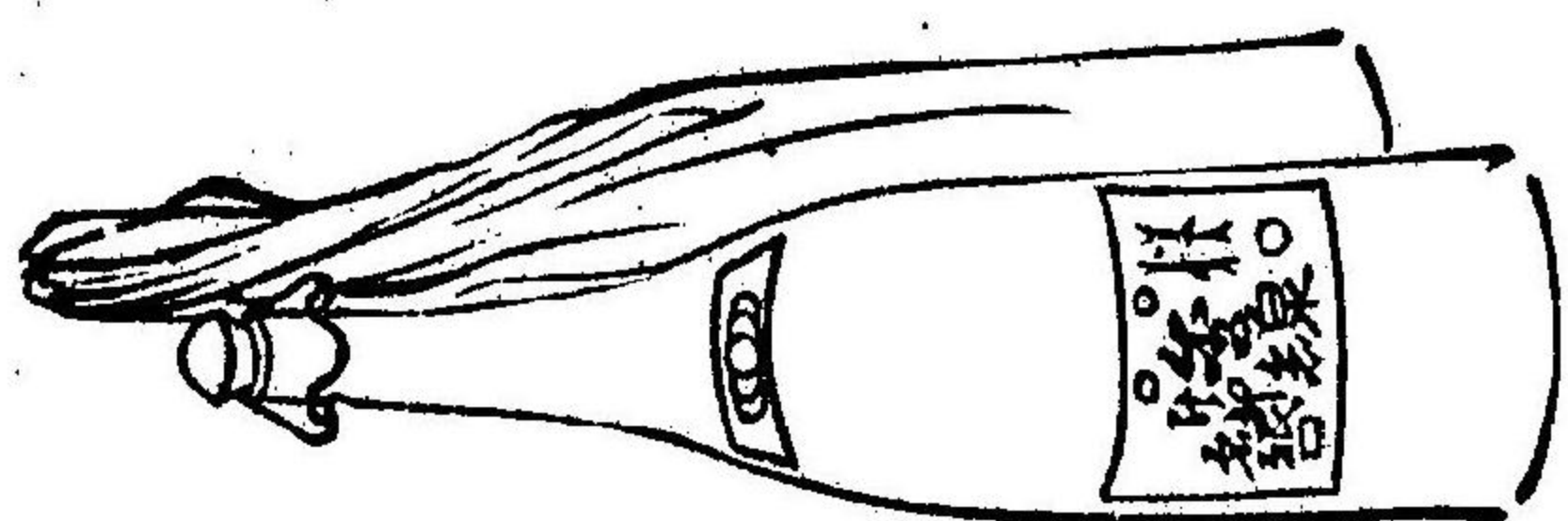
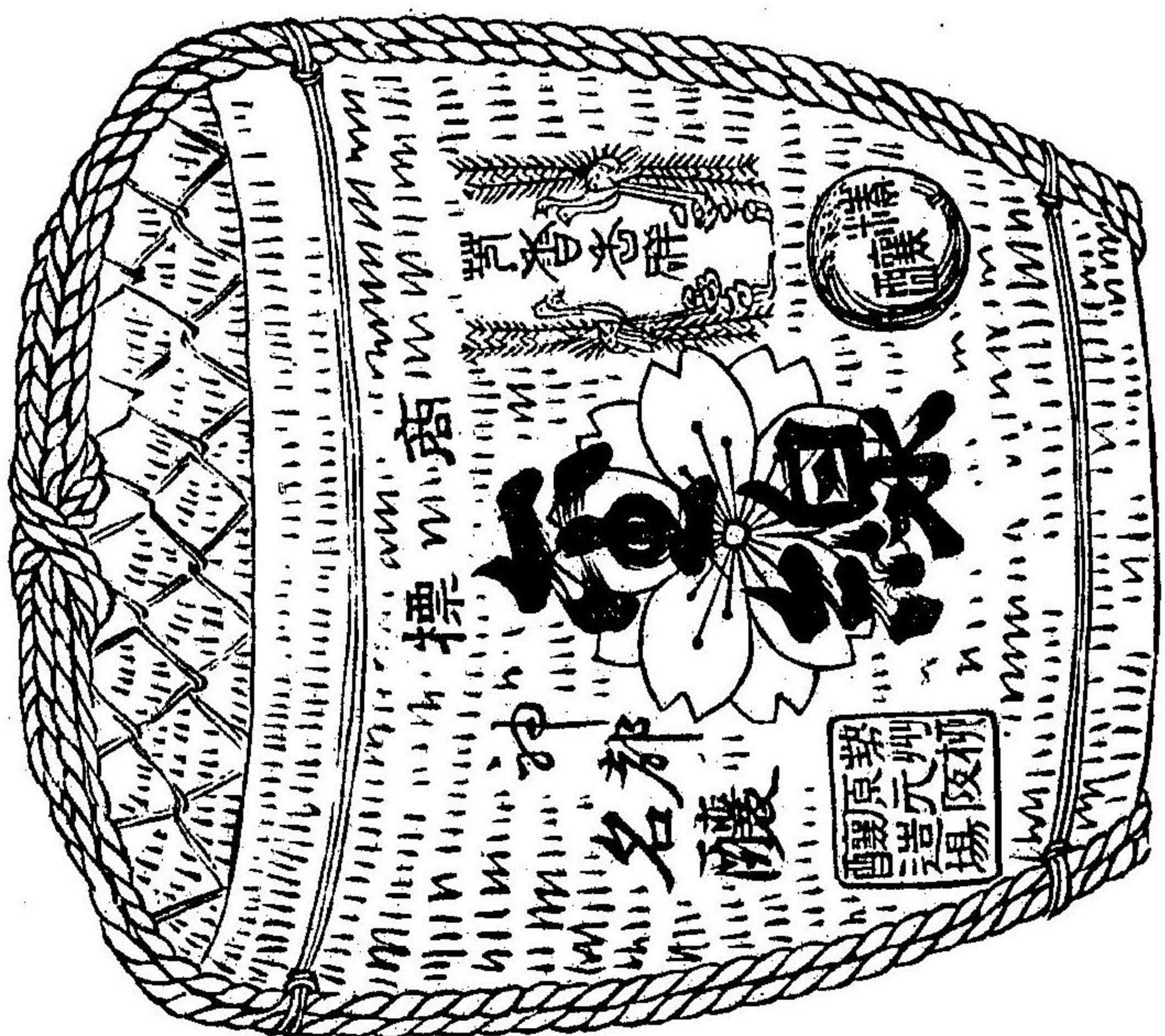
○春 香良洲の櫻花。久居の桃林。宮川堤の櫻花。神苑、文庫の櫻花。神山の展望。二見浦の曙并に貝拾

○夏 阿漕浦の海水浴。幸洲浦の避暑。岩内の杜鵑花。大石瀧。柳田川、宮川の鯉、鮎狩。二見の游浴。鳥羽日和山の眺望。朝熊山の風光。神苑の蓮及納涼。五十鈴川の河鹿。西行谷の瀧

○秋 二見浦の漁遊(鯉鱈)の大祭。宇治橋の月。神路の鹿聲。沙干。田丸、相可の躰狩。宇治山田

○冬 二見、鳥羽の避寒。丹生、柳原の鑛泉。神苑の雪景

於第五回全國勸業博覽會受領賞狀



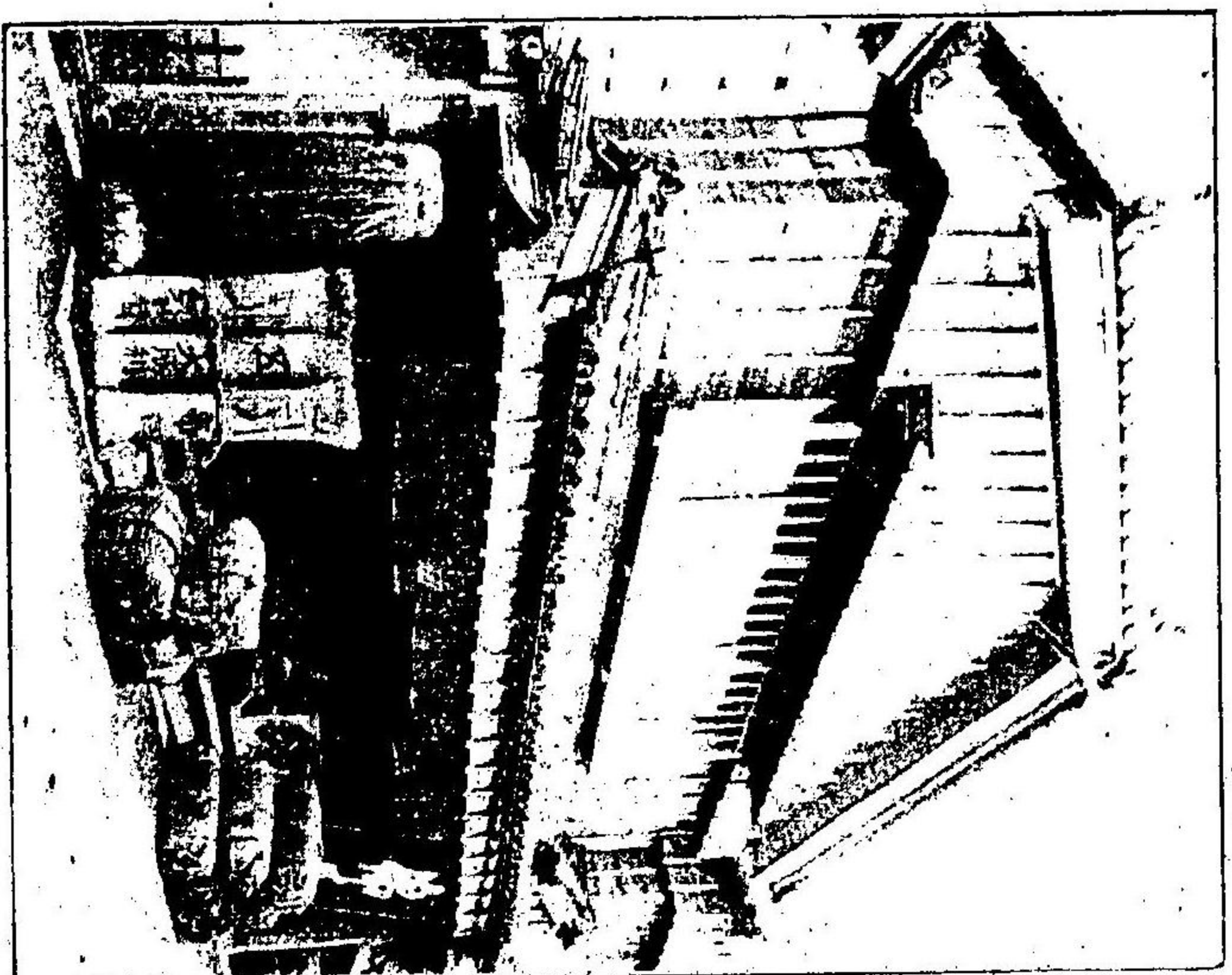
村添川郡氣多縣三重
原柳大字

作新扱元

營業目錄

麻 漁 豐

芋 網 表



宇治山田河崎町
綿 上野五兵衛

至

美 味 高 尚

鮑 粕 漬

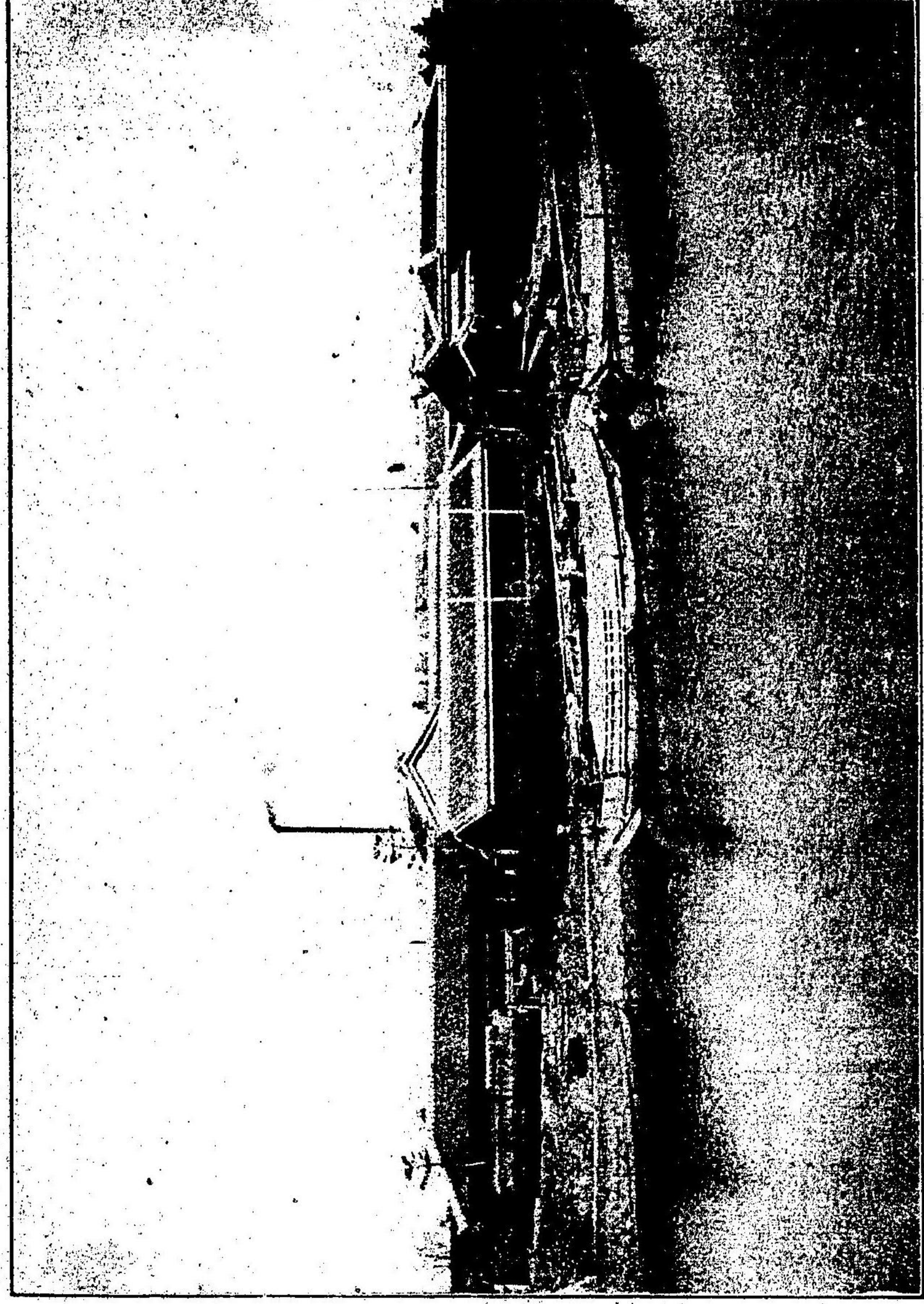
各博覽會及
品亦曾賞
獲狀賜數
多
永遠不變敗

和洋酒類醬油問屋

山田河市町

小川酒店

度會郡大湊 菊川鐵工所



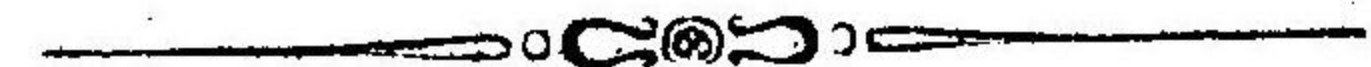
度會郡漆川菊所



最新式

寫真器械
原板藥品
附屬材料
特約販賣

四日市々中町
村田正治郎



一清酒日本心
旭醸造元
同 鈴木廉平
四日市々大字濱一色

日本郵船株式會社專屬荷扱所

四日市回漕合資會社

長電話 五十五番

- 一 東京 横濱 行 約隔日定期出帆
- 一 神戶 行 一週二回定期出帆
- 一 韓國北清行 一週二回定期出帆
- 一 外國漁船代理店并ニ稅關手續取扱
- 一 荷爲換抵步ヲ以テ便利ニ取扱
- 一 預リ 荷物保管及委託販賣

業送運物貨陸海

三重縣四日市港高砂町
大阪商船株式會社荷扱店

黑川回漕店
特電話(二十五)

三重縣四日市停車場前
內國通運株式會社取引店

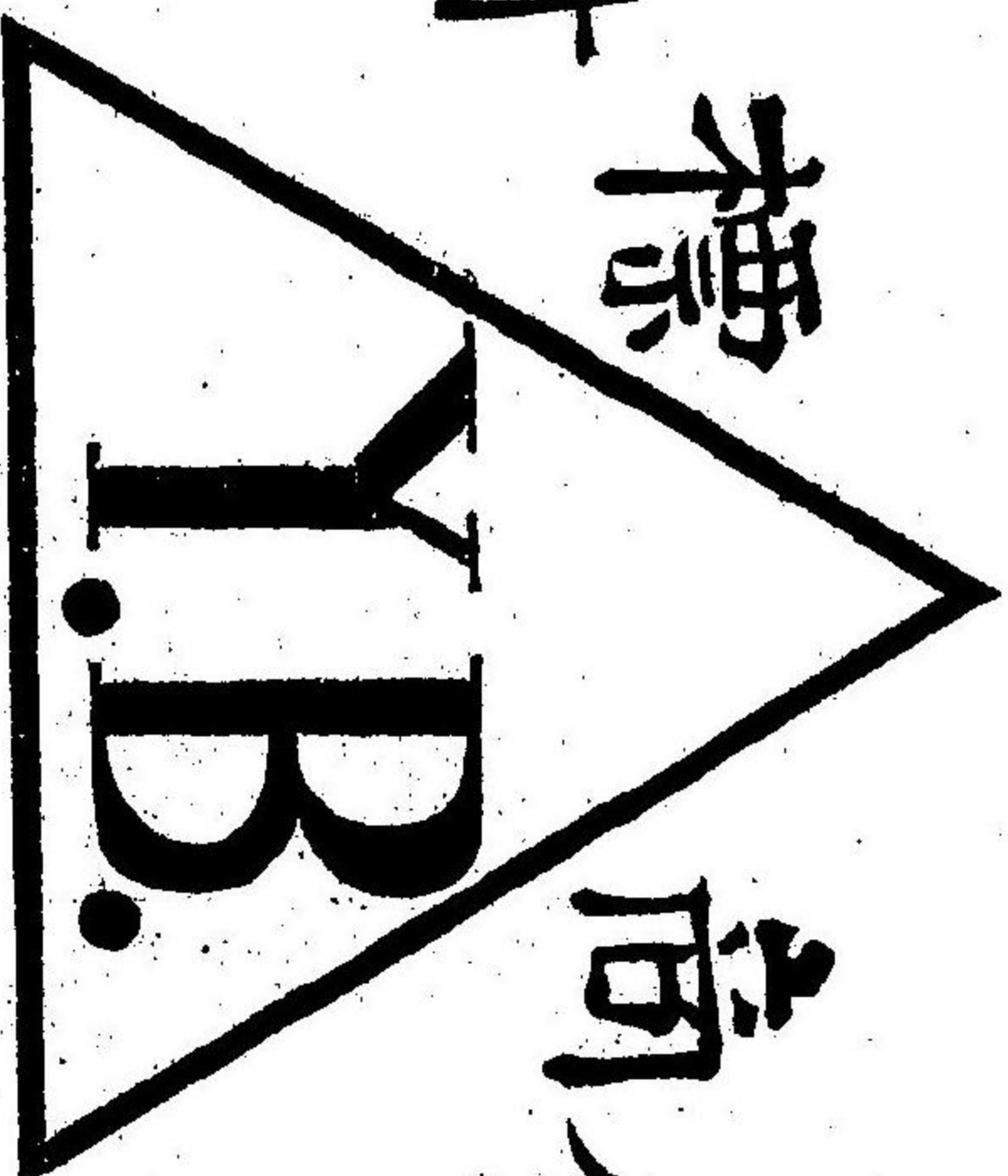
黑川出張店
特電話(四番)

三重縣四日市南町
內國通運株式會社取引店

黑川本店

化煉火耐

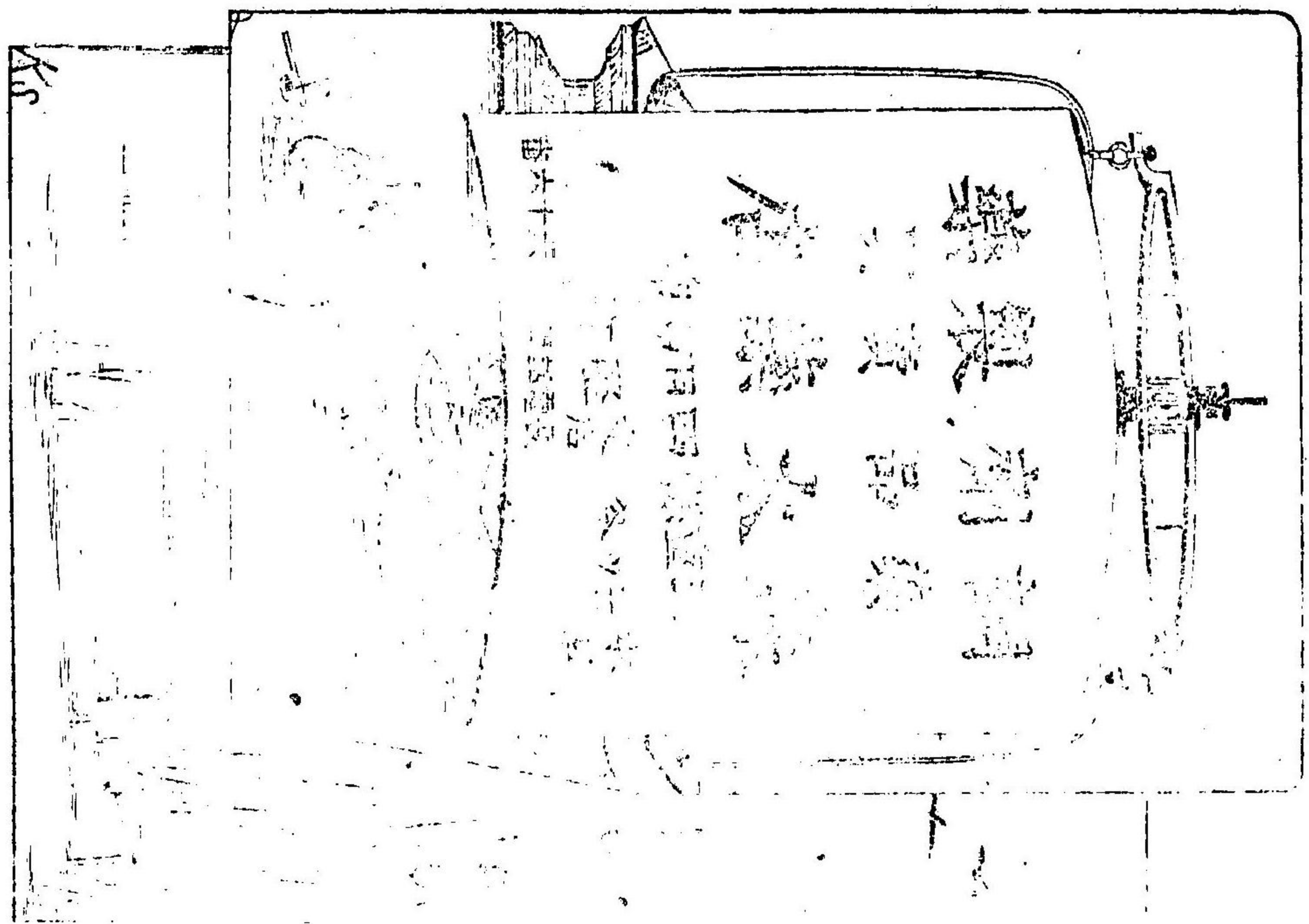
標



商化煉種各

所造製化煉市四

本 店 支 店 特
 三 重 縣 知 事 特
 三 重 縣 碧 岡 村
 三 重 縣 海 部 村
 三 重 縣 濱 田 郡
 三 重 縣 高 濱 町
 三 重 縣 四 日 市



| | | | | | |
|---|---|---|---|---|------------------------------------|
| 取貨 | 取貨 | 取貨 | 取貨 | 販石 | 問繭 |
| 扱物 | 扱物 | 扱物 | 扱物 | 賣炭 | 屋絲 |
| 大坂市東區瓦町壹丁目 村山集荷所 東電話貳百四拾六番 | 大坂市東區三六四五番 特電話東三六四五番 村山出張店 | 大坂市東區三六四五番 特電話東三六四五番 村山出張店 | 大坂市東區三六四五番 特電話東三六四五番 村山出張店 | 四日市停車場前 三井物産會社特約店 村山石炭部 特電話百〇貳番 | 四日市停車場前 村山繭糸店 特電話百〇貳番 |

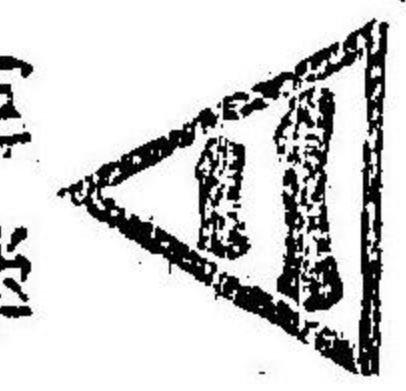
◎營業課目

營業種目

- 特許 第四七貳壹號 **漁網編製機械**
- 特號 壹臺 定價全壹百圓
- 甲號 全 金八拾圓
- 乙號 全 金八拾圓
- 丙號 全 金八拾圓
- 右機 製 **綿糸漁網**
- **漁網用綿擦糸**
- **綿糸製糸網**

製造
販賣

弊社は深く自家の信用を重んじ専心篤實を旨とし營業上の注意は細大洩さず努めて顧客各位の利益と便宜とを圖りて御注文に應ずべく候門多
少に拘らま陸續御川命被成下度奈希上候 敬具

商標  三重縣四日市々濱町
三重製網合資會社
發電略名(セモ)又(セ)
特電話 貳四五番